

男女共同参画に関する 市民意識調査

【報告書】

令和4年1月

霧島市

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査目的.....	1
2. 調査方法.....	1
3. 回収結果.....	1
4. 集計上の留意点.....	1
第2章 調査結果	3
1. 回答者の属性.....	3
問1 性別.....	3
問2 年代.....	3
問3 職業.....	4
問4 就労状況.....	4
問5 婚姻状況.....	5
問6 パートナーとの就労形態.....	5
問7 子どもの有無.....	6
2. 男女平等に関する意識について.....	7
(1) 様々な分野における男女の地位の平等意識.....	7
(2) 社会全体でみた場合の地位の平等意識.....	16
(3) 男女が平等でない原因.....	20
(4) 男女が平等になるために重要なこと.....	22
3. 家庭生活について.....	24
(1) 性別役割分担に対する考え方.....	24
(2) 性別役割分担に対する考え方に賛成する理由.....	28
(3) 日常生活における役割分担についての理想と現実.....	30
(4) 男性が家事、育児をすることについての考え.....	34
(5) 男性が家事、育児をすることについての考えの理由.....	38
(6) 家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え.....	40
(7) 「仕事」、「家庭生活」、「地域個人生活」の関わり方の希望と現実.....	42
(8) 男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと.....	47
4. 社会活動・地域活動について.....	50
(1) 地域における活動への参加状況.....	50
(2) 女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと.....	52
5. 就労について.....	54
(1) (結婚、子育てを踏まえた) 女性の仕事に対する考え.....	54

(2) 現実の働き方で「仕事を（一時的に）やめる」「仕事をもたない」を選んだ理由	57
(3) 職場での男女格差の有無	59
(4) 社会全体としての女性の働きやすさに対する考え	61
(5) 女性が働きにくいと思う理由	63
(6) 女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿	65
6. 教育について	68
(1) 子どもの育て方についての考え	68
(2) 男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なこと	70
7. 女性の政策参画について	72
(1) 方針・政策を決める際の女性の意見の反映度	72
(2) 政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由	77
(3) 女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われること	80
8. 人権・暴力について	82
(1) ドメスティック・バイオレンスに対する考え方	82
(2) 配偶者等からのDVの被害経験の有無	85
(3) 配偶者等からのDVにより命の危険を感じたことの有無	88
(4) この1年間の配偶者等からのDVによる被害の有無	90
(5) 10歳代から20歳代における交際相手の有無	92
(6) 10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無	94
(7) 10歳代から20歳代における交際相手からのDVにより命の危険を感じたことの有無	96
(8) DVにあった際の相談の有無	98
(9) DVにあった際、どこ（だれ）にも相談しなかった理由	100
(10) DVの未然防止にとって必要なこと	103
(11) メディアにおける性・暴力表現についての考え	105
9. 男女共同参画に関する用語について	107
(1) 用語の認知度	107
10. 行政について	110
(1) 男女共同参画を推進する上で霧島市に期待すること	110
11. 自由意見	114
第3章 資料	119

第 1 章 調査の概要

第1章 調査の概要

1. 調査目的

「霧島市男女共同参画計画」改訂のための基礎資料とするため、男女共同参画に関する市民意識調査を実施するものである。

2. 調査方法

- (1) 調査対象者 霧島市在住の18歳以上の男女2,100人
- (2) 抽出方法 霧島市住民基本台帳から無作為抽出
- (3) 調査期間 令和3年8月1日～令和3年9月27日
- (4) 調査方法 調査票による本人記入式（郵送配布・郵送回収による郵送調査法）

3. 回収結果

調査名	配布数	有効回答数	有効回収率
男女共同参画に関する市民意識調査	2,100人	993人	47.3%

4. 集計上の留意点

- (1) 集計は、百分比の少数点以下第2位は四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 文中の選択肢の表記は「 」で行っている。
- (4) 2つ以上の選択肢を合計している比率の合計とは、必ずしも同じにならない場合がある。

【参考】本報告書で結果を引用した過去の調査

◆平成28年度「男女共同参画社会に関する市民意識調査」（霧島市）
（18歳以上の男女2,100人、有効回答数840人）

◆令和元年度「男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府）
（18歳以上の男女5,000人、有効回答数2,645人）
※本文中では「内閣府調査」と表記している。

◆令和2年度「男女間における暴力に関する調査」（内閣府）
（20歳以上の男女5,000人、有効回答数3,438人）
※本文中では、「内閣府DV調査」と表記している。

◇比較に使用した図表は、集計データを基に改めて作成しているため、前回調査及び内閣府調査時に公表されたものと異なる場合がある。

第2章 調査結果

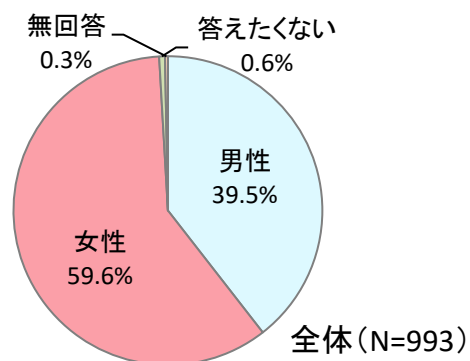
第2章 調査結果

1. 回答者の属性

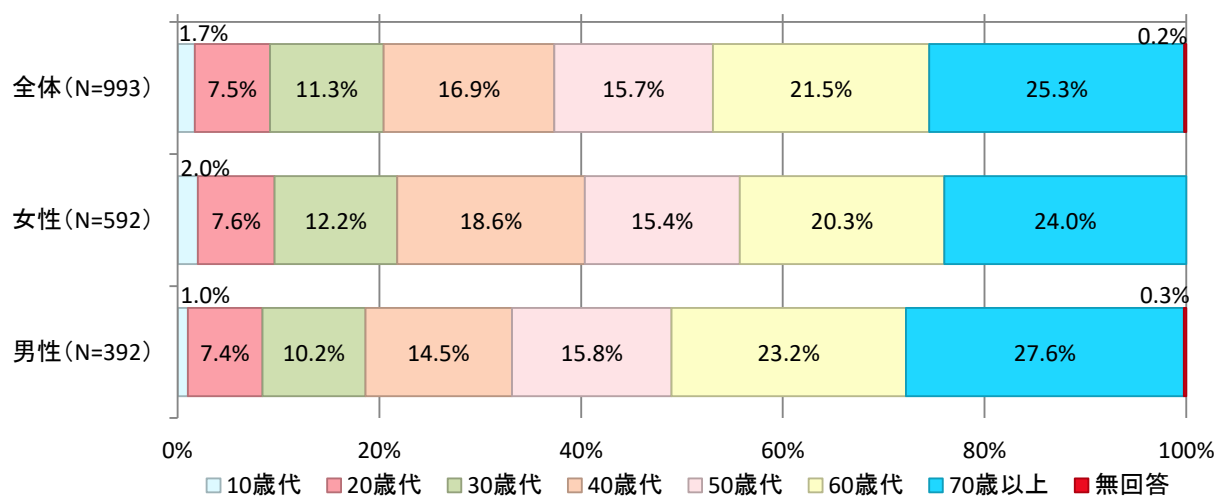
回答者 993 人の属性は以下の通り。

問1 性別

	サンプル数	性別			
		女性	男性	答えたくない	無回答
全体	993	592	392	6	3
	100.0%	59.6%	39.5%	0.6%	0.3%

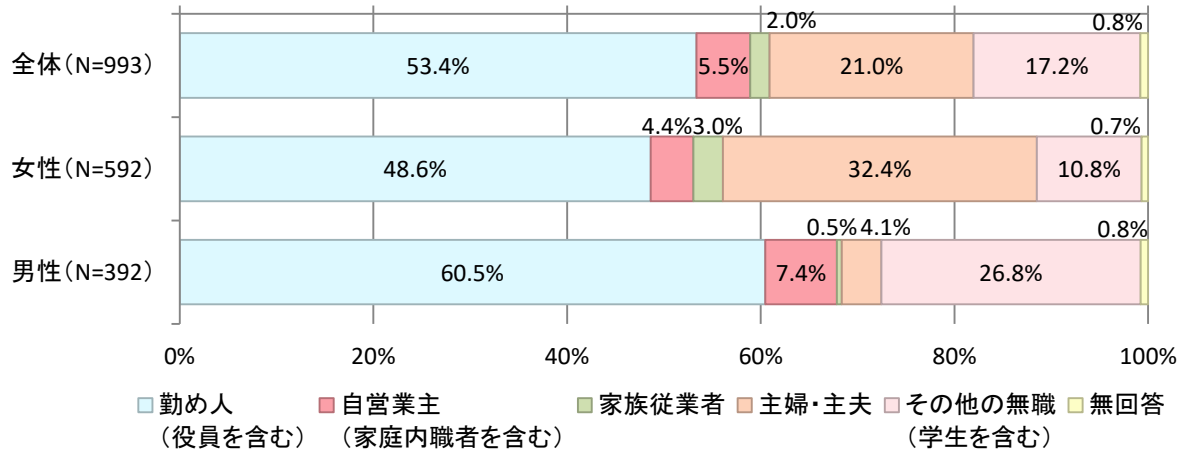


問2 年代



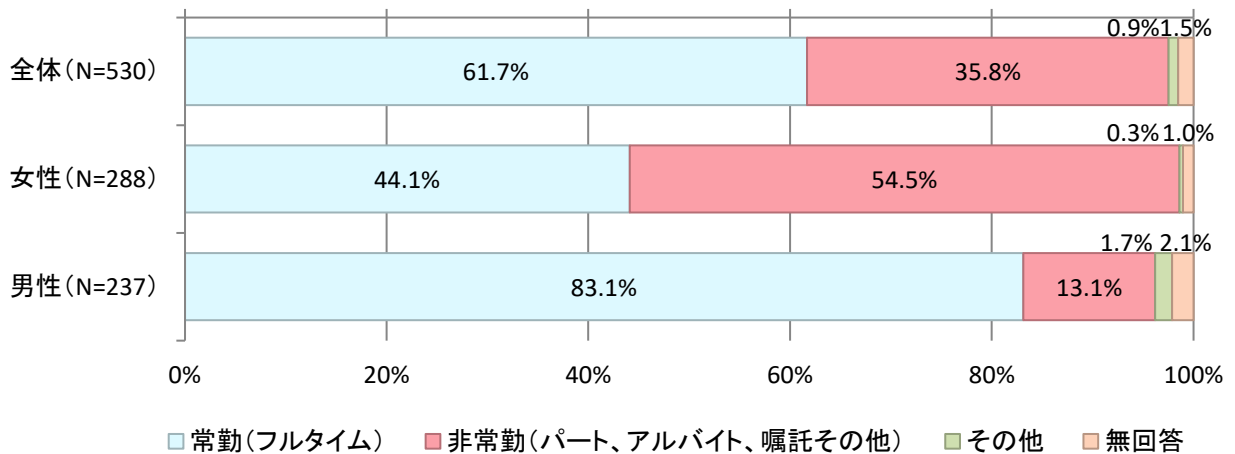
	サンプル数	年齢								
		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	
全体	993	17	74	112	168	156	213	251	2	
	100.0%	1.7%	7.5%	11.3%	16.9%	15.7%	21.5%	25.3%	0.2%	
性別	女性	592	12	45	72	110	91	120	142	0
		100.0%	2.0%	7.6%	12.2%	18.6%	15.4%	20.3%	24.0%	0.0%
	男性	392	4	29	40	57	62	91	108	1
	100.0%	1.0%	7.4%	10.2%	14.5%	15.8%	23.2%	27.6%	0.3%	
不明	9	1	0	0	1	3	2	1	1	

問3 職業



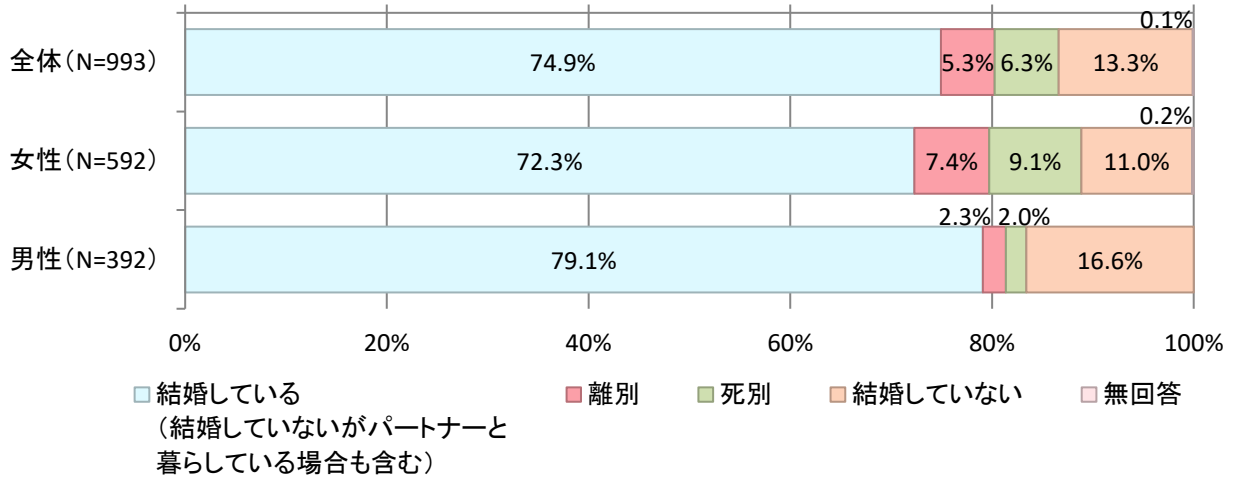
	サンプル数	職業						
		勤め人 (役員を含む)	自営業主 (家庭内職者を含む)	家族従業者	主婦・主夫	その他の無職 (学生を含む)	無回答	
全体	993	530	55	20	209	171	8	
	100.0%	53.4%	5.5%	2.0%	21.0%	17.2%	0.8%	
性別	女性	592	288	26	18	192	64	4
		100.0%	48.6%	4.4%	3.0%	32.4%	10.8%	0.7%
	男性	392	237	29	2	16	105	3
		100.0%	60.5%	7.4%	0.5%	4.1%	26.8%	0.8%
不明	9	5	0	0	1	2	1	

問4 就労状況



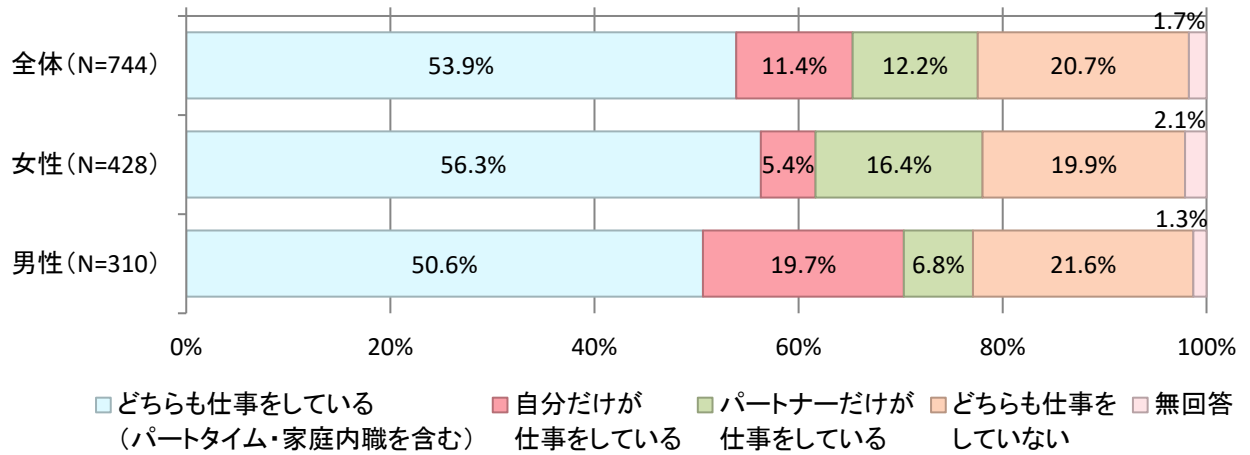
	サンプル数	就労状況				
		常勤 (フルタイム)	非常勤 (パート、アルバイト、嘱託その他)	その他	無回答	
全体	530	327	190	5	8	
	100.0%	61.7%	35.8%	0.9%	1.5%	
性別	女性	288	127	157	1	3
		100.0%	44.1%	54.5%	0.3%	1.0%
	男性	237	197	31	4	5
		100.0%	83.1%	13.1%	1.7%	2.1%
不明	5	3	2	0	0	

問5 婚姻状況



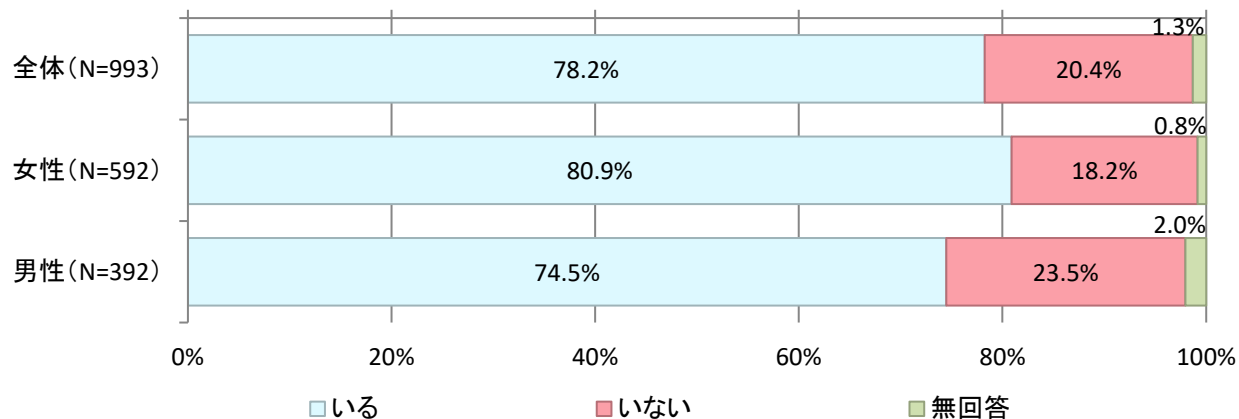
	サンプル数	婚姻状況					
		結婚している(結婚していないがパートナーと暮らしている場合も含む)	離婚	死別	結婚していない	無回答	
全体	993	744	53	63	132	1	
	100.0%	74.9%	5.3%	6.3%	13.3%	0.1%	
性別	女性	592	428	44	54	65	1
		100.0%	72.3%	7.4%	9.1%	11.0%	0.2%
	男性	392	310	9	8	65	0
		100.0%	79.1%	2.3%	2.0%	16.6%	0.0%
不明	9	6	0	1	2	0	

問6 パートナーとの就労形態



	サンプル数	パートナーとの就労形態					
		どちらも仕事をしている(パートタイム・家庭内職を含む)	自分だけが仕事をしている	パートナーだけが仕事をしている	どちらも仕事をしていない	無回答	
全体	744	401	85	91	154	13	
	100.0%	53.9%	11.4%	12.2%	20.7%	1.7%	
性別	女性	428	241	23	70	85	9
		100.0%	56.3%	5.4%	16.4%	19.9%	2.1%
	男性	310	157	61	21	67	4
		100.0%	50.6%	19.7%	6.8%	21.6%	1.3%
不明	6	3	1	0	2	0	

問7 子どもの有無



	サンプル数	子どもの有無			
		いる	いない	無回答	
全体	993	777	203	13	
	100.0%	78.2%	20.4%	1.3%	
性別	女性	592	479	108	5
		100.0%	80.9%	18.2%	0.8%
	男性	392	292	92	8
	100.0%	74.5%	23.5%	2.0%	
不明	9	6	3	0	

2. 男女平等に関する意識について

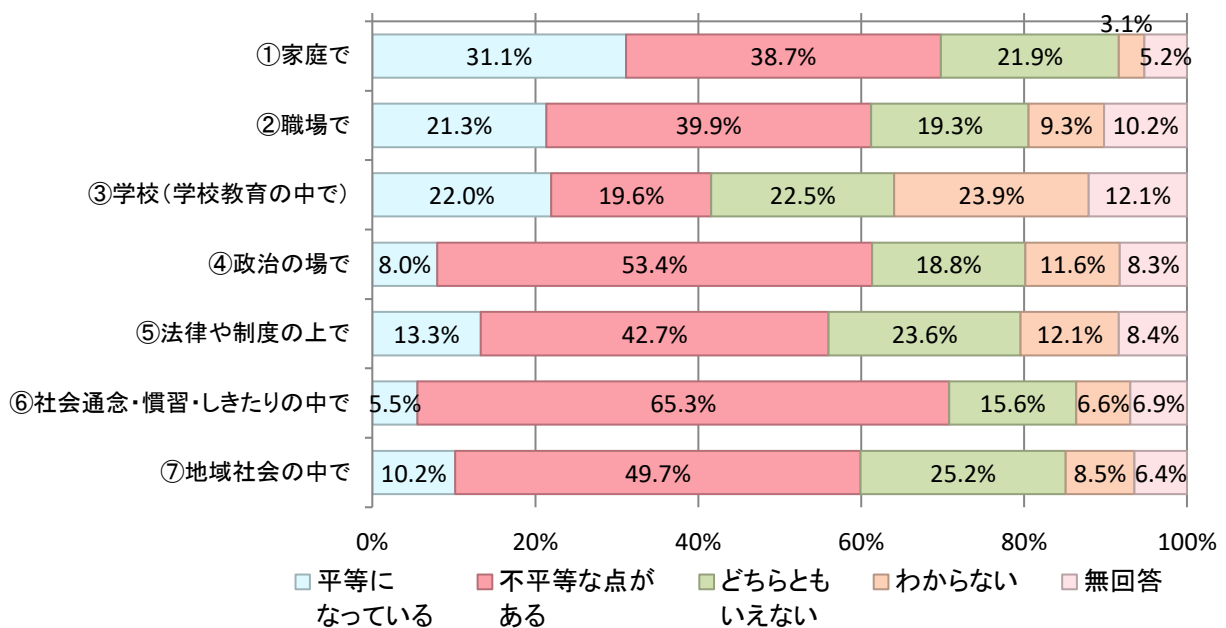
(1) 様々な分野における男女の地位の平等意識

【問8】 男性と女性は憲法上では平等となっていますが、次にあげる①～⑦の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

～「社会通念や慣習、しきたりの中で」不平等感が強い～

様々な分野における男女の地位の平等意識についてみると、全体では「平等になっている」の割合は「①家庭で」(31.1%)が最も高く、次いで「③学校(学校教育の中で)」(22.0%)、「②職場で」(21.3%)となっている。「不平等な点がある」の割合は「⑦社会通念・慣習・しきたりの中で」(65.3%)が最も高く、次いで「④政治の場で」(53.4%)、「⑦地域社会の中で」(49.7%)となっている。①～⑦の項目の内、「平等になっている」が「不平等な点がある」を上回っているのは「③学校(学校教育の中で)」のみで、それ以外の項目では「不平等な点がある」が「平等になっている」を上回っている。特に「⑥社会通念・慣習・しきたりの中で」(平等になっている：5.5%、不平等な点がある：65.3%)で差が大きくなっている。

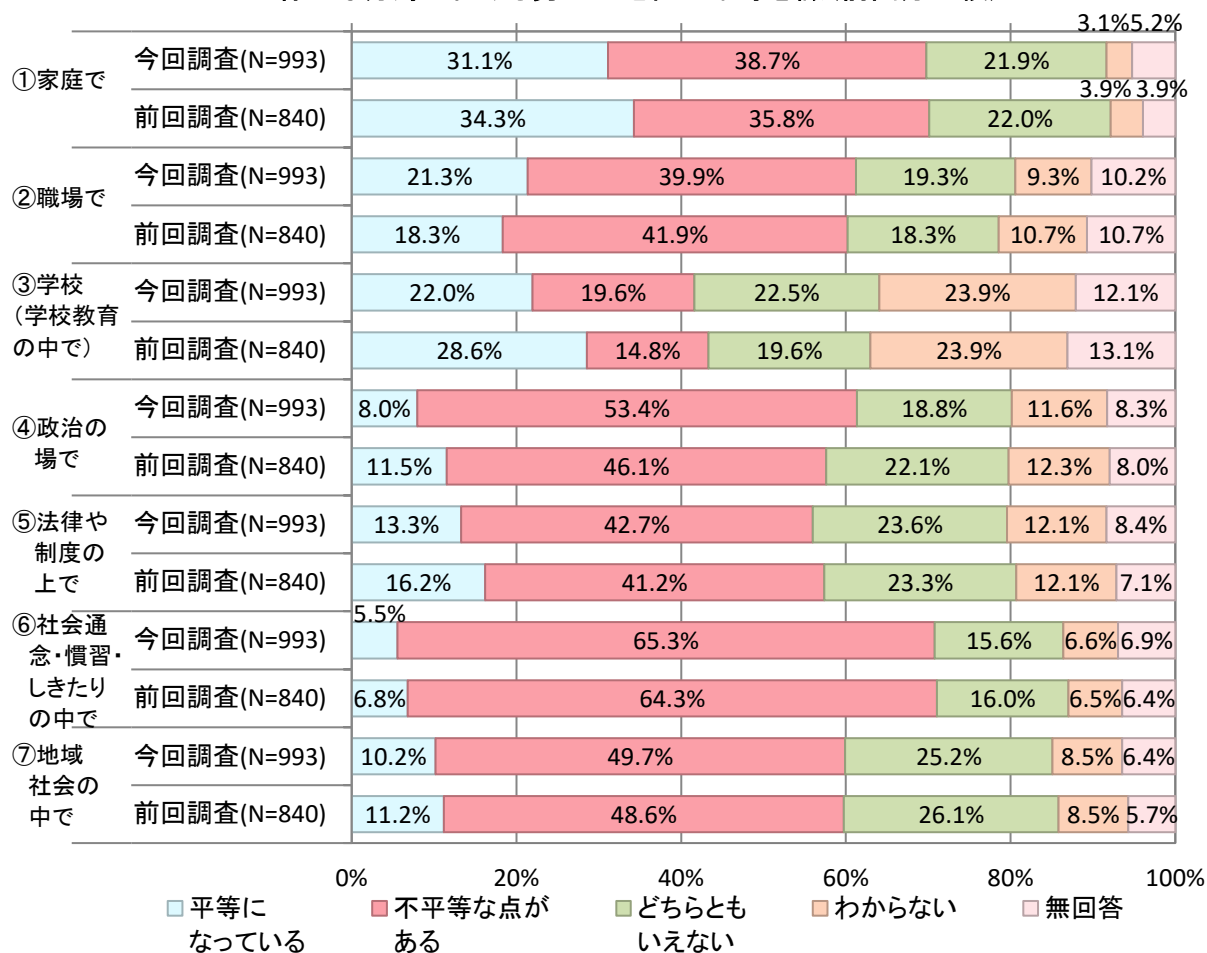
様々な分野における男女の地位の平等意識(全体) (N=993)



前回調査と比較すると、「平等になっている」の割合は「②職場で」（今回調査：21.3%、前回調査：18.3%）のみ増加傾しており、それ以外の項目はすべて減少している。特に、「③学校（学校教育の中で）」（今回調査：22.0%、前回調査：28.6%）の割合が6.6ポイントと最も減少している。

「不平等な点がある」の割合は「②職場」（今回調査：39.9%、前回調査：41.9%）のみして減少おり、それ以外の項目では増加している。特に、「④政治の場」（今回調査：53.4%、前回調査：46.1%）の割合が7.3ポイントと最も増加している。

様々な分野における男女の地位の平等意識(前回分比較)

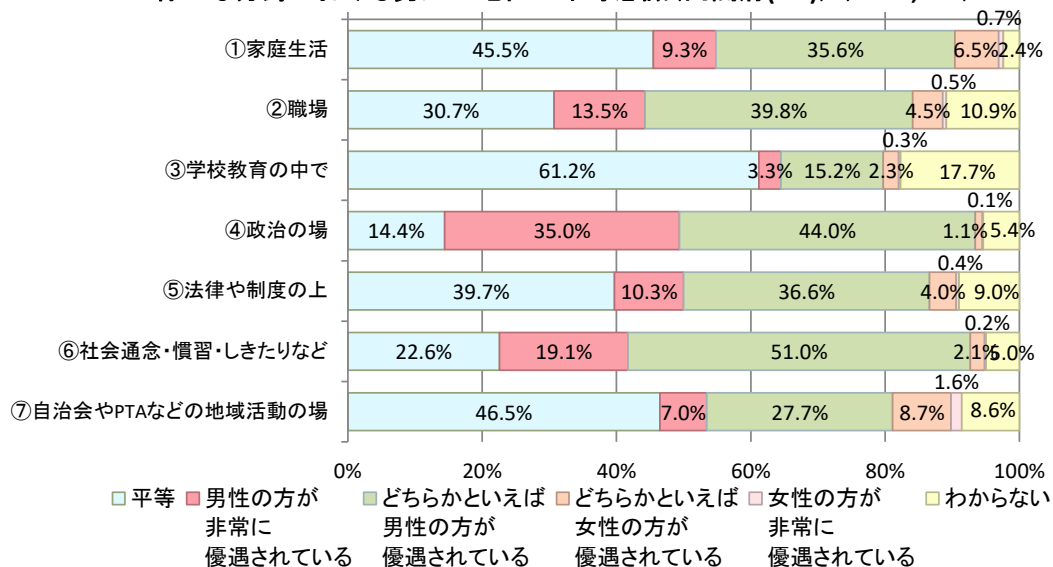


＜内閣府調査比較＞

内閣府調査でみると、「平等になっている」の割合は「学校教育の場」（61.2%）が最も高く、次いで「自治会やPTAなどの地域活動の場」（46.5%）、「家庭生活」（45.5%）となっている。

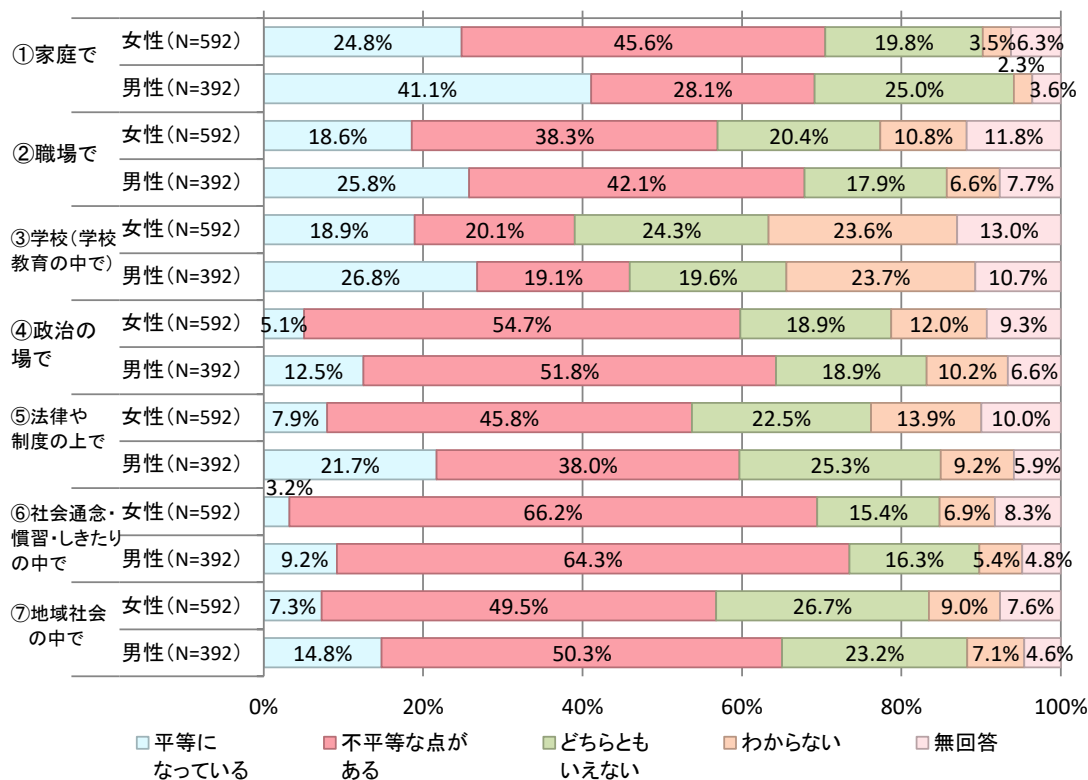
内閣府調査と霧島市との比較については、選択肢は異なっており単純に比較することが難しいが、「家庭で」や「学校（学校教育の中で）」については、国、霧島市とも「平等になっている」との意識が高いが、「地域社会の中で」や「社会通念・慣習・しきたりの中で」については、国に比べ霧島市は、「平等になっている」という意識が低いことがうかがえる。

様々な分野における男女の地位の平等意識(内閣府(R1)) (N=2,645)

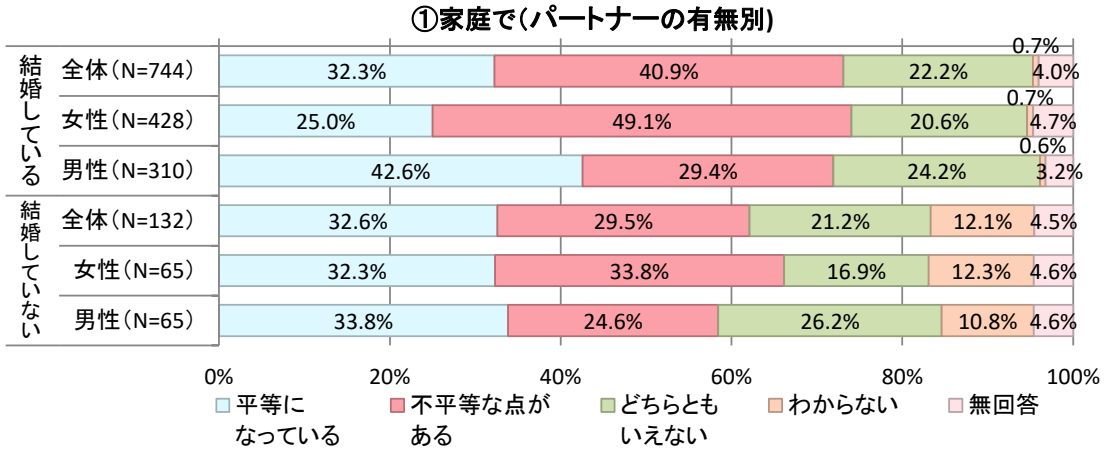


性別にみると、すべての項目において「平等になっている」の割合は男性が女性より高く、「不平等な点がある」の割合は「②職場」を除いて女性が男性より高くなっている。特に、「①家庭の場で」、「⑤法律や制度の上で」において、「平等になっている」の差が男女間で大きくなっている。

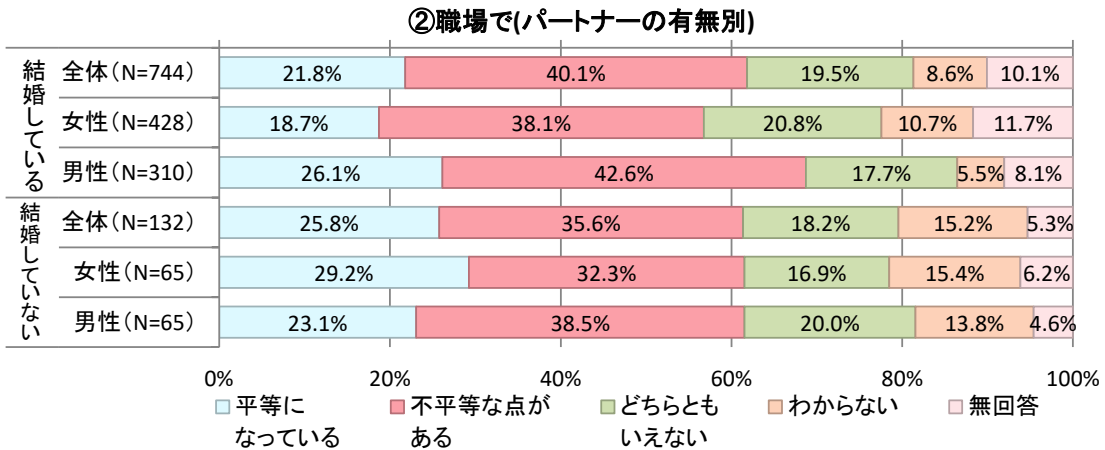
様々な分野における男女の地位の平等意識(性別)



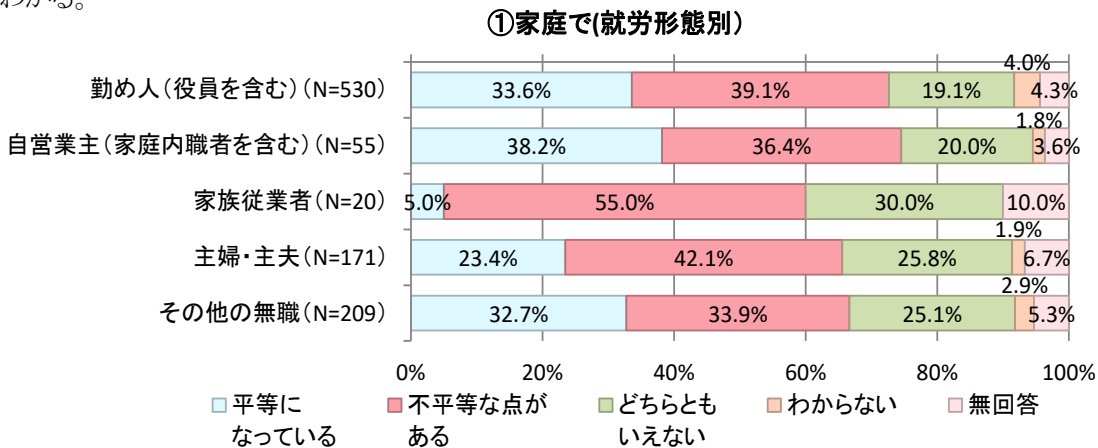
「①家庭で」の男女の地位の平等意識についてみるとパートナーの有無別では、「不平等な点がある（結婚している：40.9%、結婚していない：29.5%）」の割合は「結婚している」が高くなっている。性別にみると「不平等な点がある」の割合は、「結婚している」「結婚していない」どちらも女性の方が高くなっている。



「②職場で」の男女の地位の平等意識について、パートナー有無別では、「不平等な点がある（結婚している：40.1%、結婚していない：35.6%）」の割合は「結婚している」が高くなっている。性別にみると、「不平等な点がある」の割合は「結婚している」男性が42.6%と最も高くなっている。

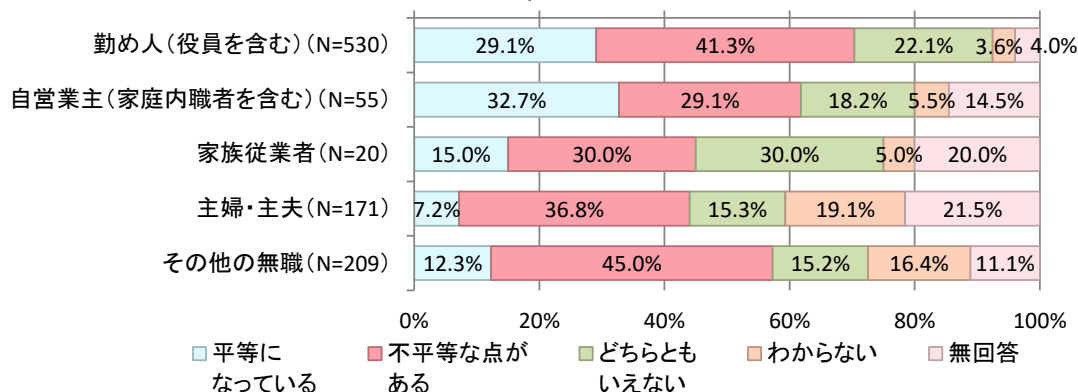


「①家庭で」の男女の地位の平等意識について、就労形態別では、「平等になっている」の割合は「自営業主（家庭内職者を含む）」(38.2%) が最も高く、次いで「勤め人(役員を含む)」(33.6%)、「その他の無職」(32.7%) となっている。「不平等な点がある」では「家族従業者」が55.0%と5割を超えており、平等意識が低いことがわかる。



「②職場で」の男女の地位の平等意識について、就労形態別では、「平等になっている」の割合は「自営業主（家庭内職者を含む）」（32.7%）が最も高く、次いで「勤め人（役員を含む）」（29.1%）、「家族従業者」（15.0%）となっている。

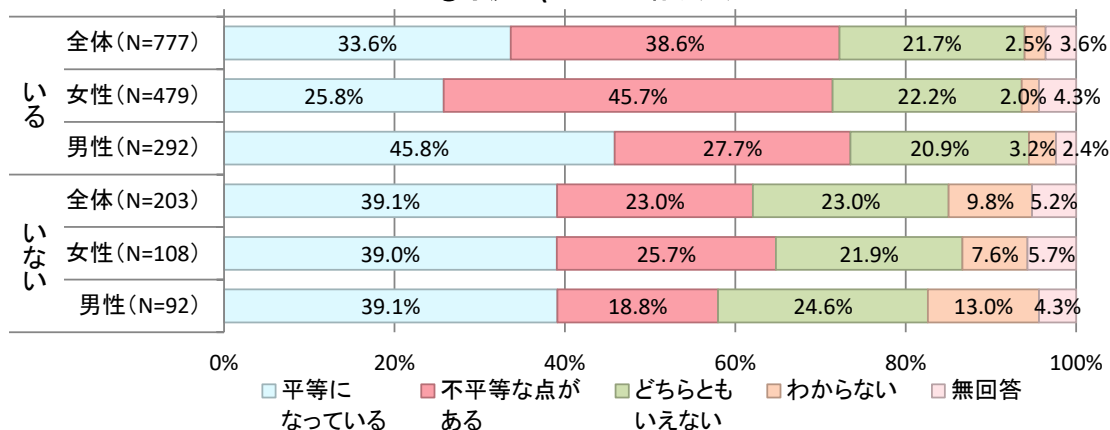
②職場で(就労形態別)



「①家庭で」の男女の地位の平等意識について、子どもの有無別では、「不平等な点がある」（いる：38.6%、いない：23.0%）の割合は「いる」の方が高くなっている。

性別にみると「不平等な点がある」の割合は、「いる」、「いない」ともに女性が高くなっているが、「いる」については女性（45.7%）の方が大幅に高くなっている。

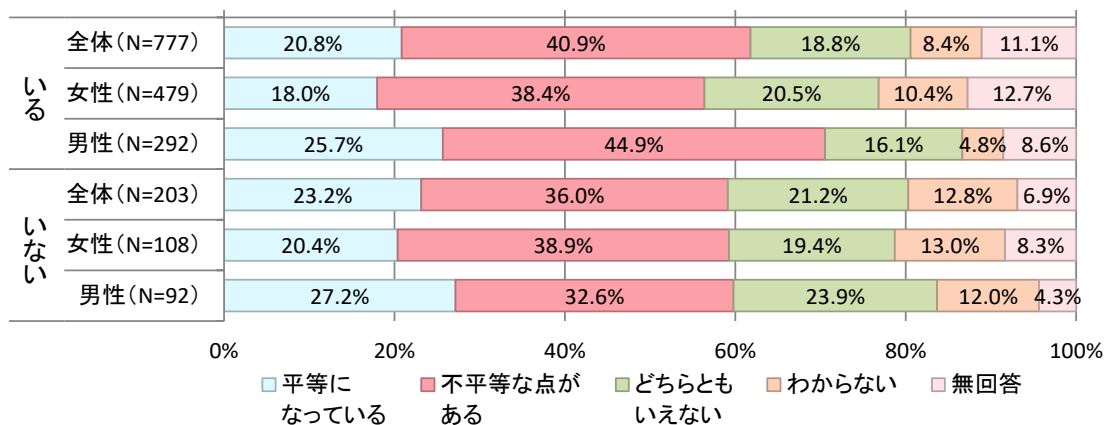
①家庭で(子どもの有無別)



「②職場で」の男女の地位の平等意識について、子どもの有無別では、「不平等な点がある（いる：40.9%、いない：36.0%）」の割合は「いる」の方が高くなっている。

性別にみると、「不平等な点がある」の割合は「いる」男性が44.9%と最も高くなっている。

②職場で(子どもの有無別)



様々な分野における男女の地位の平等意識（性・年代別）1/4

	サンプル数	①家庭で					②職場で					
		平等になっている	不平等な点がある	どちらともいえない	わからない	無回答	平等になっている	不平等な点がある	どちらともいえない	わからない	無回答	
全体	993	309	384	217	31	52	212	396	192	92	101	
	100.0%	31.1%	38.7%	21.9%	3.1%	5.2%	21.3%	39.9%	19.3%	9.3%	10.2%	
性別	女性	592	147	270	117	21	37	110	227	121	64	70
		100.0%	24.8%	45.6%	19.8%	3.5%	6.3%	18.6%	38.3%	20.4%	10.8%	11.8%
	男性	392	161	110	98	9	14	101	165	70	26	30
		100.0%	41.1%	28.1%	25.0%	2.3%	3.6%	25.8%	42.1%	17.9%	6.6%	7.7%
性・年代別	女性計	592	147	270	117	21	37	110	227	121	64	70
		100.0%	24.8%	45.6%	19.8%	3.5%	6.3%	18.6%	38.3%	20.4%	10.8%	11.8%
	10代・20代	57	24	16	12	2	3	16	19	8	11	3
		100.0%	42.1%	28.1%	21.1%	3.5%	5.3%	28.1%	33.3%	14.0%	19.3%	5.3%
	30代	72	19	33	12	3	5	19	24	14	11	4
		100.0%	26.4%	45.8%	16.7%	4.2%	6.9%	26.4%	33.3%	19.4%	15.3%	5.6%
	40代	110	31	53	19	5	2	22	49	28	7	4
		100.0%	28.2%	48.2%	17.3%	4.5%	1.8%	20.0%	44.5%	25.5%	6.4%	3.6%
	50代	91	21	49	14	2	5	20	44	15	4	8
		100.0%	23.1%	53.8%	15.4%	2.2%	5.5%	22.0%	48.4%	16.5%	4.4%	8.8%
	60代	120	20	63	27	4	6	17	48	32	11	12
		100.0%	16.7%	52.5%	22.5%	3.3%	5.0%	14.2%	40.0%	26.7%	9.2%	10.0%
	70歳以上	142	32	56	33	5	16	16	43	24	20	39
		100.0%	22.5%	39.4%	23.2%	3.5%	11.3%	11.3%	30.3%	16.9%	14.1%	27.5%
	男性計	391	161	109	98	9	14	101	165	70	26	29
		100.0%	41.2%	27.9%	25.1%	2.3%	3.6%	25.8%	42.2%	17.9%	6.6%	7.4%
	10代・20代	33	22	3	3	4	1	11	10	5	6	1
		100.0%	66.7%	9.1%	9.1%	12.1%	3.0%	33.3%	30.3%	15.2%	18.2%	3.0%
	30代	40	11	18	8	1	2	10	19	9	1	1
	100.0%	27.5%	45.0%	20.0%	2.5%	5.0%	25.0%	47.5%	22.5%	2.5%	2.5%	
40代	57	23	16	16	1	1	14	26	15	0	2	
	100.0%	40.4%	28.1%	28.1%	1.8%	1.8%	24.6%	45.6%	26.3%	0.0%	3.5%	
50代	62	24	18	18	2	0	20	26	11	5	0	
	100.0%	38.7%	29.0%	29.0%	3.2%	0.0%	32.3%	41.9%	17.7%	8.1%	0.0%	
60代	91	41	24	24	0	2	27	40	18	4	2	
	100.0%	45.1%	26.4%	26.4%	0.0%	2.2%	29.7%	44.0%	19.8%	4.4%	2.2%	
70歳以上	108	40	30	29	1	8	19	44	12	10	23	
	100.0%	37.0%	27.8%	26.9%	0.9%	7.4%	17.6%	40.7%	11.1%	9.3%	21.3%	
不明	10	1	5	2	1	1	1	4	1	2	2	

％：各属性内での回答割合が最も高い

様々な分野における男女の地位の平等意識（性・年代別） 2/4

	サンプル数	③学校(学校教育の中で)					④政治の場で					
		平等 になっている	不平等 な点がある	どちら ともいえない	わから ない	無回 答	平等 になっている	不平等 な点がある	どちら ともいえない	わから ない	無回 答	
全体	993	218	195	223	237	120	79	530	187	115	82	
	100.0%	22.0%	19.6%	22.5%	23.9%	12.1%	8.0%	53.4%	18.8%	11.6%	8.3%	
性別	女性	592	112	119	144	140	77	30	324	112	71	55
	100.0%	18.9%	20.1%	24.3%	23.6%	13.0%	5.1%	54.7%	18.9%	12.0%	9.3%	
	男性	392	105	75	77	93	42	49	203	74	40	26
	100.0%	26.8%	19.1%	19.6%	23.7%	10.7%	12.5%	51.8%	18.9%	10.2%	6.6%	
性・年代別	女性計	592	112	119	144	140	77	30	324	112	71	55
	100.0%	18.9%	20.1%	24.3%	23.6%	13.0%	5.1%	54.7%	18.9%	12.0%	9.3%	
	10代・20代	57	16	10	17	11	3	3	36	9	6	3
	100.0%	28.1%	17.5%	29.8%	19.3%	5.3%	5.3%	63.2%	15.8%	10.5%	5.3%	
	30代	72	17	16	16	17	6	3	46	7	11	5
	100.0%	23.6%	22.2%	22.2%	23.6%	8.3%	4.2%	63.9%	9.7%	15.3%	6.9%	
	40代	110	30	23	31	23	3	6	66	23	13	2
	100.0%	27.3%	20.9%	28.2%	20.9%	2.7%	5.5%	60.0%	20.9%	11.8%	1.8%	
	50代	91	16	19	24	26	6	5	55	15	11	5
	100.0%	17.6%	20.9%	26.4%	28.6%	6.6%	5.5%	60.4%	16.5%	12.1%	5.5%	
	60代	120	14	31	31	29	15	0	67	27	16	10
	100.0%	11.7%	25.8%	25.8%	24.2%	12.5%	0.0%	55.8%	22.5%	13.3%	8.3%	
	70歳以上	142	19	20	25	34	44	13	54	31	14	30
	100.0%	13.4%	14.1%	17.6%	23.9%	31.0%	9.2%	38.0%	21.8%	9.9%	21.1%	
	男性計	391	104	75	77	93	42	48	203	74	40	26
	100.0%	26.6%	19.2%	19.7%	23.8%	10.7%	12.3%	51.9%	18.9%	10.2%	6.6%	
	10代・20代	33	13	9	3	6	2	9	8	5	9	2
	100.0%	39.4%	27.3%	9.1%	18.2%	6.1%	27.3%	24.2%	15.2%	27.3%	6.1%	
	30代	40	9	10	11	9	1	2	23	10	4	1
100.0%	22.5%	25.0%	27.5%	22.5%	2.5%	5.0%	57.5%	25.0%	10.0%	2.5%		
40代	57	15	12	14	13	3	2	38	11	4	2	
100.0%	26.3%	21.1%	24.6%	22.8%	5.3%	3.5%	66.7%	19.3%	7.0%	3.5%		
50代	62	15	13	17	16	1	11	34	11	6	0	
100.0%	24.2%	21.0%	27.4%	25.8%	1.6%	17.7%	54.8%	17.7%	9.7%	0.0%		
60代	91	26	16	16	26	7	11	47	22	9	2	
100.0%	28.6%	17.6%	17.6%	28.6%	7.7%	12.1%	51.6%	24.2%	9.9%	2.2%		
70歳以上	108	26	15	16	23	28	13	53	15	8	19	
100.0%	24.1%	13.9%	14.8%	21.3%	25.9%	12.0%	49.1%	13.9%	7.4%	17.6%		
不明	10	2	1	2	4	1	1	3	1	4	1	

％：各属性内での回答割合が最も高い

様々な分野における男女の地位の平等意識（性・年代別） 3/4

		サンプル数	⑤法律や制度の上で					⑥社会通念・慣習・しきたりの中で				
			平等 になっている	不 平等な 点がある	ど ちらとも いえない	わ から ない	無 回 答	平 等 に な っ て い る	不 平 等 な 点 が あ る	ど ちらとも いえない	わ から ない	無 回 答
全体		993	132	424	234	120	83	55	648	155	66	69
		100.0%	13.3%	42.7%	23.6%	12.1%	8.4%	5.5%	65.3%	15.6%	6.6%	6.9%
性別	女性	592	47	271	133	82	59	19	392	91	41	49
		100.0%	7.9%	45.8%	22.5%	13.9%	10.0%	3.2%	66.2%	15.4%	6.9%	8.3%
	男性	392	85	149	99	36	23	36	252	64	21	19
		100.0%	21.7%	38.0%	25.3%	9.2%	5.9%	9.2%	64.3%	16.3%	5.4%	4.8%
性・年代別	女性計	592	47	271	133	82	59	19	392	91	41	49
		100.0%	7.9%	45.8%	22.5%	13.9%	10.0%	3.2%	66.2%	15.4%	6.9%	8.3%
	10代・20代	57	9	26	12	7	3	2	36	8	8	3
		100.0%	15.8%	45.6%	21.1%	12.3%	5.3%	3.5%	63.2%	14.0%	14.0%	5.3%
	30代	72	6	39	11	12	4	1	47	11	9	4
		100.0%	8.3%	54.2%	15.3%	16.7%	5.6%	1.4%	65.3%	15.3%	12.5%	5.6%
	40代	110	9	57	26	16	2	1	93	9	5	2
		100.0%	8.2%	51.8%	23.6%	14.5%	1.8%	0.9%	84.5%	8.2%	4.5%	1.8%
	50代	91	2	49	23	9	8	2	66	15	3	5
		100.0%	2.2%	53.8%	25.3%	9.9%	8.8%	2.2%	72.5%	16.5%	3.3%	5.5%
	60代	120	2	58	34	16	10	2	80	24	5	9
		100.0%	1.7%	48.3%	28.3%	13.3%	8.3%	1.7%	66.7%	20.0%	4.2%	7.5%
	70歳以上	142	19	42	27	22	32	11	70	24	11	26
		100.0%	13.4%	29.6%	19.0%	15.5%	22.5%	7.7%	49.3%	16.9%	7.7%	18.3%
	男性計	391	84	149	99	36	23	36	251	64	21	19
		100.0%	21.5%	38.1%	25.3%	9.2%	5.9%	9.2%	64.2%	16.4%	5.4%	4.9%
	10代・20代	33	8	11	8	5	1	4	19	2	7	1
		100.0%	24.2%	33.3%	24.2%	15.2%	3.0%	12.1%	57.6%	6.1%	21.2%	3.0%
	30代	40	8	18	9	4	1	4	29	5	1	1
	100.0%	20.0%	45.0%	22.5%	10.0%	2.5%	10.0%	72.5%	12.5%	2.5%	2.5%	
40代	57	9	21	21	4	2	0	40	13	2	2	
	100.0%	15.8%	36.8%	36.8%	7.0%	3.5%	0.0%	70.2%	22.8%	3.5%	3.5%	
50代	62	13	28	17	4	0	6	45	7	4	0	
	100.0%	21.0%	45.2%	27.4%	6.5%	0.0%	9.7%	72.6%	11.3%	6.5%	0.0%	
60代	91	23	34	25	8	1	11	57	18	4	1	
	100.0%	25.3%	37.4%	27.5%	8.8%	1.1%	12.1%	62.6%	19.8%	4.4%	1.1%	
70歳以上	108	23	37	19	11	18	11	61	19	3	14	
	100.0%	21.3%	34.3%	17.6%	10.2%	16.7%	10.2%	56.5%	17.6%	2.8%	13.0%	
不明	10	1	4	2	2	1	0	5	0	4	1	

％：各属性内での回答割合が最も高い

様々な分野における男女の地位の平等意識（性・年代別） 4/4

		サンプル数	⑦地域社会の中で				
			平等 になっている	不 平等 な点 がある	ど ちら とも いえ ない	わ か ら な い	無 回 答
全体		993 100.0%	101 10.2%	494 49.7%	250 25.2%	84 8.5%	64 6.4%
性別	女性	592 100.0%	43 7.3%	293 49.5%	158 26.7%	53 9.0%	45 7.6%
	男性	392 100.0%	58 14.8%	197 50.3%	91 23.2%	28 7.1%	18 4.6%
性・ 年代 別	女性 計	592 100.0%	43 7.3%	293 49.5%	158 26.7%	53 9.0%	45 7.6%
	10代・20代	57 100.0%	10 17.5%	21 36.8%	9 15.8%	14 24.6%	3 5.3%
	30代	72 100.0%	2 2.8%	37 51.4%	20 27.8%	9 12.5%	4 5.6%
	40代	110 100.0%	6 5.5%	70 63.6%	21 19.1%	11 10.0%	2 1.8%
	50代	91 100.0%	7 7.7%	52 57.1%	20 22.0%	6 6.6%	6 6.6%
	60代	120 100.0%	4 3.3%	63 52.5%	42 35.0%	2 1.7%	9 7.5%
	70歳以上	142 100.0%	14 9.9%	50 35.2%	46 32.4%	11 7.7%	21 14.8%
	男性 計	391 100.0%	58 14.8%	196 50.1%	91 23.3%	28 7.2%	18 4.6%
	10代・20代	33 100.0%	8 24.2%	13 39.4%	4 12.1%	7 21.2%	1 3.0%
	30代	40 100.0%	10 25.0%	18 45.0%	7 17.5%	4 10.0%	1 2.5%
	40代	57 100.0%	4 7.0%	27 47.4%	18 31.6%	6 10.5%	2 3.5%
	50代	62 100.0%	5 8.1%	43 69.4%	13 21.0%	1 1.6%	0 0.0%
	60代	91 100.0%	18 19.8%	43 47.3%	25 27.5%	4 4.4%	1 1.1%
	70歳以上	108 100.0%	13 12.0%	52 48.1%	24 22.2%	6 5.6%	13 12.0%
	不明	10	0	5	1	3	1

_____ % : 各属性内での回答割合が最も高い

(2) 社会全体でみた場合の地位の平等意識

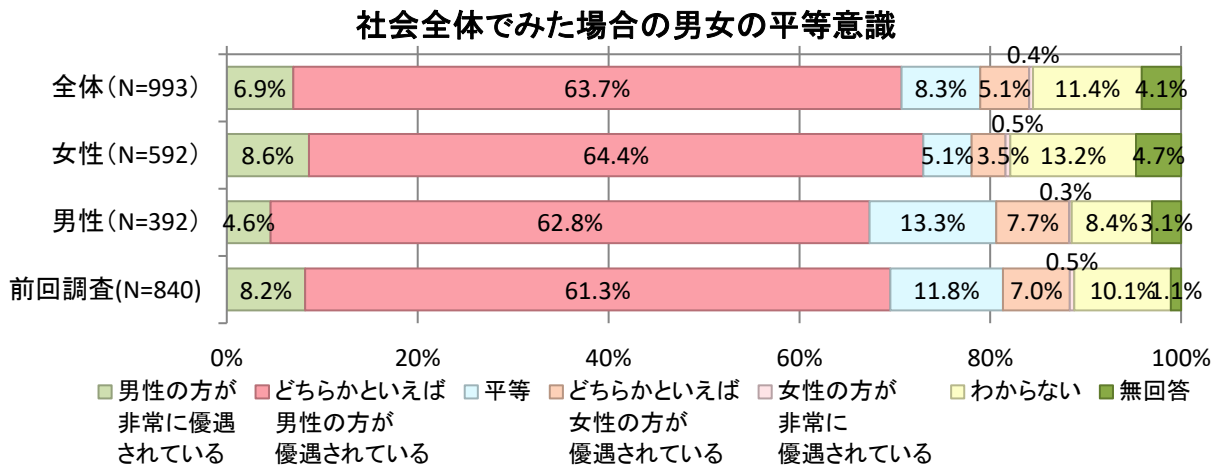
【問9】 社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。

～『男性優遇』が『女性優遇』を大きく上回る～

社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識についてみると、全体では『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」）＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が70.6%、『女性優遇』（「女性の方が非常に優遇されている」）＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が5.5%となっており、『男性優遇』が『女性優遇』を大きく上回っている。

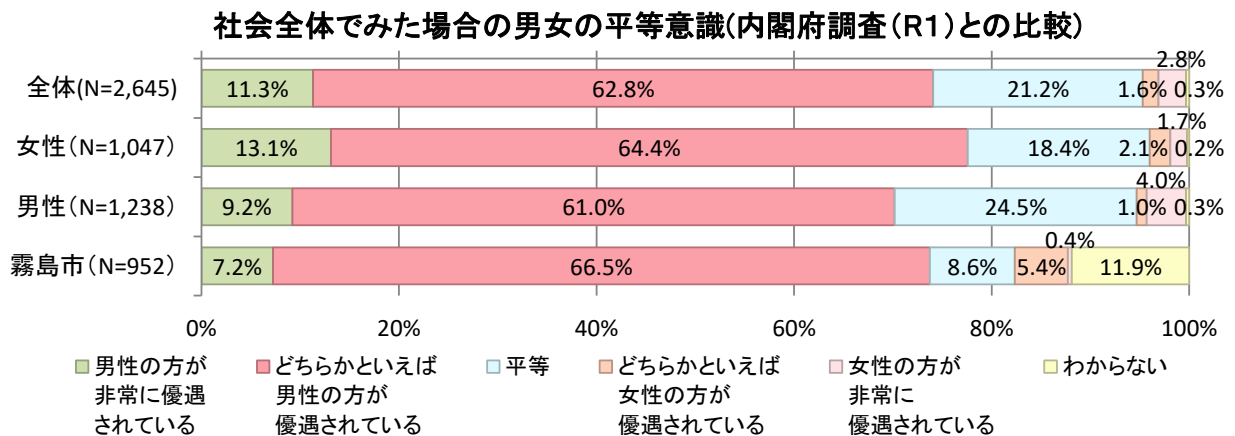
性別にみると、『男性優遇』（女性：73.0%、男性：67.4%）の割合は女性が男性より高く、『女性優遇』（女性：4.0%、男性：8.0%）の割合は男性が女性より高くなっている。また、「平等」（女性：5.1%、男性：13.3%）の割合は男性が女性より高くなっている。

前回調査と比較すると、『男性優遇』（今回調査：70.6%、前回調査：69.5%）の割合は大きな差異はなかったが、「平等」（今回調査：8.3%、前回調査：11.8%）、『女性優遇』（今回調査：5.5%、前回調査：7.5%）の割合は減少傾向になっている。



≪内閣府調査比較≫

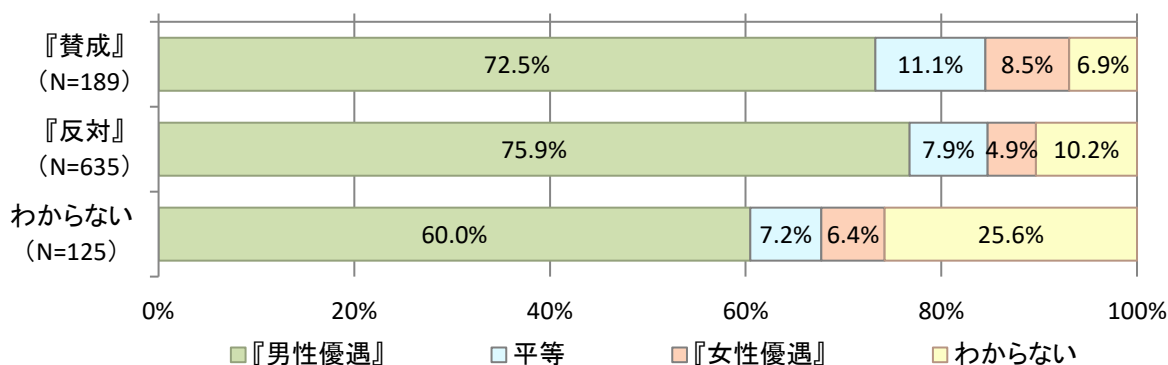
内閣府調査と比較すると、霧島市は「平等」の割合が低く、『女性優遇』の割合が高くなっている。



※内閣府調査に合わせて無回答を除いて算出した

性別役割分担に対する考え方（問12「男性は仕事、女性は家庭」という考え方）別にみると、性別役割分担に『反対』（「反対」＋「どちらかといえば反対」）の人は『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）の人より、『男性優遇』と答えた割合が高く、『女性優遇』『平等』の割合は低くなっている。

社会全体でみた場合の男女の平等意識（役割分担に対する考え方別）



	サンプル数	『男性優遇』		平等	『女性優遇』		わからない	無回答	
		るに男優遇のされがて非い常	遇ばどさ男れ性らてのかがい優え		遇ばどさ女れ性らてのかがい優え	るに女優遇のされがて非い常			
全体	993	69	633	82	51	4	113	41	
	100.0%	6.9%	63.7%	8.3%	5.1%	0.4%	11.4%	4.1%	
性別役割分担に 対する考え方	『賛成』	189	11	126	21	15	1	13	2
		100.0%	5.8%	66.7%	11.1%	7.9%	0.5%	6.9%	1.1%
	『反対』	635	51	431	50	28	3	65	7
		100.0%	8.0%	67.9%	7.9%	4.4%	0.5%	10.2%	1.1%
わからない	125	6	69	9	8	0	32	1	
	100.0%	4.8%	55.2%	7.2%	6.4%	0.0%	25.6%	0.8%	
無回答	44	1	7	2	0	0	3	31	
	100.0%	2.3%	15.9%	4.5%	0.0%	0.0%	6.8%	70.5%	

『賛成』(N=189) = 「賛成」(N=24) + 「どちらかといえば賛成」(N=165)

『反対』(N=635) = 「反対」(N=227) + 「どちらかといえば反対」(N=408)

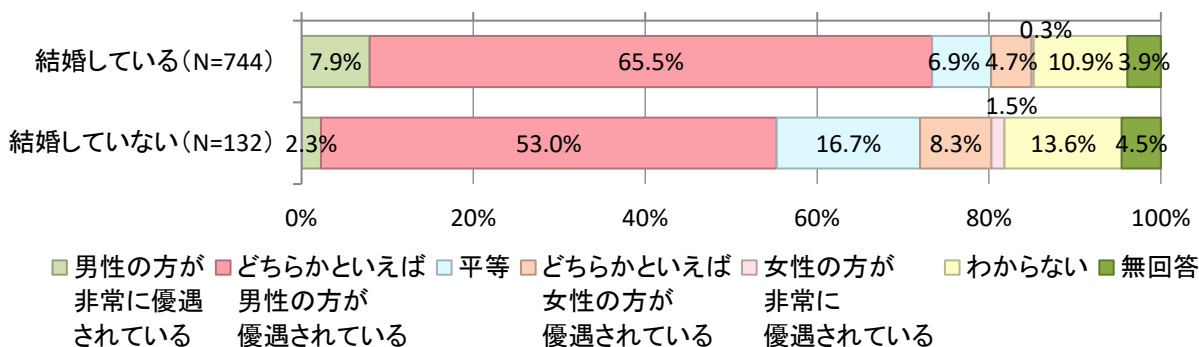
『男性優遇』 = 「男性のほうが非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」

『女性優遇』 = 「女性のほうが非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」

※以後本報告書では、性的役割分担の考え方に「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合計したものを『賛成』とし、「反対」、「どちらかといえば反対」を合計したものを『反対』とする。

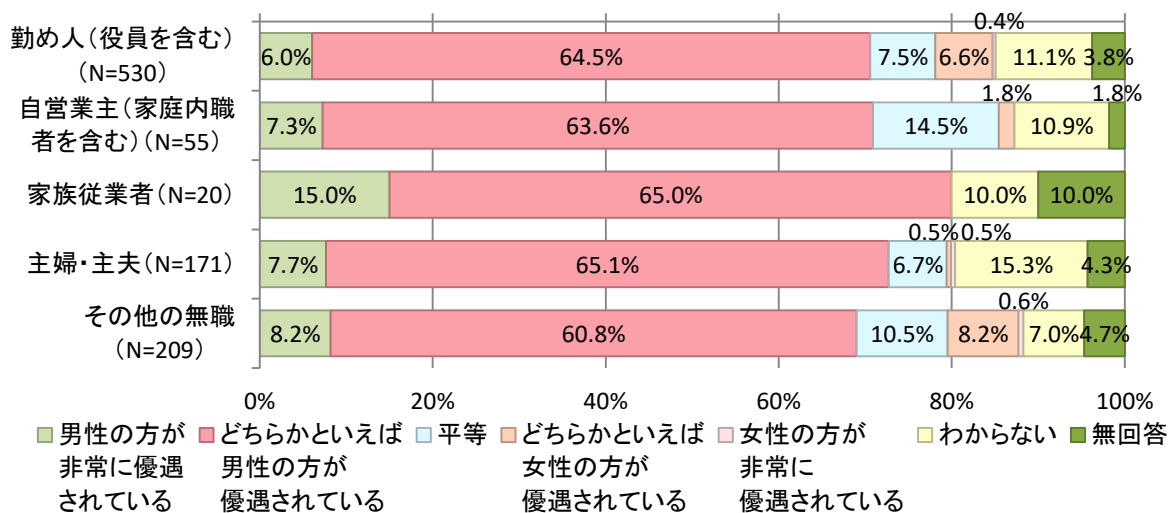
パートナーの有無別にみると、『男性優遇』（結婚している：73.4%、結婚していない：55.3%）の割合は「結婚している」が高くなっている。

社会全体でみた場合の男女の平等意識(パートナーの有無別)



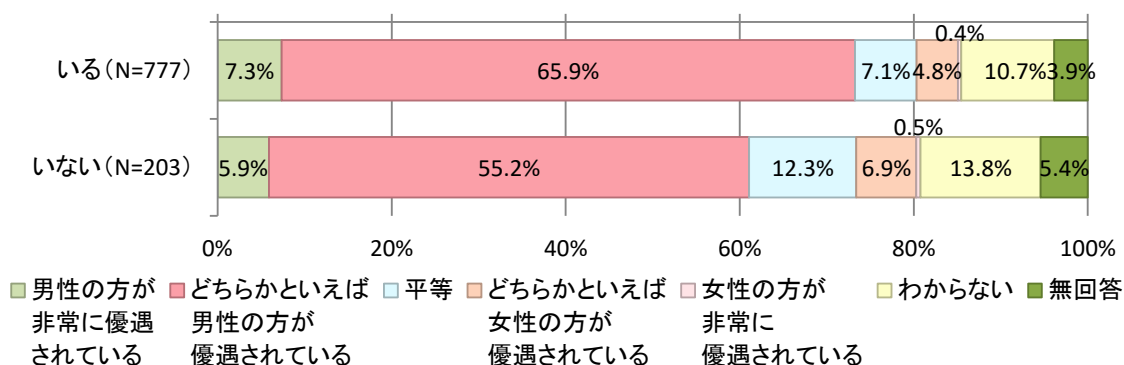
就労形態別にみると、『男性優遇』の割合は「家族従業者」(80.0%)が最も高く、次いで「主婦・主夫」(77.5%)、「自営業(家庭内職者を含む)」(70.9%)となっている。

社会全体でみた場合の男女の平等意識(就労形態別)



子どもの有無別にみると、『男性優遇』（いる：73.2%、いない：61.1%）の割合は「いる」が高くなっている。

社会全体でみた場合の男女の平等意識(子どもの有無別)



社会全体でみた場合の地位の平等意識（性・年代別）

		社会全体でみた場合の男女の地位の平等意識							無回答
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない		
全体		993 100.0%	69 6.9%	633 63.7%	82 8.3%	51 5.1%	4 0.4%	113 11.4%	41 4.1%
性・年代別	女性計	592 100.0%	51 8.6%	381 64.4%	30 5.1%	21 3.5%	3 0.5%	78 13.2%	28 4.7%
	10代・20代	57 100.0%	7 12.3%	27 47.4%	6 10.5%	6 10.5%	1 1.8%	7 12.3%	3 5.3%
	30代	72 100.0%	7 9.7%	46 63.9%	3 4.2%	1 1.4%	0 0.0%	11 15.3%	4 5.6%
	40代	110 100.0%	10 9.1%	69 62.7%	6 5.5%	7 6.4%	1 0.9%	14 12.7%	3 2.7%
	50代	91 100.0%	6 6.6%	60 65.9%	1 1.1%	3 3.3%	0 0.0%	14 15.4%	7 7.7%
	60代	120 100.0%	10 8.3%	90 75.0%	4 3.3%	2 1.7%	0 0.0%	11 9.2%	3 2.5%
	70歳以上	142 100.0%	11 7.7%	89 62.7%	10 7.0%	2 1.4%	1 0.7%	21 14.8%	8 5.6%
	男性計	391 100.0%	18 4.6%	246 62.9%	52 13.3%	30 7.7%	1 0.3%	33 8.4%	11 2.8%
	10代・20代	33 100.0%	1 3.0%	15 45.5%	6 18.2%	4 12.1%	1 3.0%	5 15.2%	1 3.0%
	30代	40 100.0%	0 0.0%	23 57.5%	7 17.5%	7 17.5%	0 0.0%	2 5.0%	1 2.5%
	40代	57 100.0%	2 3.5%	32 56.1%	8 14.0%	5 8.8%	0 0.0%	9 15.8%	1 1.8%
	50代	62 100.0%	5 8.1%	42 67.7%	6 9.7%	4 6.5%	0 0.0%	5 8.1%	0 0.0%
	60代	91 100.0%	5 5.5%	62 68.1%	12 13.2%	6 6.6%	0 0.0%	5 5.5%	1 1.1%
	70歳以上	108 100.0%	5 4.6%	72 66.7%	13 12.0%	4 3.7%	0 0.0%	7 6.5%	7 6.5%

％：各属性内での回答割合が最も高い

(3) 男女が平等でない原因

【問10】 問8で「不平等な点がある」、問9で「1. 2. 4. 5」のいずれかを選んだ方におたずねします。その主な原因はどこにあると思いますか。(複数回答)

- ※問9の選択肢
1. 男性の方が非常に優遇されている
 2. どちらかといえば男性の方が優遇されている
 4. どちらかといえば女性の方が優遇されている
 5. 女性の方が非常に優遇されている

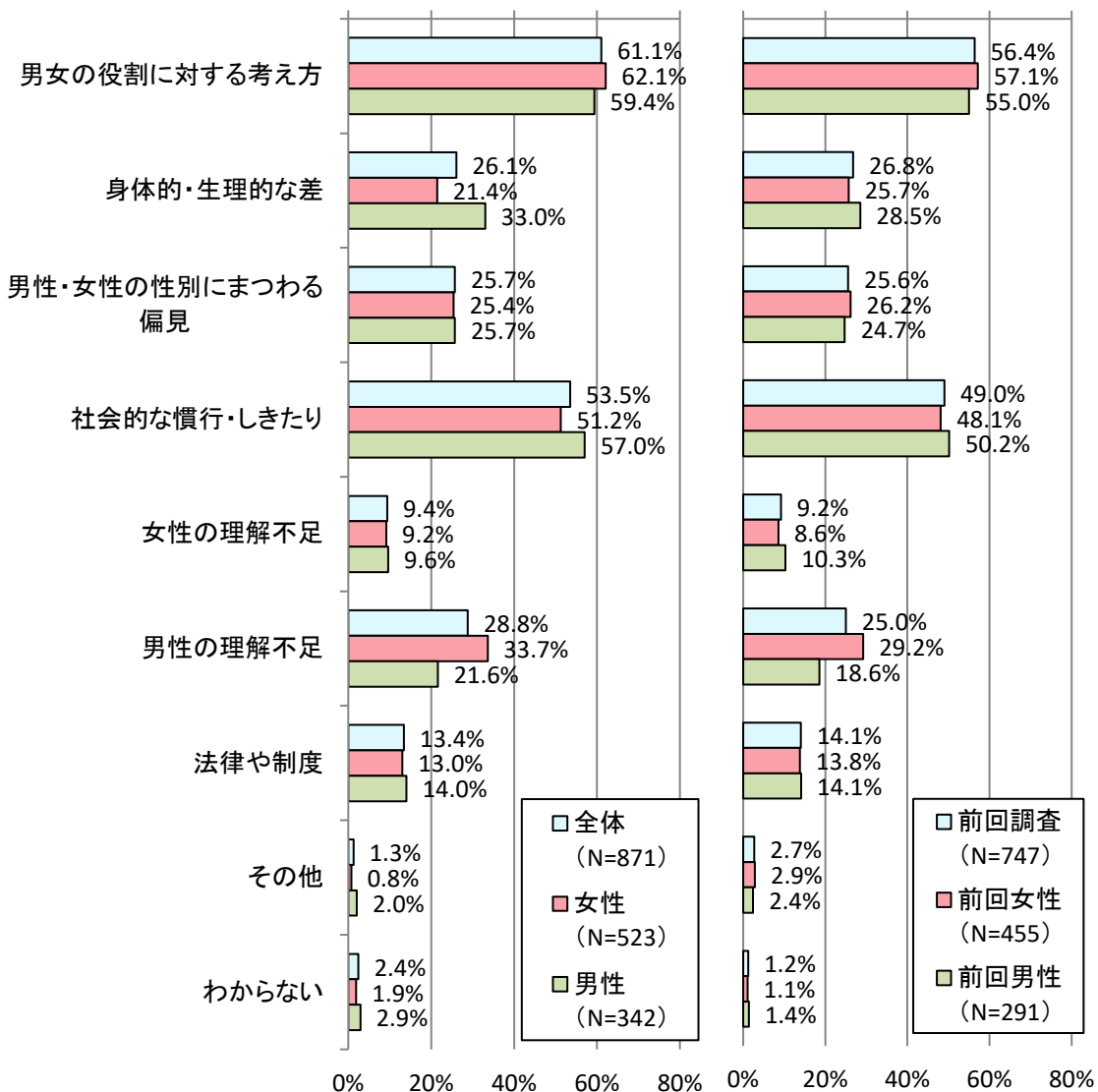
～「男女の役割に対する考え方」「社会的な慣行・しきたり」が原因と考える人が多い～

男女が平等でない原因についてみると、全体では「男女の役割に対する考え方」(61.1%)の割合が最も高く、次いで「社会的な慣行・しきたり」(53.5%)、「男性の理解不足」(28.8%)となっている。

性別にみると、「男性の理解不足」(女性：33.7%、男性：21.6%)で女性の割合が男性より高く、「身体的・生理的な差」(女性：21.4%、男性：33.0%)で男性の割合が女性より高くなっている。

前回調査と比較すると、「男女の役割に対する考え方」(今回調査：61.1%、前回調査：56.4%)、「社会的な慣行・しきたり」(今回調査：53.5%、前回調査：49.0%)の割合が増加傾向になっている。

男女が平等でない原因



男女が平等でない原因（性・年代・性別役割分担に対する考え方別）（複数回答）

		サンプル数	男女が平等でない原因								わからない
			男女の役割に対する考え方	身体的・生理的な差	男性・女性の性別にまつわる偏見	社会的な慣行・しきたり	女性の理解不足	男性の理解不足	法律や制度	その他	
全体		871	532 61.1%	227 26.1%	224 25.7%	466 53.5%	82 9.4%	251 28.8%	117 13.4%	11 1.3%	21 2.4%
性・年代別	女性計	523	325 62.1%	112 21.4%	133 25.4%	268 51.2%	48 9.2%	176 33.7%	68 13.0%	4 0.8%	10 1.9%
	10代・20代	52	32 61.5%	14 26.9%	17 32.7%	21 40.4%	10 19.2%	8 15.4%	3 5.8%	1 1.9%	0 0.0%
	30代	63	45 71.4%	10 15.9%	26 41.3%	33 52.4%	5 7.9%	16 25.4%	9 14.3%	0 0.0%	0 0.0%
	40代	104	65 62.5%	24 23.1%	21 20.2%	57 54.8%	8 7.7%	47 45.2%	17 16.3%	0 0.0%	0 0.0%
	50代	79	48 60.8%	14 17.7%	26 32.9%	47 59.5%	4 5.1%	27 34.2%	12 15.2%	1 1.3%	1 1.3%
	60代	108	76 70.4%	28 25.9%	24 22.2%	62 57.4%	8 7.4%	40 37.0%	17 15.7%	1 0.9%	2 1.9%
	70歳以上	117	59 50.4%	22 18.8%	19 16.2%	48 41.0%	13 11.1%	38 32.5%	10 8.5%	1 0.9%	7 6.0%
	男性計	341	202 59.2%	113 33.1%	88 25.8%	194 56.9%	33 9.7%	73 21.4%	48 14.1%	7 2.1%	10 2.9%
	10代・20代	28	11 39.3%	9 32.1%	9 32.1%	16 57.1%	2 7.1%	2 7.1%	2 7.1%	1 3.6%	0 0.0%
	30代	34	21 61.8%	12 35.3%	10 29.4%	19 55.9%	2 5.9%	6 17.6%	6 17.6%	1 2.9%	1 2.9%
	40代	50	29 58.0%	15 30.0%	12 24.0%	29 58.0%	6 12.0%	11 22.0%	5 10.0%	1 2.0%	2 4.0%
	50代	56	39 69.6%	17 30.4%	18 32.1%	29 51.8%	4 7.1%	13 23.2%	9 16.1%	0 0.0%	1 1.8%
	60代	84	49 58.3%	28 33.3%	21 25.0%	48 57.1%	10 11.9%	18 21.4%	12 14.3%	2 2.4%	1 1.2%
	70歳以上	89	53 59.6%	32 36.0%	18 20.2%	53 59.6%	9 10.1%	23 25.8%	14 15.7%	2 2.2%	5 5.6%
対する性別役割 分担に 考え方	『賛成』	167	96 57.5%	53 31.7%	36 21.6%	93 55.7%	13 7.8%	43 25.7%	19 11.4%	4 2.4%	3 1.8%
	『反対』	594	378 63.6%	148 24.9%	159 26.8%	331 55.7%	60 10.1%	189 31.8%	83 14.0%	6 1.0%	7 1.2%
	わからない	98	51 52.0%	25 25.5%	27 27.6%	39 39.8%	8 8.2%	18 18.4%	12 12.2%	1 1.0%	10 10.2%

％：各属性内での回答割合が最も高い

(4) 男女が平等になるために重要なこと

【問 11】 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、どのようなことが重要であると思いますか。(複数回答)

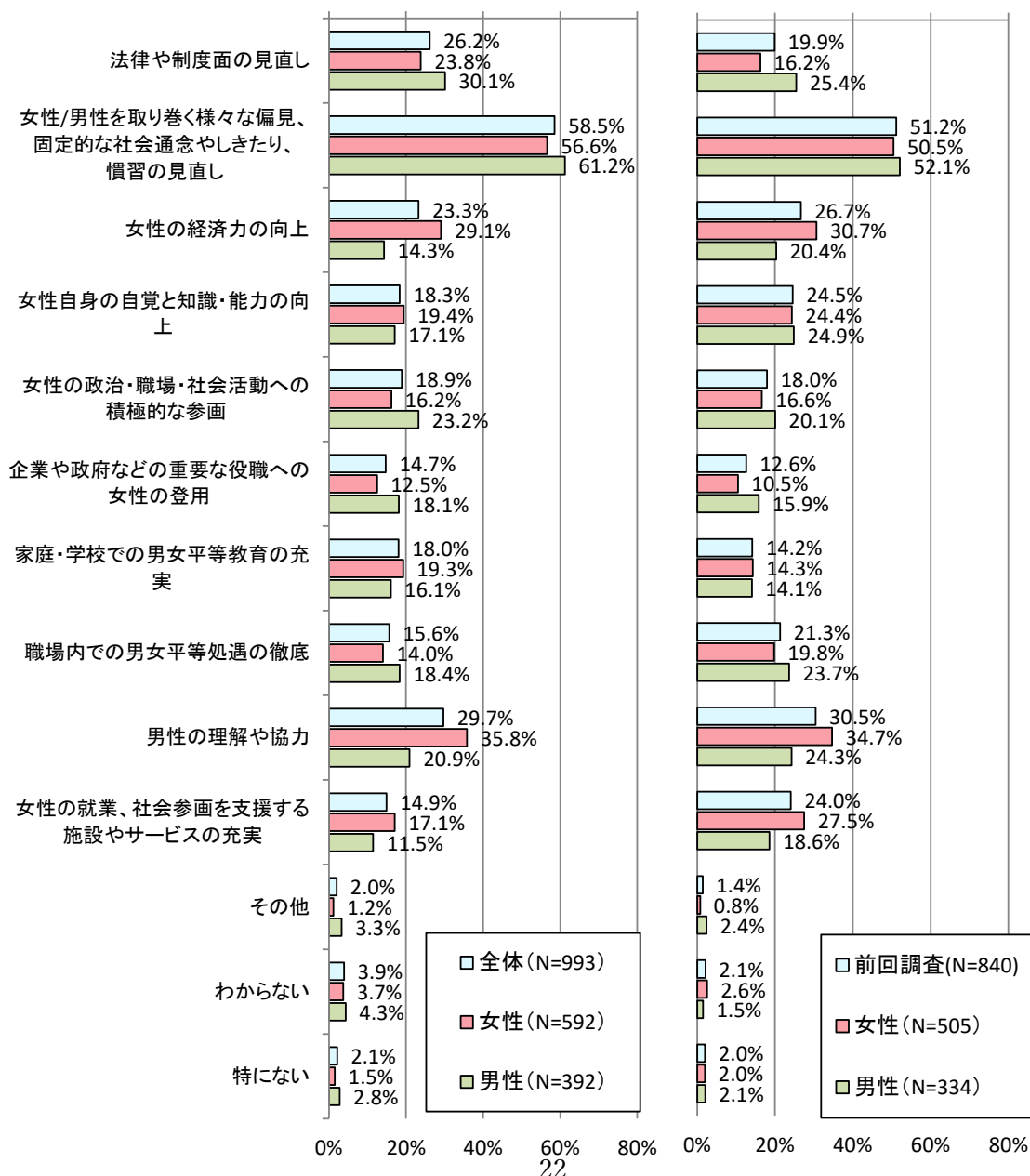
～女性や男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直しが必要～

男女が平等になるために重要なことについてみると、全体では「女性／男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し」(58.5%)の割合が最も高く、次いで「男性の理解や協力」(29.7%)、「法律や制度面の見直し」(26.2%)となっている。

性別にみると、「女性の経済力の向上」(女性：29.1%、男性：14.3%)、「男性の理解や協力」(女性：35.8%、男性：20.9%)で女性の割合が男性より高く、「法律や制度面の見直し」(女性：23.8%、男性：30.1%)、「企業や政府などの重要な役職への女性の登用」(女性：12.5%、男性：18.1%)で男性の割合が女性より高くなっている。

前回調査と比較すると、「法律や制度面の見直し」(今回調査：26.2%、前回調査：19.9%)、「女性／男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し」(今回調査：58.5%、前回調査：51.2%)の割合が増加傾向になっている。

男女が平等になるための重要なこと



男女が平等になるために重要なこと（性・年代別）（複数回答）

	サンプル数	男女が平等になるために重要なこと													
		法律や制度面の見直し	女性／男性を取り巻く様々な偏見、 固定的な社会通念やしきたり、慣習 の見直し	女性の経済力の向上	女性自身の自覚と知識・能力の向上	女性の政治・職場・社会活動への積極的な参画	企業や政府などの重要な役職への女性の登用	家庭・学校での男女平等教育の充実	職場内での男女平等処遇の徹底	男性の理解や協力	女性の就業、社会参画を支援する施設やサービスの充実	その他	わからない	特にない	
全体	993	260 26.2%	581 58.5%	231 23.3%	182 18.3%	188 18.9%	146 14.7%	179 18.0%	155 15.6%	295 29.7%	148 14.9%	20 2.0%	39 3.9%	21 2.1%	
性・年代別	女性計	592	141 23.8%	335 56.6%	172 29.1%	115 19.4%	96 16.2%	74 12.5%	114 19.3%	83 14.0%	212 35.8%	101 17.1%	7 1.2%	22 3.7%	9 1.5%
	10代・20代	57	10 17.5%	41 71.9%	13 22.8%	2 3.5%	6 10.5%	11 19.3%	13 22.8%	10 17.5%	19 33.3%	13 22.8%	1 1.8%	1 1.8%	1 1.8%
	30代	72	17 23.6%	49 68.1%	22 30.6%	10 13.9%	7 9.7%	6 8.3%	18 25.0%	10 13.9%	27 37.5%	15 20.8%	1 1.4%	1 1.4%	0 0.0%
	40代	110	28 25.5%	71 64.5%	39 35.5%	15 13.6%	15 13.6%	14 12.7%	19 17.3%	14 12.7%	44 40.0%	20 18.2%	4 3.6%	3 2.7%	2 1.8%
	50代	91	25 27.5%	58 63.7%	28 30.8%	18 19.8%	12 13.2%	8 8.8%	16 17.6%	16 17.6%	28 30.8%	15 16.5%	0 0.0%	5 5.5%	1 1.1%
	60代	120	29 24.2%	61 50.8%	33 27.5%	30 25.0%	25 20.8%	17 14.2%	21 17.5%	18 15.0%	42 35.0%	19 15.8%	1 0.8%	3 2.5%	2 1.7%
	70歳以上	142	32 22.5%	55 38.7%	37 26.1%	40 28.2%	31 21.8%	18 12.7%	27 19.0%	15 10.6%	52 36.6%	19 13.4%	0 0.0%	9 6.3%	3 2.1%
	男性計	391	118 30.2%	240 61.4%	56 14.3%	66 16.9%	90 23.0%	71 18.2%	63 16.1%	72 18.4%	82 21.0%	44 11.3%	13 3.3%	17 4.3%	11 2.8%
	10代・20代	33	8 24.2%	18 54.5%	7 21.2%	2 6.1%	3 9.1%	5 15.2%	4 12.1%	7 21.2%	8 24.2%	0 0.0%	1 3.0%	3 9.1%	2 6.1%
	30代	40	17 42.5%	27 67.5%	5 12.5%	6 15.0%	5 12.5%	6 15.0%	8 20.0%	9 22.5%	9 22.5%	4 10.0%	3 7.5%	0 0.0%	0 0.0%
	40代	57	15 26.3%	37 64.9%	7 12.3%	8 14.0%	9 15.8%	4 7.0%	13 22.8%	11 19.3%	16 28.1%	6 10.5%	1 1.8%	6 10.5%	1 1.8%
	50代	62	20 32.3%	47 75.8%	8 12.9%	10 16.1%	15 24.2%	13 21.0%	5 8.1%	9 14.5%	12 19.4%	8 12.9%	4 6.5%	2 3.2%	1 1.6%
	60代	91	26 28.6%	50 54.9%	15 16.5%	14 15.4%	18 19.8%	22 24.2%	18 19.8%	19 20.9%	16 17.6%	13 14.3%	4 4.4%	4 4.4%	2 2.2%
	70歳以上	108	32 29.6%	61 56.5%	14 13.0%	24 24.1%	40 37.0%	21 19.4%	15 13.9%	17 15.7%	21 19.4%	13 12.0%	0 0.0%	2 1.9%	5 4.6%

％：各属性内での回答割合が最も高い

3. 家庭生活について

(1) 性別役割分担に対する考え方

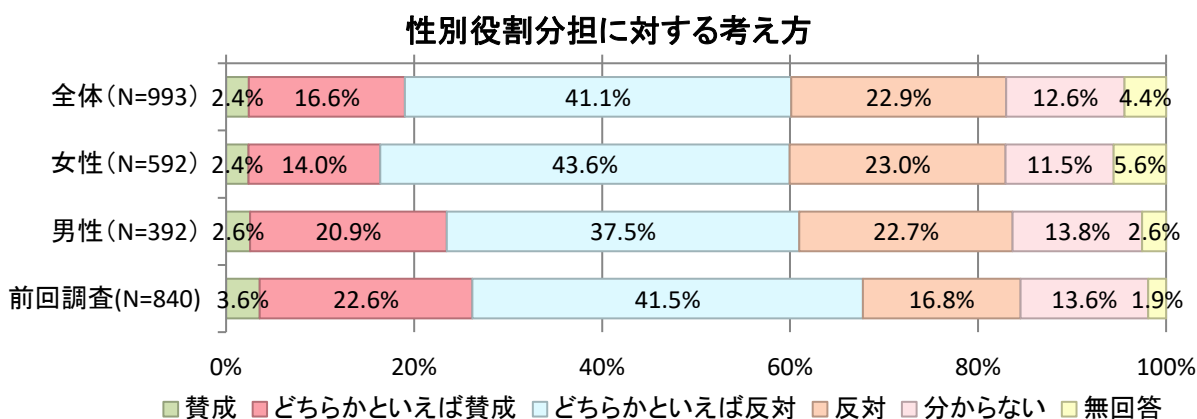
【問 12】 「男性は仕事、女性は家庭」というような、性別によって固定的に役割などを分けてしまう考えがありますが、あなたはどのように思いますか。

～『反対』が『賛成』を上回る～

「男性は仕事、女性は家庭」という性別役割分担に対する考え方についてみると、全体では『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が19.0%、『反対』（「反対」＋「どちらかといえば反対」）が64.0%となっており、『反対』が『賛成』を上回っている。

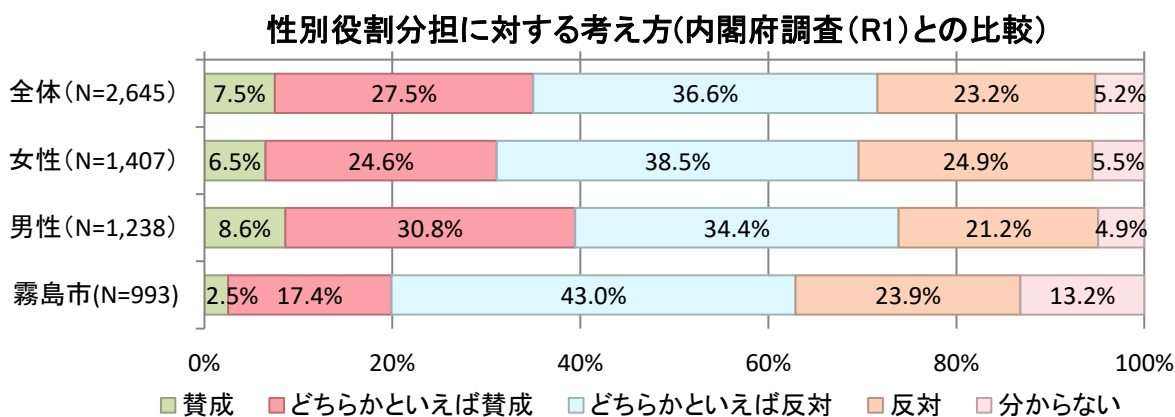
性別にみると、『賛成』（女性：16.4%、男性：23.5%）の割合は男性が女性より高く、『反対』（女性：66.6%、男性：60.2%）の割合は女性が男性より高くなっている。

前回調査と比較すると、『賛成』（今回調査：19.0%、前回調査：26.2%）の割合は増加傾向になっており、『反対』（今回調査：64.0%、前回調査：58.3%）の割合は減少傾向になっている。



≪内閣府調査比較≫

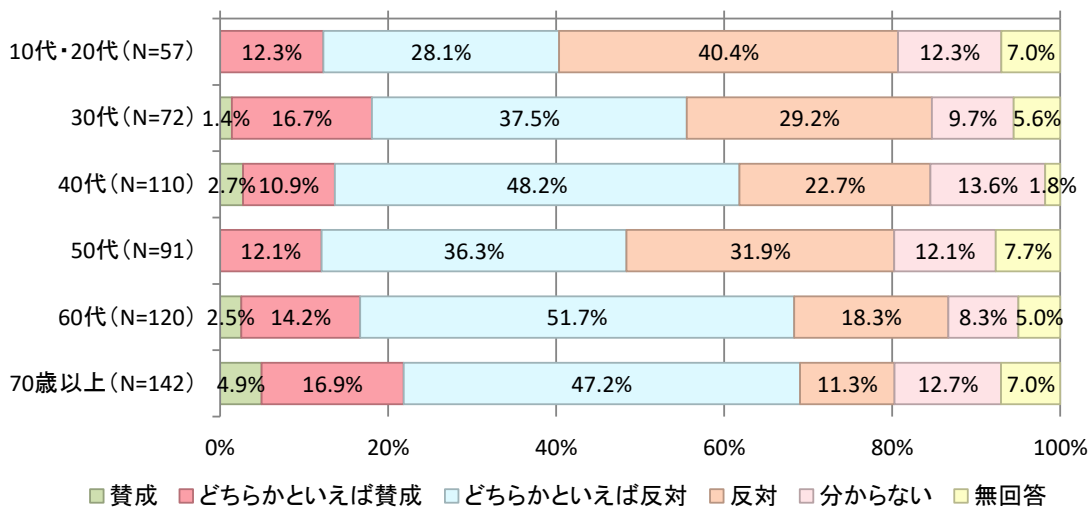
内閣府調査と比較すると、全体、男女ともに『賛成』の割合が内閣府より低く、『反対』と「わからない」の割合が内閣府より高くなっている。



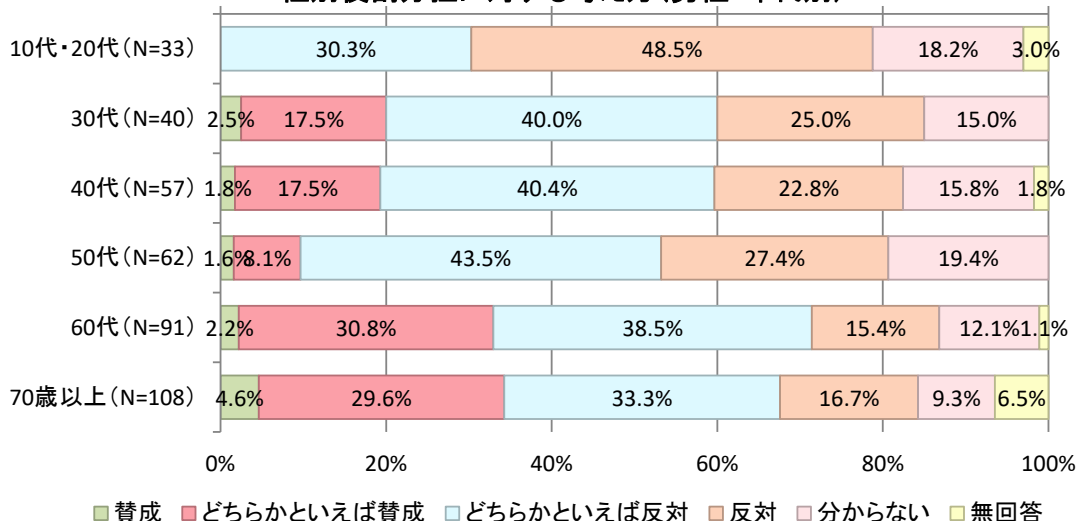
※内閣府調査に合わせて、無回答を除いて算出した

性・年代別にみると、『賛成』の割合は男女とも70歳以上が最も高くなっている。一方、『反対』の割合は男女ともに10代・20代が最も高くなっている。

性別役割分担に対する考え方(女性・年代別)



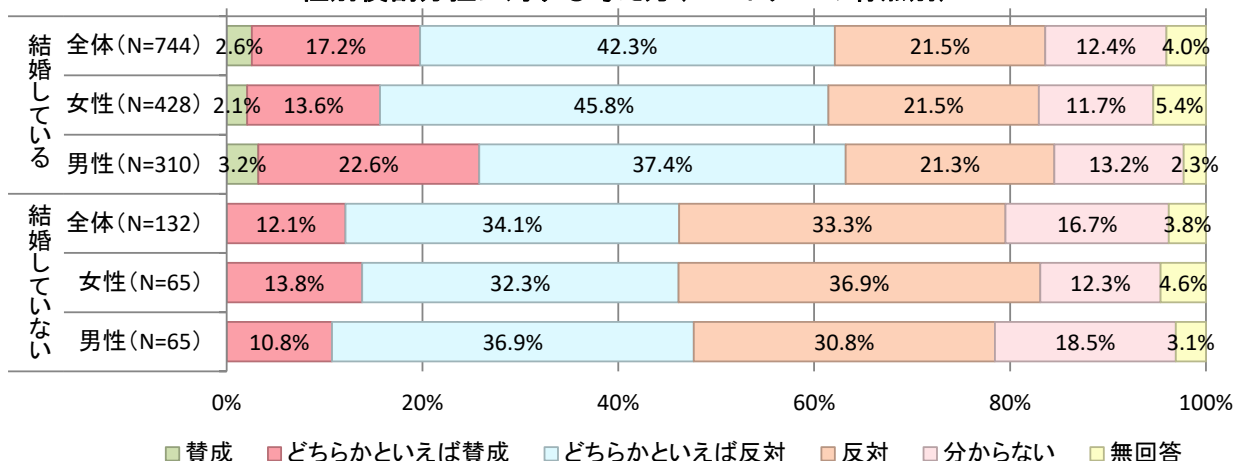
性別役割分担に対する考え方(男性・年代別)



パートナーの有無別にみると、『賛成』(結婚している: 19.8%、結婚していない: 12.1%)の割合は「結婚している」の方が高くなっている。

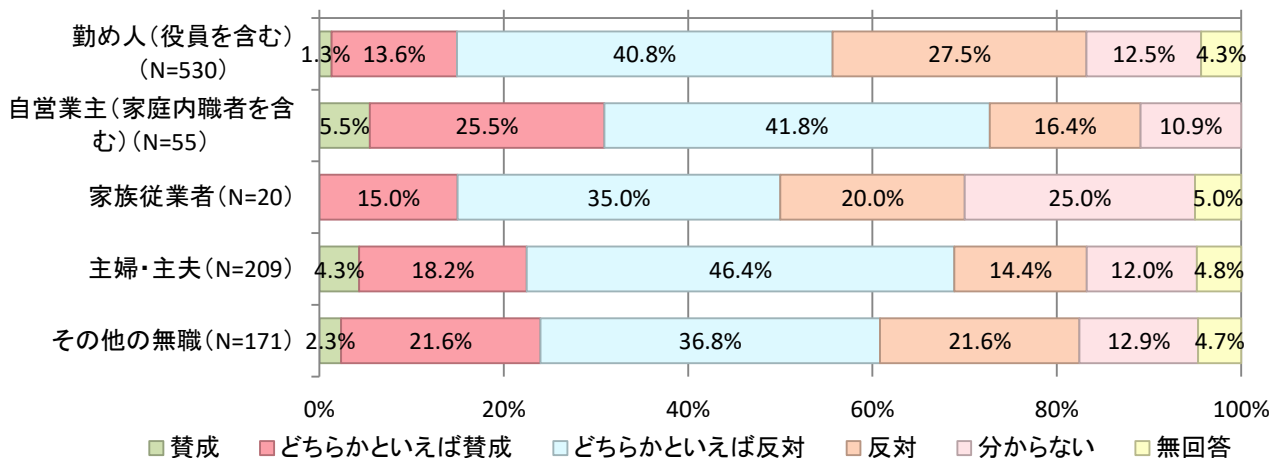
性別にみると『賛成』の割合は「結婚している」では男性の方が高く、「結婚していない」では女性の方が高くなっている。

性別役割分担に対する考え方(パートナーの有無別)



就労形態別にみると、『賛成』の割合は「自営業主（家庭内職者を含む）」（31.0%）が最も高く、次いで「その他の無職」（23.9%）、「主婦・主夫」（22.5%）となっている。『反対』の割合は「勤め人（役員を含む）」（68.3%）が最も高かった。

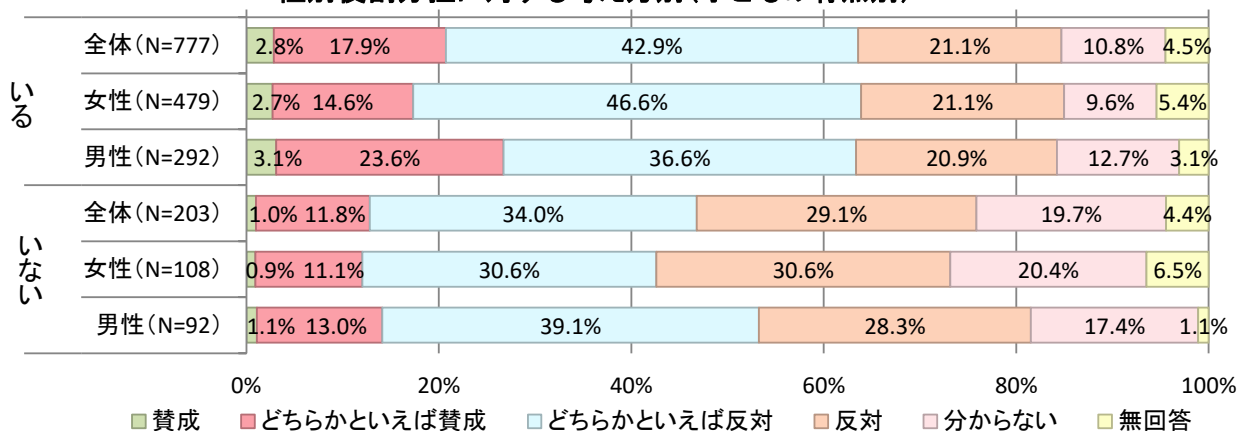
性別役割分担に対する考え方（就労形態別）



子どもの有無別にみると、全体では『賛成』（いる：20.7%、いない：12.8%）の割合が「いる」の方が高くなっている。

性別にみると、『賛成』の割合は「いる（男性：26.7%）」の割合が最も高くなっている。

性別役割分担に対する考え方別（子どもの有無別）



性別役割分担に対する考え方（性・年代別）

		サンプル数	性別役割分担に対する考え方					無回答
			賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	分からない	
全体		993	24	165	408	227	125	44
		100.0%	2.4%	16.6%	41.1%	22.9%	12.6%	4.4%
性・年代別	女性計	592	14	83	258	136	68	33
		100.0%	2.4%	14.0%	43.6%	23.0%	11.5%	5.6%
	10代・20代	57	0	7	16	23	7	4
		100.0%	0.0%	12.3%	28.1%	40.4%	12.3%	7.0%
	30代	72	1	12	27	21	7	4
		100.0%	1.4%	16.7%	37.5%	29.2%	9.7%	5.6%
	40代	110	3	12	53	25	15	2
		100.0%	2.7%	10.9%	48.2%	22.7%	13.6%	1.8%
	50代	91	0	11	33	29	11	7
		100.0%	0.0%	12.1%	36.3%	31.9%	12.1%	7.7%
	60代	120	3	17	62	22	10	6
		100.0%	2.5%	14.2%	51.7%	18.3%	8.3%	5.0%
	70歳以上	142	7	24	67	16	18	10
		100.0%	4.9%	16.9%	47.2%	11.3%	12.7%	7.0%
	男性計	391	10	82	147	88	54	10
		100.0%	2.6%	21.0%	37.6%	22.5%	13.8%	2.6%
	10代・20代	33	0	0	10	16	6	1
	100.0%	0.0%	0.0%	30.3%	48.5%	18.2%	3.0%	
30代	40	1	7	16	10	6	0	
	100.0%	2.5%	17.5%	40.0%	25.0%	15.0%	0.0%	
40代	57	1	10	23	13	9	1	
	100.0%	1.8%	17.5%	40.4%	22.8%	15.8%	1.8%	
50代	62	1	5	27	17	12	0	
	100.0%	1.6%	8.1%	43.5%	27.4%	19.4%	0.0%	
60代	91	2	28	35	14	11	1	
	100.0%	2.2%	30.8%	38.5%	15.4%	12.1%	1.1%	
70歳以上	108	5	32	36	18	10	7	
	100.0%	4.6%	29.6%	33.3%	16.7%	9.3%	6.5%	

____%：各属性内での回答割合が最も高い

(2) 性別役割分担に対する考え方に賛成する理由

【問13】 問12で「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか。
(複数回答)

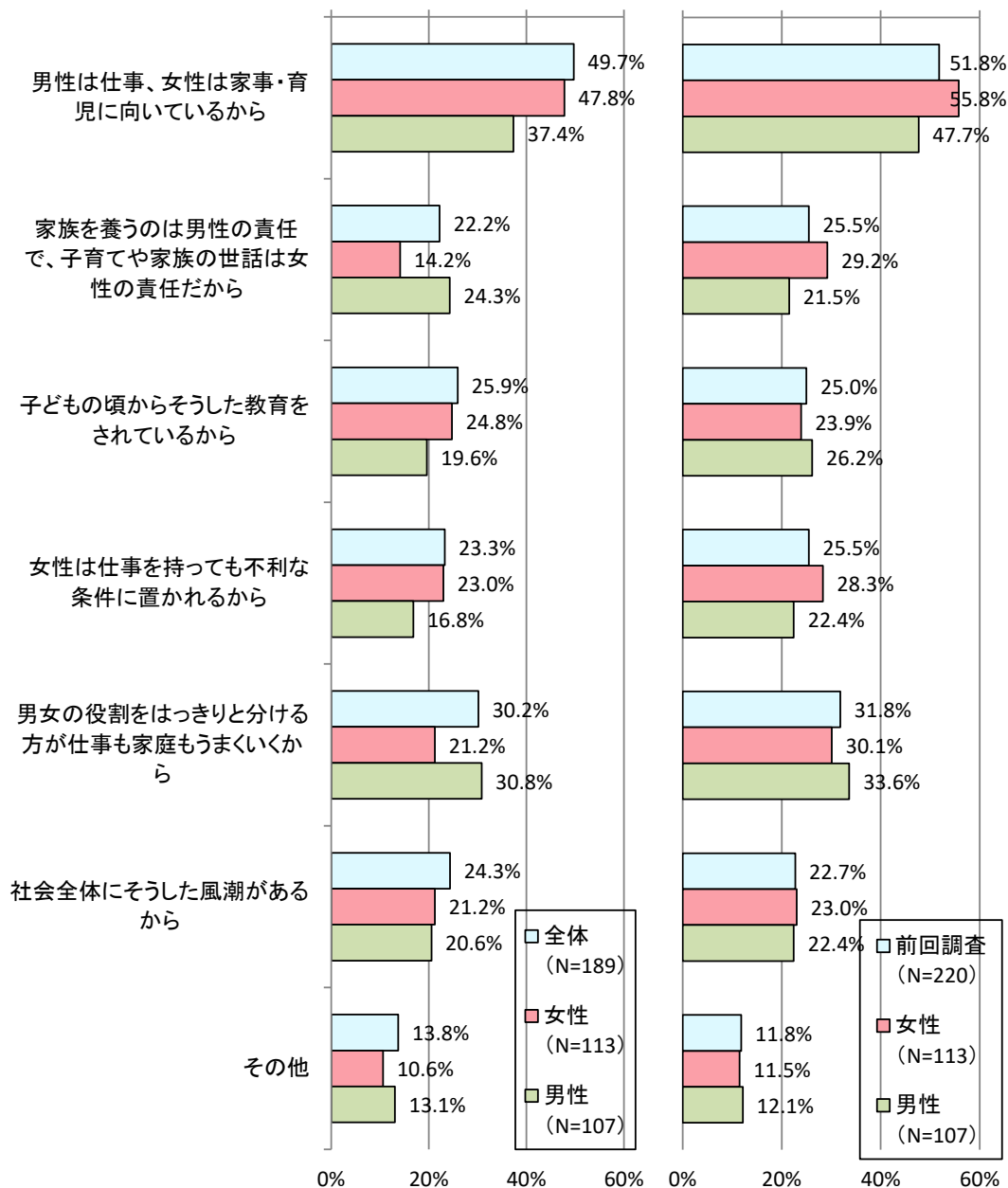
～男性は仕事、女性は家事・育児に向いていると回答した人は5割～

性別役割分担に対する考え方に賛成する理由をみると、全体では「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」(49.7%)の割合が最も高く、次いで「男女の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから」(30.2%)となっている。

性別にみると、「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」(女性：47.8%、男性37.4%)の割合が男性より女性の方が高くなっている。

前回調査と比較すると、女性の「家族を養うのは男性の責任で、子育てや家族の世話は女性の責任だから」(今回調査：14.2%、前回調査：29.2%)、「男女の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから」(今回調査：21.2%、前回調査：30.1%)の割合が減少している。

性別役割分担に対する考え方に賛成する理由



性別役割分担に対する考え方に賛成する理由（性・年代配偶者の有無別）（複数回答）

		サンプル数	性別役割分担に対する考え方に賛成する理由						その他
			男性は仕事、女性は家事・育児に向	て家族を養うのは女性の責任だから	て子どもの頃からそうした教育をされ	置かれるから	仕事も家庭もうまくいくから	社会全体にそうした風潮があるから	
全体		189	94 49.7%	42 22.2%	49 25.9%	44 23.3%	57 30.2%	46 24.3%	26 13.8%
性・年代別	女性計	97	54 55.7%	16 16.5%	28 28.9%	26 26.8%	24 24.7%	24 24.7%	12 12.4%
	10代・20代	7	5 71.4%	1 14.3%	0 0.0%	2 28.6%	2 28.6%	3 42.9%	0 0.0%
	30代	13	9 69.2%	2 15.4%	2 15.4%	3 23.1%	4 30.8%	3 23.1%	2 15.4%
	40代	15	7 46.7%	2 13.3%	3 20.0%	4 26.7%	7 46.7%	1 6.7%	3 20.0%
	50代	11	6 54.5%	2 18.2%	5 45.5%	7 63.6%	1 9.1%	2 18.2%	2 18.2%
	60代	20	11 55.0%	5 25.0%	5 25.0%	3 15.0%	4 20.0%	8 40.0%	3 15.0%
	70歳以上	31	16 51.6%	4 12.9%	13 41.9%	7 22.6%	6 19.4%	7 22.6%	2 6.5%
	男性計	92	40 43.5%	26 28.3%	21 22.8%	18 19.6%	33 35.9%	22 23.9%	14 15.2%
	10代・20代	0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	30代	8	1 12.5%	1 12.5%	2 25.0%	2 25.0%	2 25.0%	3 37.5%	4 50.0%
	40代	11	6 54.5%	1 9.1%	2 18.2%	1 9.1%	5 45.5%	2 18.2%	3 27.3%
	50代	6	3 50.0%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%
	60代	30	16 53.3%	8 26.7%	6 20.0%	7 23.3%	10 33.3%	6 20.0%	2 6.7%
	70歳以上	37	14 37.8%	16 43.2%	10 27.0%	7 18.9%	15 40.5%	9 24.3%	4 10.8%
性・配偶者の有無別	女性計	76	43 56.6%	13 17.1%	20 26.3%	20 26.3%	17 22.4%	19 25.0%	10 13.2%
	結婚している	67	36 53.7%	11 16.4%	17 25.4%	17 25.4%	15 22.4%	15 22.4%	10 14.9%
	結婚していない	9	7 77.8%	2 22.2%	3 33.3%	3 33.3%	2 22.2%	4 44.4%	0 0.0%
	男性計	87	38 43.7%	25 28.7%	20 23.0%	15 17.2%	31 35.6%	21 24.1%	14 16.1%
	結婚している	80	36 45.0%	23 28.8%	16 20.0%	10 12.5%	27 33.8%	20 25.0%	13 16.3%
	結婚していない	7	2 28.6%	2 28.6%	4 57.1%	5 71.4%	4 57.1%	1 14.3%	1 14.3%

％：各属性内での回答割合が最も高い

(3) 日常生活における役割分担についての理想と現実

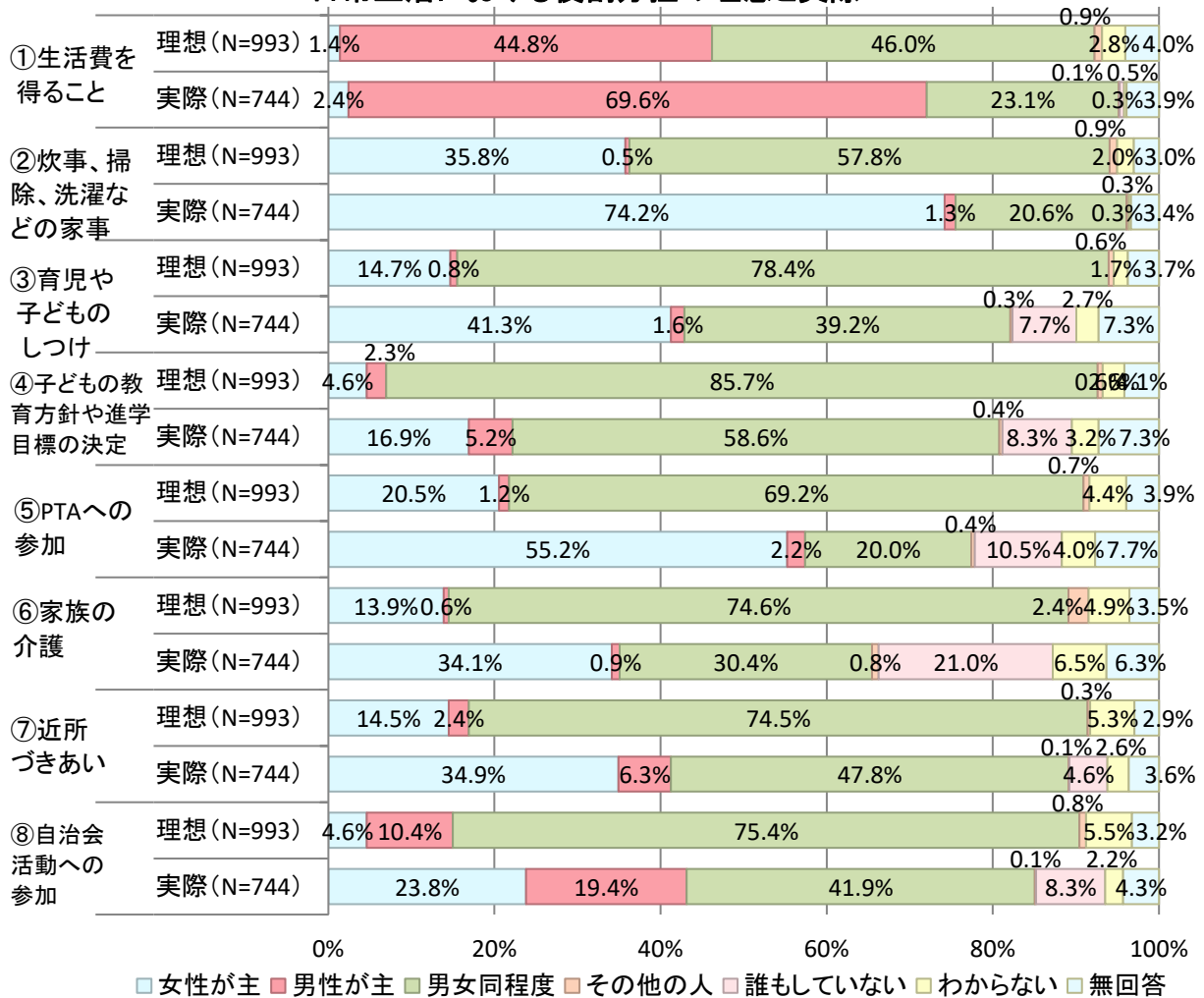
- 【問 14】 日常生活における役割分担についておたずねします。
- (1) ①～⑧について、あなたの理想とする分担をお答えください。
- (2) 結婚している方、結婚してはいないがパートナーと暮らしている方におたずねします。
- ①～⑧について、実際にあなたの家庭では主にだれが分担をしていますか。

～理想は「男女同程度」が多いが、実際に多くを担っているのは女性～

日常生活における役割分担についてみると、理想では「①生活費を得ること」と「②炊事、掃除、洗濯などの家事」を除いて「男女同程度」が6割を上回っている。

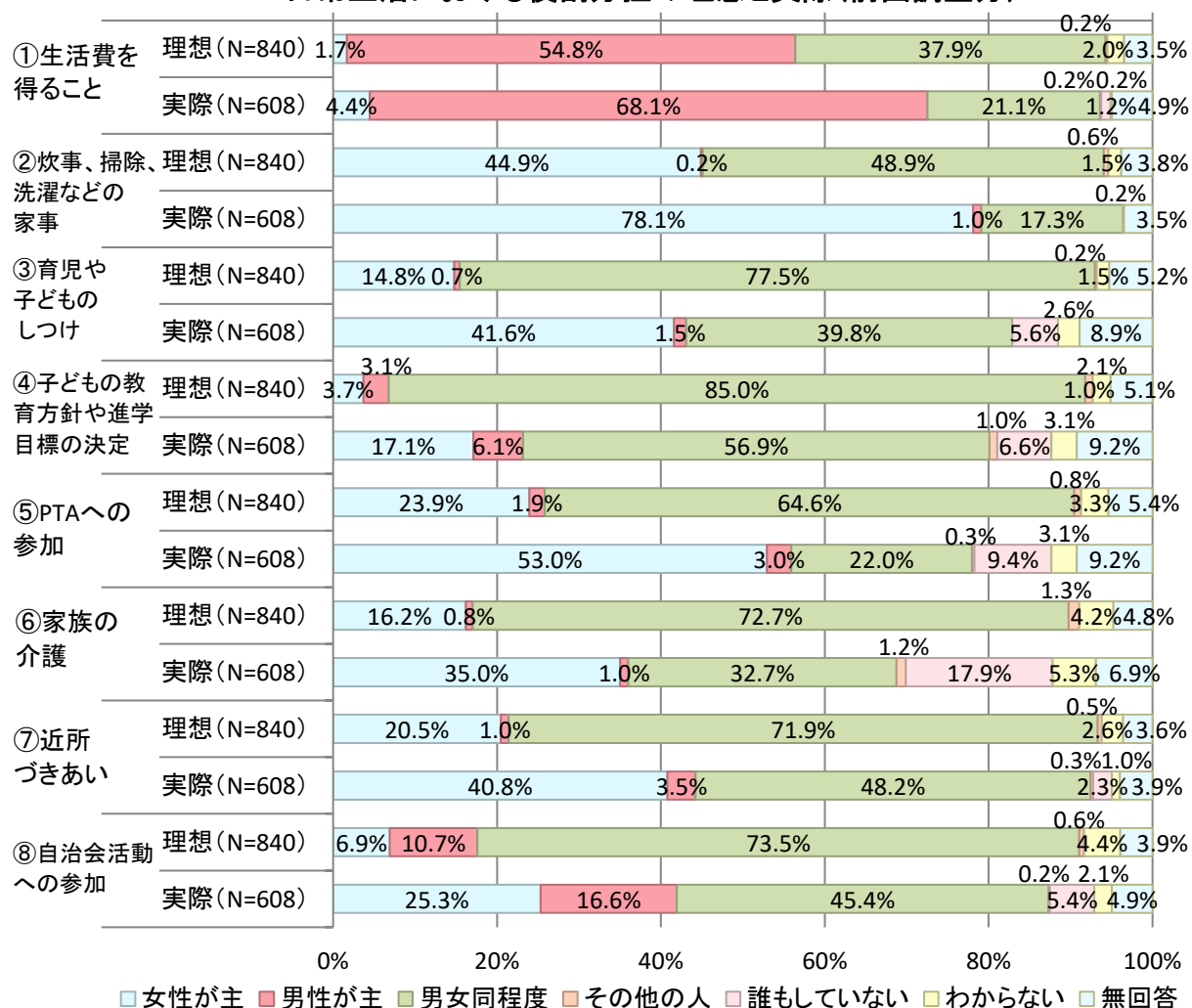
実際では「①生活費を得ること」の「男性が主」(69.6%)、「④子どもの教育方針や進学目標の決定」の「男女同程度」(58.6%)、「⑦近所づきあい」の「男女同程度」(47.8%)、「⑧自治会活動への参加」の「男女同程度」(41.9%)を除いて、「女性が主」の割合が高くなっている

日常生活における役割分担の理想と実際



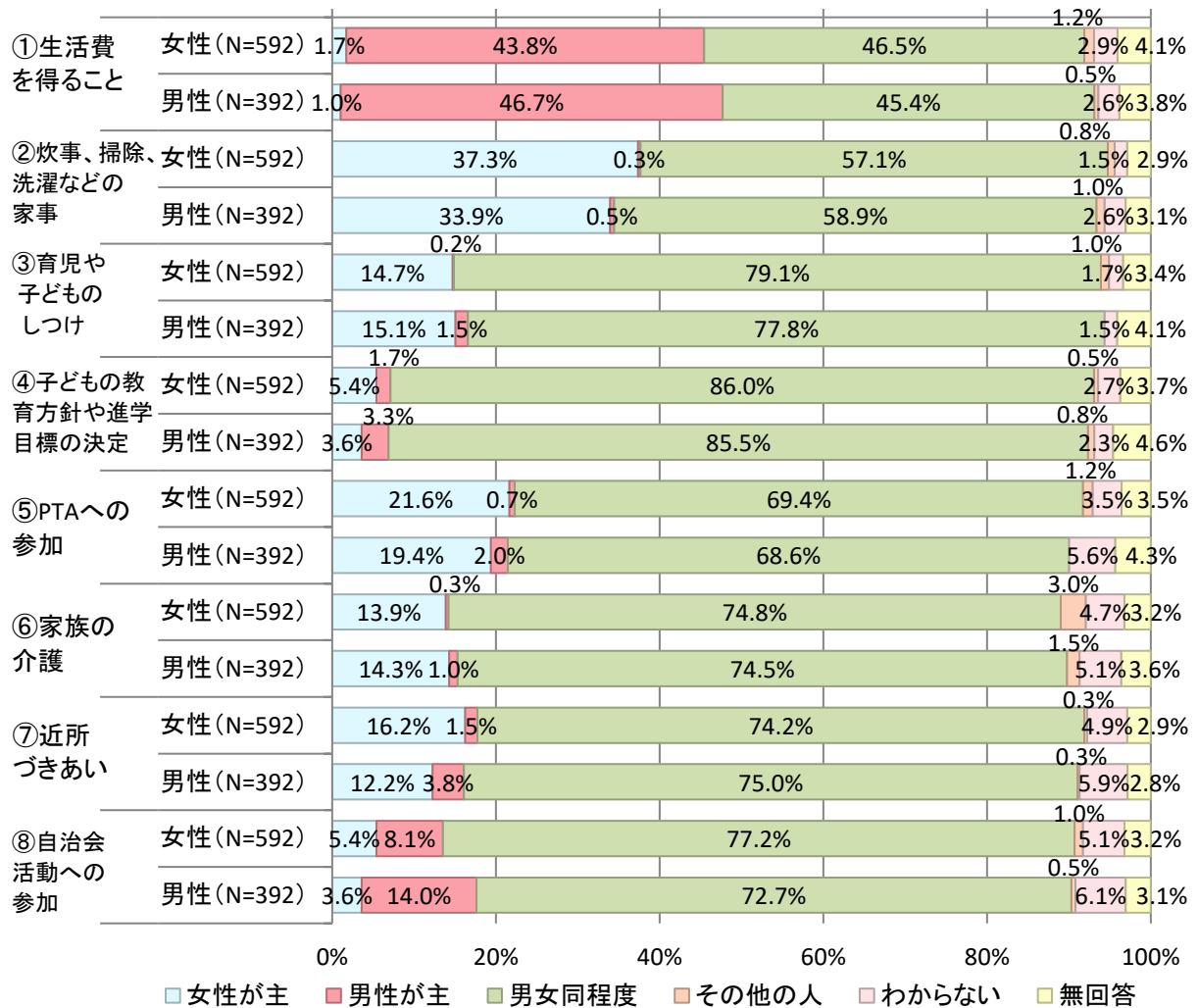
前回調査と比較すると、理想の「①生活費を得ること」の「男性が主」の割合が減少し、「夫婦同程度」の割合が増加傾向になっている。理想の「②炊事、掃除、洗濯などの家事」でも「女性が主」の割合が減少し、「夫婦同程度」の割合が増加傾向になっている。しかし、実際の「①生活費を得ること」の「夫婦同程度」(今回調査：23.1%、前回調査：21.1%)、「②炊事、掃除、洗濯などの家事」の「夫婦同程度」(今回調査：20.6%、前回調査：17.3%)の割合は大きな差異はなく、役割分担の変化があまりなかったことがわかる。

日常生活における役割分担の理想と実際(前回調査分)

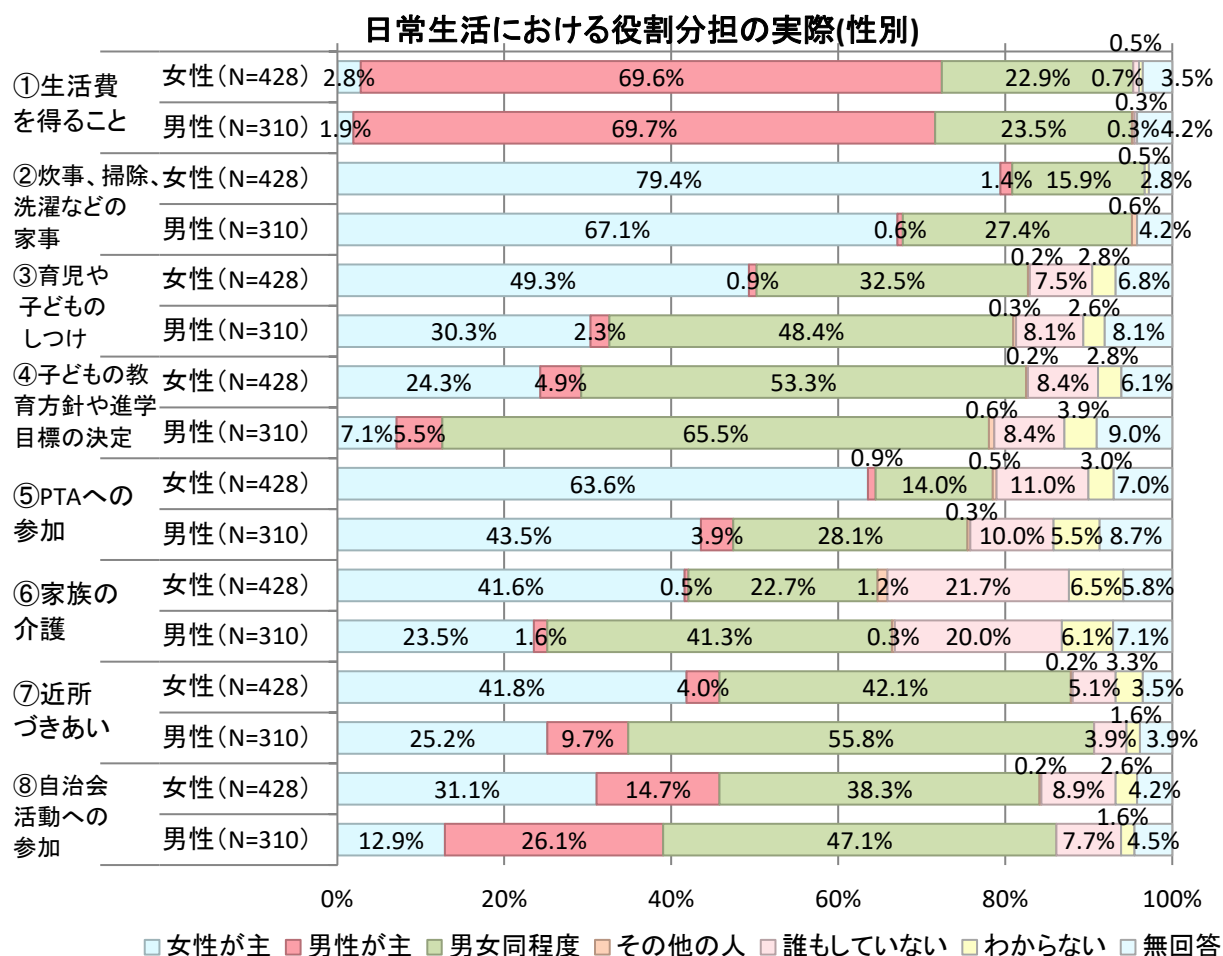


性別にみると、理想では、「①生活費を得ること」の「男性が主」を除いて「男女同程度」の割合が高くなっている。

日常生活における役割分担の理想(性別)



実際では、「①生活費を得ること」は「男性が主」、「②炊事、掃除、洗濯などの家事」、「⑤PTAの参加」は「女性が主」、「④子どもの教育方針や進学目標の決定」、「⑦近所づきあい」、「⑧自治会活動への参加」は「男女同程度」の割合が男女ともに最も高くなっている。一方、「③育児や子どものしつけ」、「⑥家族の介護」では女性は「女性が主」、男性は「男女同程度」と答えた割合が最も高く、男女間の差がみられる。



(4) 男性が家事、育児をすることについての考え

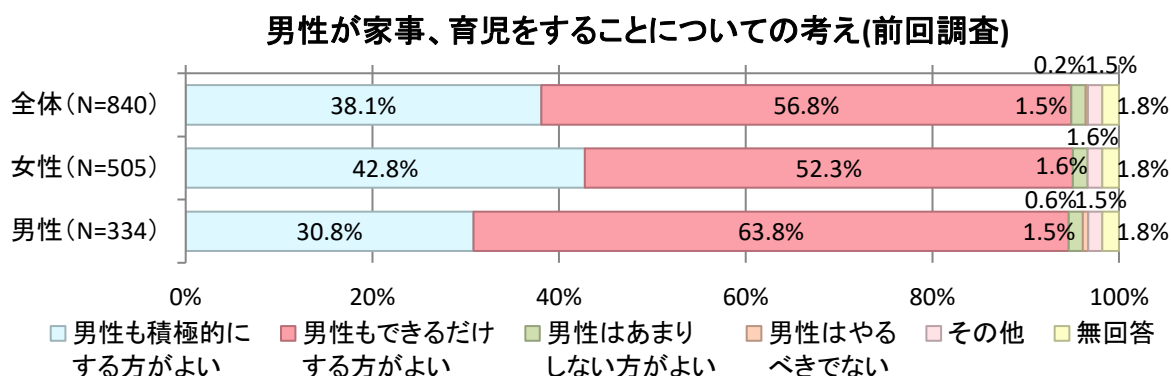
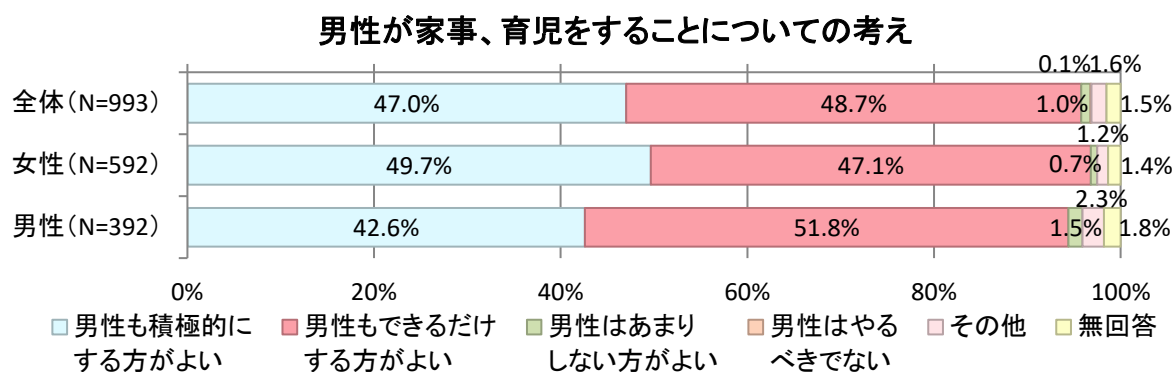
【問 15】 男性が家事、育児をすることについてどう思いますか。

～男女とも9割が肯定的～

男性が家事、育児をすることについての考えをみると、全体では「男性もできるだけする方がよい」(48.7%)の割合が最も高く、次いで「男性も積極的にする方がよい」(47.0%)となっている。

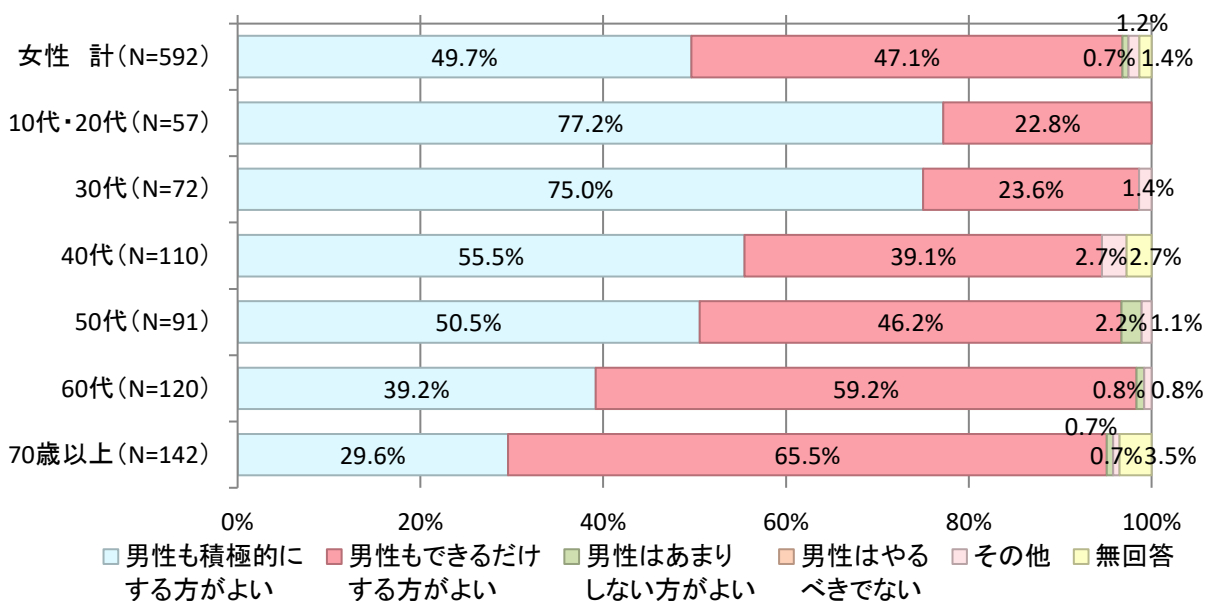
性別にみると、女性は男性と比較し「男性も積極的にする方がよい」(女性：49.7%、男性：42.6%)の割合が高く、「男性もできるだけする方がよい」(女性：47.1%、男性：51.8%)を合わせると、女性は96.8%、男性は94.4%となっている。

前回調査と比較すると、「男性も積極的にする方がよい」(今回調査 女性：49.7%、男性：42.6%、前回調査 女性：42.8%、男性：30.8%)の割合が男女ともに増加傾向になっている。

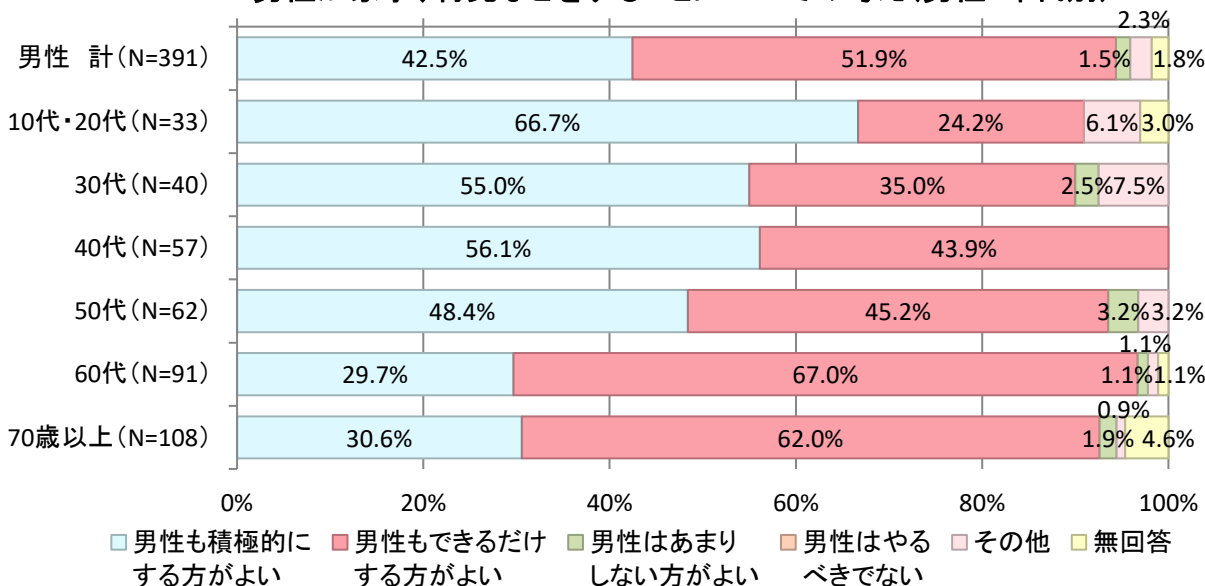


性・年代別にみると、女性は年代が上がるにつれ「男性も積極的にする方がよい」の割合が低くなっている。男性は「男性も積極的にする方がよい」の20代（66.7%）が最も高く、30代・60代の男性の「男性も積極的にする方がよい」の割合が、30代・60代の女性より低くなっている。

男性が家事、育児などをする事についての考え(女性・年代別)



男性が家事、育児などをする事についての考え(男性・年代別)



男性が家事、育児をすることについての考え（性・年代別）

		サンプル数	男性が家事、育児などをするについての考え					無回答
			男性も積極的にする方がよい	男性もできるだけする方がよい	男性はあまりしない方がよい	男性はやるべきでない	その他	
全体		993	467	484	10	1	16	15
		100.0%	47.0%	48.7%	1.0%	0.1%	1.6%	1.5%
性・年代別	女性 計	592	294	279	4	0	7	8
		100.0%	49.7%	47.1%	0.7%	0.0%	1.2%	1.4%
	10代・20代	57	44	13	0	0	0	0
		100.0%	77.2%	22.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30代	72	54	17	0	0	1	0
		100.0%	75.0%	23.6%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%
	40代	110	61	43	0	0	3	3
		100.0%	55.5%	39.1%	0.0%	0.0%	2.7%	2.7%
	50代	91	46	42	2	0	1	0
		100.0%	50.5%	46.2%	2.2%	0.0%	1.1%	0.0%
	60代	120	47	71	1	0	1	0
		100.0%	39.2%	59.2%	0.8%	0.0%	0.8%	0.0%
	70歳以上	142	42	93	1	0	1	5
		100.0%	29.6%	65.5%	0.7%	0.0%	0.7%	3.5%
	男性 計	391	166	203	6	0	9	7
		100.0%	42.5%	51.9%	1.5%	0.0%	2.3%	1.8%
10代・20代	33	22	8	0	0	2	1	
	100.0%	66.7%	24.2%	0.0%	0.0%	6.1%	3.0%	
30代	40	22	14	1	0	3	0	
	100.0%	55.0%	35.0%	2.5%	0.0%	7.5%	0.0%	
40代	57	32	25	0	0	0	0	
	100.0%	56.1%	43.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
50代	62	30	28	2	0	2	0	
	100.0%	48.4%	45.2%	3.2%	0.0%	3.2%	0.0%	
60代	91	27	61	1	0	1	1	
	100.0%	29.7%	67.0%	1.1%	0.0%	1.1%	1.1%	
70歳以上	108	33	67	2	0	1	5	
	100.0%	30.6%	62.0%	1.9%	0.0%	0.9%	4.6%	

_____% : 各属性内での回答割合が最も高い

男性が家事、育児をすることについての考え
(性・配偶者の有無・夫婦の就労形態・子の有無・性別役割分担に対する考え方別)

		サンプル数	男性が家事、育児などをするについての考え					無回答
			男性も積極的にする方がよい	男性もできるだけする方がよい	男性はあまりしない方がよい	男性はやるべきでない	その他	
全体		993	467	484	10	1	16	15
		100.0%	47.0%	48.7%	1.0%	0.1%	1.6%	1.5%
性・配偶者の有無別	女性 計	493	250	228	3	0	5	7
		100.0%	50.7%	46.2%	0.6%	0.0%	1.0%	1.4%
	結婚している	428	212	203	3	0	5	5
		100.0%	49.5%	47.4%	0.7%	0.0%	1.2%	1.2%
	結婚していない	65	38	25	0	0	0	2
		100.0%	58.5%	38.5%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%
	男性 計	375	161	195	5	0	9	5
	100.0%	42.9%	52.0%	1.3%	0.0%	2.4%	1.3%	
	結婚している	310	122	170	5	0	8	5
		100.0%	39.4%	54.8%	1.6%	0.0%	2.6%	1.6%
	結婚していない	65	39	25	0	0	1	0
		100.0%	60.0%	38.5%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%
就労形態の夫婦別	どちらも仕事をしている	401	212	172	3	0	8	6
		100.0%	52.9%	42.9%	0.7%	0.0%	2.0%	1.5%
	自分だけが仕事をしている	85	32	50	3	0	0	0
		100.0%	37.6%	58.8%	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	配偶者だけが仕事をしている	91	41	46	0	0	3	1
		100.0%	45.1%	50.5%	0.0%	0.0%	3.3%	1.1%
	どちらも仕事をしていない	154	49	98	2	0	2	3
		100.0%	31.8%	63.6%	1.3%	0.0%	1.3%	1.9%
子の有無別	いる	777	347	397	10	0	12	11
		100.0%	44.7%	51.1%	1.3%	0.0%	1.5%	1.4%
	いない	203	112	82	0	1	4	4
		100.0%	55.2%	40.4%	0.0%	0.5%	2.0%	2.0%
性別役割分担に対する考え方	『賛成』	189	48	129	5	0	4	3
		100.0%	25.4%	68.3%	2.6%	0.0%	2.1%	1.6%
	『反対』	635	351	268	2	0	7	7
	100.0%	55.3%	42.2%	0.3%	0.0%	1.1%	1.1%	
	わからない	125	48	65	3	1	5	3
		100.0%	38.4%	52.0%	2.4%	0.8%	4.0%	2.4%

%：各属性内での回答割合が最も高い

(5) 男性が家事、育児をすることについての考えの理由

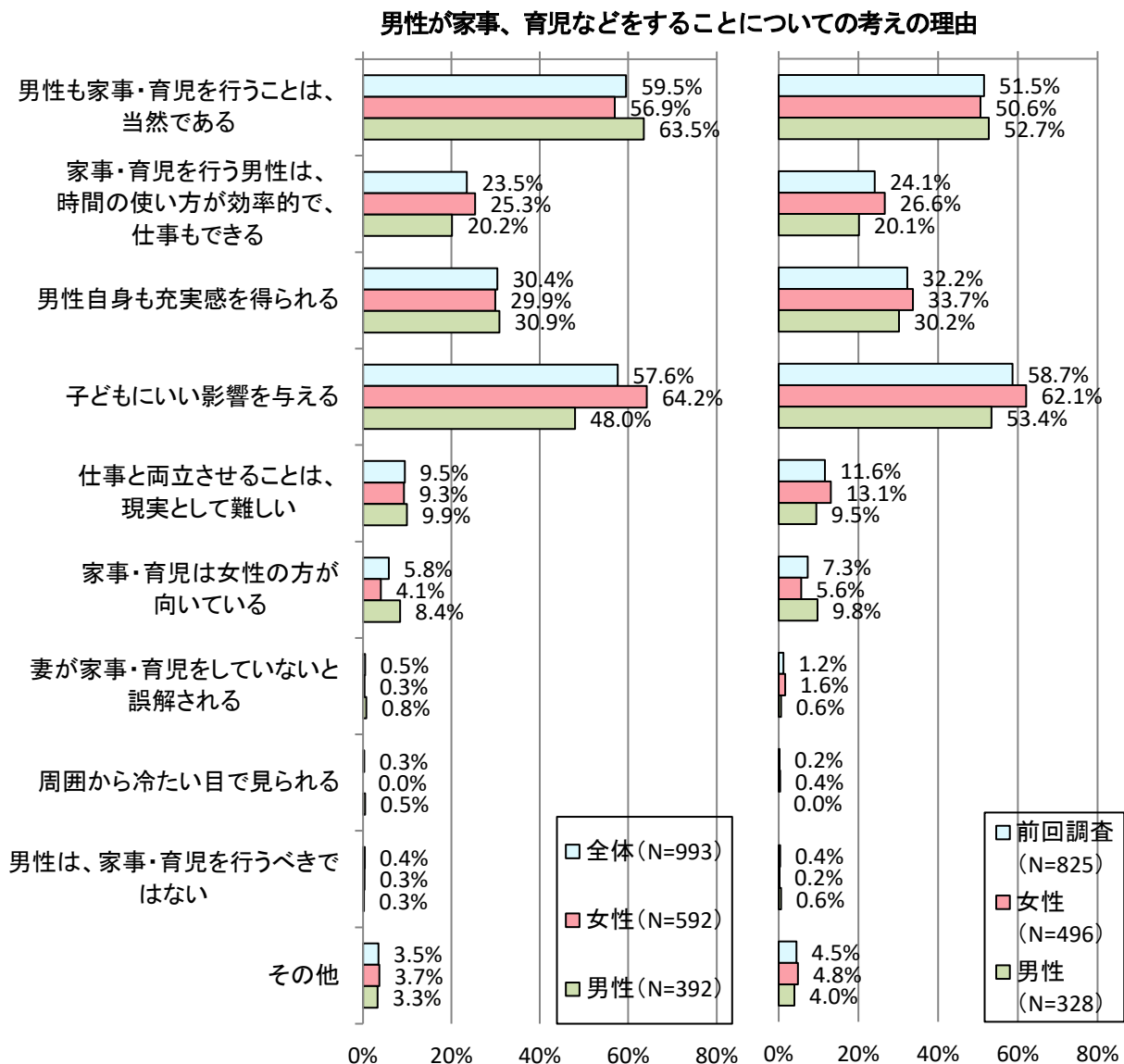
【問 16】 問 15 で選択した回答の理由は何ですか。(複数回答)

～「男性も家事・育児を行うことは、当然である」と考える人が多い～

男性が家事、育児をすることについての考えの理由をみると、全体では「男性も家事・育児を行うことは、当然である」(59.5%)の割合が最も高く、次いで「子どもにいい影響を与える」(57.6%)「男性自身も充実感を得られる」(30.4%)となっている。

性別にみると、「子どもにいい影響を与える」(女性:64.2%、男性:48.0%)で女性の割合が男性より高く、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」(女性:56.9%、男性:63.5%)で男性の割合が女性より高くなっている。

前回調査と比較すると、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」(今回調査:59.5%、前回調査:51.5%)の割合が増加しているが、その中でも男性(今回調査:63.5%、前回調査:52.7%)の割合が大幅に増加しており、男性自身の意識が高くなっていることがわかる。



男性が家事、育児などをする事についての考えの理由
(性・年代・性別役割分担に対する考え方別) (複数回答)

		男性が家事、育児などをする事についての考えの理由										
		サンプル数	男性も家事・育児を行うことは、当然である	率的で、家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的	男性自身も充実感を得られる	子どもにいい影響を与える	仕事と両立させることは、現実として難しい	家事・育児は女性の方が向いている	妻が家事・育児をしていないと誤解される	周囲から冷たい目で見られる	男性は、家事・育児を行うべきではない	その他
全体		993	591 59.5%	233 23.5%	302 30.4%	572 57.6%	94 9.5%	58 5.8%	5 0.5%	3 0.3%	4 0.4%	35 3.5%
性・年代別	女性計	592	337 56.9%	150 25.3%	177 29.9%	380 64.2%	55 9.3%	24 4.1%	2 0.3%	0 0.0%	2 0.3%	22 3.7%
	10代・20代	57	43 75.4%	10 17.5%	11 19.3%	35 61.4%	3 5.3%	1 1.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.5%
	30代	72	54 75.0%	19 26.4%	21 29.2%	60 83.3%	7 9.7%	1 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.4%
	40代	110	62 56.4%	22 20.0%	33 30.0%	69 62.7%	10 9.1%	4 3.6%	1 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	7 6.4%
	50代	91	49 53.8%	20 22.0%	23 25.3%	53 58.2%	14 15.4%	1 1.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 3.3%
	60代	120	64 53.3%	34 28.3%	42 35.0%	69 57.5%	11 9.2%	4 3.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 4.2%
	70歳以上	142	65 45.8%	45 31.7%	47 33.1%	94 66.2%	10 7.0%	13 9.2%	1 0.7%	0 0.0%	2 1.4%	4 2.8%
	男性計	391	248 63.4%	79 20.2%	120 30.7%	188 48.1%	39 10.0%	33 8.4%	3 0.8%	2 0.5%	1 0.3%	12 3.1%
	10代・20代	33	24 72.7%	6 18.2%	6 18.2%	14 42.4%	0 0.0%	1 3.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 6.1%
	30代	40	27 67.5%	11 27.5%	12 30.0%	24 60.0%	2 5.0%	1 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.5%	2 5.0%
	40代	57	43 75.4%	9 15.8%	15 26.3%	23 40.4%	8 14.0%	5 8.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.5%
	50代	62	40 64.5%	10 16.1%	19 30.6%	30 48.4%	5 8.1%	5 8.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 4.8%
	60代	91	53 58.2%	21 23.1%	34 37.4%	46 50.5%	13 14.3%	5 5.5%	2 2.2%	1 1.1%	0 0.0%	3 3.3%
	70歳以上	108	61 56.5%	22 20.4%	34 31.5%	51 47.2%	11 10.2%	16 14.8%	1 0.9%	1 0.9%	0 0.0%	0 0.0%

％：各属性内での回答割合が最も高い

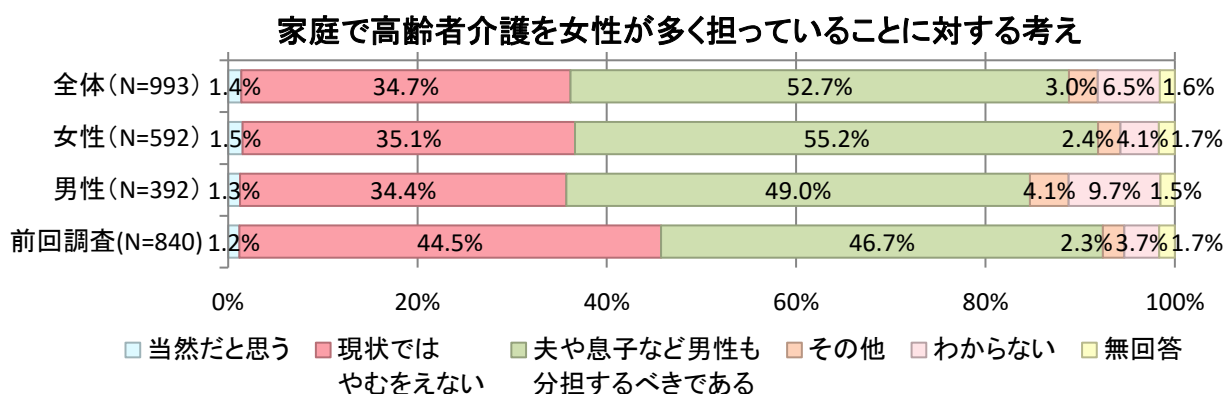
(6) 家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え

【問 17】 現在、家庭での高齢者介護は、多くの場合女性が担っていますが、これについてどう思いますか。

～男女ともに分担すべきと考える人が4割を超える～

家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考えについてみると、全体では「夫や息子など男性も分担すべきである」(52.7%)の割合が最も高く、次いで「現状ではやむをえない」(34.7%)となっている。

前回調査と比較すると、「現状ではやむをえない」(今回調査：34.7%、前回調査：44.5%)の割合が減少しており、「夫や息子など男性も分担すべきである」(今回調査：52.7%、前回調査：46.7%)の割合が増加傾向になっている。



家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え（性・年代別）

	サンプル数	家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え						
		当然だと思 う	現 状 で は や む を え な い	夫 や 息 子 な ど 男 性 も 分 担 す る べ き で あ る	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答	
全体	993	14	345	523	30	65	16	
	100.0%	1.4%	34.7%	52.7%	3.0%	6.5%	1.6%	
性・年代別	女性計	592	9	208	327	14	24	10
		100.0%	1.5%	35.1%	55.2%	2.4%	4.1%	1.7%
	10代・20代	57	0	7	45	1	4	0
		100.0%	0.0%	12.3%	78.9%	1.8%	7.0%	0.0%
	30代	72	1	21	42	2	6	0
		100.0%	1.4%	29.2%	58.3%	2.8%	8.3%	0.0%
	40代	110	0	33	67	3	5	2
		100.0%	0.0%	30.0%	60.9%	2.7%	4.5%	1.8%
	50代	91	0	36	50	2	1	2
		100.0%	0.0%	39.6%	54.9%	2.2%	1.1%	2.2%
	60代	120	1	52	59	3	3	2
		100.0%	0.8%	43.3%	49.2%	2.5%	2.5%	1.7%
	70歳以上	142	7	59	64	3	5	4
		100.0%	4.9%	41.5%	45.1%	2.1%	3.5%	2.8%
	男性計	391	5	135	192	16	38	5
		100.0%	1.3%	34.5%	49.1%	4.1%	9.7%	1.3%
	10代・20代	33	0	8	15	1	9	0
		100.0%	0.0%	24.2%	45.5%	3.0%	27.3%	0.0%
30代	40	1	13	17	3	6	0	
	100.0%	2.5%	32.5%	42.5%	7.5%	15.0%	0.0%	
40代	57	0	16	28	6	6	1	
	100.0%	0.0%	28.1%	49.1%	10.5%	10.5%	1.8%	
50代	62	0	33	22	2	5	0	
	100.0%	0.0%	53.2%	35.5%	3.2%	8.1%	0.0%	
60代	91	2	31	50	4	4	0	
	100.0%	2.2%	34.1%	54.9%	4.4%	4.4%	0.0%	
70歳以上	108	2	34	60	0	8	4	
	100.0%	1.9%	31.5%	55.6%	0.0%	7.4%	3.7%	

％：各属性内での回答割合が最も高い

(7) 「仕事」、「家庭生活」、「地域個人生活」の関わり方の希望と現実

【問 18】 生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についておたずねします。

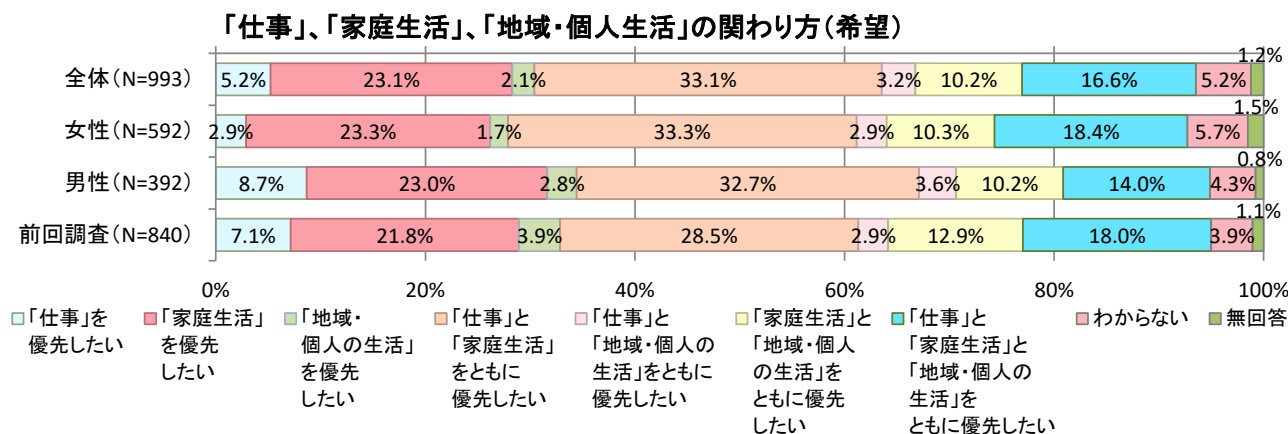
～仕事と家庭生活をともに優先したいが、現実では女性は「家庭生活」、男性は「仕事」を優先～

(1) あなたの希望に最も近いものはどれですか。

「仕事」、「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度の希望についてみると、全体では「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい（33.1%）の割合が最も高く、次いで「家庭生活」を優先したい（23.1%）、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（16.6%）となっている。

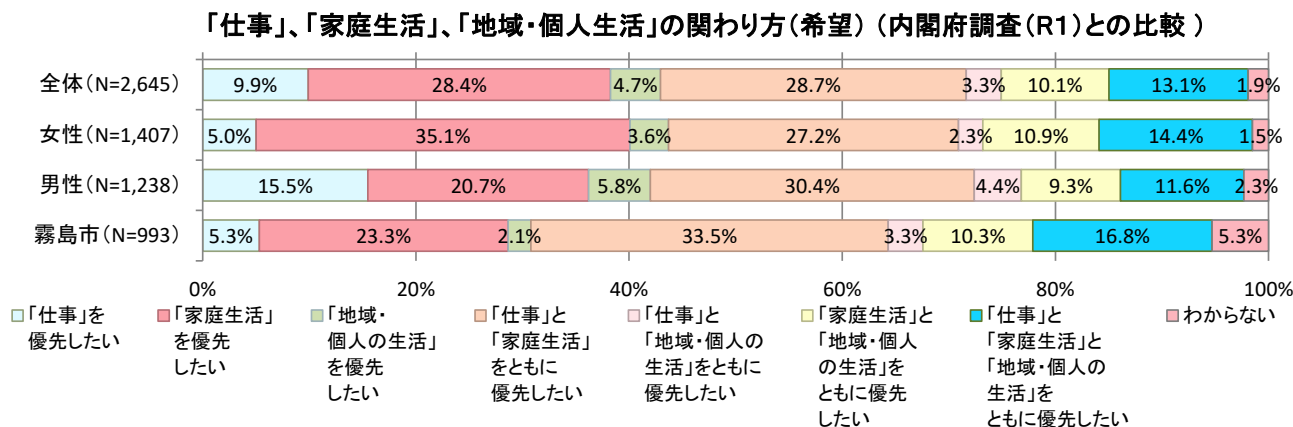
性別にみると、「仕事」を優先したい（女性：2.9%、男性：8.7%）で男性の割合が女性より高く、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（女性：18.4%、男性：14.0%）で女性の割合が男性より高くなっている。

前回調査と比較すると、「仕事」を優先したい（今回調査：5.2%、前回調査：7.1%）の割合が減少傾向にあり、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい（今回調査：33.1%、前回調査：28.5%）の割合が増加傾向になっている。



＜内閣府調査比較＞

内閣府調査と比較すると、「家庭生活」を優先したい（全体・霧島市：23.3%、内閣府：28.4%）で霧島市の割合が内閣府より低くなっており、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい（霧島市：33.5%、内閣府：28.7%）の割合は内閣府より高くなっている。



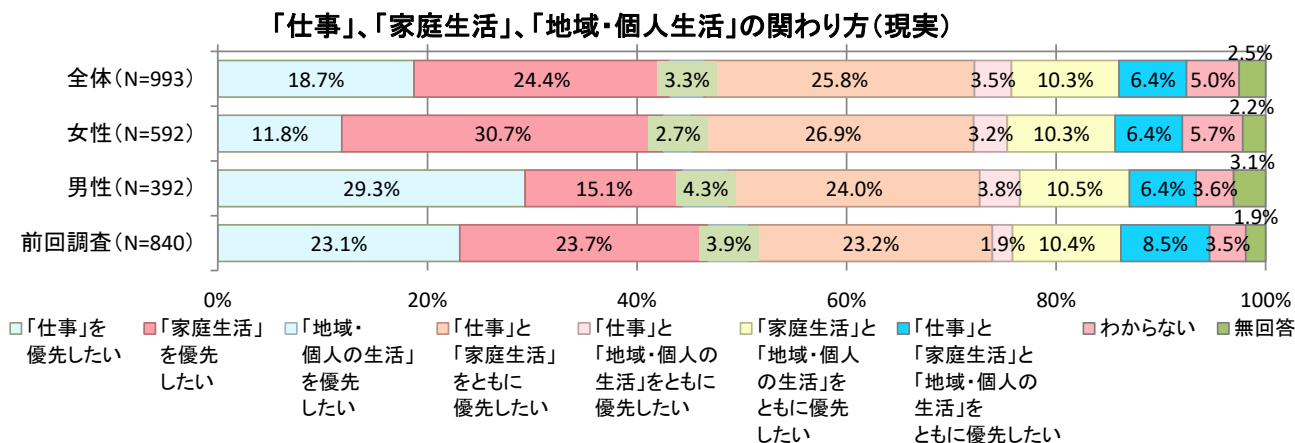
※内閣府調査に合わせて、無回答を除いて算出した

(2) それでは、あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の現実についてみると、全体では「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（25.8%）の割合が最も高く、次いで「家庭生活」を優先している（24.4%）、「仕事」を優先している（18.7%）となっている。

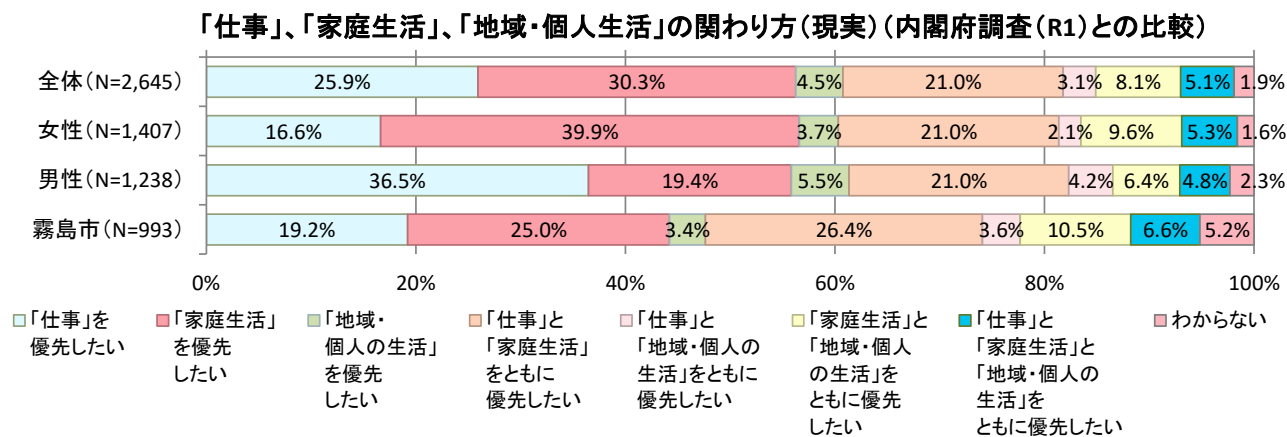
性別にみると「家庭生活」を優先している（女性：30.7%、男性：15.1%）で女性の割合が男性より高く、「仕事」を優先している（女性：11.8%、男性：29.3%）で男性の割合が女性より高くなっている。

前回調査と比較すると、「仕事」を優先しているの割合が減少しており、「仕事」と「家庭生活」をともに優先しているの割合が増加傾向になっている。



《内閣府調査比較》

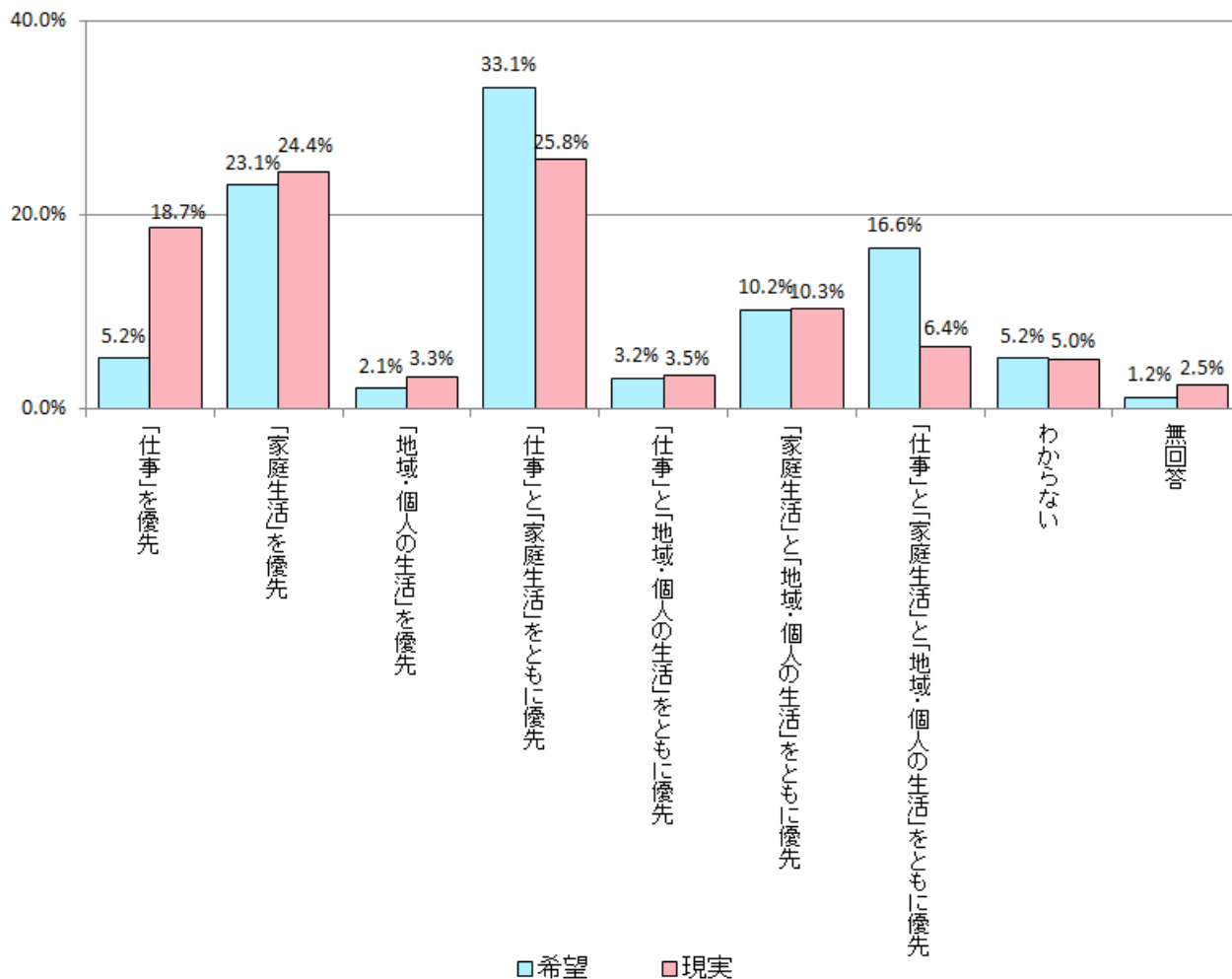
内閣府調査と比較すると、「家庭生活」を優先したい（霧島市：25.0%、内閣府：30.3%）で霧島市の割合が内閣府より低くなっており、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい（霧島市：26.4%、内閣府：21.0%）の割合は内閣府より高くなっている。



※内閣府調査に合わせて、無回答を除いて算出した

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の希望と現実についてみると、全体では「仕事」を優先の割合は希望（5.2%）に対して現実（18.7%）が高くなっており、一方、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先の割合は希望（16.6%）に対して現実（6.4%）は低くなっている。

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（希望と現実）
(N=993)



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（希望）（性・年代別）

	サンプル数	「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（希望）									
		「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」をともに優先したい	わからない	無回答	
全体	993	52	229	21	329	32	101	165	52	12	
	100.0%	5.2%	23.1%	2.1%	33.1%	3.2%	10.2%	16.6%	5.2%	1.2%	
性・年代別	女性 計	592	17	138	10	197	17	61	109	34	9
		100.0%	2.9%	23.3%	1.7%	33.3%	2.9%	10.3%	18.4%	5.7%	1.5%
	10代・20代	57	1	12	2	19	3	5	12	3	0
		100.0%	1.8%	21.1%	3.5%	33.3%	5.3%	8.8%	21.1%	5.3%	0.0%
	30代	72	1	22	0	29	1	3	11	5	0
		100.0%	1.4%	30.6%	0.0%	40.3%	1.4%	4.2%	15.3%	6.9%	0.0%
	40代	110	2	29	2	42	0	8	20	6	1
		100.0%	1.8%	26.4%	1.8%	38.2%	0.0%	7.3%	18.2%	5.5%	0.9%
	50代	91	3	25	0	36	2	6	15	2	2
		100.0%	3.3%	27.5%	0.0%	39.6%	2.2%	6.6%	16.5%	2.2%	2.2%
	60代	120	5	25	2	39	3	16	23	7	0
		100.0%	4.2%	20.8%	1.7%	32.5%	2.5%	13.3%	19.2%	5.8%	0.0%
	70歳以上	142	5	25	4	32	8	23	28	11	6
		100.0%	3.5%	17.6%	2.8%	22.5%	5.6%	16.2%	19.7%	7.7%	4.2%
	男性 計	391	34	90	11	127	14	40	55	17	3
		100.0%	8.7%	23.0%	2.8%	32.5%	3.6%	10.2%	14.1%	4.3%	0.8%
	10代・20代	33	3	8	2	10	0	4	2	4	0
		100.0%	9.1%	24.2%	6.1%	30.3%	0.0%	12.1%	6.1%	12.1%	0.0%
30代	40	3	10	0	16	1	5	4	1	0	
	100.0%	7.5%	25.0%	0.0%	40.0%	2.5%	12.5%	10.0%	2.5%	0.0%	
40代	57	2	18	0	18	1	4	11	3	0	
	100.0%	3.5%	31.6%	0.0%	31.6%	1.8%	7.0%	19.3%	5.3%	0.0%	
50代	62	4	15	1	27	2	1	10	2	0	
	100.0%	6.5%	24.2%	1.6%	43.5%	3.2%	1.6%	16.1%	3.2%	0.0%	
60代	91	12	18	3	27	3	10	15	3	0	
	100.0%	13.2%	19.8%	3.3%	29.7%	3.3%	11.0%	16.5%	3.3%	0.0%	
70歳以上	108	10	21	5	29	7	16	13	4	3	
	100.0%	9.3%	19.4%	4.6%	26.9%	6.5%	14.8%	12.0%	3.7%	2.8%	

％：各属性内での回答割合が最も高い

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（現実）（性・年代別）

	サンプル数	「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（現実）									
		「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」をともに優先している	わからない	無回答	
全体	993	186	242	33	256	35	102	64	50	25	
	100.0%	18.7%	24.4%	3.3%	25.8%	3.5%	10.3%	6.4%	5.0%	2.5%	
性・年代別	女性計	592	70	182	16	159	19	61	38	34	13
		100.0%	11.8%	30.7%	2.7%	26.9%	3.2%	10.3%	6.4%	5.7%	2.2%
	10代・20代	57	10	12	4	12	3	4	1	9	2
		100.0%	17.5%	21.1%	7.0%	21.1%	5.3%	7.0%	1.8%	15.8%	3.5%
	30代	72	6	37	0	17	1	1	5	3	2
		100.0%	8.3%	51.4%	0.0%	23.6%	1.4%	1.4%	6.9%	4.2%	2.8%
	40代	110	19	34	0	40	0	3	7	5	2
		100.0%	17.3%	30.9%	0.0%	36.4%	0.0%	2.7%	6.4%	4.5%	1.8%
	50代	91	18	21	1	33	6	4	5	3	0
		100.0%	19.8%	23.1%	1.1%	36.3%	6.6%	4.4%	5.5%	3.3%	0.0%
	60代	120	10	35	2	33	5	19	11	4	1
		100.0%	8.3%	29.2%	1.7%	27.5%	4.2%	15.8%	9.2%	3.3%	0.8%
	70歳以上	142	7	43	9	24	4	30	9	10	6
		100.0%	4.9%	30.3%	6.3%	16.9%	2.8%	21.1%	6.3%	7.0%	4.2%
	男性計	391	115	59	17	93	15	41	25	14	12
		100.0%	29.4%	15.1%	4.3%	23.8%	3.8%	10.5%	6.4%	3.6%	3.1%
	10代・20代	33	14	4	3	6	2	0	1	3	0
		100.0%	42.4%	12.1%	9.1%	18.2%	6.1%	0.0%	3.0%	9.1%	0.0%
	30代	40	8	4	0	16	2	4	2	2	2
		100.0%	20.0%	10.0%	0.0%	40.0%	5.0%	10.0%	5.0%	5.0%	5.0%
40代	57	26	5	0	19	2	1	2	1	1	
	100.0%	45.6%	8.8%	0.0%	33.3%	3.5%	1.8%	3.5%	1.8%	1.8%	
50代	62	31	5	0	19	0	1	3	2	1	
	100.0%	50.0%	8.1%	0.0%	30.6%	0.0%	1.6%	4.8%	3.2%	1.6%	
60代	91	23	16	5	17	6	13	6	2	3	
	100.0%	25.3%	17.6%	5.5%	18.7%	6.6%	14.3%	6.6%	2.2%	3.3%	
70歳以上	108	13	25	9	16	3	22	11	4	5	
	100.0%	12.0%	23.1%	8.3%	14.8%	2.8%	20.4%	10.2%	3.7%	4.6%	

％：各属性内での回答割合が最も高い

(8) 男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと

【問 19】 今後、男女がともに家事や子育て、介護、地域活動に積極的に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

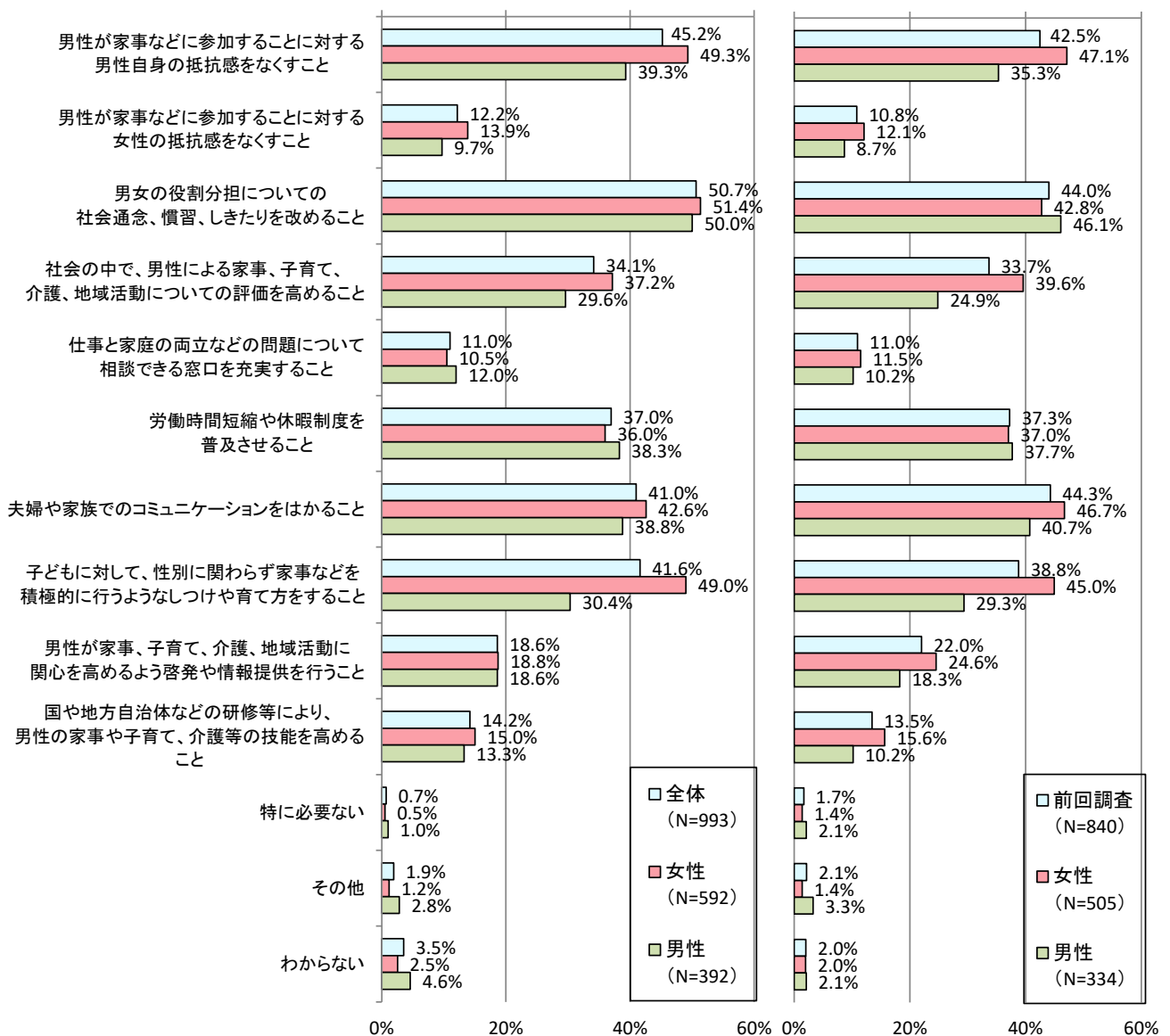
～男女の役割分担についての社会通念を改めることが必要～

男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なことについてみると、全体では「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(50.7%)の割合が最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(45.2%)、「子どもに対して、性別に関わらず家事などを積極的に行うようなしつけや育て方をすること」(41.6%)となっている。

性別にみると、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(女性：49.3%、男性：39.3%)、「子どもに対して、性別に関わらず家事などを積極的に行うようなしつけや育て方をすること」(女性：49.0%、男性：30.4%)で女性の割合が男性より大幅に高くなっている。

前回調査と比較すると、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(今回調査：50.7%、前回調査：44.0%)の割合が増加している。

男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと



男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと
(性・年代・性別役割分担に対する考え方別) (複数回答) 1/2

		男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと							
		サンプル数	す 男 性 が 家 事 自 身 な ど に 抵 抗 感 を な く す こ と に 対	す 男 性 が 女 性 の 抵 抗 感 を な く す こ と に 対	念 男 女 の 慣 習 、 割 分 担 に つ い て の 改 め る こ と	を て 社 会 の 中 で 、 地 域 活 動 に よ る こ と	て 仕 事 と 家 庭 の 両 立 な ど の 問 題 に つ い	る 労 働 時 間 短 縮 や 休 暇 制 度 を 普 及 さ せ	を 夫 婦 や 家 族 で の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン
全体		993	449 45.2%	121 12.2%	503 50.7%	339 34.1%	109 11.0%	367 37.0%	407 41.0%
性・年代別	女性計	592	292 49.3%	82 13.9%	304 51.4%	220 37.2%	62 10.5%	213 36.0%	252 42.6%
	10代・20代	57	33 57.9%	8 14.0%	30 52.6%	16 28.1%	4 7.0%	30 52.6%	22 38.6%
	30代	72	37 51.4%	6 8.3%	40 55.6%	36 50.0%	12 16.7%	37 51.4%	32 44.4%
	40代	110	48 43.6%	16 14.5%	65 59.1%	47 42.7%	12 10.9%	49 44.5%	48 43.6%
	50代	91	54 59.3%	13 14.3%	48 52.7%	31 34.1%	7 7.7%	28 30.8%	42 46.2%
	60代	120	60 50.0%	19 15.8%	65 54.2%	43 35.8%	11 9.2%	35 29.2%	47 39.2%
	70歳以上	142	60 42.3%	20 14.1%	56 39.4%	47 33.1%	16 11.3%	34 23.9%	61 43.0%
	男性計	391	154 39.4%	38 9.7%	196 50.1%	116 29.7%	47 12.0%	150 38.4%	151 38.6%
	10代・20代	33	11 33.3%	5 15.2%	13 39.4%	8 24.2%	6 18.2%	16 48.5%	6 18.2%
	30代	40	17 42.5%	2 5.0%	21 52.5%	7 17.5%	8 20.0%	22 55.0%	17 42.5%
	40代	57	27 47.4%	8 14.0%	28 49.1%	21 36.8%	8 14.0%	23 40.4%	25 43.9%
	50代	62	26 41.9%	3 4.8%	34 54.8%	22 35.5%	7 11.3%	31 50.0%	18 29.0%
	60代	91	33 36.3%	11 12.1%	47 51.6%	31 34.1%	5 5.5%	27 29.7%	36 39.6%
	70歳以上	108	40 37.0%	9 8.3%	53 49.1%	27 25.0%	13 12.0%	31 28.7%	49 45.4%
対する 分 担 に 性 別 役 割 に 考 え 方	『賛成』	189	73 38.6%	29 15.3%	80 42.3%	53 28.0%	23 12.2%	66 34.9%	76 40.2%
	『反対』	635	320 50.4%	74 11.7%	371 58.4%	236 37.2%	71 11.2%	259 40.8%	263 41.4%
	わからない	125	39 31.2%	13 10.4%	41 32.8%	36 28.8%	14 11.2%	33 26.4%	55 44.0%

％：各属性内での回答割合が最も高い

男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと
 (性・年代・性別役割分担に対する考え方別) (複数回答) 2/2

		サンプル数	男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと					わからない
			や子育ての方を積極的にすすめることを行う性別に関わらず	子どもに積極的に、性別に関わらず	子供を育て、子育て、介護、地域活動	男性が家事、子育て、介護、地域活動	技能や地方自治体などの研修等による	
全体		993	413 41.6%	185 18.6%	141 14.2%	7 0.7%	19 1.9%	35 3.5%
性・年代別	女性計	592	290 49.0%	111 18.8%	89 15.0%	3 0.5%	7 1.2%	15 2.5%
	10代・20代	57	30 52.6%	7 12.3%	8 14.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	30代	72	35 48.6%	17 23.6%	15 20.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.8%
	40代	110	60 54.5%	23 20.9%	21 19.1%	1 0.9%	6 5.5%	2 1.8%
	50代	91	45 49.5%	13 14.3%	9 9.9%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.2%
	60代	120	57 47.5%	21 17.5%	13 10.8%	2 1.7%	1 0.8%	3 2.5%
	70歳以上	142	63 44.4%	30 21.1%	23 16.2%	0 0.0%	0 0.0%	6 4.2%
	男性計	391	118 30.2%	73 18.7%	51 13.0%	4 1.0%	10 2.6%	18 4.6%
	10代・20代	33	2 6.1%	3 9.1%	1 3.0%	0 0.0%	1 3.0%	5 15.2%
	30代	40	16 40.0%	7 17.5%	5 12.5%	1 2.5%	2 5.0%	0 0.0%
	40代	57	14 24.6%	9 15.8%	12 21.1%	0 0.0%	1 1.8%	4 7.0%
	50代	62	18 29.0%	8 12.9%	4 6.5%	0 0.0%	2 3.2%	2 3.2%
	60代	91	27 29.7%	22 24.2%	13 14.3%	0 0.0%	3 3.3%	2 2.2%
	70歳以上	108	41 38.0%	24 22.2%	16 14.8%	3 2.8%	1 0.9%	5 4.6%
性別役割 分担に 対する 考え方	『賛成』	189	74 39.2%	45 23.8%	26 13.8%	2 1.1%	5 2.6%	6 3.2%
	『反対』	635	286 45.0%	121 19.1%	101 15.9%	1 0.2%	11 1.7%	11 1.7%
	わからない	125	34 27.2%	15 12.0%	13 10.4%	3 2.4%	2 1.6%	16 12.8%

4. 社会活動・地域活動について

(1) 地域における活動への参加状況

【問 20】 あなたは現在、次のような活動に参加していますか。(複数回答)

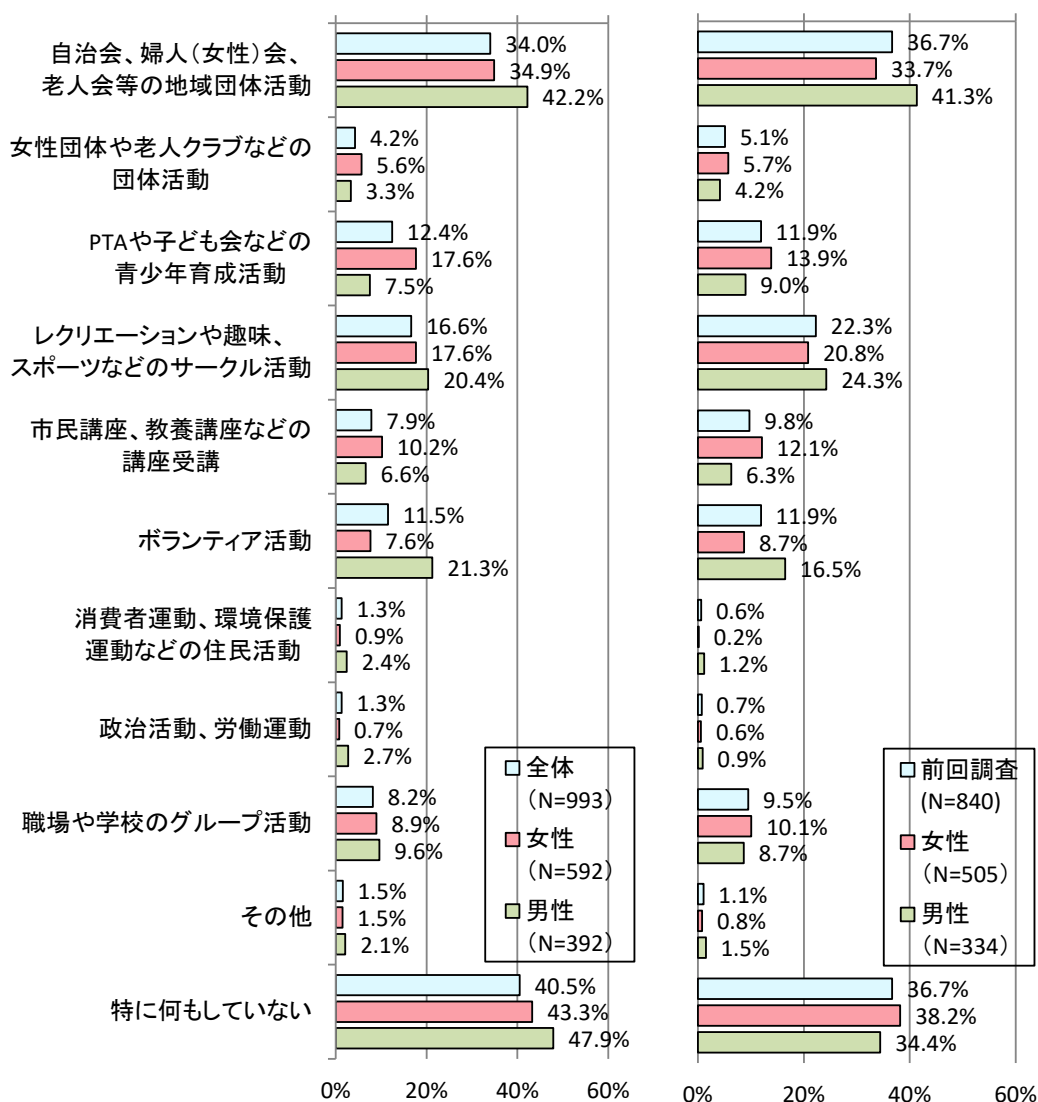
～特になにもしていない人が多い～

社会活動・地域活動への参加状況についてみると、全体では、「特になにもしていない」(40.5%)の割合が最も高く、次いで「自治会、婦人(女性)会、老人会等の地域団体活動」(34.0%)、「レクリエーションや趣味、スポーツなどのサークル活動」(16.6%)となっている。

性別にみると、「PTAや子ども会などの団体活動」(女性：17.6%、男性：7.5%)、「市民講座、教養講座などの講座受講」(女性：10.2%、男性：6.6%)で女性の割合が男性より高く、「自治会、婦人(女性)会、老人会等の地域団体活動」(女性：34.9%、男性：42.2%)「ボランティア活動」(女性：7.6%、男性：21.3%)で男性の割合が女性より高くなっている。

前回調査と比較すると、女性の「レクリエーションや趣味、スポーツなどのサークル活動」(今回調査：17.6%、前回調査：20.8%)の割合が減少傾向にあり、男性の「ボランティア活動」(今回調査：21.3%、前回調査：16.5%)、「特になにもしていない」(今回調査：47.9%、前回調査：34.4%)の割合が増加傾向になっている。

社会活動・地域活動への参加状況



社会活動・地域活動への参加状況（性・年代（複数回答））

	サンプル数	社会活動・地域活動への参加状況											
		地域（性自治会、婦人会、老人会等の団体活動）	女性などの団体活動	PTAや子ども会などの青少年育成活動	趣味、サークル、スポーツなどのレクリエーション活動	市民講座、教養講座などの講座、受講	ボランティア活動	消費者運動などの住民生活	政治活動、労働運動	職場や学校のグループ活動	その他	特に何もしていない	
全体	993	338 34.0%	42 4.2%	123 12.4%	165 16.6%	78 7.9%	114 11.5%	13 1.3%	13 1.3%	81 8.2%	15 1.5%	402 40.5%	
性・年代別	女性計	592	192 32.4%	31 5.2%	97 16.4%	97 16.4%	56 9.5%	42 7.1%	5 0.8%	4 0.7%	49 8.3%	8 1.4%	238 40.2%
	10代・20代	57	1 1.8%	0 0.0%	3 5.3%	4 7.0%	3 5.3%	3 5.3%	0 0.0%	0 0.0%	13 22.8%	1 1.8%	31 54.4%
	30代	72	14 19.4%	0 0.0%	29 40.3%	7 9.7%	3 4.2%	2 2.8%	0 0.0%	0 0.0%	5 6.9%	0 0.0%	33 45.8%
	40代	110	45 40.9%	2 1.8%	53 48.2%	10 9.1%	4 3.6%	1 0.9%	0 0.0%	1 0.9%	18 16.4%	1 0.9%	32 29.1%
	50代	91	32 35.2%	1 1.1%	12 13.2%	18 19.8%	10 11.0%	7 7.7%	2 2.2%	2 2.2%	8 8.8%	0 0.0%	34 37.4%
	60代	120	47 39.2%	5 4.2%	0 0.0%	19 15.8%	15 12.5%	8 6.7%	2 1.7%	0 0.0%	2 1.7%	2 1.7%	54 45.0%
	70歳以上	142	53 37.3%	23 16.2%	0 0.0%	39 27.5%	21 14.8%	21 14.8%	1 0.7%	1 0.7%	3 2.1%	4 2.8%	54 38.0%
	男性計	391	140 35.8%	11 2.8%	25 6.4%	68 17.4%	22 5.6%	70 17.9%	8 2.0%	9 2.3%	32 8.2%	7 1.8%	160 40.9%
	10代・20代	33	2 6.1%	0 0.0%	0 0.0%	3 9.1%	0 0.0%	3 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	4 12.1%	0 0.0%	24 72.7%
	30代	40	12 30.0%	1 2.5%	2 5.0%	6 15.0%	1 2.5%	3 7.5%	0 0.0%	0 0.0%	6 15.0%	0 0.0%	20 50.0%
	40代	57	17 29.8%	1 1.8%	12 21.1%	6 10.5%	1 1.8%	7 12.3%	0 0.0%	0 0.0%	7 12.3%	0 0.0%	26 45.6%
	50代	62	28 45.2%	0 0.0%	7 11.3%	8 12.9%	0 0.0%	8 12.9%	1 1.6%	1 1.6%	8 12.9%	0 0.0%	23 37.1%
	60代	91	41 45.1%	2 2.2%	1 1.1%	15 16.5%	6 6.6%	22 24.2%	2 2.2%	5 5.5%	7 7.7%	3 3.3%	27 29.7%
	70歳以上	108	40 37.0%	7 6.5%	3 2.8%	30 27.8%	14 13.0%	27 25.0%	5 4.6%	3 2.8%	0 0.0%	4 3.7%	40 37.0%

_____ %：各属性内での回答割合が最も高い

(2) 女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと

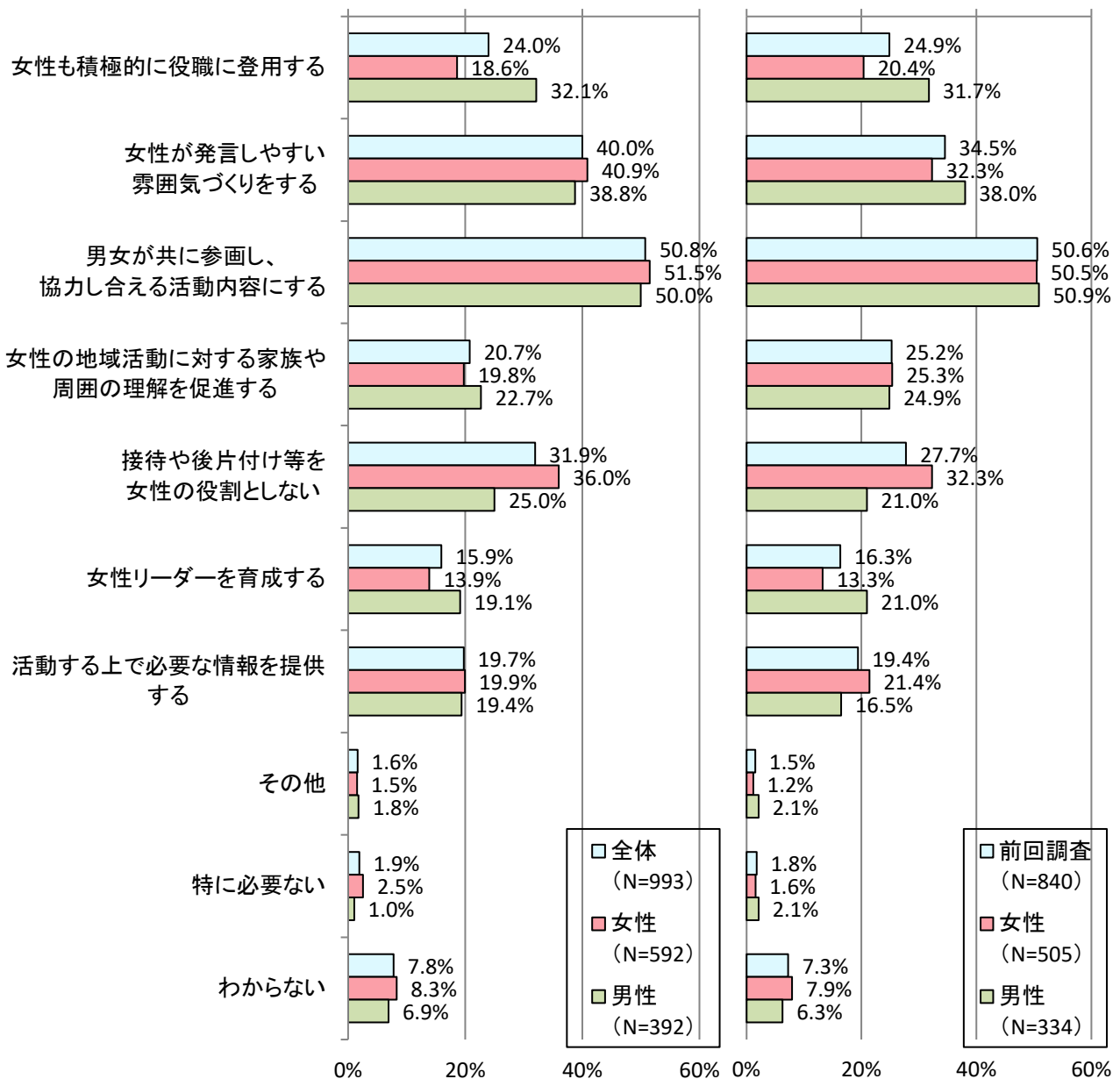
【問 21】 特に、女性が社会活動・地域活動に参画していく上ではどのようなことが必要だと思いますか。
(複数回答)

～「男女が共に参画し、協力し合える活動内容にする」が最も多い～

女性が社会活動・地域活動等に参画していく上で必要なことについてみると、全体では、「男女が共に参画し、協力し合える活動内容にする」(50.8%)の割合が最も高く、次いで、「女性が発言しやすい雰囲気づくりをする」(40.0%)「接待や後片付け等を女性の役割としない」(31.9%)となっている。

性別にみると、「接待や後片付け等を女性の役割としない」(女性：36.0%、男性：25.0%)で女性の割合が男性より高く、「女性も積極的に役職に登用する」(女性：18.6%、男性：32.1%)、「女性リーダーを育成する」(女性：13.9%、男性：19.1%)で男性の割合が女性より高くなっている。

女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと



女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと（性・年代別）（複数回答）

	サンプル数	女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと										
		女性も積極的に役職に登用する	女性が発言しやすい雰囲気づくりをする	男女が共に参画し、協力し合える活動内容にする	女性の地域活動に対する家族や周囲の理解を促進する	接待や後片付け等を女性の役割としない	女性リーダーを育成する	活動する上で必要な情報を提供する	その他	特に必要ない	わからない	
全体	993	238 24.0%	397 40.0%	504 50.8%	206 20.7%	317 31.9%	158 15.9%	196 19.7%	16 1.6%	19 1.9%	77 7.8%	
性・年代別	女性計	592	110 18.6%	242 40.9%	305 51.5%	117 19.8%	213 36.0%	82 13.9%	118 19.9%	9 1.5%	15 2.5%	49 8.3%
	10代・20代	57	17 29.8%	25 43.9%	29 50.9%	6 10.5%	18 31.6%	14 24.6%	4 7.0%	0 0.0%	2 3.5%	5 8.8%
	30代	72	17 23.6%	27 37.5%	33 45.8%	16 22.2%	32 44.4%	13 18.1%	11 15.3%	1 1.4%	0 0.0%	5 6.9%
	40代	110	21 19.1%	47 42.7%	60 54.5%	15 13.6%	46 41.8%	7 6.4%	19 17.3%	5 4.5%	4 3.6%	8 7.3%
	50代	91	14 15.4%	40 44.0%	41 45.1%	24 26.4%	34 37.4%	13 14.3%	19 20.9%	0 0.0%	0 0.0%	11 12.1%
	60代	120	19 15.8%	50 41.7%	70 58.3%	23 19.2%	43 35.8%	16 13.3%	35 29.2%	1 0.8%	3 2.5%	8 6.7%
	70歳以上	142	22 15.5%	53 37.3%	72 50.7%	33 23.2%	40 28.2%	19 13.4%	30 21.1%	2 1.4%	6 4.2%	12 8.5%
	男性計	391	126 32.2%	152 38.9%	196 50.1%	89 22.8%	98 25.1%	75 19.2%	76 19.4%	7 1.8%	4 1.0%	26 6.6%
	10代・20代	33	5 15.2%	12 36.4%	14 42.4%	3 9.1%	4 12.1%	4 12.1%	6 18.2%	1 3.0%	1 3.0%	4 12.1%
	30代	40	9 22.5%	13 32.5%	18 45.0%	8 20.0%	15 37.5%	6 15.0%	10 25.0%	3 7.5%	1 2.5%	2 5.0%
	40代	57	11 19.3%	30 52.6%	28 49.1%	13 22.8%	15 26.3%	10 17.5%	8 14.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 8.8%
	50代	62	21 33.9%	21 33.9%	32 51.6%	10 16.1%	19 30.6%	19 30.6%	10 16.1%	1 1.6%	1 1.6%	4 6.5%
	60代	91	38 41.8%	34 37.4%	53 58.2%	21 23.1%	25 27.5%	16 17.6%	19 20.9%	1 1.1%	0 0.0%	3 3.3%
	70歳以上	108	42 38.9%	42 38.9%	51 47.2%	34 31.5%	20 18.5%	20 18.5%	23 21.3%	1 0.9%	1 0.9%	8 7.4%

％：各属性内での回答割合が最も高い

5. 就労について

(1) (結婚、子育てを踏まえた) 女性の仕事に対する考え

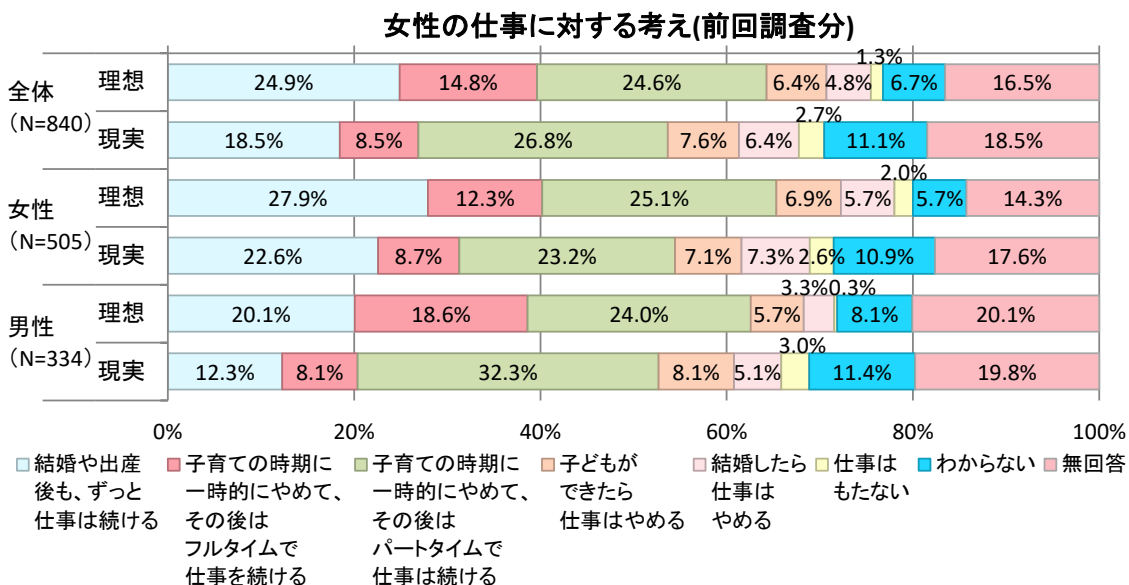
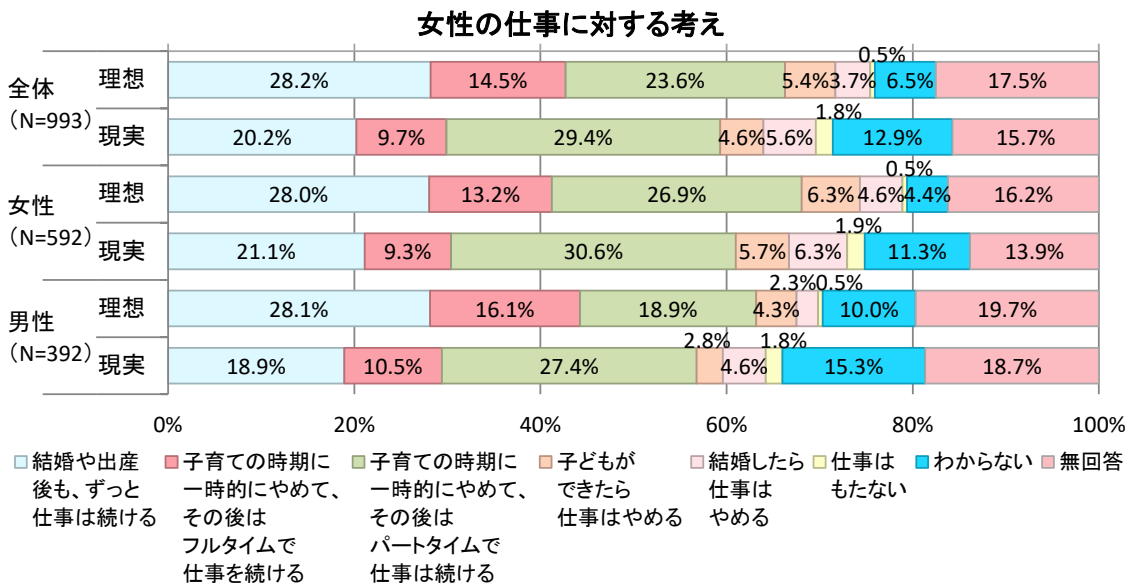
【問 22】 女性の仕事についてのあなたの考えをおたずねします。「①自分の理想」と「②現実」において、あなたの考えに一番近いものは1～7のうちどれですか。なお、男性の場合はあなたのパートナー（いない場合はいると仮定して）についてお答えください。

～女性が仕事を続けることは6割が肯定的～

女性の仕事に対する考えについてみると、理想の全体では、「結婚や出産後も、ずっと仕事は続ける」(28.2%)の割合が最も高く、次いで「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事は続ける」(23.6%)、となっている。

現実の全体では「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事は続ける」(29.4%)、「結婚や出産後も、ずっと仕事は続ける」(20.2%)となっている。

前回調査と比較すると、現実の「子どもができたら仕事はやめる」(今回調査：4.6%、前回調査：7.6%)の割合が減少傾向にあり、「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」(今回調査：29.4%、前回調査：26.8%)の割合が増加傾向になっている。



女性の仕事に対する考え (①自分の理想) (性・年代別)

		サンプル数	①女性の仕事に対する考え(自分の理想)							無回答
			結婚や出産後も、ずっと仕事は続ける	子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける	子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける	子どもができたらずら仕事はやめる	結婚したら仕事はやめる	仕事はもたない	わからない	
全体		993	280	144	234	54	37	5	65	174
		100.0%	28.2%	14.5%	23.6%	5.4%	3.7%	0.5%	6.5%	17.5%
性・年代別	女性 計	592	166	78	159	37	27	3	26	96
		100.0%	28.0%	13.2%	26.9%	6.3%	4.6%	0.5%	4.4%	16.2%
	10代・20代	57	20	3	20	1	1	1	4	7
		100.0%	35.1%	5.3%	35.1%	1.8%	1.8%	1.8%	7.0%	12.3%
	30代	72	26	12	16	4	1	0	3	10
		100.0%	36.1%	16.7%	22.2%	5.6%	1.4%	0.0%	4.2%	13.9%
	40代	110	35	19	34	6	5	1	4	6
		100.0%	31.8%	17.3%	30.9%	5.5%	4.5%	0.9%	3.6%	5.5%
	50代	91	27	14	24	7	3	1	2	13
		100.0%	29.7%	15.4%	26.4%	7.7%	3.3%	1.1%	2.2%	14.3%
	60代	120	31	10	39	11	7	0	5	17
		100.0%	25.8%	8.3%	32.5%	9.2%	5.8%	0.0%	4.2%	14.2%
	70歳以上	142	27	20	26	8	10	0	8	43
		100.0%	19.0%	14.1%	18.3%	5.6%	7.0%	0.0%	5.6%	30.3%
	男性 計	391	110	63	74	17	9	2	39	77
		100.0%	28.1%	16.1%	18.9%	4.3%	2.3%	0.5%	10.0%	19.7%
10代・20代	33	17	4	4	0	0	0	7	1	
	100.0%	51.5%	12.1%	12.1%	0.0%	0.0%	0.0%	21.2%	3.0%	
30代	40	14	7	7	1	0	1	3	7	
	100.0%	35.0%	17.5%	17.5%	2.5%	0.0%	2.5%	7.5%	17.5%	
40代	57	21	8	9	3	1	0	9	6	
	100.0%	36.8%	14.0%	15.8%	5.3%	1.8%	0.0%	15.8%	10.5%	
50代	62	20	10	17	2	1	0	6	6	
	100.0%	32.3%	16.1%	27.4%	3.2%	1.6%	0.0%	9.7%	9.7%	
60代	91	14	17	22	5	4	0	3	26	
	100.0%	15.4%	18.7%	24.2%	5.5%	4.4%	0.0%	3.3%	28.6%	
70歳以上	108	24	17	15	6	3	1	11	31	
	100.0%	22.2%	15.7%	13.9%	5.6%	2.8%	0.9%	10.2%	28.7%	

_____% : 各属性内での回答割合が最も高い

女性の仕事に対する考え (②現実) (性・年代別)

		②女性の仕事に対する考え(現実)								
		結婚や出産後も、ずっと仕事は続ける	子育てのフルタイムで一時的にやめて、その後フルタイムで仕事を続ける	子育てのパートタイムで一時的にやめて、その後パートタイムで仕事を続ける	子どもができたらずら仕事はやめる	結婚したら仕事はやめる	仕事はもたない	わからない	無回答	
全体	サンプル数	993	201	96	292	46	56	18	128	156
		100.0%	20.2%	9.7%	29.4%	4.6%	5.6%	1.8%	12.9%	15.7%
性・年代別	女性 計	592	125	55	181	34	37	11	67	82
		100.0%	21.1%	9.3%	30.6%	5.7%	6.3%	1.9%	11.3%	13.9%
	10代・20代	57	11	1	10	1	0	2	26	6
		100.0%	19.3%	1.8%	17.5%	1.8%	0.0%	3.5%	45.6%	10.5%
	30代	72	23	1	25	7	3	1	5	7
		100.0%	31.9%	1.4%	34.7%	9.7%	4.2%	1.4%	6.9%	9.7%
	40代	110	30	16	41	3	5	3	7	5
		100.0%	27.3%	14.5%	37.3%	2.7%	4.5%	2.7%	6.4%	4.5%
	50代	91	19	7	39	6	9	0	4	7
		100.0%	20.9%	7.7%	42.9%	6.6%	9.9%	0.0%	4.4%	7.7%
	60代	120	14	11	45	10	9	3	8	20
		100.0%	11.7%	9.2%	37.5%	8.3%	7.5%	2.5%	6.7%	16.7%
	70歳以上	142	28	19	21	7	11	2	17	37
		100.0%	19.7%	13.4%	14.8%	4.9%	7.7%	1.4%	12.0%	26.1%
	男性 計	391	74	41	107	11	18	7	60	73
		100.0%	18.9%	10.5%	27.4%	2.8%	4.6%	1.8%	15.3%	18.7%
	10代・20代	33	9	4	6	0	0	0	12	2
		100.0%	27.3%	12.1%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%	36.4%	6.1%
	30代	40	9	5	8	1	1	2	7	7
		100.0%	22.5%	12.5%	20.0%	2.5%	2.5%	5.0%	17.5%	17.5%
40代	57	16	7	15	0	3	0	14	2	
	100.0%	28.1%	12.3%	26.3%	0.0%	5.3%	0.0%	24.6%	3.5%	
50代	62	15	7	27	3	3	0	3	4	
	100.0%	24.2%	11.3%	43.5%	4.8%	4.8%	0.0%	4.8%	6.5%	
60代	91	11	7	32	3	8	1	9	20	
	100.0%	12.1%	7.7%	35.2%	3.3%	8.8%	1.1%	9.9%	22.0%	
70歳以上	108	14	11	19	4	3	4	15	38	
	100.0%	13.0%	10.2%	17.6%	3.7%	2.8%	3.7%	13.9%	35.2%	

_____% : 各属性内での回答割合が最も高い

(2) 現実の働き方で「仕事を（一時的に）やめる」「仕事をもたない」を選んだ理由

【問 23】 問 22 の「②現実」で、2～6 を選んだ方におたずねします。その理由は何ですか。

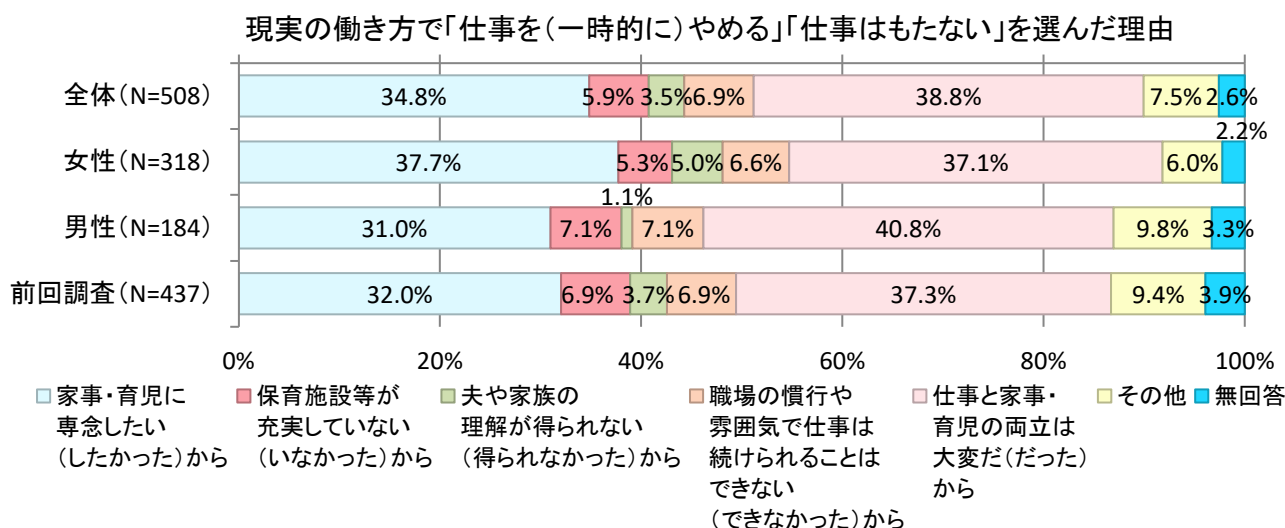
- ※問 22 の選択肢
2. 子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける
 3. 子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける
 4. 子どもができたなら仕事はやめる
 5. 結婚したら仕事はやめる
 6. 仕事はもたない

～「仕事と家事・育児の両立は大変」「家事・育児に専念したい」が多い～

現実の働き方で「仕事を（一時的に）やめる」「仕事をもたない」を選んだ理由をみると、全体では「仕事と家事・育児の両立は大変だ（だった）から」（38.8%）が最も高く、次いで「家事・育児に専念したい（したかった）から」（34.8%）となっている。

性別にみると、「家事・育児に専念したい（したかった）から」（女性：37.7%、男性：31.0%）で女性の割合が男性より高く、「仕事と家事・育児の両立は大変だ（だった）から」（女性：37.1%、男性：40.8%）と男性の割合が女性より高くなっている。

前回調査と比較しても大きな差異はなかった。



現実の働き方で「仕事を（一時的に）やめる」「仕事はもたない」を選んだ理由（性・年代別）

	サンプル数	現実の働き方で「仕事を（一時的に）やめる」「仕事はもたない」を選んだ理由							
		家事・育児に専念したい（したかった）から	保育施設等が充実していない（ない）から	夫や家族の理解が得られない（得られなかった）から	職場の慣行や雰囲気（できない）で仕事は続けられない（できなかった）から	仕事と家事・育児の両立は大変だ（だった）から	その他	無回答	
全体	508	177	30	18	35	197	38	13	
	100.0%	34.8%	5.9%	3.5%	6.9%	38.8%	7.5%	2.6%	
性・年代別	女性 計	318	120	17	16	21	118	19	7
		100.0%	37.7%	5.3%	5.0%	6.6%	37.1%	6.0%	2.2%
	10代・20代	14	4	1	0	0	7	2	0
		100.0%	28.6%	7.1%	0.0%	0.0%	50.0%	14.3%	0.0%
	30代	37	18	2	3	2	10	2	0
		100.0%	48.6%	5.4%	8.1%	5.4%	27.0%	5.4%	0.0%
	40代	68	27	2	1	2	30	6	0
		100.0%	39.7%	2.9%	1.5%	2.9%	44.1%	8.8%	0.0%
	50代	61	22	5	3	4	23	3	1
		100.0%	36.1%	8.2%	4.9%	6.6%	37.7%	4.9%	1.6%
	60代	78	34	3	4	10	24	2	1
		100.0%	43.6%	3.8%	5.1%	12.8%	30.8%	2.6%	1.3%
	70歳以上	60	15	4	5	3	24	4	5
		100.0%	25.0%	6.7%	8.3%	5.0%	40.0%	6.7%	8.3%
	男性 計	184	57	13	2	13	75	18	6
		100.0%	31.0%	7.1%	1.1%	7.1%	40.8%	9.8%	3.3%
10代・20代	10	3	1	0	3	1	2	0	
	100.0%	30.0%	10.0%	0.0%	30.0%	10.0%	20.0%	0.0%	
30代	17	8	0	0	1	7	1	0	
	100.0%	47.1%	0.0%	0.0%	5.9%	41.2%	5.9%	0.0%	
40代	25	5	2	0	2	11	4	1	
	100.0%	20.0%	8.0%	0.0%	8.0%	44.0%	16.0%	4.0%	
50代	40	12	2	0	5	15	5	1	
	100.0%	30.0%	5.0%	0.0%	12.5%	37.5%	12.5%	2.5%	
60代	51	16	3	1	1	25	2	3	
	100.0%	31.4%	5.9%	2.0%	2.0%	49.0%	3.9%	5.9%	
70歳以上	41	13	5	1	1	16	4	1	
	100.0%	31.7%	12.2%	2.4%	2.4%	39.0%	9.8%	2.4%	

_____ %：各属性内での回答割合が最も高い

(3) 職場での男女格差の有無

【問 24】 働いている方（パートタイマー、派遣、アルバイトをしている学生も含む）におたずねします。あなたの職場で現在次のような男女格差がありますか。該当するものに○をつけてください。（複数回答）

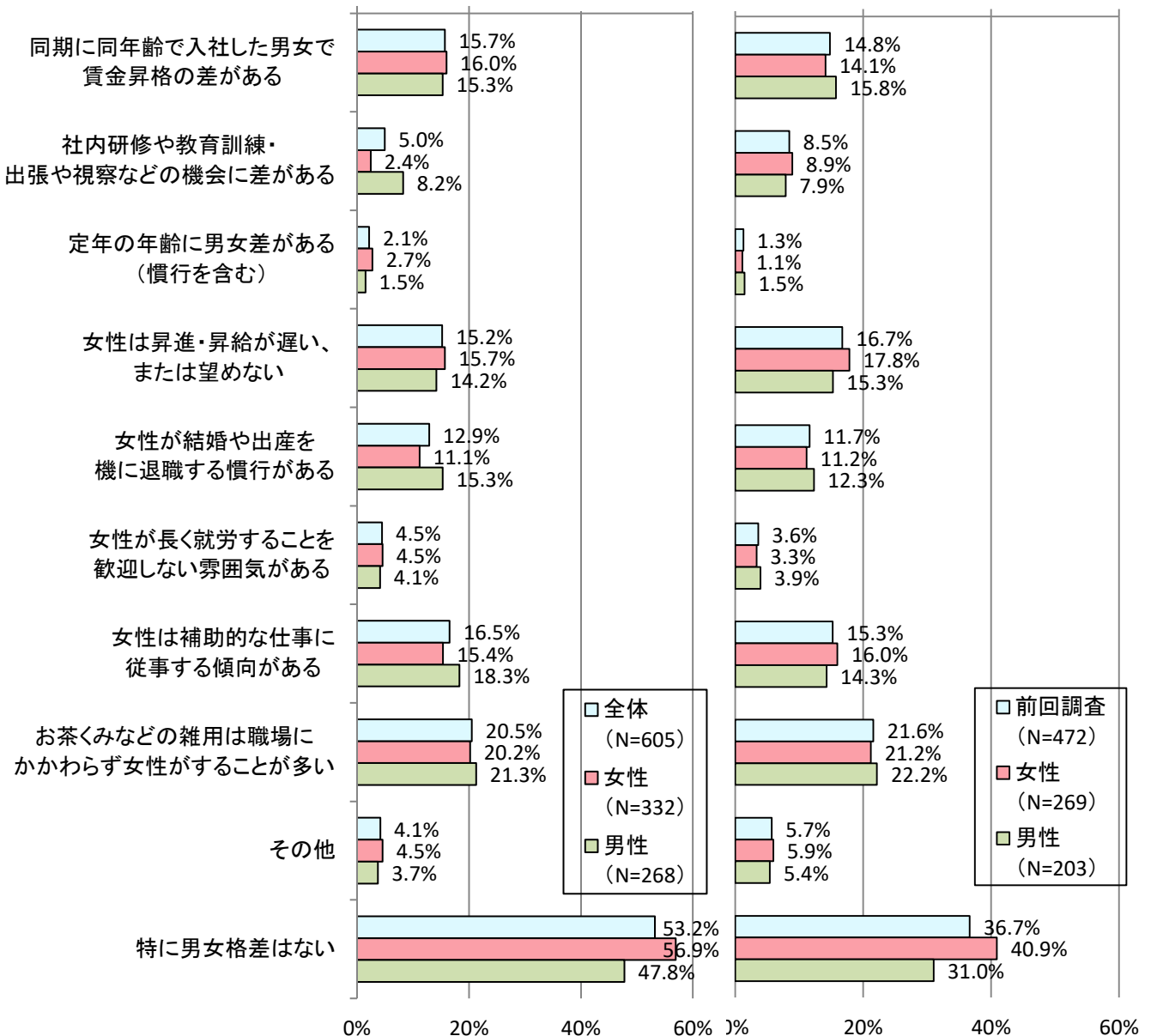
～「特に男女格差はない」と答えた人が半数以上～

職場での男女格差の有無についてみると、全体では「特に男女格差はない」（53.2%）の割合が最も高く、次いで「お茶くみなどの雑用は職場にかかわらず女性がすることが多い」（20.5%）、「同期に同年齢で入社した男女で賃金昇格の差がある」（15.7%）となっている。

性別にみると、「社内研修や教育訓練・出張や視察などの機会に差がある」（女性：2.4%、男性：8.2%）、「女性が結婚や出産を機に退職する慣行がある」（女性：11.1%、男性：15.4%）で男性の割合が女性より高くなっており、「特に男女格差はない」（女性：56.9%、男性：47.8%）で女性の割合が男性より高くなっている。

前回調査と比較すると、「特に男女格差はない」（今回調査：53.2%、前回調査：36.7%）の割合が増加している。

職場での男女格差の有無



職場での男女格差の有無（性・年代別）（複数回答）

	サンプル数	職場での男女格差の有無										
		昇格の差がある	同期に同年齢で入社した男女で賃金の差がある	社内研修や教育訓練・出張や視察などの機会に差がある	定年の年齢に男女差がある（慣行を含む）	女性昇進・昇給が遅い、または望めない	女性が結婚や出産を機に退職する慣行がある	女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある	女性が補助的な仕事に従事する傾向がある	お茶くみなどの雑用は職場にかかわらず女性がすることが多い	その他	特に男女格差はない
全体	605	95 15.7%	30 5.0%	13 2.1%	92 15.2%	78 12.9%	27 4.5%	100 16.5%	124 20.5%	25 4.1%	322 53.2%	
性・年代別	女性計	332	53 16.0%	8 2.4%	9 2.7%	52 15.7%	37 11.1%	15 4.5%	51 15.4%	67 20.2%	15 4.5%	189 56.9%
	10代・20代	34	4 11.8%	0 0.0%	1 2.9%	3 8.8%	8 23.5%	1 2.9%	5 14.7%	10 29.4%	4 11.8%	26 76.5%
	30代	52	8 15.4%	5 9.6%	1 1.9%	6 11.5%	9 17.3%	1 1.9%	8 15.4%	9 17.3%	2 3.8%	23 44.2%
	40代	87	16 18.4%	2 2.3%	1 1.1%	17 19.5%	5 5.7%	1 1.1%	9 10.3%	21 24.1%	5 5.7%	53 60.9%
	50代	72	10 13.9%	1 1.4%	0 0.0%	12 16.7%	6 8.3%	6 8.3%	14 19.4%	13 18.1%	1 1.4%	39 54.2%
	60代	62	8 12.9%	0 0.0%	4 6.5%	7 11.3%	5 8.1%	2 3.2%	6 9.7%	7 11.3%	0 0.0%	36 58.1%
	70歳以上	25	7 28.0%	0 0.0%	2 8.0%	7 28.0%	4 16.0%	4 16.0%	9 36.0%	7 28.0%	3 12.0%	12 48.0%
	男性計	268	41 15.3%	22 8.2%	4 1.5%	38 14.2%	41 15.3%	11 4.1%	49 18.3%	57 21.3%	10 3.7%	127 47.4%
	10代・20代	24	1 4.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 8.3%	0 0.0%	4 16.7%	4 16.7%	1 4.2%	16 66.7%
	30代	38	3 7.9%	5 13.2%	0 0.0%	4 10.5%	6 15.8%	2 5.3%	12 31.6%	12 31.6%	0 0.0%	16 42.1%
	40代	53	4 7.5%	4 7.5%	2 3.8%	4 7.5%	6 11.3%	4 7.5%	11 20.8%	12 22.6%	2 3.8%	23 43.4%
	50代	60	11 18.3%	5 8.3%	0 0.0%	11 18.3%	5 8.3%	0 0.0%	7 11.7%	10 16.7%	3 5.0%	28 46.7%
	60代	63	15 23.8%	6 9.5%	1 1.6%	14 22.2%	14 22.2%	1 1.6%	7 11.1%	10 15.9%	4 6.3%	29 46.0%
	70歳以上	29	7 24.1%	2 6.9%	1 3.4%	5 17.2%	8 27.6%	4 13.8%	8 27.6%	9 31.0%	0 0.0%	15 51.7%

％：各属性内での回答割合が最も高い

(4) 社会全体としての女性の働きやすさに対する考え

【問 25】 社会全体として女性が働きやすい状況にあると思いますか。

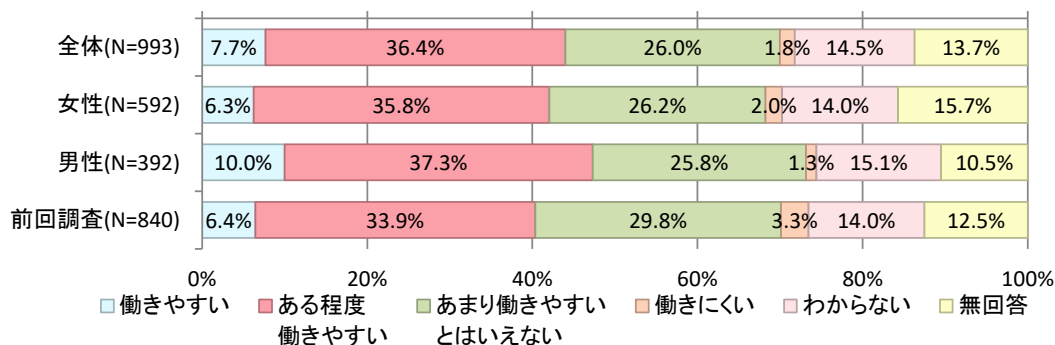
～『働きやすい』が4割～

社会全体としての女性の働きやすさに対する考えについてみると、全体では『働きやすい』（「働きやすい」＋「ある程度働きやすい」）が44.1%、『働きにくい』（「働きにくい」＋「あまり働きやすいとはいえない」）が27.8%で『働きやすい』と答えた割合が『働きにくい』と答えた割合より高くなっている。

性別にみると、『働きやすい』（女性：42.1%、男性：47.3%）は女性の割合より男性が高くなっている。

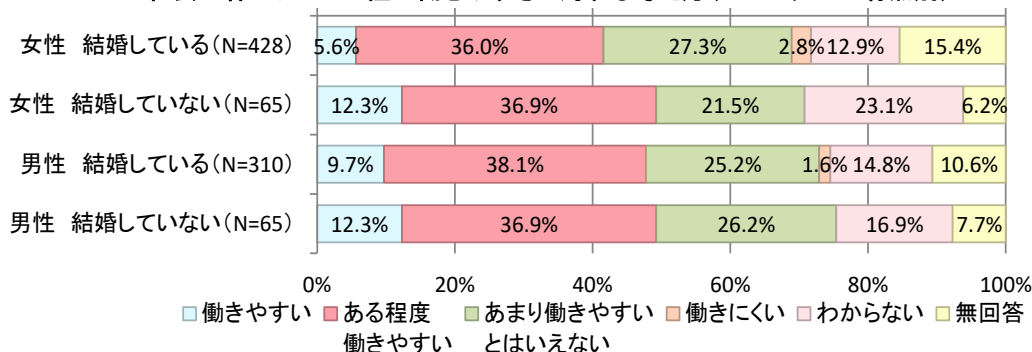
前回調査と比較すると、『働きやすい』（今回調査：44.1%、前回調査：40.3%）の割合は増加傾向になっている。

社会全体としての女性の働きやすさに対する考え方



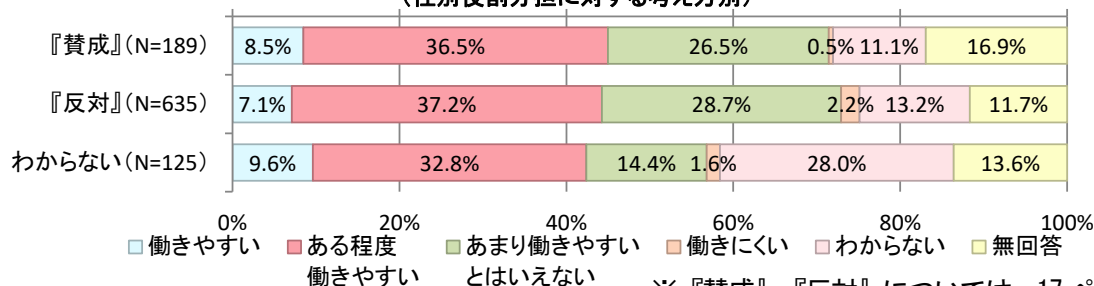
パートナーの有無別では、男女ともに『働きやすい』（女性・結婚している：41.6%、結婚していない：49.2%）（男性・結婚している：47.8%、結婚していない：49.2%）の割合が「結婚している」より「結婚していない」が高くなっている。

社会全体としての女性の働きやすさに対する考え方（パートナーの有無別）



性別役割分担に対する考え方別にみると『働きやすい』の割合が『賛成』45.0%、『反対』44.3%と、『賛成』が『反対』より高くなっている。一方、『働きにくい』の割合は『賛成』27.0%、『反対』30.9%と『反対』が『賛成』より高くなっている。

社会全体としての女性の働きやすさに対する考え方（性別役割分担に対する考え方別）



※ 『賛成』、『反対』については、17 ページ参照

社会全体としての女性の働きやすさに対する考え
(性・年代・配偶者の有無・性別役割分担に対する考え方別)

		サンプル数	社会全体としての女性の働きやすさに対する考え					無回答
			働きやすい	きある やすい 程度 働	いやあ えすま ないり ないと働 はき	働きにくい	わからない	
全体		993	76	361	258	18	144	136
		100.0%	7.7%	36.4%	26.0%	1.8%	14.5%	13.7%
性・年代別	女性 計	592	37	212	155	12	83	93
		100.0%	6.3%	35.8%	26.2%	2.0%	14.0%	15.7%
	10代・20代	57	6	23	13	1	13	1
		100.0%	10.5%	40.4%	22.8%	1.8%	22.8%	1.8%
	30代	72	3	21	27	5	14	2
		100.0%	4.2%	29.2%	37.5%	6.9%	19.4%	2.8%
	40代	110	8	41	43	3	12	3
		100.0%	7.3%	37.3%	39.1%	2.7%	10.9%	2.7%
	50代	91	5	41	27	1	10	7
		100.0%	5.5%	45.1%	29.7%	1.1%	11.0%	7.7%
	60代	120	8	46	28	0	17	21
		100.0%	6.7%	38.3%	23.3%	0.0%	14.2%	17.5%
	70歳以上	142	7	40	17	2	17	59
		100.0%	4.9%	28.2%	12.0%	1.4%	12.0%	41.5%
	男性 計	391	39	146	101	5	59	41
		100.0%	10.0%	37.3%	25.8%	1.3%	15.1%	10.5%
10代・20代	33	5	13	5	1	8	1	
	100.0%	15.2%	39.4%	15.2%	3.0%	24.2%	3.0%	
30代	40	5	16	10	0	6	3	
	100.0%	12.5%	40.0%	25.0%	0.0%	15.0%	7.5%	
40代	57	4	19	21	1	12	0	
	100.0%	7.0%	33.3%	36.8%	1.8%	21.1%	0.0%	
50代	62	8	26	15	1	10	2	
	100.0%	12.9%	41.9%	24.2%	1.6%	16.1%	3.2%	
60代	91	8	43	25	1	9	5	
	100.0%	8.8%	47.3%	27.5%	1.1%	9.9%	5.5%	
70歳以上	108	9	29	25	1	14	30	
	100.0%	8.3%	26.9%	23.1%	0.9%	13.0%	27.8%	
性・配偶者の有無別	女性 計	493	32	178	131	12	70	70
		100.0%	6.5%	36.1%	26.6%	2.4%	14.2%	14.2%
	結婚している	428	24	154	117	12	55	66
		100.0%	5.6%	36.0%	27.3%	2.8%	12.9%	15.4%
	結婚していない	65	8	24	14	0	15	4
		100.0%	12.3%	36.9%	21.5%	0.0%	23.1%	6.2%
男性 計	375	38	142	95	5	57	38	
	100.0%	10.1%	37.9%	25.3%	1.3%	15.2%	10.1%	
結婚している	310	30	118	78	5	46	33	
	100.0%	9.7%	38.1%	25.2%	1.6%	14.8%	10.6%	
結婚していない	65	8	24	17	0	11	5	
	100.0%	12.3%	36.9%	26.2%	0.0%	16.9%	7.7%	
対する 分担に 性別役割	『賛成』	189	16	69	50	1	21	32
		100.0%	8.5%	36.5%	26.5%	0.5%	11.1%	16.9%
	『反対』	635	45	236	182	14	84	74
	100.0%	7.1%	37.2%	28.7%	2.2%	13.2%	11.7%	
わからない	125	12	41	18	2	35	17	
	100.0%	9.6%	32.8%	14.4%	1.6%	28.0%	13.6%	

_____% : 各属性内での回答割合が最も高い

(5) 女性が働きにくいと思う理由

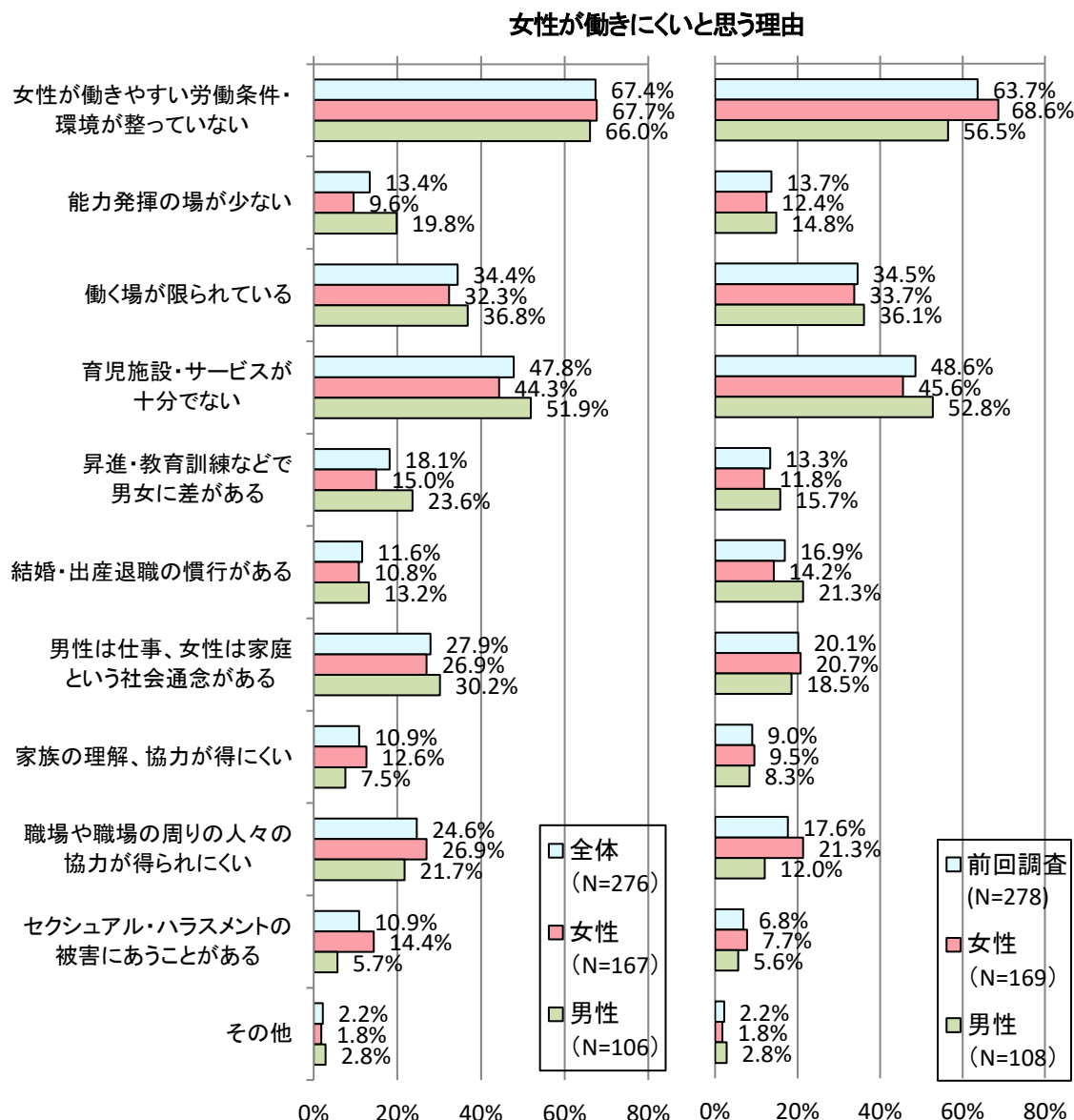
【問 26】 問 25 で「あまり働きやすいとはいえない」「働きにくい」と答えた方におたずねします。そう思う理由は何ですか。(複数回答)

～「労働条件・環境が整っていない」「育児施設・サービスが十分でない」との回答が多い～

女性が働きにくいと思う理由についてみると、全体では「女性が働きやすい労働条件・環境が整っていない」(67.4%)と最も高く、次いで「育児施設・サービスが十分でない」(47.8%)、「働く場が限られている」(34.4%)となっている。

性別にみると、「職場や職場の周りの人々の協力が得られにくい」(女性：26.9%、男性：21.7%)、「セクシュアル・ハラスメントの被害にあうことがある」(女性：14.4%、男性：5.7%)で女性の割合が男性より高く、「能力発揮の場が少ない」(女性：9.6%、男性19.8%)、「育児施設・サービスが十分でない」(女性：44.3%、男性51.9%)で男性の割合が女性より高くなっている。

前回調査と比較すると、「結婚・出産退職の慣行がある」(今回調査：11.6%、前回調査：16.9%)の割合が減少傾向になっており、「職場や職場の周りの人々の協力が得られにくい」(今回調査：24.6%、前回調査：17.6%)の割合が増加傾向になっている。



女性が働きにくいと思う理由（性・年代・性別役割分担に対する考え方別）（複数回答）

		サンプル数	女性が働きにくいと思う理由										
			整労働女性 働いていない 件数が少ない 環境がやさしい	な能力 発揮の場が少 ない	い働く 場が限られて いる	ス育児 施設・サービ スが十分でない	るど昇 進で男女教育 訓練が異なる	慣結 婚がある 出産退職の 影響	通は男 性は仕事、女 性は家庭という 社会通念	が家 族の理解、協 力が得にくい	らの職 場や職場の周 りに協力が得 にくい	にラセ クメン トアル の被ハ ル	その他
全体		276	186 67.4%	37 13.4%	95 34.4%	132 47.8%	50 18.1%	32 11.6%	77 27.9%	30 10.9%	68 24.6%	30 10.9%	6 2.2%
性・年代別	女性計	167	113 67.7%	16 9.6%	54 32.3%	74 44.3%	25 15.0%	18 10.8%	45 26.9%	21 12.6%	45 26.9%	24 14.4%	3 1.8%
	10代・20代	14	12 85.7%	1 7.1%	7 50.0%	9 64.3%	0 0.0%	6 42.9%	4 28.6%	1 7.1%	4 28.6%	2 14.3%	0 0.0%
	30代	32	19 59.4%	2 6.3%	12 37.5%	18 56.3%	1 3.1%	1 3.1%	11 34.4%	3 9.4%	11 34.4%	6 18.8%	1 3.1%
	40代	46	31 67.4%	6 13.0%	11 23.9%	16 34.8%	10 21.7%	4 8.7%	13 28.3%	4 8.7%	13 28.3%	7 15.2%	0 0.0%
	50代	28	21 75.0%	2 7.1%	8 28.6%	10 35.7%	2 7.1%	1 3.6%	9 32.1%	8 28.6%	7 25.0%	4 14.3%	1 3.6%
	60代	28	20 71.4%	4 14.3%	8 28.6%	14 50.0%	7 25.0%	4 14.3%	5 17.9%	3 10.7%	9 32.1%	3 10.7%	0 0.0%
	70歳以上	19	10 52.6%	1 5.3%	8 42.1%	7 36.8%	5 26.3%	2 10.5%	3 15.8%	2 10.5%	1 5.3%	2 10.5%	1 5.3%
	男性計	106	70 66.0%	21 19.8%	39 36.8%	55 51.9%	25 23.6%	14 13.2%	31 29.2%	7 6.6%	23 21.7%	6 5.7%	3 2.8%
	10代・20代	6	3 50.0%	0 0.0%	1 16.7%	3 50.0%	1 16.7%	2 33.3%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%
	30代	10	8 80.0%	2 20.0%	3 30.0%	5 50.0%	1 10.0%	2 20.0%	3 30.0%	0 0.0%	2 20.0%	0 0.0%	1 10.0%
	40代	22	16 72.7%	2 9.1%	9 40.9%	12 54.5%	2 9.1%	2 9.1%	6 27.3%	2 9.1%	3 13.6%	3 13.6%	1 4.5%
	50代	16	12 75.0%	2 12.5%	4 25.0%	9 56.3%	4 25.0%	2 12.5%	4 25.0%	1 6.3%	5 31.3%	0 0.0%	1 6.3%
	60代	26	11 42.3%	6 23.1%	12 46.2%	11 42.3%	7 26.9%	4 15.4%	3 11.5%	2 7.7%	5 19.2%	2 7.7%	0 0.0%
	70歳以上	26	20 76.9%	9 34.6%	10 38.5%	15 57.7%	10 38.5%	2 7.7%	13 50.0%	2 7.7%	8 30.8%	0 0.0%	0 0.0%
対する 考え方	『賛成』	51	34 66.7%	7 13.7%	23 45.1%	20 39.2%	8 15.7%	3 5.9%	14 27.5%	3 5.9%	11 21.6%	7 13.7%	0 0.0%
	『反対』	196	135 68.9%	26 13.3%	61 31.1%	105 53.6%	36 18.4%	26 13.3%	56 28.6%	21 10.7%	55 28.1%	19 9.7%	5 2.6%
	わからない	20	12 60.0%	3 15.0%	8 40.0%	4 20.0%	4 20.0%	2 10.0%	4 20.0%	3 15.0%	1 5.0%	4 20.0%	0 0.0%

％：各属性内での回答割合が最も高い

(6) 女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿

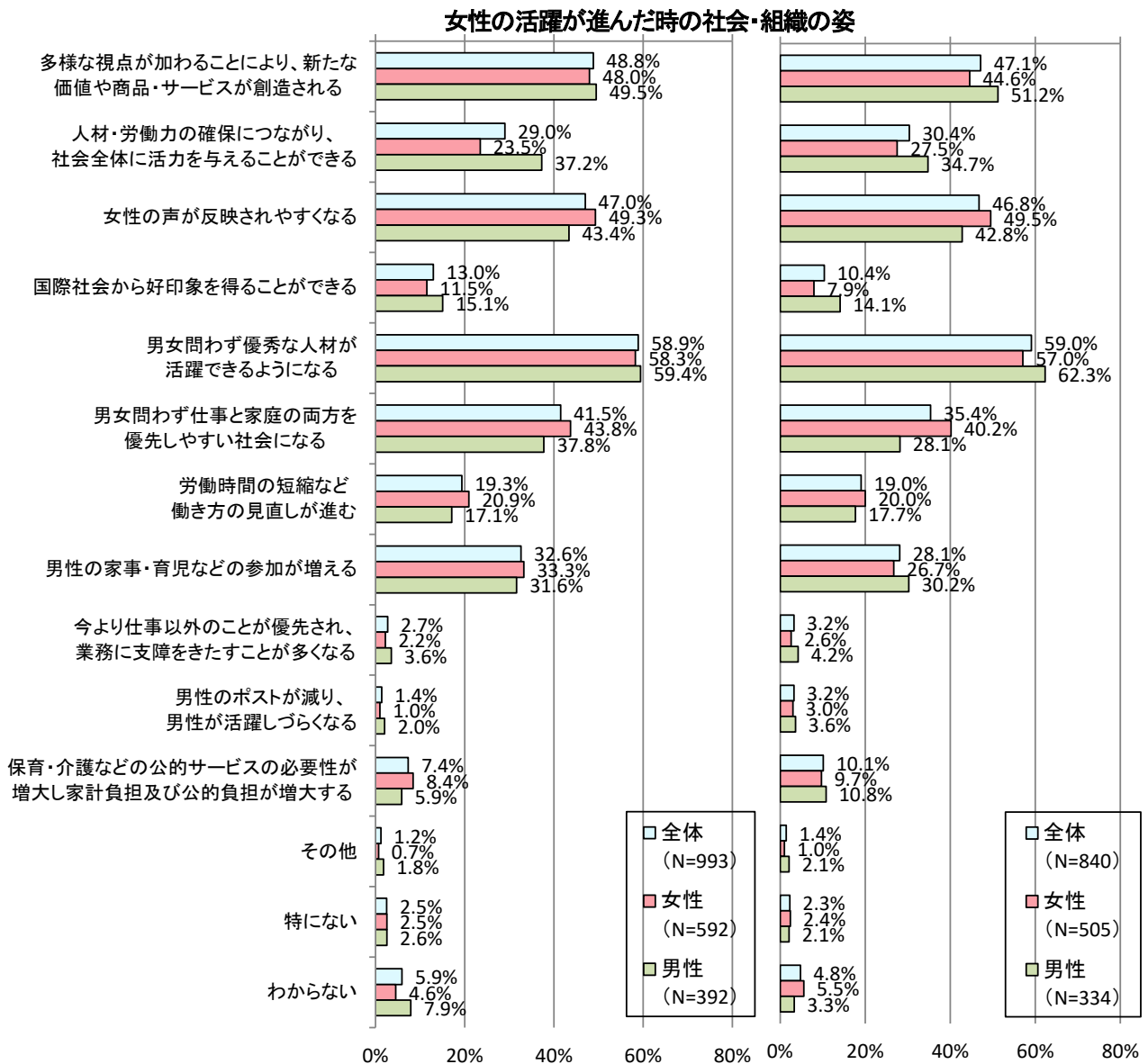
【問 27】 あなたは、政治・経済・地域などの分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。(複数回答)

～「男女問わず優秀な人材が活躍」「新たな価値や商品・サービスが創造される」との回答が多い～

女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿についてみると、全体では「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」(58.9%)の割合が最も高く、次いで「多様な視点加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(48.8%)、「女性の声が反映されやすくなる」(47.0%)となっている。

性別にみると、「女性の声が反映されやすくなる」(女性：49.3%、男性：43.4%)、「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」(女性：43.8%、男性37.8%)で女性の割合が男性より高く、「人材労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる」(女性：23.5%、男性 37.2%)で男性の割合が女性より高くなっている。

前回調査と比較すると、男性の「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」(今回調査：41.5%、前回調査：35.4%)の割合が増加傾向になっている。



女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿（性・年代別）（複数回答）1/2

		サンプル数	女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿						労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
			様々な価値や商品・サービスが創造される	多様な視点や商品・サービスが加わることで、新たな価値や商品・サービスが創造される	人材・労働力の確保につながる	女性の声が反映されやすくなる	国際社会から好印象を得ることができ	よ男女問わず優秀な人材が活躍できる	
全体		993	485 48.8%	288 29.0%	467 47.0%	129 13.0%	585 58.9%	412 41.5%	192 19.3%
性・年代別	女性計	592	284 48.0%	139 23.5%	292 49.3%	68 11.5%	345 58.3%	259 43.8%	124 20.9%
	10代・20代	57	32 56.1%	6 10.5%	31 54.4%	8 14.0%	31 54.4%	31 54.4%	10 17.5%
	30代	72	41 56.9%	17 23.6%	38 52.8%	11 15.3%	48 66.7%	46 63.9%	15 20.8%
	40代	110	52 47.3%	22 20.0%	63 57.3%	15 13.6%	70 63.6%	61 55.5%	27 24.5%
	50代	91	41 45.1%	22 24.2%	39 42.9%	9 9.9%	50 54.9%	36 39.6%	20 22.0%
	60代	120	61 50.8%	31 25.8%	53 44.2%	14 11.7%	73 60.8%	44 36.7%	28 23.3%
	70歳以上	142	57 40.1%	41 28.9%	68 47.9%	11 7.7%	73 51.4%	41 28.9%	24 16.9%
	男性計	391	193 49.4%	145 37.1%	169 43.2%	59 15.1%	232 59.3%	147 37.6%	67 17.1%
	10代・20代	33	17 51.5%	5 15.2%	12 36.4%	1 3.0%	16 48.5%	10 30.3%	6 18.2%
	30代	40	20 50.0%	11 27.5%	23 57.5%	5 12.5%	24 60.0%	18 45.0%	10 25.0%
	40代	57	24 42.1%	14 24.6%	27 47.4%	10 17.5%	32 56.1%	20 35.1%	11 19.3%
	50代	62	35 56.5%	23 37.1%	22 35.5%	4 6.5%	44 71.0%	24 38.7%	8 12.9%
	60代	91	49 53.8%	37 40.7%	35 38.5%	15 16.5%	53 58.2%	30 33.0%	16 17.6%
	70歳以上	108	48 44.4%	55 50.9%	50 46.3%	24 22.2%	63 58.3%	45 41.7%	16 14.8%

_____ % : 各属性内での回答割合が最も高い

女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿（性・年代別）（複数回答） 2/2

		サンプル数	女性の活躍が進んだ時の社会・組織の姿						わからない
			男性の家事・育児などの参加が増える	今より仕事以外のことが優先される、業務に支障をきたすことが多くなる	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	要増大する	保育・介護などの公的サービスの負担の増大	その他	
全体		993	324 32.6%	27 2.7%	14 1.4%	73 7.4%	12 1.2%	25 2.5%	59 5.9%
性・年代別	女性 計	592	197 33.3%	13 2.2%	6 1.0%	50 8.4%	4 0.7%	15 2.5%	27 4.6%
	10代・20代	57	28 49.1%	1 1.8%	0 0.0%	3 5.3%	0 0.0%	1 1.8%	3 5.3%
	30代	72	30 41.7%	2 2.8%	1 1.4%	5 6.9%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.8%
	40代	110	36 32.7%	3 2.7%	1 0.9%	12 10.9%	2 1.8%	1 0.9%	5 4.5%
	50代	91	23 25.3%	0 0.0%	1 1.1%	15 16.5%	2 2.2%	5 5.5%	3 3.3%
	60代	120	37 30.8%	3 2.5%	0 0.0%	5 4.2%	0 0.0%	2 1.7%	7 5.8%
	70歳以上	142	43 30.3%	4 2.8%	3 2.1%	10 7.0%	0 0.0%	6 4.2%	7 4.9%
	男性 計	391	123 31.5%	14 3.6%	8 2.0%	23 5.9%	7 1.8%	10 2.6%	31 7.9%
	10代・20代	33	4 12.1%	1 3.0%	0 0.0%	2 6.1%	1 3.0%	1 3.0%	6 18.2%
	30代	40	19 47.5%	3 7.5%	1 2.5%	2 5.0%	2 5.0%	2 5.0%	1 2.5%
	40代	57	18 31.6%	4 7.0%	3 5.3%	2 3.5%	0 0.0%	1 1.8%	7 12.3%
	50代	62	19 30.6%	0 0.0%	0 0.0%	6 9.7%	1 1.6%	1 1.6%	5 8.1%
	60代	91	28 30.8%	1 1.1%	0 0.0%	4 4.4%	1 1.1%	2 2.2%	5 5.5%
	70歳以上	108	35 32.4%	5 4.6%	4 3.7%	7 6.5%	2 1.9%	3 2.8%	7 6.5%

6. 教育について

(1) 子どもの育て方についての考え

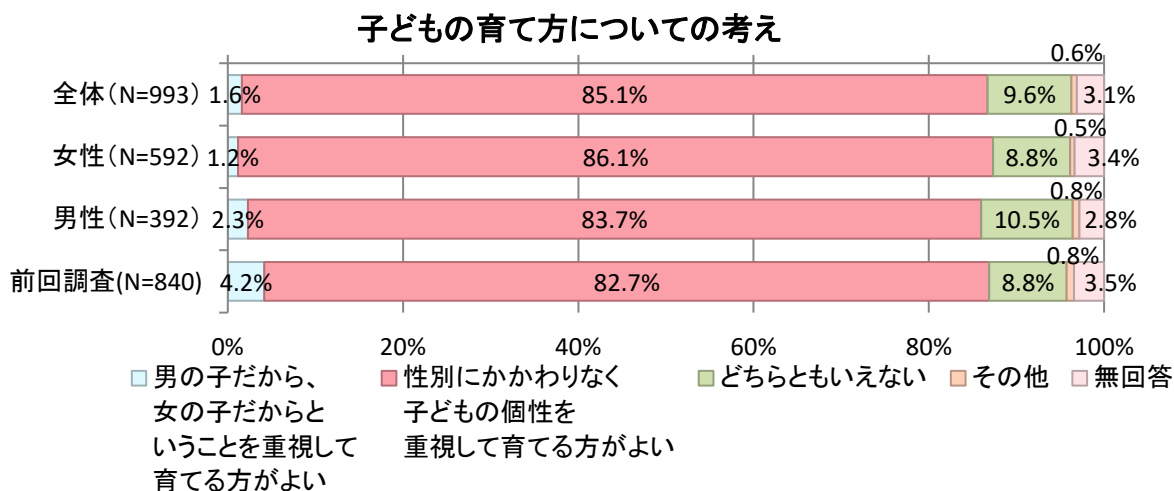
【問 28】 子どもの育て方についてのあなたの考えをおたずねします。

～「性別にかかわらず子どもの個性を重視して育てる方がよい」と考える人は8割～

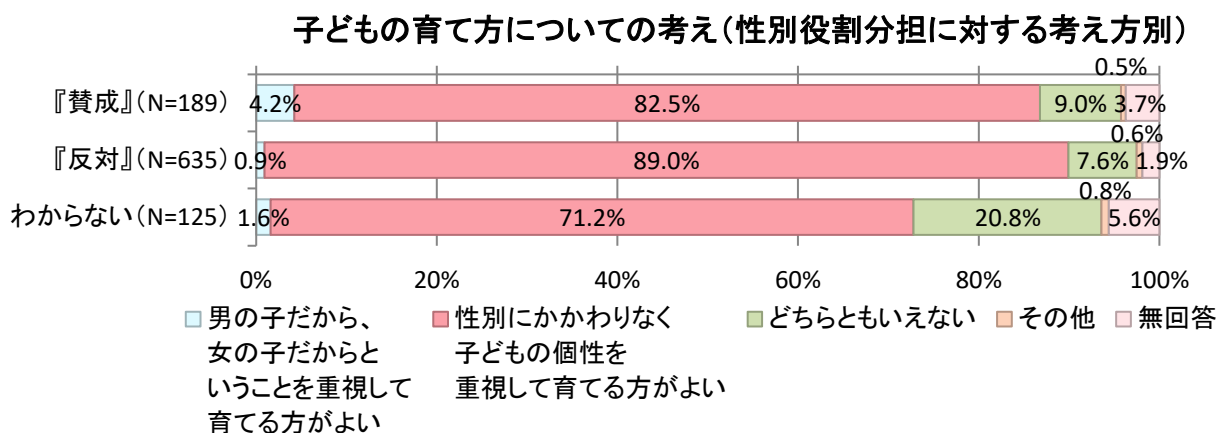
子どもの育て方についての考えについてみると、全体、男女ともに「性別にかかわらず子どもの個性を重視して育てる方がよい」が8割を超えている。

性別での違いはみられなかった。

前回調査と比較すると、「男の子だから、女の子だからということを重視して育てる方がよい」（今回調査：1.6%、前回調査：4.2%）の割合が減少傾向になっている。



性別役割分担に対する考え方別にみると、「男の子だから、女の子だからということを重視して育てる方がよい」（『賛成』：4.2%、『反対』：0.9%）の割合は『賛成』が『反対』より高く、「性別にかかわらず子どもの個性を重視して育てる方がよい」（『賛成』：82.5%、『反対』：89.0%）の割合は『反対』が『賛成』より高くなっている。



※『賛成』、『反対』については、17 ページ参照

子どもの育て方についての考え（性・年代・性別役割分担に対する考え別）

		サ ン プ ル 数	子どもの育て方についての考え				無 回 答
			視 だ 男 し か の て ら 子 育 と だ て い か ら う ら 方 こ と 女 よ を の い 重 子	育 ど も 別 の に 個 か が 性 か よ い 重 り 視 し く て 子	ど ち ら と も い え な い	そ の 他	
全体		993	16	845	95	6	31
		100.0%	1.6%	85.1%	9.6%	0.6%	3.1%
性・年代別	女性計	592	7	510	52	3	20
		100.0%	1.2%	86.1%	8.8%	0.5%	3.4%
	10代・20代	57	0	53	4	0	0
		100.0%	0.0%	93.0%	7.0%	0.0%	0.0%
	30代	72	1	63	7	1	0
		100.0%	1.4%	87.5%	9.7%	1.4%	0.0%
	40代	110	3	92	14	0	1
		100.0%	2.7%	83.6%	12.7%	0.0%	0.9%
	50代	91	0	84	3	0	4
		100.0%	0.0%	92.3%	3.3%	0.0%	4.4%
	60代	120	0	102	11	1	6
		100.0%	0.0%	85.0%	9.2%	0.8%	5.0%
	70歳以上	142	3	116	13	1	9
		100.0%	2.1%	81.7%	9.2%	0.7%	6.3%
	男性計	391	9	327	41	3	11
		100.0%	2.3%	83.6%	10.5%	0.8%	2.8%
	10代・20代	33	0	28	5	0	0
	100.0%	0.0%	84.8%	15.2%	0.0%	0.0%	
30代	40	0	37	2	0	1	
	100.0%	0.0%	92.5%	5.0%	0.0%	2.5%	
40代	57	3	45	8	1	0	
	100.0%	5.3%	78.9%	14.0%	1.8%	0.0%	
50代	62	2	49	10	1	0	
	100.0%	3.2%	79.0%	16.1%	1.6%	0.0%	
60代	91	2	80	7	0	2	
	100.0%	2.2%	87.9%	7.7%	0.0%	2.2%	
70歳以上	108	2	88	9	1	8	
	100.0%	1.9%	81.5%	8.3%	0.9%	7.4%	
対する 考え方	『賛成』	189	8	156	17	1	7
		100.0%	4.2%	82.5%	9.0%	0.5%	3.7%
	『反対』	635	6	565	48	4	12
	100.0%	0.9%	89.0%	7.6%	0.6%	1.9%	
	わから ない	125	2	89	26	1	7
		100.0%	1.6%	71.2%	20.8%	0.8%	5.6%

％：各属性内での回答割合が最も高い

(2) 男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なこと

【問 29】 男女共同参画社会を実現するために、学校教育の場でどのようなことが大切だと思いますか。
(複数回答)

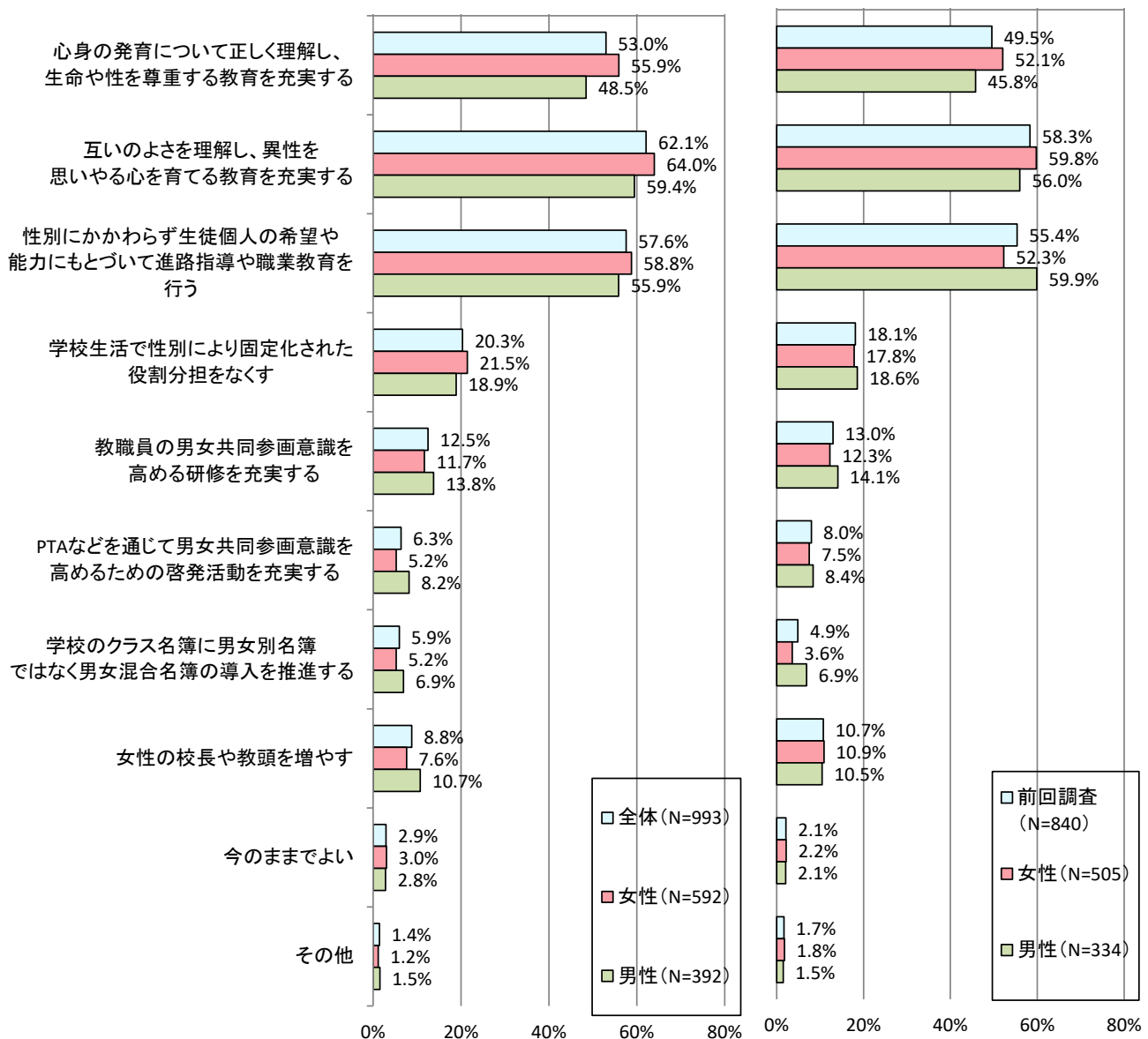
～異性への思いやりや、個人の希望や能力に基づいた進路希望・職業教育～

男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なことについてみると、全体では「互いのよさを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する」(62.1%)の割合が最も高く、次いで「性別にかかわらず生徒個人の希望や能力にもとづいて進路指導や職業教育を行う」(57.6%)、「心身の発育について正しく理解し、生命や性を尊重する教育を充実する」(53.0%)となっている。

性別では、「心身の発育について正しく理解し、生命や性を尊重する教育を充実する」(女性：55.9%、男性：48.5%)で女性の割合が男性より高くなっている。

前回調査と比較すると、全体では「心身の発育について正しく理解し、生命や性を尊重する教育を充実する」、「互いのよさを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する」「性別にかかわらず生徒個人の希望や能力にもとづいて進路指導や職業教育を行う」割合が増加傾向になっている。

男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なこと



男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なこと（全体・性別）（複数回答）

		男女共同参画を実現するために学校教育の場で必要なこと												
		生命や心の育ちを尊重する教育を充実する	心身の発達について正しく理解し、育ちを育てる教育を充実する	互いのよさを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する	育力にもとづいて生徒個人の希望や能力にかかわらず進路指導や職業教育を行う	性別にかかわらず生徒個人の希望や役割分担をなくす	学校生活で性別により固定化された役割を担う	教職員の男女共同参画意識を高める	識を高めるための啓発活動を充実する	PTAなどを通じて男女共同参画意識を高める	学校のクラス名簿に男女別名簿を導入を推進する	女性の校長や教頭を増やす	今のままでよい	その他
全体	993	526 53.0%	617 62.1%	572 57.6%	202 20.3%	124 12.5%	63 6.3%	59 5.9%	87 8.8%	29 2.9%	14 1.4%			
性・年代別	女性 計	592 55.9%	379 64.0%	348 58.8%	127 21.5%	69 11.7%	31 5.2%	31 5.2%	45 7.6%	18 3.0%	7 1.2%			
	10代・20代	57 54.4%	33 57.9%	40 70.2%	14 24.6%	7 12.3%	1 1.8%	8 14.0%	4 7.0%	1 1.8%	0 0.0%			
	30代	72 58.3%	52 72.2%	48 66.7%	20 27.8%	3 4.2%	3 4.2%	5 6.9%	4 5.6%	1 1.4%	1 1.4%			
	40代	110 57.3%	72 65.5%	65 59.1%	24 21.8%	15 13.6%	6 5.5%	6 5.5%	14 12.7%	2 1.8%	1 0.9%			
	50代	91 51.6%	56 61.5%	54 59.3%	11 12.1%	10 11.0%	7 7.7%	1 1.1%	10 11.0%	4 4.4%	1 1.1%			
	60代	120 60.8%	83 69.2%	65 54.2%	29 24.2%	14 11.7%	5 4.2%	6 5.0%	5 4.2%	2 1.7%	1 0.8%			
	70歳以上	142 52.8%	83 58.5%	76 53.5%	29 20.4%	20 14.1%	9 6.3%	5 3.5%	8 5.6%	8 5.6%	3 2.1%			
	男性 計	391 48.3%	232 59.3%	218 55.8%	74 18.9%	54 13.8%	32 8.2%	27 6.9%	42 10.7%	11 2.8%	6 1.5%			
	10代・20代	33 30.3%	19 57.6%	13 39.4%	6 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	2 6.1%	5 15.2%	4 12.1%	0 0.0%			
	30代	40 47.5%	19 47.5%	23 57.5%	11 27.5%	7 17.5%	2 5.0%	7 17.5%	4 10.0%	0 0.0%	1 2.5%			
	40代	57 43.9%	41 71.9%	27 47.4%	11 19.3%	5 8.8%	6 10.5%	2 3.5%	7 12.3%	2 3.5%	1 1.8%			
	50代	62 51.6%	37 59.7%	41 66.1%	14 22.6%	5 8.1%	3 4.8%	6 9.7%	5 8.1%	0 0.0%	2 3.2%			
	60代	91 52.7%	61 67.0%	49 53.8%	21 23.1%	15 16.5%	10 11.0%	6 6.6%	10 11.0%	0 0.0%	0 0.0%			
	70歳以上	108 50.9%	55 50.9%	65 60.2%	11 10.2%	22 20.4%	11 10.2%	4 3.7%	11 10.2%	5 4.6%	2 1.9%			

％：各属性内での回答割合が最も高い

7. 女性の政策参画について

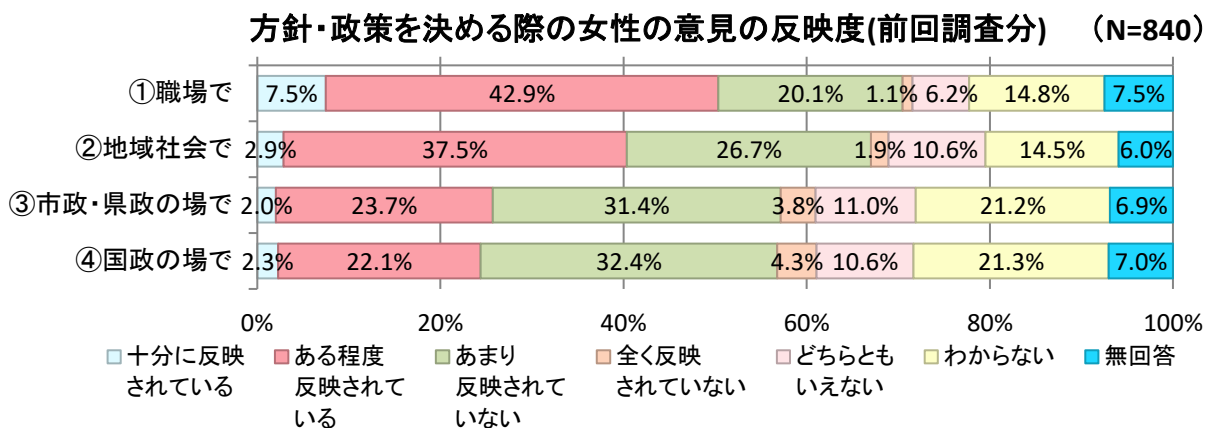
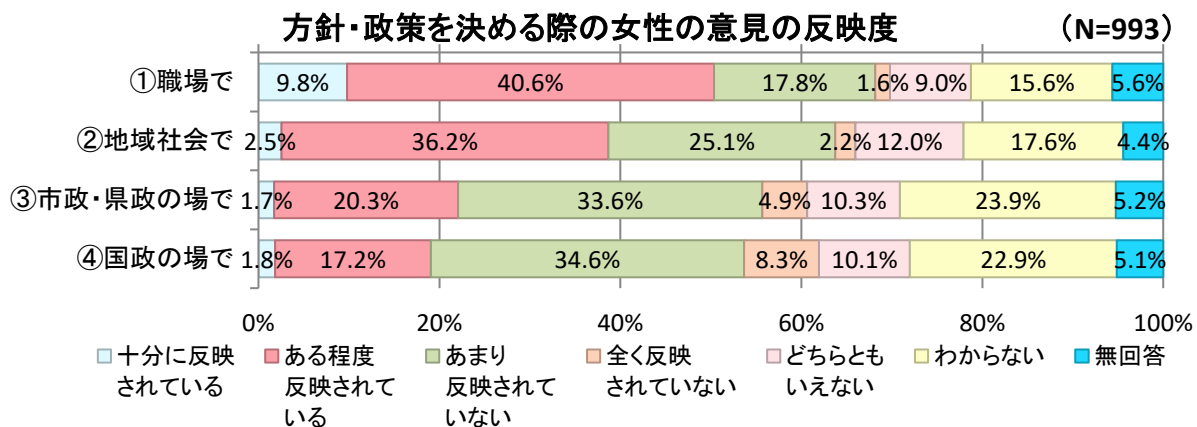
(1) 方針・政策を決める際の女性の意見の反映度

【問 30】 次の①～④の各分野でその方針や政策を決めるとき、女性の意見はどの程度反映されていると思いますか。

～職場・地域社会で意見の反映度が高く、政治の場では低い～

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度についてみると、「①職場で」（『反映されている』：50.4%、『反映されていない』：19.4%）と「②地域社会で」（『反映されている』：38.7%、『反映されていない』：27.3%）では『反映されている』の割合が高い。一方、「③市政・県政の場で」（『反映されている』：22.0%、『反映されていない』：38.5%）と「④国政の場で」（『反映されている』：19.0%、『反映されていない』：42.9%）」では『反映されていない』の割合が高い。

前回調査と比較すると、「④国政の場で」の『反映されていない』（今回調査：42.9%、前回調査：36.7%）の割合が大幅に増加している。



※ 『反映されている』 =十分に反映されている + ある程度反映されている
『反映されていない』 =あまり反映されていない + 全く反映されていない

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度（性・年代別）1/4

		サンプル数	①職場で						無回答
			十分に反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない	
全体		993	97	403	177	16	89	155	56
		100.0%	9.8%	40.6%	17.8%	1.6%	9.0%	15.6%	5.6%
性・年代別	女性計	592	48	243	102	9	56	101	33
		100.0%	8.1%	41.0%	17.2%	1.5%	9.5%	17.1%	5.6%
	10代・20代	57	6	27	5	0	4	15	0
		100.0%	10.5%	47.4%	8.8%	0.0%	7.0%	26.3%	0.0%
	30代	72	11	34	8	2	3	14	0
		100.0%	15.3%	47.2%	11.1%	2.8%	4.2%	19.4%	0.0%
	40代	110	10	56	19	1	6	16	2
		100.0%	9.1%	50.9%	17.3%	0.9%	5.5%	14.5%	1.8%
	50代	91	8	45	17	3	9	9	0
		100.0%	8.8%	49.5%	18.7%	3.3%	9.9%	9.9%	0.0%
	60代	120	7	48	22	3	19	15	6
		100.0%	5.8%	40.0%	18.3%	2.5%	15.8%	12.5%	5.0%
	70歳以上	142	6	33	31	0	15	32	25
		100.0%	4.2%	23.2%	21.8%	0.0%	10.6%	22.5%	17.6%
	男性計	391	48	157	72	7	32	53	22
		100.0%	12.3%	40.2%	18.4%	1.8%	8.2%	13.6%	5.6%
	10代・20代	33	6	8	2	0	2	15	0
	100.0%	18.2%	24.2%	6.1%	0.0%	6.1%	45.5%	0.0%	
30代	40	8	21	3	0	1	7	0	
	100.0%	20.0%	52.5%	7.5%	0.0%	2.5%	17.5%	0.0%	
40代	57	10	27	7	1	7	4	1	
	100.0%	17.5%	47.4%	12.3%	1.8%	12.3%	7.0%	1.8%	
50代	62	13	25	11	3	4	6	0	
	100.0%	21.0%	40.3%	17.7%	4.8%	6.5%	9.7%	0.0%	
60代	91	9	36	25	2	10	8	1	
	100.0%	9.9%	39.6%	27.5%	2.2%	11.0%	8.8%	1.1%	
70歳以上	108	2	40	24	1	8	13	20	
	100.0%	1.9%	37.0%	22.2%	0.9%	7.4%	12.0%	18.5%	

_____ % : 各属性内での回答割合が最も高い

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度（性・年代）2/4

		サンプル数	②地域社会で						無回答
			十分に反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない	
全体		993	25	359	249	22	119	175	44
		100.0%	2.5%	36.2%	25.1%	2.2%	12.0%	17.6%	4.4%
性・年代別	女性計	592	8	200	155	14	83	107	25
		100.0%	1.4%	33.8%	26.2%	2.4%	14.0%	18.1%	4.2%
	10代・20代	57	2	22	11	0	7	15	0
		100.0%	3.5%	38.6%	19.3%	0.0%	12.3%	26.3%	0.0%
	30代	72	1	19	23	3	5	21	0
		100.0%	1.4%	26.4%	31.9%	4.2%	6.9%	29.2%	0.0%
	40代	110	0	36	34	5	13	20	2
		100.0%	0.0%	32.7%	30.9%	4.5%	11.8%	18.2%	1.8%
	50代	91	1	31	27	1	14	17	0
		100.0%	1.1%	34.1%	29.7%	1.1%	15.4%	18.7%	0.0%
	60代	120	0	42	29	3	26	12	8
		100.0%	0.0%	35.0%	24.2%	2.5%	21.7%	10.0%	6.7%
	70歳以上	142	4	50	31	2	18	22	15
		100.0%	2.8%	35.2%	21.8%	1.4%	12.7%	15.5%	10.6%
	男性計	391	17	158	90	8	35	65	18
		100.0%	4.3%	40.4%	23.0%	2.0%	9.0%	16.6%	4.6%
	10代・20代	33	2	7	2	0	2	20	0
		100.0%	6.1%	21.2%	6.1%	0.0%	6.1%	60.6%	0.0%
30代	40	0	17	11	0	2	10	0	
	100.0%	0.0%	42.5%	27.5%	0.0%	5.0%	25.0%	0.0%	
40代	57	3	19	14	1	8	12	0	
	100.0%	5.3%	33.3%	24.6%	1.8%	14.0%	21.1%	0.0%	
50代	62	4	26	17	2	5	8	0	
	100.0%	6.5%	41.9%	27.4%	3.2%	8.1%	12.9%	0.0%	
60代	91	4	44	22	3	9	7	2	
	100.0%	4.4%	48.4%	24.2%	3.3%	9.9%	7.7%	2.2%	
70歳以上	108	4	45	24	2	9	8	16	
	100.0%	3.7%	41.7%	22.2%	1.9%	8.3%	7.4%	14.8%	

_____% : 各属性内での回答割合が最も高い

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度（性・年代別）3/4

		サンプル数	③市政・県政の場で						無回答
			十分に反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない	
全体		993	17	202	334	49	102	237	52
		100.0%	1.7%	20.3%	33.6%	4.9%	10.3%	23.9%	5.2%
性・年代別	女性 計	592	5	103	201	32	69	153	29
		100.0%	0.8%	17.4%	34.0%	5.4%	11.7%	25.8%	4.9%
	10代・20代	57	2	4	20	2	8	21	0
		100.0%	3.5%	7.0%	35.1%	3.5%	14.0%	36.8%	0.0%
	30代	72	0	13	23	9	5	22	0
		100.0%	0.0%	18.1%	31.9%	12.5%	6.9%	30.6%	0.0%
	40代	110	0	22	42	8	13	23	2
		100.0%	0.0%	20.0%	38.2%	7.3%	11.8%	20.9%	1.8%
	50代	91	0	17	37	6	7	24	0
		100.0%	0.0%	18.7%	40.7%	6.6%	7.7%	26.4%	0.0%
	60代	120	0	22	43	3	18	26	8
		100.0%	0.0%	18.3%	35.8%	2.5%	15.0%	21.7%	6.7%
	70歳以上	142	3	25	36	4	18	37	19
		100.0%	2.1%	17.6%	25.4%	2.8%	12.7%	26.1%	13.4%
	男性 計	391	12	99	129	17	32	80	22
		100.0%	3.1%	25.3%	33.0%	4.3%	8.2%	20.5%	5.6%
	10代・20代	33	2	5	5	0	1	20	0
		100.0%	6.1%	15.2%	15.2%	0.0%	3.0%	60.6%	0.0%
30代	40	0	9	15	1	1	14	0	
	100.0%	0.0%	22.5%	37.5%	2.5%	2.5%	35.0%	0.0%	
40代	57	2	15	19	2	7	12	0	
	100.0%	3.5%	26.3%	33.3%	3.5%	12.3%	21.1%	0.0%	
50代	62	2	15	24	4	6	11	0	
	100.0%	3.2%	24.2%	38.7%	6.5%	9.7%	17.7%	0.0%	
60代	91	4	30	31	6	9	9	2	
	100.0%	4.4%	33.0%	34.1%	6.6%	9.9%	9.9%	2.2%	
70歳以上	108	2	25	35	4	8	14	20	
	100.0%	1.9%	23.1%	32.4%	3.7%	7.4%	13.0%	18.5%	

_____ % : 各属性内での回答割合が最も高い

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度（性・年代別）4/4

		サンプル数	④国政の場で						無回答
			十分に反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない	
全体		993	18	171	344	82	100	227	51
		100.0%	1.8%	17.2%	34.6%	8.3%	10.1%	22.9%	5.1%
性・年代別	女性計	592	5	86	206	53	66	149	27
		100.0%	0.8%	14.5%	34.8%	9.0%	11.1%	25.2%	4.6%
	10代・20代	57	2	4	22	3	5	21	0
		100.0%	3.5%	7.0%	38.6%	5.3%	8.8%	36.8%	0.0%
	30代	72	0	10	29	10	6	17	0
		100.0%	0.0%	13.9%	40.3%	13.9%	8.3%	23.6%	0.0%
	40代	110	0	18	41	15	9	25	2
		100.0%	0.0%	16.4%	37.3%	13.6%	8.2%	22.7%	1.8%
	50代	91	0	13	38	12	8	20	0
		100.0%	0.0%	14.3%	41.8%	13.2%	8.8%	22.0%	0.0%
	60代	120	1	15	45	6	20	25	8
		100.0%	0.8%	12.5%	37.5%	5.0%	16.7%	20.8%	6.7%
	70歳以上	142	2	26	31	7	18	41	17
		100.0%	1.4%	18.3%	21.8%	4.9%	12.7%	28.9%	12.0%
	男性計	391	13	85	136	27	33	74	23
		100.0%	3.3%	21.7%	34.8%	6.9%	8.4%	18.9%	5.9%
	10代・20代	33	2	3	7	1	2	18	0
		100.0%	6.1%	9.1%	21.2%	3.0%	6.1%	54.5%	0.0%
30代	40	0	11	13	1	2	13	0	
	100.0%	0.0%	27.5%	32.5%	2.5%	5.0%	32.5%	0.0%	
40代	57	2	11	21	4	7	12	0	
	100.0%	3.5%	19.3%	36.8%	7.0%	12.3%	21.1%	0.0%	
50代	62	3	13	23	6	6	11	0	
	100.0%	4.8%	21.0%	37.1%	9.7%	9.7%	17.7%	0.0%	
60代	91	4	26	33	10	8	6	4	
	100.0%	4.4%	28.6%	36.3%	11.0%	8.8%	6.6%	4.4%	
70歳以上	108	2	21	39	5	8	14	19	
	100.0%	1.9%	19.4%	36.1%	4.6%	7.4%	13.0%	17.6%	

_____ % : 各属性内での回答割合が最も高い

(2) 政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由

【問 31】 現在、わが国の政策や方針決定過程への女性の参画状況は先進国の中で特に低くなっています。政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由はなんだと思いますか。(複数回答)

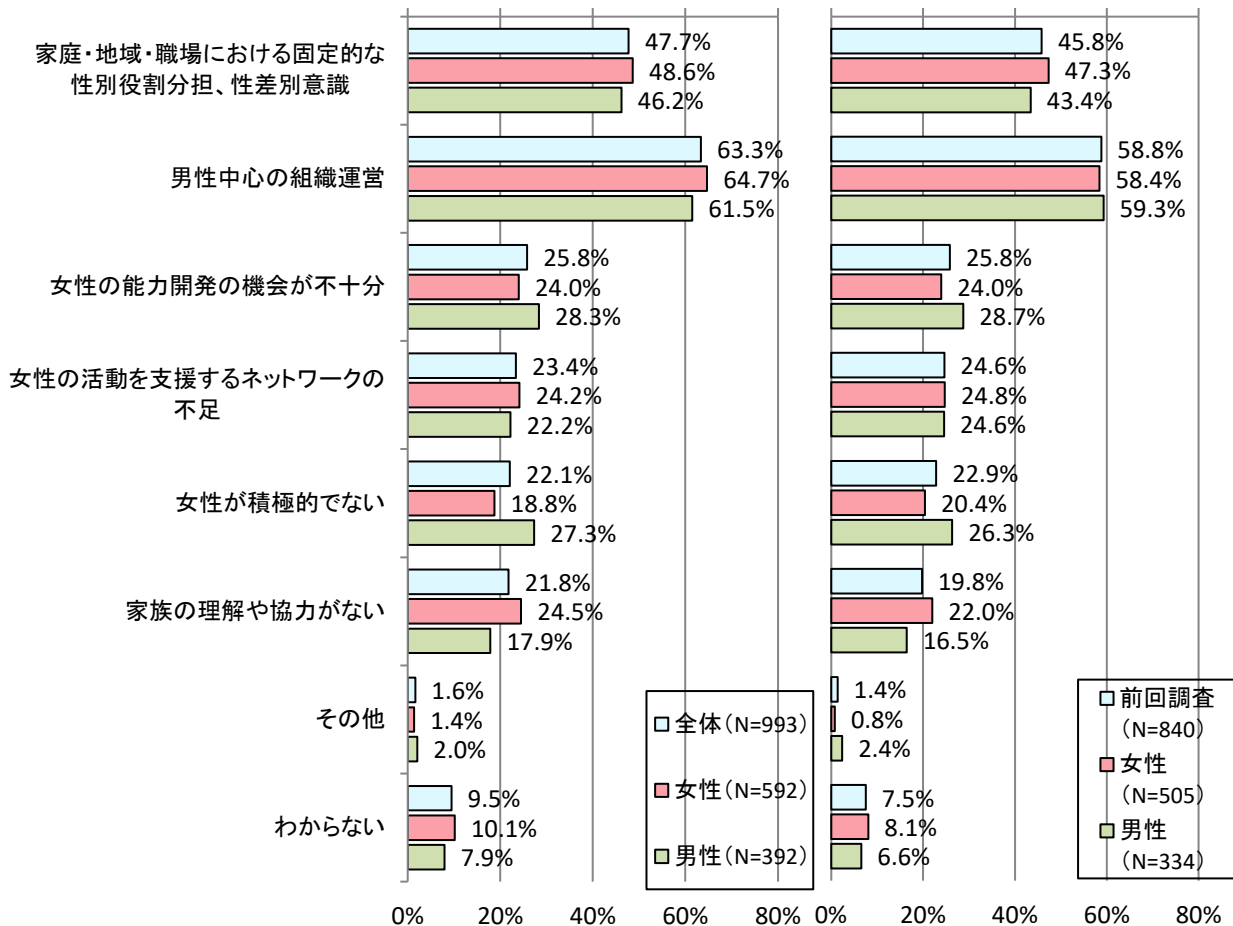
～「男性中心の組織運営」と約6割が回答～

政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由についてみると、全体では「男性中心の組織運営」(63.3%)の割合が最も高く、次いで「家庭・地域・職場における固定的な性別役割分担、性差別意識」(47.7%)、「女性の能力開発の機会が不十分」(25.8%)となっている。

性別にみると「家族の理解や協力がない」(女性：24.5%、男性：17.9%)で女性の割合が男性より高く、「女性が積極的でない」(女性：18.8%、男性：27.3%)で男性の割合が女性より高くなっている。

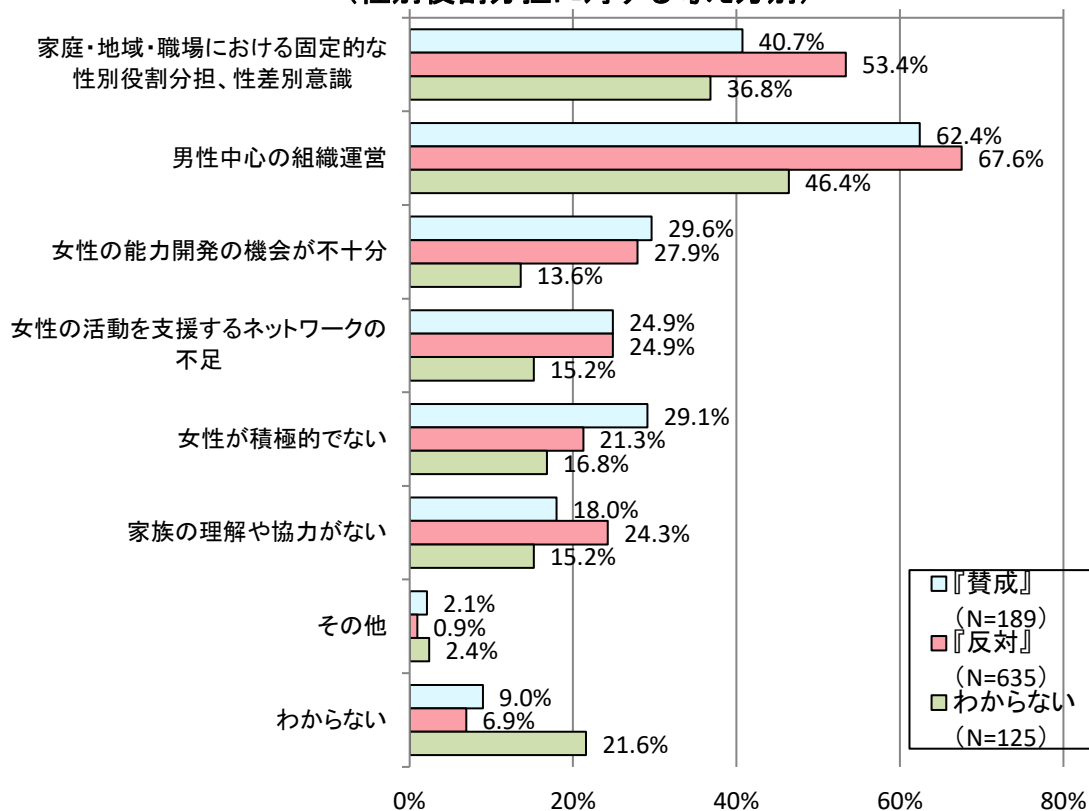
前回調査と比較すると、「男性中心の組織運営」(今回調査：63.3%、前回調査：58.8%)の割合が増加傾向になっている。

政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由



性別役割分担に対する考え方別にみると、「家庭・地域・職場における固定的な性別役割分担、性差別意識」(『賛成』: 40.7%、『反対』: 53.4%)、「男性中心の組織運営」(『賛成』: 62.4%、『反対』: 67.6%)、「家族の理解や協力がでない」(『賛成』: 18.0%、『反対』: 24.3%) では『反対』の割合が『賛成』より高くなっている

政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由 (性別役割分担に対する考え方別)



※ 『賛成』、『反対』については、17 ページ参照

政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由
(性・年代・性別役割分担に対する考え方別) (複数回答)

		サンプル数	政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由								
			家庭的・地域・役割分担・職場における性別意識	男性中心の組織運営	女性の能力開発の機会が不十分	女性の活動を支援するネット	女性が積極的でない	家族の理解や協力が無い	その他	わからない	
全体		993	474 47.7%	629 63.3%	256 25.8%	232 23.4%	219 22.1%	216 21.8%	16 1.6%	94 9.5%	
性・年代別	女性 計	592	288 48.6%	383 64.7%	142 24.0%	143 24.2%	111 18.8%	145 24.5%	8 1.4%	60 10.1%	
	10代・20代	57	34 59.6%	37 64.9%	3 5.3%	11 19.3%	8 14.0%	17 29.8%	2 3.5%	1 1.8%	
	30代	72	43 59.7%	48 66.7%	15 20.8%	19 26.4%	7 9.7%	15 20.8%	1 1.4%	9 12.5%	
	40代	110	66 60.0%	83 75.5%	25 22.7%	23 20.9%	15 13.6%	33 30.0%	3 2.7%	10 9.1%	
	50代	91	53 58.2%	60 65.9%	21 23.1%	15 16.5%	24 26.4%	18 19.8%	1 1.1%	9 9.9%	
	60代	120	52 43.3%	82 68.3%	34 28.3%	34 28.3%	22 18.3%	22 18.3%	0 0.0%	13 10.8%	
	70歳以上	142	40 28.2%	73 51.4%	44 31.0%	41 28.9%	35 24.6%	40 28.2%	1 0.7%	18 12.7%	
	男性 計	391	180 46.0%	241 61.6%	111 28.4%	87 22.3%	106 27.1%	70 17.9%	8 2.0%	31 7.9%	
	10代・20代	33	17 51.5%	17 51.5%	5 15.2%	4 12.1%	4 12.1%	2 6.1%	1 3.0%	6 18.2%	
	30代	40	21 52.5%	23 57.5%	10 25.0%	9 22.5%	13 32.5%	7 17.5%	2 5.0%	3 7.5%	
	40代	57	28 49.1%	34 59.6%	12 21.1%	6 10.5%	14 24.6%	7 12.3%	0 0.0%	9 15.8%	
	50代	62	30 48.4%	37 59.7%	22 35.5%	13 21.0%	18 29.0%	12 19.4%	0 0.0%	2 3.2%	
	60代	91	40 44.0%	68 74.7%	26 28.6%	25 27.5%	24 26.4%	23 25.3%	2 2.2%	3 3.3%	
	70歳以上	108	44 40.7%	62 57.4%	36 33.3%	30 27.8%	33 30.6%	19 17.6%	3 2.8%	8 7.4%	
	対する性別役割分担に 考える方	『賛成』	189	77 40.7%	118 62.4%	56 29.6%	47 24.9%	55 29.1%	34 18.0%	4 2.1%	17 9.0%
		『反対』	635	339 53.4%	429 67.6%	177 27.9%	158 24.9%	135 21.3%	154 24.3%	6 0.9%	44 6.9%
わからない		125	46 36.8%	58 46.4%	17 13.6%	19 15.2%	21 16.8%	19 15.2%	3 2.4%	27 21.6%	

_____% : 各属性内での回答割合が最も高い

(3) 女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われること

【問 32】 女性の意見を政治や行政に十分反映させるためには、どのようなことが最も効果があると思いますか。(複数回答)

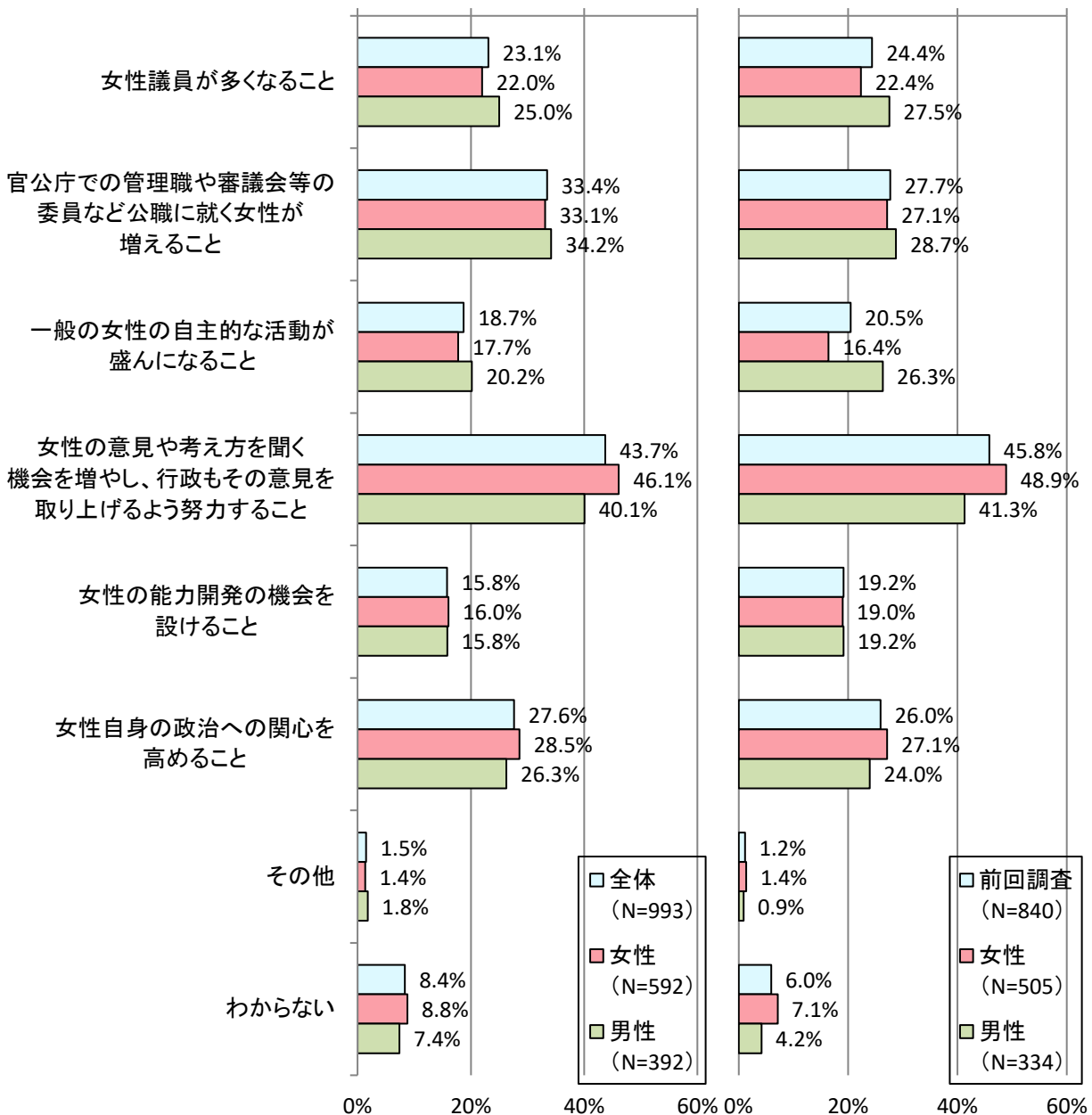
～女性の意見を聞く機会を増やし、行政もその意見を取り上げるよう努力することが4割～

女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われることについてみると、全体では「女性の意見や考え方を聞く機会を増やし、行政もその意見を取り上げるよう努力すること」(43.7%)の割合が最も高く、次いで「官公庁での管理職や審議会等の委員など公職に就く女性が増えること」(33.4%)、「女性自身の政治への関心を高めること」(27.6%)となっている。

性別にみると、「女性の意見や考え方を聞く機会を増やし、行政もその意見を取り上げるよう努力すること」(女性：46.1%、男性：40.1%)で女性の割合が男性より高くなっている。

前回調査と比較すると、「官公庁での管理職や審議会等の委員など公職に就く女性が増えること」(今回調査：33.4%、前回調査：27.7%)の割合が増加傾向になっている。

女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われること



女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われること（全体・性別）

		女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的と思われること								
		女性議員が多くなること	ど官公庁での管理職や審議会等の委員など公務に就く女性が増えること	一般の女性の自主的な活動が盛んになること	努力、女性の意見や考え方を聞き上げる機会を増やすこと	女性の能力開発の機会を設けること	女性自身の政治への関心を高めること	その他	わからない	
全体		993	229 23.1%	332 33.4%	186 18.7%	434 43.7%	157 15.8%	274 27.6%	15 1.5%	83 8.4%
性・年代別	女性計	592	130 22.0%	196 33.1%	105 17.7%	273 46.1%	95 16.0%	169 28.5%	8 1.4%	52 8.8%
	10代・20代	57	18 31.6%	19 33.3%	7 12.3%	29 50.9%	5 8.8%	9 15.8%	1 1.8%	5 8.8%
	30代	72	17 23.6%	23 31.9%	11 15.3%	31 43.1%	15 20.8%	15 20.8%	1 1.4%	11 15.3%
	40代	110	25 22.7%	37 33.6%	24 21.8%	50 45.5%	21 19.1%	28 25.5%	3 2.7%	9 8.2%
	50代	91	11 12.1%	30 33.0%	20 22.0%	46 50.5%	15 16.5%	36 39.6%	2 2.2%	6 6.6%
	60代	120	27 22.5%	41 34.2%	15 12.5%	58 48.3%	20 16.7%	40 33.3%	1 0.8%	12 10.0%
	70歳以上	142	32 22.5%	46 32.4%	28 19.7%	59 41.5%	19 13.4%	41 28.9%	0 0.0%	9 6.3%
	男性計	391	98 25.1%	133 34.0%	79 20.2%	157 40.2%	62 15.9%	102 26.1%	7 1.8%	29 7.4%
	10代・20代	33	12 36.4%	11 33.3%	3 9.1%	14 42.4%	3 9.1%	5 15.2%	0 0.0%	5 15.2%
	30代	40	5 12.5%	14 35.0%	10 25.0%	17 42.5%	9 22.5%	14 35.0%	1 2.5%	2 5.0%
	40代	57	11 19.3%	20 35.1%	14 24.6%	18 31.6%	7 12.3%	13 22.8%	1 1.8%	10 17.5%
	50代	62	18 29.0%	25 40.3%	13 21.0%	27 43.5%	6 9.7%	16 25.8%	1 1.6%	4 6.5%
	60代	91	23 25.3%	33 36.3%	21 23.1%	42 46.2%	15 16.5%	22 24.2%	1 1.1%	4 4.4%
	70歳以上	108	29 26.9%	30 27.8%	18 16.7%	39 36.1%	22 20.4%	32 29.6%	3 2.8%	4 3.7%

_____ % : 各属性内での回答割合が最も高い

8. 人権・暴力について

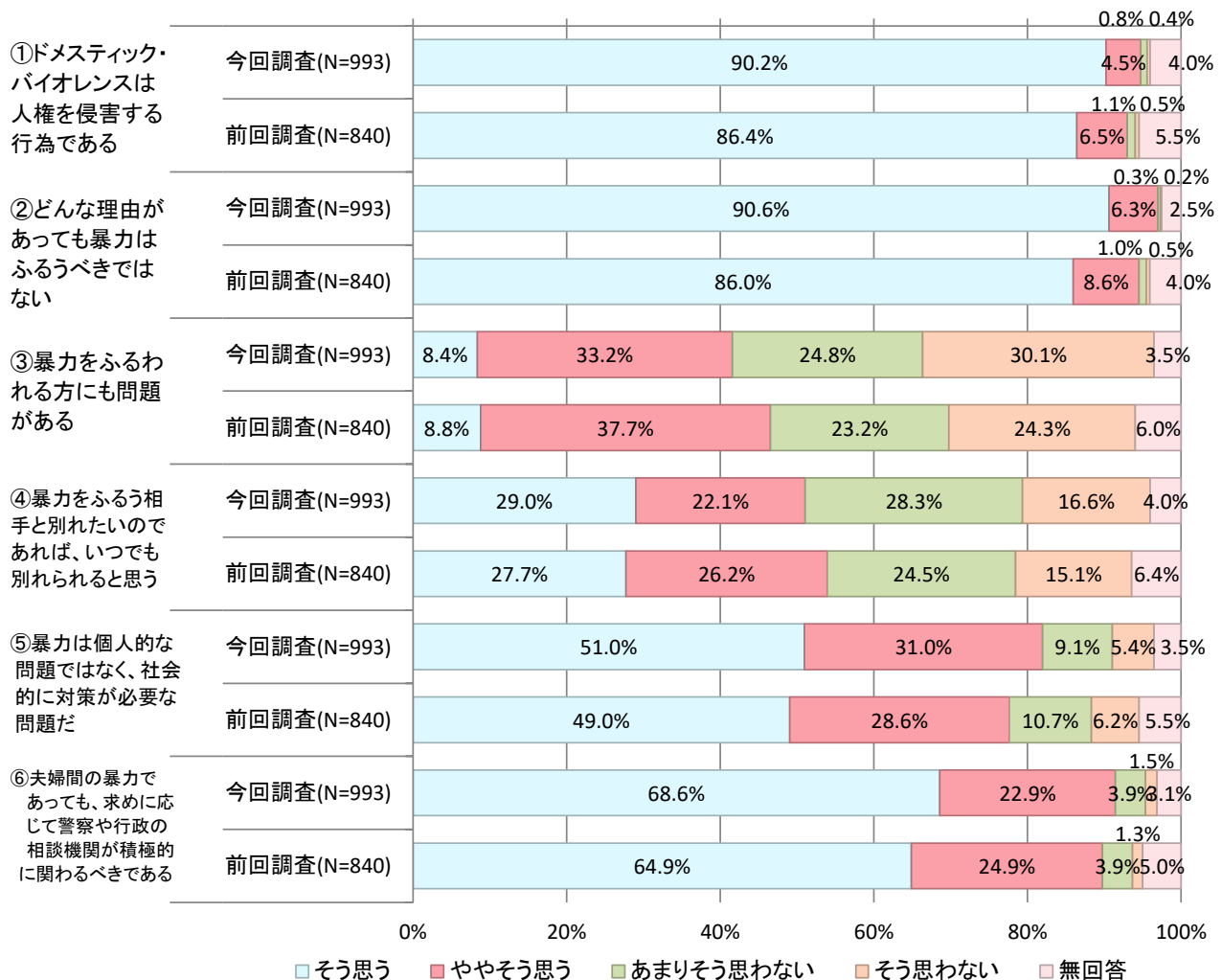
(1) ドメスティック・バイオレンスに対する考え方

【問 33】 配偶者等からの暴力は、多くの場合女性が被害者となっています。このような配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）について、あなたはどのように思いますか。

～9割超の人が「どんな理由があっても暴力をふるうべきではない」と考えている～

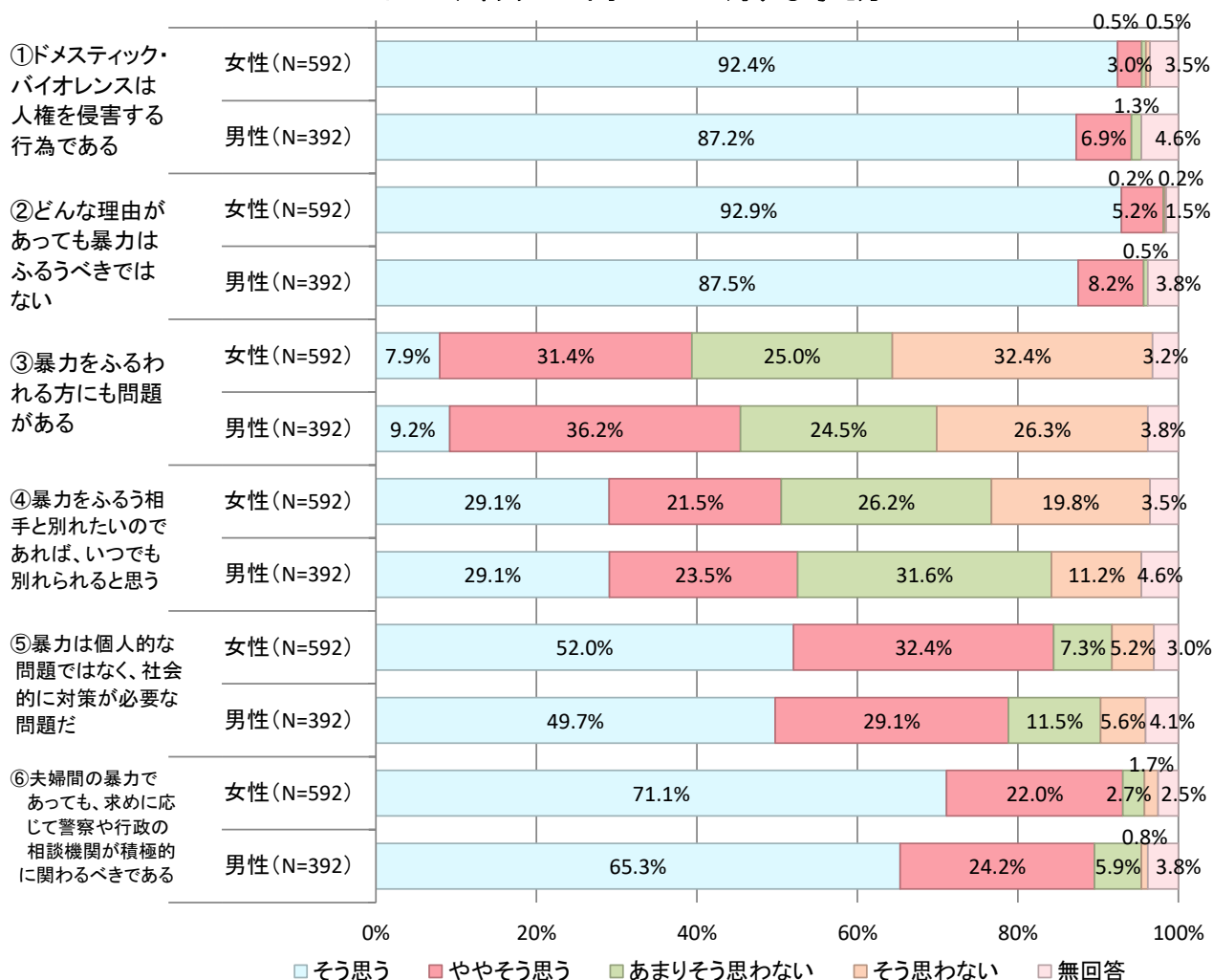
ドメスティック・バイオレンス（DV）に対する考え方についてみると、全体では『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）の割合は「②どんな理由があっても暴力はふるうべきではない」（96.9%）が最も高く、次いで「①ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為である」（94.7%）、「⑥夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の機関が積極的に関わるべきである」（91.5%）となっている。一方、「③暴力をふるわれる方にも問題がある」という考え方には約4割（41.6%）の人が『そう思う』と答えている。

ドメスティック・バイオレンスに対する考え方



性別にみると『そう思う』の割合は「②どんな理由があっても暴力はふるうべきではない」(女性:98.1%、男性:95.7%)、「⑤暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だ」(女性:84.4%、男性:78.8%)、「⑥夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の相談機関が積極的に関わるべきである」(女性:93.1%、男性:89.5%)で女性の割合が男性より高くなっている。一方、「③暴力をふるわれる方にも問題がある」(女性:39.3%、男性45.4%)で男性の割合が女性より高くなっている。

ドメスティック・バイオレンスに対する考え方



性別役割分担に対する考え方別にみると、「⑤暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だ」、「⑥夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の相談機関が積極的に関わるべきである」で性別役割分担に『反対』の方が『賛成』より『そう思う』の割合が高く、「③暴力をふるわれる方にも問題がある」で『反対』が『賛成』より『そう思う』の割合が低くなっている。

※『賛成』、『反対』については、17 ページ参照

ドメスティック・バイオレンスに対する考え方（性・性別役割分担に対する考え方別） 1/3

	サンプル数	①ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為である					②どんな理由があっても暴力はふるうべきではない					
		そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	
全体	993	896	45	8	4	40	900	63	3	2	25	
	100.0%	90.2%	4.5%	0.8%	0.4%	4.0%	90.6%	6.3%	0.3%	0.2%	2.5%	
性別	女性	592	547	18	3	3	21	550	31	1	1	9
	100.0%	92.4%	3.0%	0.5%	0.5%	3.5%	92.9%	5.2%	0.2%	0.2%	1.5%	
性別	男性	392	342	27	5	0	18	343	32	2	0	15
	100.0%	87.2%	6.9%	1.3%	0.0%	4.6%	87.5%	8.2%	0.5%	0.0%	3.8%	
に性別 対する 役割 分担 を考え 方	『賛成』	189	161	12	5	0	11	160	22	2	0	5
	100.0%	85.2%	6.3%	2.6%	0.0%	5.8%	84.7%	11.6%	1.1%	0.0%	2.6%	
	『反対』	635	593	22	1	3	16	594	29	1	1	10
	100.0%	93.4%	3.5%	0.2%	0.5%	2.5%	93.5%	4.6%	0.2%	0.2%	1.6%	
に性別 対する 役割 分担 を考え 方	わからない	125	106	9	1	1	8	108	11	0	1	5
	100.0%	84.8%	7.2%	0.8%	0.8%	6.4%	86.4%	8.8%	0.0%	0.8%	4.0%	

_____%：各属性内での回答割合が最も高い

ドメスティック・バイオレンスに対する考え方（性・性別役割分担に対する考え方別） 2/3

	サンプル数	③暴力をふるわれる方にも問題がある					④暴力をふるう相手と別れたのであれば、いつでも別れられると思う					
		そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	
全体	993	83	330	246	299	35	288	219	281	165	40	
	100.0%	8.4%	33.2%	24.8%	30.1%	3.5%	29.0%	22.1%	28.3%	16.6%	4.0%	
性別	女性	592	47	186	148	192	19	172	127	155	117	21
	100.0%	7.9%	31.4%	25.0%	32.4%	3.2%	29.1%	21.5%	26.2%	19.8%	3.5%	
性別	男性	392	36	142	96	103	15	114	92	124	44	18
	100.0%	9.2%	36.2%	24.5%	26.3%	3.8%	29.1%	23.5%	31.6%	11.2%	4.6%	
に性別 対する 役割 分担 を考え 方	『賛成』	189	25	78	36	43	7	54	48	59	21	7
	100.0%	13.2%	41.3%	19.0%	22.8%	3.7%	28.6%	25.4%	31.2%	11.1%	3.7%	
	『反対』	635	40	197	168	215	15	183	136	180	116	20
	100.0%	6.3%	31.0%	26.5%	33.9%	2.4%	28.8%	21.4%	28.3%	18.3%	3.1%	
に性別 対する 役割 分担 を考え 方	わからない	125	10	44	29	34	8	38	23	37	19	8
	100.0%	8.0%	35.2%	23.2%	27.2%	6.4%	30.4%	18.4%	29.6%	15.2%	6.4%	

_____%：各属性内での回答割合が最も高い

ドメスティック・バイオレンスに対する考え方（性・性別役割分担に対する考え方別） 3/3

	サンプル数	⑤暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だ					⑥夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の相談機関が積極的に関わるべきである					
		そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	
全体	993	506	308	90	54	35	681	227	39	15	31	
	100.0%	51.0%	31.0%	9.1%	5.4%	3.5%	68.6%	22.9%	3.9%	1.5%	3.1%	
性別	女性	592	308	192	43	31	18	421	130	16	10	15
	100.0%	52.0%	32.4%	7.3%	5.2%	3.0%	71.1%	22.0%	2.7%	1.7%	2.5%	
性別	男性	392	195	114	45	22	16	256	95	23	3	15
	100.0%	49.7%	29.1%	11.5%	5.6%	4.1%	65.3%	24.2%	5.9%	0.8%	3.8%	
に性別 対する 役割 分担 を考え 方	『賛成』	189	93	56	22	12	6	112	49	18	4	6
	100.0%	49.2%	29.6%	11.6%	6.3%	3.2%	59.3%	25.9%	9.5%	2.1%	3.2%	
	『反対』	635	340	193	54	32	16	465	136	13	7	14
	100.0%	53.5%	30.4%	8.5%	5.0%	2.5%	73.2%	21.4%	2.0%	1.1%	2.2%	
に性別 対する 役割 分担 を考え 方	わからない	125	55	43	12	8	7	79	31	4	4	7
	100.0%	44.0%	34.4%	9.6%	6.4%	5.6%	63.2%	24.8%	3.2%	3.2%	5.6%	

_____%：各属性内での回答割合が最も高い

(2) 配偶者等からのDVの被害経験の有無

【問 34】 現在または過去に配偶者（結婚していないが一緒に暮らしている場合も含む）がいる（いた）方におたずねします。

～何らかの被害経験が『あった』と答えたのは女性の3人に1人、男性の7人に1人～

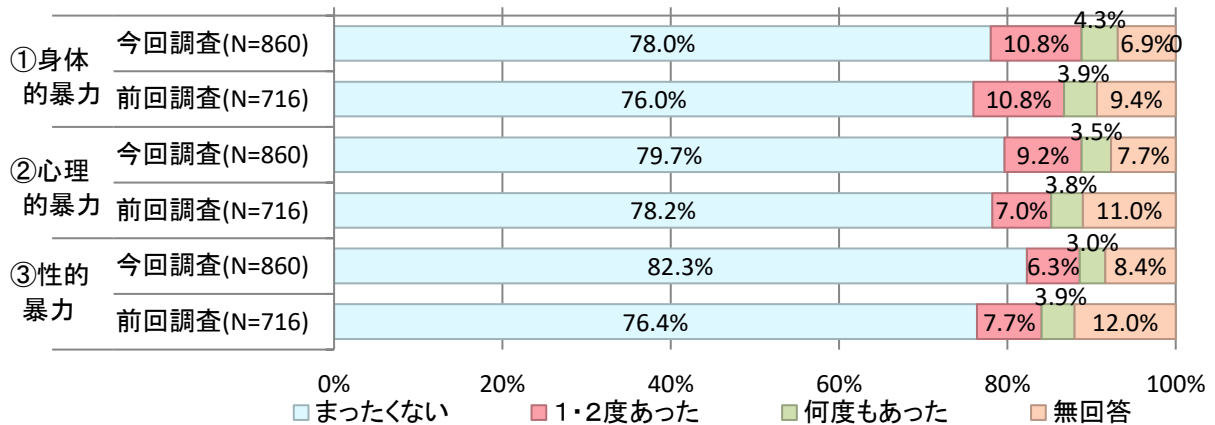
(1) これまで、あなたの配偶者（結婚していないが一緒に暮らしている場合も含む）から次の①～③のようなことをされたことがありますか。

- ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた
- ②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた。あるいは、あなたもしくはあなたの家族に被害がないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた
- ③避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された

配偶者等からのDVの被害経験の有無について、暴力の種類別にみると被害経験が『あった』（「1・2度あった」＋「何度もあった」と答えた割合は「①身体的暴力」（15.1%）が最も高く、次いで「②心理的暴力」（12.7%）、「③性的暴力」（9.3%）となっている。

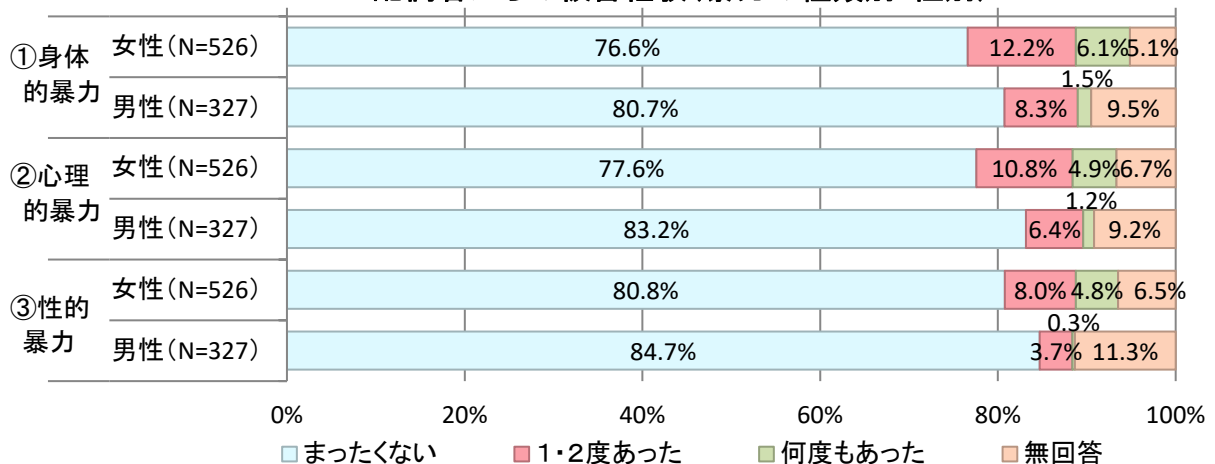
前回調査と比較すると、「③性的暴力」（今回調査：9.3%、前回調査：11.6%）の割合が減少傾向になっているが、「②心理的暴力」（今回調査：12.7%、前回調査：10.8%）の割合が増加傾向になっている。

配偶者からの被害経験（暴力の種類別）



性別、暴力の種類別にみると、何らかの被害経験が『あった』と答えた割合は、いずれも女性の方が被害経験者の割合が高くなっている。

配偶者からの被害経験（暴力の種類別・性別）



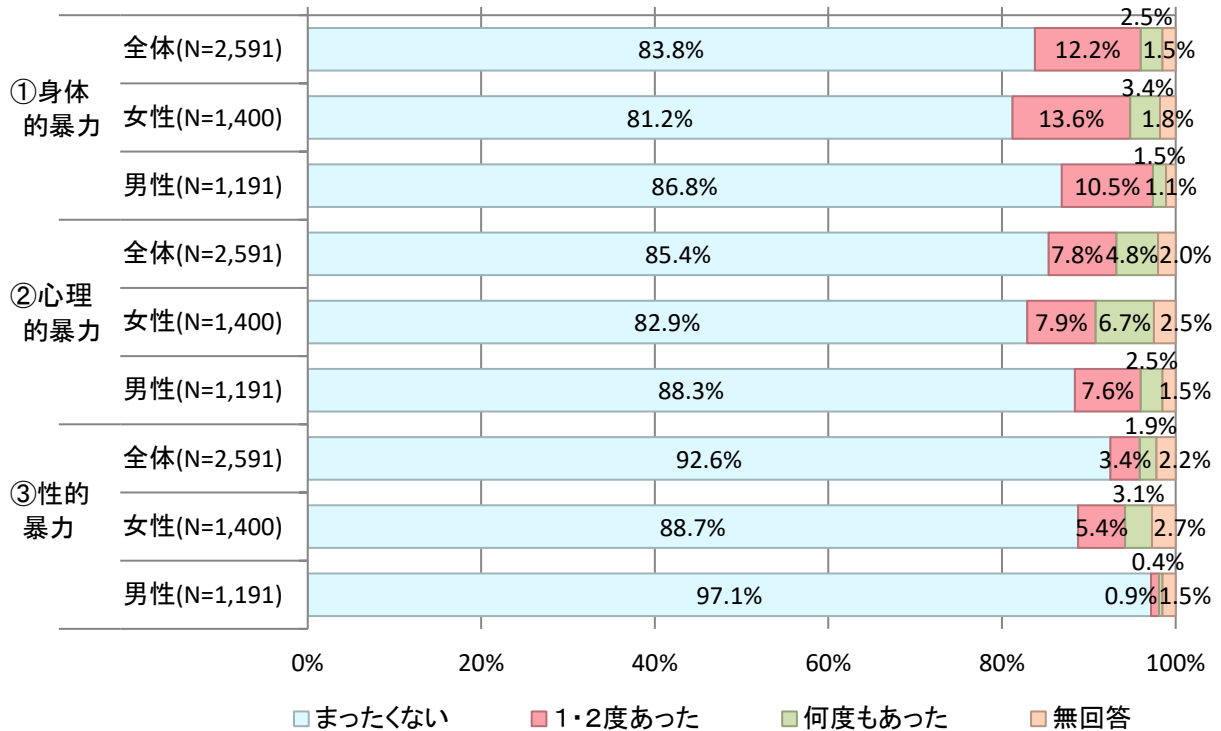
《内閣府DV調査比較》

内閣府DV調査と比較すると、「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりなどの身体に対する暴行を受けた」について『あった』と回答した人は、全体（霧島市：15.1%、内閣府：14.7%）、女性（霧島市：18.3%、内閣府：17.0%）で霧島市が内閣府より高くなっている。

「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」について『あった』と回答した人は、男性（霧島市：7.6%、内閣府：10.1%）で内閣府の方が霧島市より高くなっている。

「避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された」について『あった』と回答した人は、全体（霧島市9.3%、内閣府：5.3%）で霧島市が内閣府より割合が高くなっている。

配偶者からの被害経験の有無(内閣府DV調査(R2))



配偶者等からのDVの被害経験の有無（性・年代別）

	サンプル数	①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた				②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害がないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた				③避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された			
		まったくくない	1・2度あった	何度もあった	無回答	まったくくない	1・2度あった	何度もあった	無回答	まったくくない	1・2度あった	何度もあった	無回答
全体	860	671	93	37	59	685	79	30	66	708	54	26	72
	100.0%	78.0%	10.8%	4.3%	6.9%	79.7%	9.2%	3.5%	7.7%	82.3%	6.3%	3.0%	8.4%
女性 計	526	403	64	32	27	408	57	26	35	425	42	25	34
	100.0%	76.6%	12.2%	6.1%	5.1%	77.6%	10.8%	4.9%	6.7%	80.8%	8.0%	4.8%	6.5%
10代・20代	20	19	1	0	0	19	1	0	0	20	0	0	0
	100.0%	95.0%	5.0%	0.0%	0.0%	95.0%	5.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30代	64	54	6	2	2	47	11	4	2	58	1	3	2
	100.0%	84.4%	9.4%	3.1%	3.1%	73.4%	17.2%	6.3%	3.1%	90.6%	1.6%	4.7%	3.1%
40代	103	86	9	7	1	85	10	7	1	88	10	4	1
	100.0%	83.5%	8.7%	6.8%	1.0%	82.5%	9.7%	6.8%	1.0%	85.4%	9.7%	3.9%	1.0%
50代	87	73	11	0	3	72	8	4	3	71	9	4	3
	100.0%	83.9%	12.6%	0.0%	3.4%	82.8%	9.2%	4.6%	3.4%	81.6%	10.3%	4.6%	3.4%
60代	113	78	18	11	6	86	12	5	10	86	10	8	9
	100.0%	69.0%	15.9%	9.7%	5.3%	76.1%	10.6%	4.4%	8.8%	76.1%	8.8%	7.1%	8.0%
70歳以上	139	93	19	12	15	99	15	6	19	102	12	6	19
	100.0%	66.9%	13.7%	8.6%	10.8%	71.2%	10.8%	4.3%	13.7%	73.4%	8.6%	4.3%	13.7%
男性 計	326	263	27	5	31	271	21	4	30	276	12	1	37
	100.0%	80.7%	8.3%	1.5%	9.5%	83.1%	6.4%	1.2%	9.2%	84.7%	3.7%	0.3%	11.3%
10代・20代	10	9	1	0	0	10	0	0	0	10	0	0	0
	100.0%	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30代	24	21	2	1	0	22	2	0	0	23	1	0	0
	100.0%	87.5%	8.3%	4.2%	0.0%	91.7%	8.3%	0.0%	0.0%	95.8%	4.2%	0.0%	0.0%
40代	48	42	5	1	0	44	3	1	0	47	1	0	0
	100.0%	87.5%	10.4%	2.1%	0.0%	91.7%	6.3%	2.1%	0.0%	97.9%	2.1%	0.0%	0.0%
50代	56	52	2	0	2	53	1	0	2	53	0	0	3
	100.0%	92.9%	3.6%	0.0%	3.6%	94.6%	1.8%	0.0%	3.6%	94.6%	0.0%	0.0%	5.4%
60代	86	65	9	1	11	70	5	2	9	71	4	0	11
	100.0%	75.6%	10.5%	1.2%	12.8%	81.4%	5.8%	2.3%	10.5%	82.6%	4.7%	0.0%	12.8%
70歳以上	102	74	8	2	18	72	10	1	19	72	6	1	23
	100.0%	72.5%	7.8%	2.0%	17.6%	70.6%	9.8%	1.0%	18.6%	70.6%	5.9%	1.0%	22.5%

％：各属性内での回答割合が最も高い

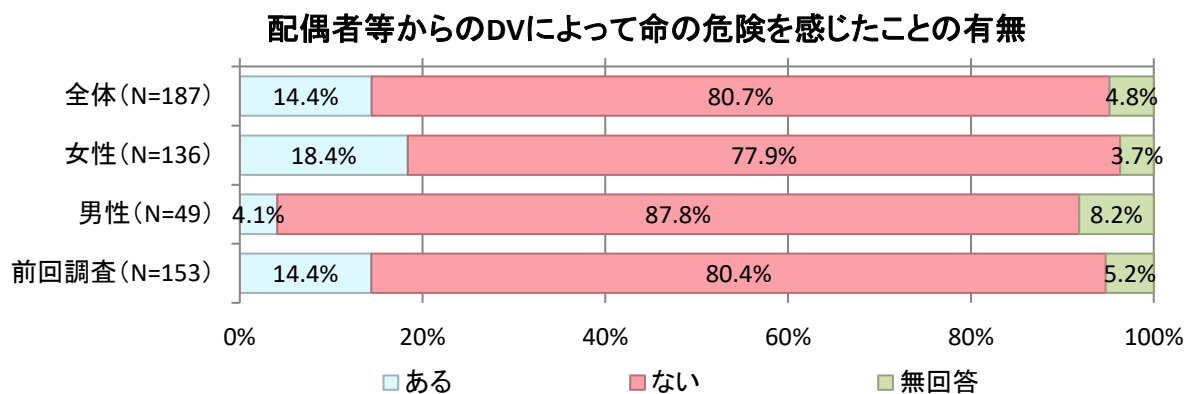
(3) 配偶者等からのDVにより命の危険を感じたことの有無

(2) 問34(1)で「1・2度あった」「何度もあった」と答えた方におたずねします。

①その相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。

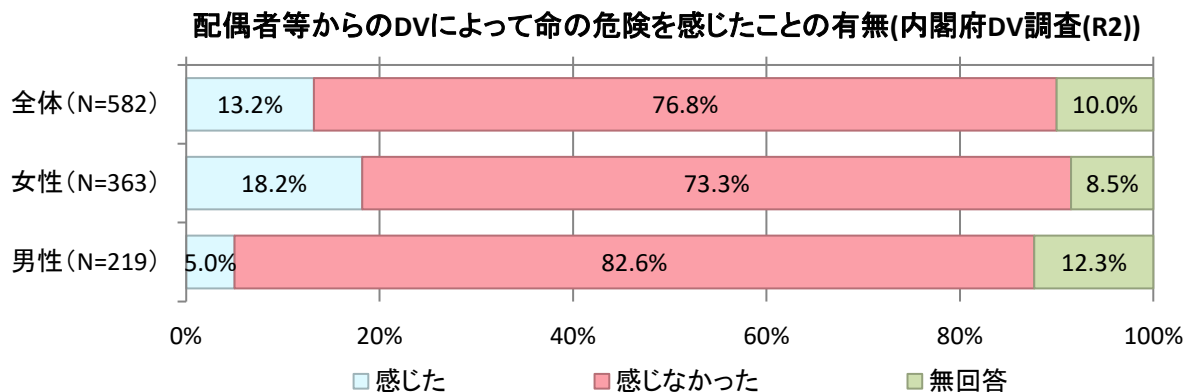
配偶者等からのDVによって命の危険を感じたことの有無についてみると、全体では「ある」が14.4%、「ない」が80.7%となっている。

性別にみると「ある」(女性：18.4%、男性：4.1%)と答えた割合は女性が男性より高くなっている。前回調査と比較しても大きな差異はなかった。



《内閣府DV調査比較》

内閣府DV調査と比較すると全体では「ある」(感じた)(霧島市：14.4%、内閣府DV調査：13.2%)と答えた割合が霧島市の方が高くなっているが、性別にみると「ある」(感じた)と答えた男性(霧島市：4.1%、内閣府DV調査：5.0%)の割合は内閣府DV調査の方が高くなっている。



配偶者等からのDVによって命の危険を感じたことの有無（性・年代別）

		サンプル数	配偶者等からのDVによって命の危険を感じたことの有無		
			ある	ない	無回答
全体		187	27	151	9
		100.0%	14.4%	80.7%	4.8%
性・年代別	女性計	136	25	106	5
		100.0%	18.4%	77.9%	3.7%
	10代・20代	2	0	2	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	30代	18	1	16	1
		100.0%	5.6%	88.9%	5.6%
	40代	22	8	14	0
		100.0%	36.4%	63.6%	0.0%
	50代	21	3	16	2
		100.0%	14.3%	76.2%	9.5%
	60代	36	6	29	1
		100.0%	16.7%	80.6%	2.8%
	70歳以上	37	7	29	1
		100.0%	18.9%	78.4%	2.7%
	男性計	49	2	43	4
		100.0%	4.1%	87.8%	8.2%
	10代・20代	1	0	1	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
30代	5	1	3	1	
	100.0%	20.0%	60.0%	20.0%	
40代	9	0	9	0	
	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
50代	2	0	2	0	
	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
60代	14	0	14	0	
	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
70歳以上	18	1	14	3	
	100.0%	5.6%	77.8%	16.7%	

_____%：各属性内での回答割合が最も高い

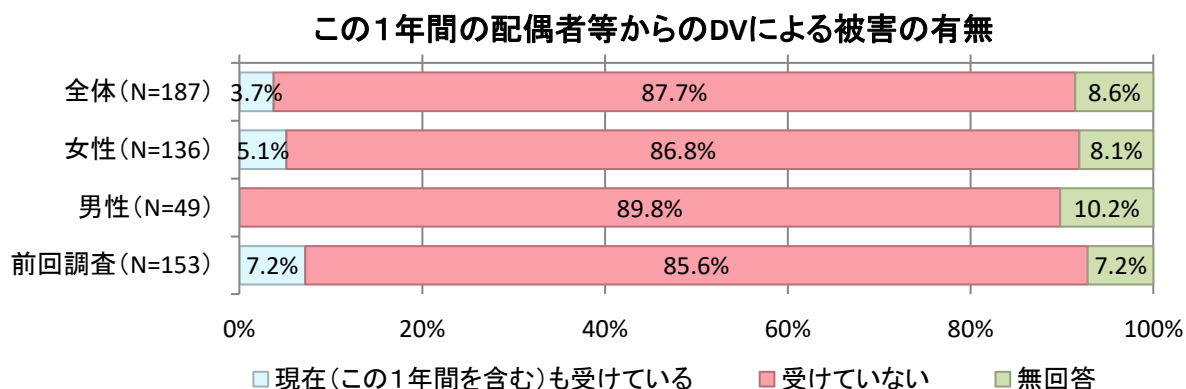
(4) この1年間の配偶者等からのDVによる被害の有無

②問34(1)のような暴力を、現在(この1年間を含む)も受けていますか。

この1年間の配偶者等からのDVによる被害の有無についてみると、全体では「現在(この1年間を含む)も受けている」が3.7%、「受けていない」87.7%となっている。

性別でみると「現在(この1年間を含む)も受けている」(女性:5.1%、男性:0%)と回答は女性のみとなっている。

前回調査と比較すると、「現在(この1年間を含む)も受けている」(今回調査:3.7%、前回調査:7.2%)の割合が減少傾向になっている。



この1年間の配偶者等からのDVによる被害の有無（性・年代別）

	サンプル数	この1年間の配偶者等からのDVによる被害の有無			
		現在（この1年間を含む）も受けている	受けていない	無回答	
全体	187	7	164	16	
	100.0%	3.7%	87.7%	8.6%	
性・年代別	女性計	136	7	118	11
		100.0%	5.1%	86.8%	8.1%
	10代・20代	2	0	2	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	30代	18	2	15	1
		100.0%	11.1%	83.3%	5.6%
	40代	22	2	20	0
		100.0%	9.1%	90.9%	0.0%
	50代	21	0	20	1
		100.0%	0.0%	95.2%	4.8%
	60代	36	3	30	3
		100.0%	8.3%	83.3%	8.3%
	70歳以上	37	0	31	6
		100.0%	0.0%	83.8%	16.2%
	男性計	49	0	44	5
		100.0%	0.0%	89.8%	10.2%
10代・20代	1	0	1	0	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
30代	5	0	4	1	
	100.0%	0.0%	80.0%	20.0%	
40代	9	0	9	0	
	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
50代	2	0	2	0	
	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
60代	14	0	13	1	
	100.0%	0.0%	92.9%	7.1%	
70歳以上	18	0	15	3	
	100.0%	0.0%	83.3%	16.7%	

％：各属性内での回答割合が最も高い

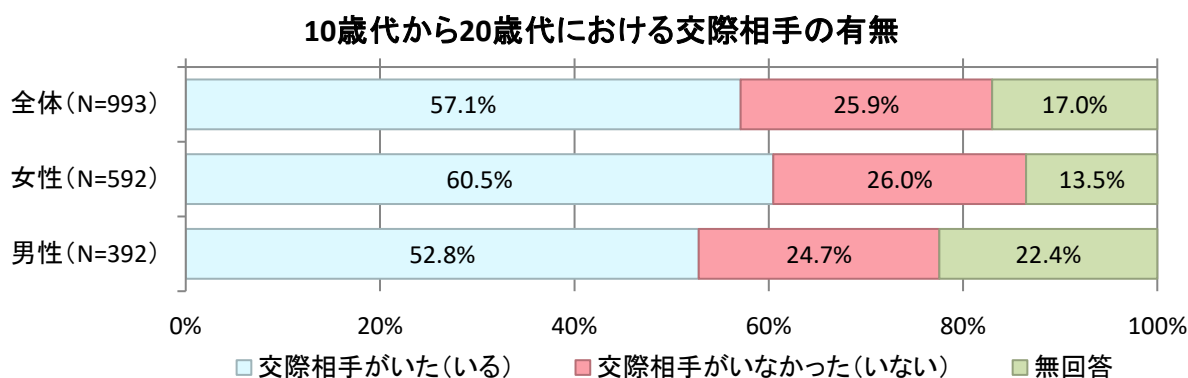
(5) 10歳代から20歳代における交際相手の有無

【問 35】 あなたの10歳代から20歳代の経験についてお聞きします。結婚している方、結婚したことのある方については、結婚前についてお答えください。あなたは、その当時、交際相手がありましたか。

～交際相手があった（いる）割合の方が高い～

10歳代から20歳代における交際相手の有無についてみると、全体では「交際相手があった（いる）」が57.1%、「交際相手がいなかった（いない）」が25.9%となっている。

性別にみると、「交際相手があった（いる）」（女性：60.5%、男性：52.8%）の割合は女性が男性より高くなっている。



10歳代から20歳代における交際相手の有無（性・年代別）

	サンプル数	10歳代から20歳代における交際相手の有無			
		交際相手がい た（いる）	交際相手がい なかつた（い ない）	無 回 答	
全体	993	567	257	169	
	100.0%	57.1%	25.9%	17.0%	
性・年代別	女性計	592	358	154	80
		100.0%	60.5%	26.0%	13.5%
	10代・20代	57	40	10	7
		100.0%	70.2%	17.5%	12.3%
	30代	72	58	6	8
		100.0%	80.6%	8.3%	11.1%
	40代	110	89	13	8
		100.0%	80.9%	11.8%	7.3%
	50代	91	68	12	11
		100.0%	74.7%	13.2%	12.1%
	60代	120	60	44	16
		100.0%	50.0%	36.7%	13.3%
	70歳以上	142	43	69	30
		100.0%	30.3%	48.6%	21.1%
	男性計	392	207	97	88
		100.0%	52.8%	24.7%	22.4%
10代・20代	33	10	16	7	
	100.0%	30.3%	48.5%	21.2%	
30代	40	27	9	4	
	100.0%	67.5%	22.5%	10.0%	
40代	57	46	5	6	
	100.0%	80.7%	8.8%	10.5%	
50代	62	42	7	13	
	100.0%	67.7%	11.3%	21.0%	
60代	91	44	26	21	
	100.0%	48.4%	28.6%	23.1%	
70歳以上	108	37	34	37	
	100.0%	34.3%	31.5%	34.3%	

％：各属性内での回答割合が最も高い

(6) 10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無

【問36】 問35で「交際相手がいた「いる」と答えた方におたずねします。

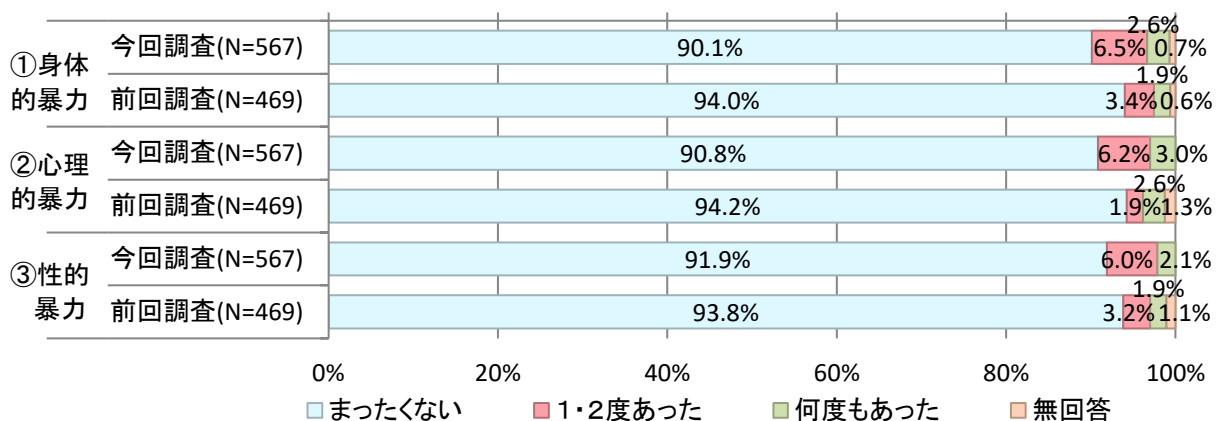
～何らかの被害経験が『あった』と答えたのは、女性の8人に1人～

- (1) あなたは、10歳代または20歳代に、あなたの恋人や元恋人などの交際相手から、①～③のようなことをされたことがありますか。
- ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた
 - ②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた。あるいは、あなたもしくはあなたの家族に被害がないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた
 - ③避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された

10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無について、暴力の種類別にみると被害経験が『あった』（「1・2度あった」＋「何度もあった」）と答えた割合は「②心理的暴力」（9.2%）が最も高く、次いで「①身体的暴力」（9.1%）、「③性的暴力」（8.1%）となっている。

前回調査と比較すると、すべての項目で割合が増加傾向になっている。

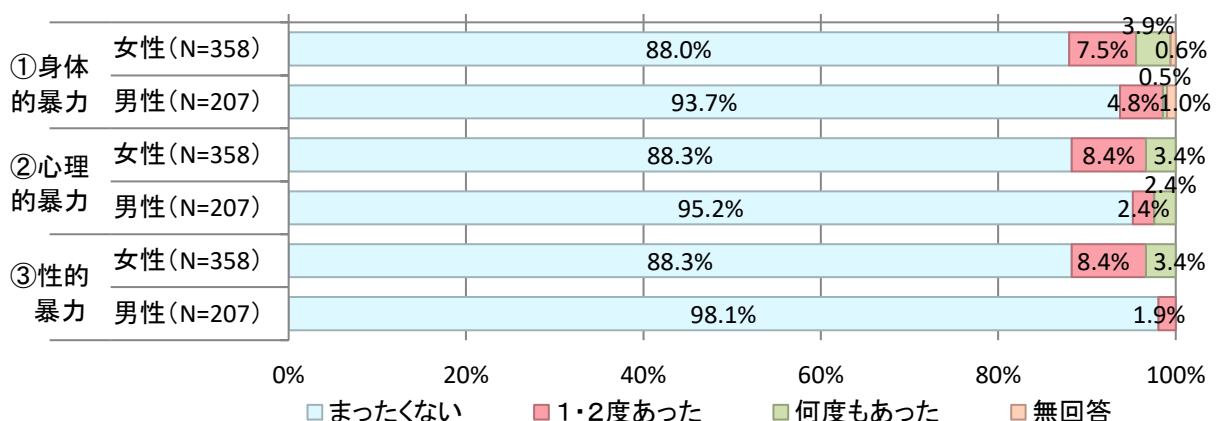
10歳代から20歳代における交際相手からの被害経験（暴力の種類別）



10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無（性別・暴力の種類別・性別）

性別、暴力の種類別にみると、何らかの被害経験が『あった』と答えた割合は、いずれも女性の方が被害経験者の割合が高くなっている。

10歳代から20歳代における交際相手からの被害経験（性別）



10歳代から20歳代における交際相手からDVの被害経験の有無（性・年代別）

	サンプル数	①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた				②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害がないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた				③避妊に協力しなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要された				
		まったくくない	1・2度あった	何度もあった	無回答	まったくくない	1・2度あった	何度もあった	無回答	まったくくない	1・2度あった	何度もあった	無回答	
全体	567	511	37	15	4	515	35	17	0	521	34	12	0	
	100.0%	90.1%	6.5%	2.6%	0.7%	90.8%	6.2%	3.0%	0.0%	91.9%	6.0%	2.1%	0.0%	
性・年代別	女性計	358	315	27	14	2	316	30	12	0	316	30	12	0
		100.0%	88.0%	7.5%	3.9%	0.6%	88.3%	8.4%	3.4%	0.0%	88.3%	8.4%	3.4%	0.0%
	10代・20代	115	35	4	1	0	34	4	2	0	35	3	2	0
		100.0%	30.4%	3.5%	0.9%	0.0%	29.6%	3.5%	1.7%	0.0%	30.4%	2.6%	1.7%	0.0%
	30代	58	49	7	2	0	50	6	2	0	50	6	2	0
		100.0%	84.5%	12.1%	3.4%	0.0%	86.2%	10.3%	3.4%	0.0%	86.2%	10.3%	3.4%	0.0%
	40代	89	74	8	7	0	75	10	4	0	76	10	3	0
		100.0%	83.1%	9.0%	7.9%	0.0%	84.3%	11.2%	4.5%	0.0%	85.4%	11.2%	3.4%	0.0%
	50代	68	64	3	1	0	62	5	1	0	60	6	2	0
		100.0%	94.1%	4.4%	1.5%	0.0%	91.2%	7.4%	1.5%	0.0%	88.2%	8.8%	2.9%	0.0%
	60代	60	54	3	3	0	55	2	3	0	54	3	3	0
		100.0%	90.0%	5.0%	5.0%	0.0%	91.7%	3.3%	5.0%	0.0%	90.0%	5.0%	5.0%	0.0%
	70歳以上	43	39	2	0	2	40	3	0	0	41	2	0	0
		100.0%	90.7%	4.7%	0.0%	4.7%	93.0%	7.0%	0.0%	0.0%	95.3%	4.7%	0.0%	0.0%
	男性計	207	194	10	1	2	197	5	5	0	203	4	0	0
		100.0%	93.7%	4.8%	0.5%	1.0%	95.2%	2.4%	2.4%	0.0%	98.1%	1.9%	0.0%	0.0%
	10代・20代	30	10	0	0	0	10	0	0	0	10	0	0	0
		100.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	30代	27	24	3	0	0	27	0	0	0	27	0	0	0
	100.0%	88.9%	11.1%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
40代	46	44	2	0	0	40	4	2	0	46	0	0	0	
	100.0%	95.7%	4.3%	0.0%	0.0%	87.0%	8.7%	4.3%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
50代	42	40	1	0	1	40	0	2	0	40	2	0	0	
	100.0%	95.2%	2.4%	0.0%	2.4%	95.2%	0.0%	4.8%	0.0%	95.2%	4.8%	0.0%	0.0%	
60代	44	40	3	1	0	42	1	1	0	43	1	0	0	
	100.0%	90.9%	6.8%	2.3%	0.0%	95.5%	2.3%	2.3%	0.0%	97.7%	2.3%	0.0%	0.0%	
70歳以上	37	35	1	0	1	37	0	0	0	36	1	0	0	
	100.0%	94.6%	2.7%	0.0%	2.7%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	97.3%	2.7%	0.0%	0.0%	

％：各属性内での回答割合が最も高い

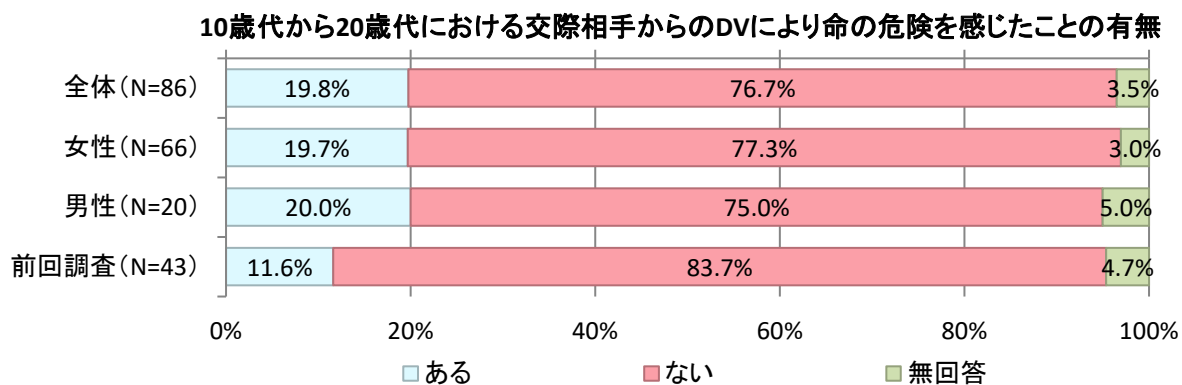
(7) 10歳代から20歳代における交際相手からのDVにより命の危険を感じたことの有無

(2) その相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。

交際相手からのDVによって命の危険を感じたことの有無についてみると、全体では「ある」が19.8%、「ない」が76.7%となっている

性別にみると男女に大きな差異はなかった。

前回調査と比較すると、「ある」の割合が増加傾向になり、「ない」の割合が減少傾向になっている。



10歳代から20歳代における交際相手からのDVにより命の危険を感じたことの有無（性・年代別）

		サンプル数	10歳代から20歳代における交際相手からのDVにより命の危険を感じたことの有無		
			ある	ない	無回答
全体		86 100.0%	17 19.8%	66 76.7%	3 3.5%
性・年代別	女性計	66 100.0%	13 19.7%	51 77.3%	2 3.0%
	10代・20代	10 100.0%	0 0.0%	9 90.0%	1 10.0%
	30代	15 100.0%	3 20.0%	12 80.0%	0 0.0%
	40代	20 100.0%	7 35.0%	12 60.0%	1 5.0%
	50代	11 100.0%	1 9.1%	10 90.9%	0 0.0%
	60代	6 100.0%	2 33.3%	4 66.7%	0 0.0%
	70歳以上	4 0.0%	0 0.0%	4 0.0%	0 0.0%
	男性計	20 100.0%	4 20.0%	15 75.0%	1 5.0%
	10代・20代	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	30代	3 100.0%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%
	40代	7 100.0%	2 28.6%	5 71.4%	0 0.0%
	50代	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%
	60代	6 100.0%	2 33.3%	4 66.7%	0 0.0%
	70歳以上	2 100.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%

_____ % : 各属性内での回答割合が最も高い

(8) DVにあった際の相談の有無

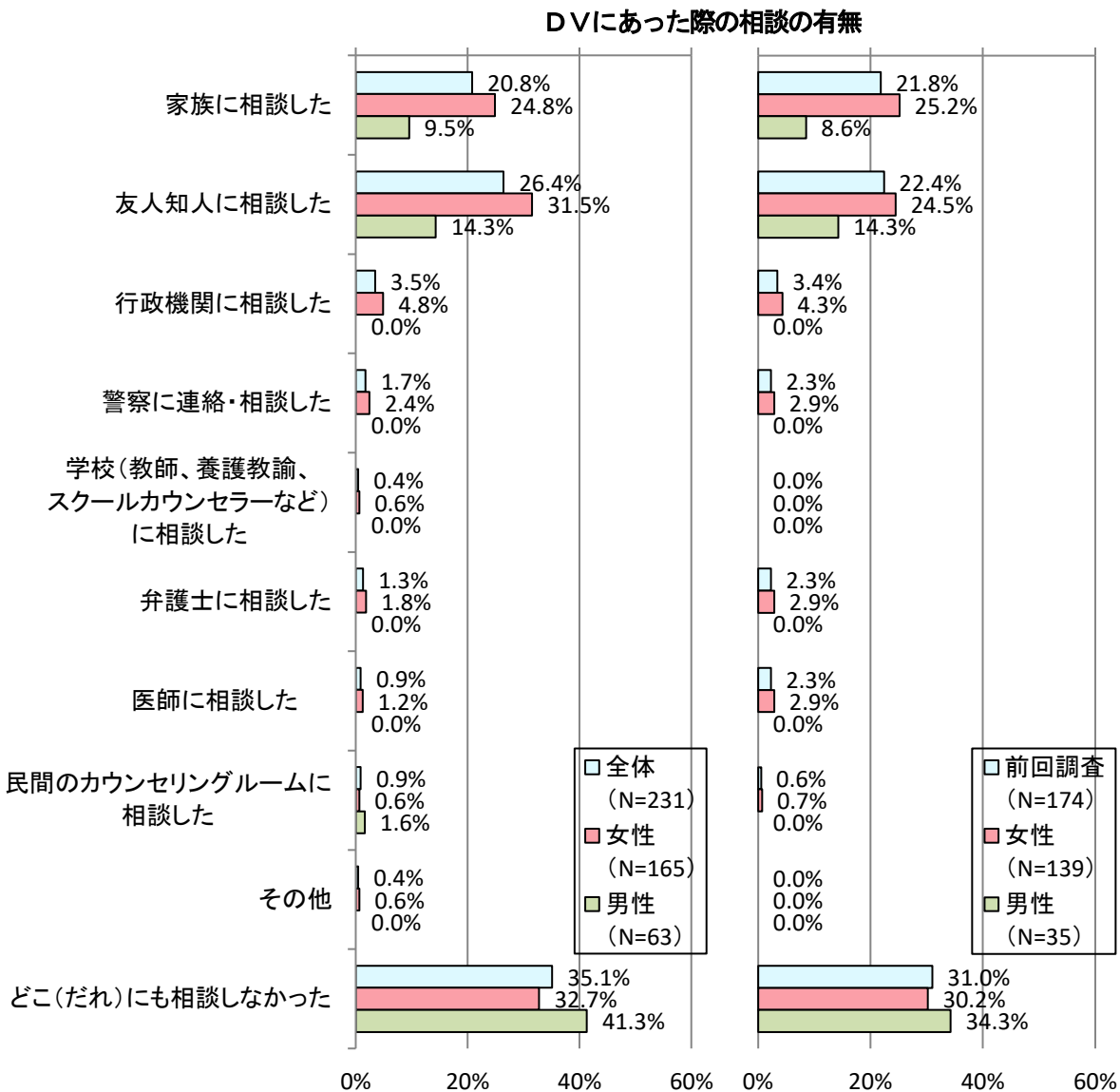
【問37】 問34(1)または問36(1)で「1・2度あった」「何度もあった」答えた方におたずねします。あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(複数回答)

～DV被害者の5割近くが友人・知人・家族に相談～

DVにあった際の相談の有無についてみると、全体では「どこ(だれ)にも相談しなかった」(35.1%)の割合が最も高く、次いで「友人・知人に相談した」(26.4%)、「家族に相談した」(20.8%)となっており、その他の項目の割合は4%未満に留まっている。

性別にみると、「家族に相談した」(女性:24.8%、男性9.5%)、「友人知人に相談した」(女性:31.5%、男性14.3%)で女性の割合が男性より高く、「どこ(だれ)にも相談しなかった」(女性:32.7%、男性:41.3%)で男性の割合が女性より高くなっている。

前回調査と比較すると、「どこ(だれ)にも相談しなかった」(今回調査:35.1%、前回調査:31.0%)、「友人知人に相談した」(今回調査:26.4%、前回調査:22.4%)の割合が増加傾向になっている。



DVにあった際の相談の有無（性・年代別）（複数回答）

		サンプル数	DVにあった際の相談の有無									
			家族に相談した	友人知人に相談した	行政機関に相談した	警察に連絡・相談した	学校（教師、養護教諭、スクールカウンセラーなど）に相談した	弁護士に相談した	医師に相談した	民間のカウンセリングルームに相談した	その他	どこ（だれ）にも相談しなかった
全体		231	48 20.8%	61 26.4%	8 3.5%	4 1.7%	1 0.4%	3 1.3%	2 0.9%	2 0.9%	1 0.4%	81 35.1%
性・年代別	女性計	165	41 24.8%	52 31.5%	8 4.8%	4 2.4%	1 0.6%	3 1.8%	2 1.2%	1 0.6%	1 0.6%	54 32.7%
	10代・20代	11	5 45.5%	6 54.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 27.3%
	30代	24	6 25.0%	10 41.7%	1 4.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.2%	0 0.0%	0 0.0%	7 29.2%
	40代	30	12 40.0%	16 53.3%	3 10.0%	2 6.7%	0 0.0%	3 10.0%	1 3.3%	0 0.0%	0 0.0%	5 16.7%
	50代	25	5 20.0%	7 28.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.0%	11 44.0%
	60代	38	8 21.1%	7 18.4%	2 5.3%	2 5.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.6%	0 0.0%	16 42.1%
	70歳以上	37	5 13.5%	6 16.2%	2 5.4%	0 0.0%	1 2.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 32.4%
	男性計	63	6 9.5%	9 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.6%	0 0.0%	26 41.3%
	10代・20代	1	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	30代	9	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 55.6%
	40代	13	4 30.8%	4 30.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 38.5%
	50代	3	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%
	60代	17	0 0.0%	2 11.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 47.1%
	70歳以上	20	1 5.0%	2 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.0%	0 0.0%	6 30.0%

％：各属性内での回答割合が最も高い

(9) DVにあった際、どこ（だれ）にも相談しなかった理由

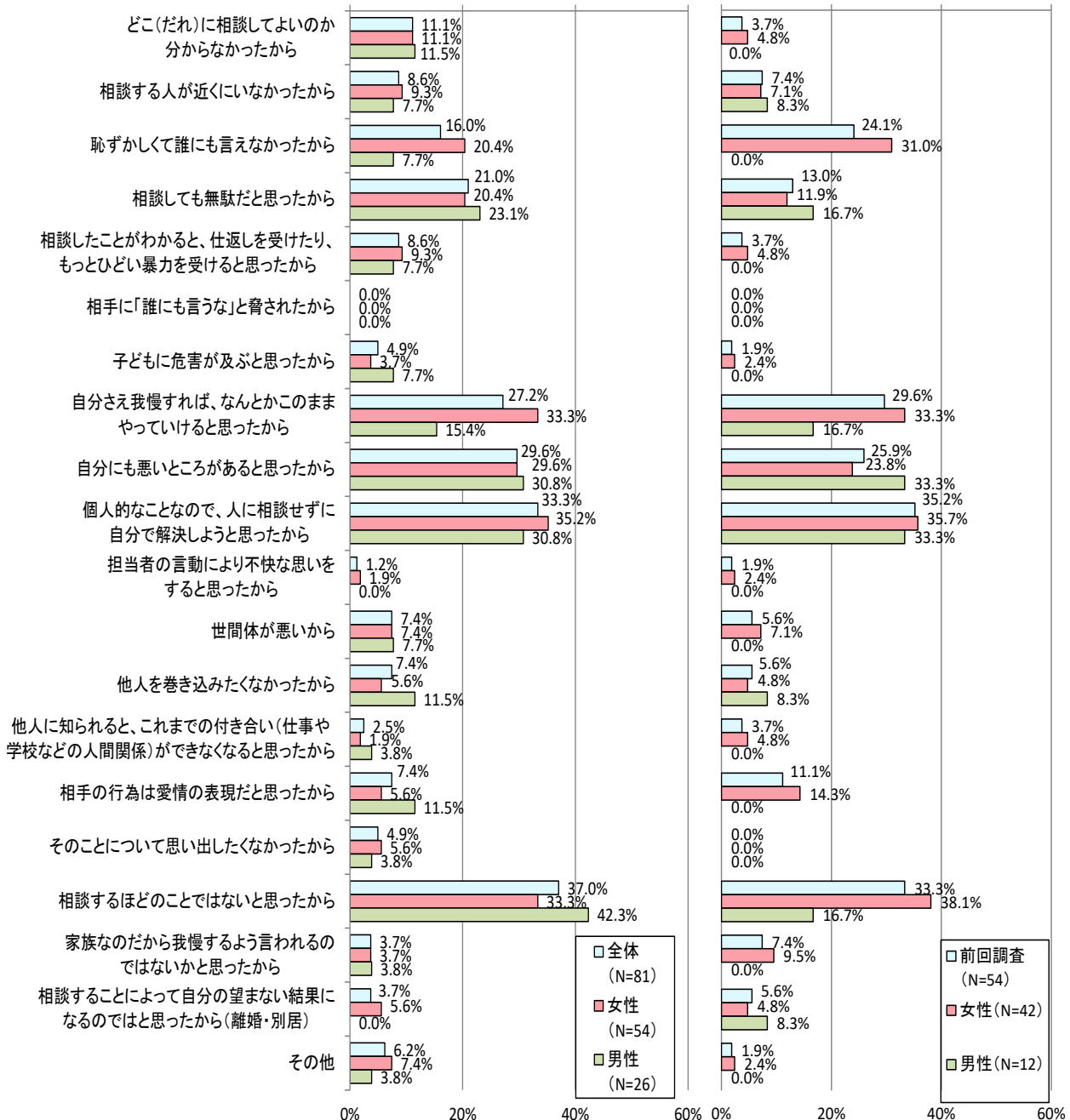
【問38】 問37で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（複数回答）

～相談するほどのことではないと思ったからが約4割～

DVにあった際、どこ（だれ）にも相談しなかった理由についてみると、全体では「相談するほどのことではないと思ったから」（37.0%）の割合が最も高く、次いで「個人的なことなので、人に相談せずに自分で解決しようと思ったから」（33.3%）、「自分にも悪いところがあると思ったから」（29.6%）となっている。

前回調査と比較すると、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」（今回調査：16.0%、前回調査：24.1%）、の割合が減少傾向になっている。一方、「相談しても無駄だと思ったから」（今回調査：21.0%、前回調査：13.0%）、「自分にも悪いところがあると思ったから」（今回調査：29.6%、前回調査：25.9%）、「相談するほどのことではないと思ったから」（今回調査：37.0%、前回調査：33.3%）の割合が増加傾向になっている。

DVにあった際、どこ（だれ）にも相談しなかった理由



DVにあった際、どこ（だれ）にも相談しなかった理由（性・年代別）（複数回答）1/2

		DVにあった際、どこ（だれ）にも相談しなかった理由											
		サンプル数	からどこ（だれ）に相談してよいか分	相談する人が近くにいなかったから	ら恥ずかしくて誰にも言えなかったか	相談しても無駄だと思ったから	受けたら、もつとひどい暴力を受け	相談したことがわかると、仕返しを	から相手に「誰にも言うな」と脅された	子どもに危害が及ぶと思ったから	ま自分さえ我慢すれば、なんとかこの	から自分にも悪いところがあると思った	に個人的なことでないので、人に相談せず
全体		81	9 11.1%	7 8.6%	13 16.0%	17 21.0%	7 8.6%	0 0.0%	4 4.9%	22 27.2%	24 29.6%	27 33.3%	
性・年代別	女性計	54	6 11.1%	5 9.3%	11 20.4%	11 20.4%	5 9.3%	0 0.0%	2 3.7%	18 33.3%	16 29.6%	19 35.2%	
	10代・20代	3	1 33.3%	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	2 66.7%	3 100.0%	
	30代	7	0 0.0%	1 14.3%	1 14.3%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	4 57.1%	5 71.4%	3 42.9%	
	40代	5	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	3 60.0%	3 60.0%	
	50代	11	1 9.1%	1 9.1%	1 9.1%	3 27.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 36.4%	1 9.1%	4 36.4%	
	60代	16	3 18.8%	3 18.8%	4 25.0%	3 18.8%	1 6.3%	0 0.0%	1 6.3%	4 25.0%	4 25.0%	5 31.3%	
	70歳以上	12	1 8.3%	0 0.0%	3 25.0%	3 25.0%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	4 33.3%	1 8.3%	1 8.3%	
	男性計	26	3 11.5%	2 7.7%	2 7.7%	6 23.1%	2 7.7%	0 0.0%	2 7.7%	4 15.4%	8 30.8%	8 30.8%	
	10代・20代	0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	30代	5	1 20.0%	1 20.0%	1 20.0%	2 40.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%	3 60.0%	
	40代	5	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	1 20.0%	
	50代	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	2 100.0%	1 50.0%	
	60代	8	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	2 25.0%	2 25.0%	
	70歳以上	6	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	2 33.3%	1 16.7%	

_____ % : 各属性内での回答割合が最も高い

DVにあった際、どこ（だれ）にも相談しなかった理由（性・年代別）（複数回答）2/2

		DVにあった際、どこ（だれ）にも相談しなかった理由										
		担当者の言動により不快な思いを する から	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったから	合 い （ 仕事や学校などの人間関係） が で き な く な る と 思 っ た か ら	他人に知られると、これまでの付き 合 い の 人 間 関 係 が こ ろ こ ろ と な る と 思 っ た か ら	相 手 の 行 為 は 愛 情 の 表 現 だ と 思 っ た か ら	か つ た こ と に つ い て 思 い 出 し た く な い か ら	そ の こ と に つ い て 思 い 出 し た く な い か ら	相 談 す る ほ ど の こ と で は な い と 思 っ た か ら	家 族 な ら ず は な い か ら 我 慢 す る よ う 言 わ れ た か ら	（ 離 婚 ・ 別 居 ） い ま は な い か ら 思 っ た か ら
全体	81	1 1.2%	6 7.4%	6 7.4%	2 2.5%	6 7.4%	4 4.9%	30 37.0%	3 3.7%	3 3.7%	5 6.2%	
性・年代別	女性計	54	1 1.9%	4 7.4%	3 5.6%	1 1.9%	3 5.6%	3 5.6%	18 33.3%	2 3.7%	3 5.6%	4 7.4%
	10代・20代	3	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	30代	7	0 0.0%	1 14.3%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	3 42.9%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%
	40代	5	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	2 40.0%	1 20.0%
	50代	11	1 9.1%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	4 36.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	60代	16	0 0.0%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%	1 6.3%	5 31.3%	0 0.0%	1 6.3%	1 6.3%
	70歳以上	12	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 16.7%
	男性計	26	0 0.0%	2 7.7%	3 11.5%	1 3.8%	3 11.5%	1 3.8%	11 42.3%	1 3.8%	0 0.0%	1 3.8%
	10代・20代	0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	30代	5	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	40代	5	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	50代	2	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	60代	8	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	3 37.5%	0 0.0%	4 50.0%	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%
	70歳以上	6	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

_____%：各属性内での回答割合が最も高い

(10) DVの未然防止にとって必要なこと

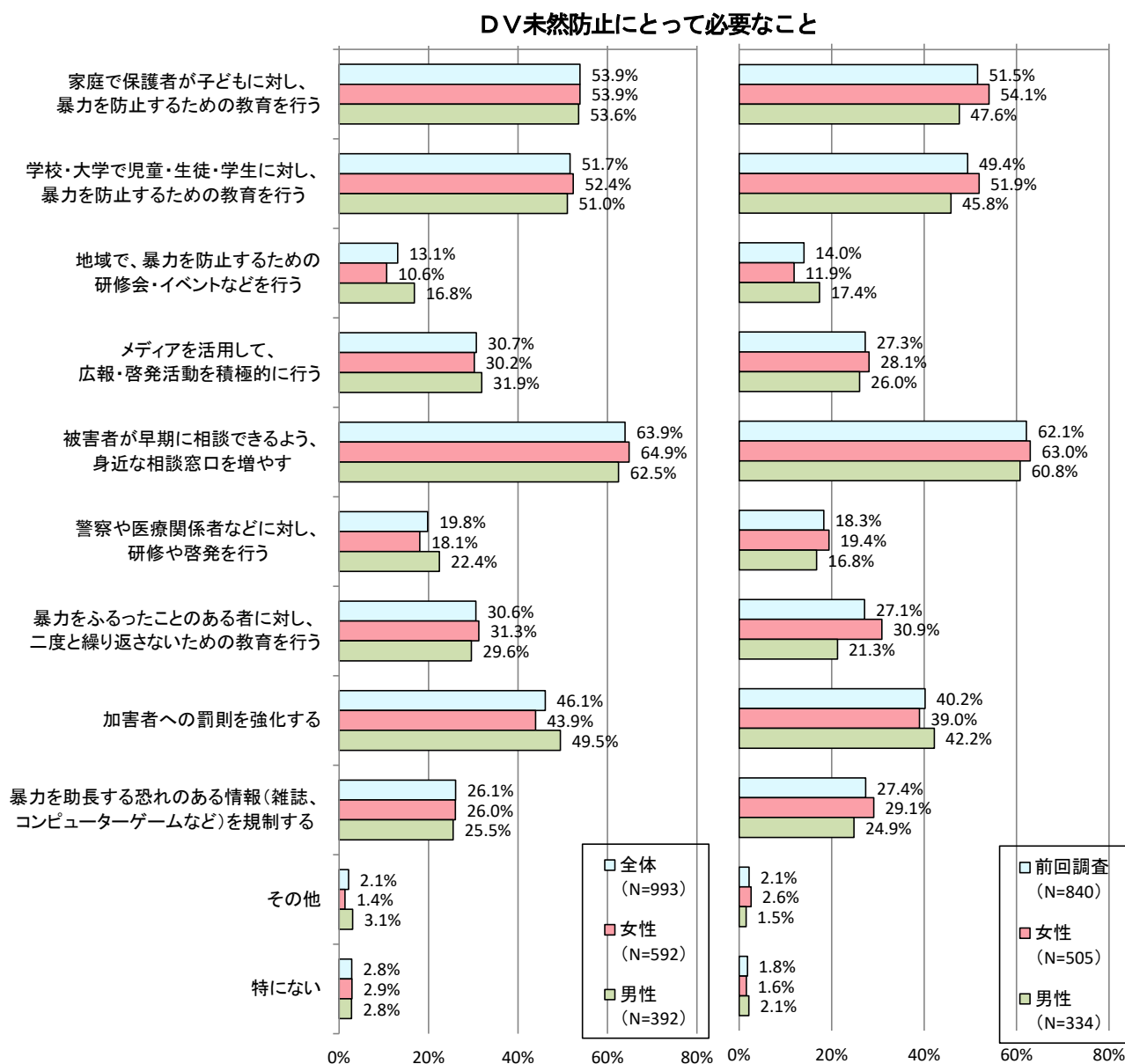
【問 39】 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

～身近な相談窓口を増やすことや家庭、学校などにおける教育が必要～

DVの未然防止にとって必要なことについてみると、全体では「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(63.9%)の割合が最も高く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」(53.9%)、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」(51.7%)となっている。

性別にみると「地域で暴力を防止するための研修会・イベントを行う」(女性：10.6%、男性：16.8%)、「加害者への罰則を強化する」(女性：43.9%、男性：49.5%)は男性の割合が女性より高くなっている。

前回調査と比較すると、「加害者への罰則を強化する」(今回調査：46.1%、前回調査40.2%)の割合が増加傾向になっている。



DVの未然防止にとって必要なこと（性・年代別）（複数回答） 1/2

	サンプル数	DVの未然防止にとって必要なこと											
		家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	学校・大学で児童・生徒・学生に対する暴力を防止するための教育を行う	地域で、暴力を防止するための研修会・イベントなどを行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的にを行う	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	暴力をふるったことのある者に対する教育を行う	加害者への罰則を強化する	暴力を助長する恐れのある情報（雑誌、コンピュータゲームなどを規制する	その他	特になし	
全体	993	535 53.9%	513 51.7%	130 13.1%	305 30.7%	635 63.9%	197 19.8%	304 30.6%	458 46.1%	259 26.1%	21 2.1%	28 2.8%	
性・年代別	女性計	592	319 53.9%	310 52.4%	63 10.6%	179 30.2%	384 64.9%	107 18.1%	185 31.3%	260 43.9%	154 26.0%	8 1.4%	17 2.9%
	10代・20代	57	27 47.4%	28 49.1%	7 12.3%	17 29.8%	44 77.2%	16 28.1%	17 29.8%	29 50.9%	7 12.3%	0 0.0%	1 1.8%
	30代	72	47 65.3%	45 62.5%	4 5.6%	25 34.7%	54 75.0%	19 26.4%	28 38.9%	48 66.7%	11 15.3%	1 1.4%	1 1.4%
	40代	110	65 59.1%	66 60.0%	15 13.6%	39 35.5%	79 71.8%	31 28.2%	38 34.5%	55 50.0%	34 30.9%	4 3.6%	0 0.0%
	50代	91	51 56.0%	51 56.0%	12 13.2%	30 33.0%	60 65.9%	12 13.2%	33 36.3%	45 49.5%	28 30.8%	1 1.1%	1 1.1%
	60代	120	65 54.2%	64 53.3%	15 12.5%	34 28.3%	71 59.2%	12 10.0%	35 29.2%	44 36.7%	39 32.5%	2 1.7%	2 1.7%
	70歳以上	142	64 45.1%	56 39.4%	10 7.0%	34 23.9%	76 53.5%	17 12.0%	34 23.9%	39 27.5%	35 24.6%	0 0.0%	12 8.5%
	男性計	391	209 53.5%	199 50.9%	66 16.9%	124 31.7%	244 62.4%	88 22.5%	115 29.4%	194 49.6%	99 25.3%	12 3.1%	11 2.8%
	10代・20代	33	15 45.5%	15 45.5%	4 12.1%	6 18.2%	20 60.6%	7 21.2%	5 15.2%	17 51.5%	1 3.0%	1 3.0%	1 3.0%
	30代	40	21 52.5%	21 52.5%	10 25.0%	14 35.0%	24 60.0%	9 22.5%	12 30.0%	27 67.5%	7 17.5%	4 10.0%	0 0.0%
	40代	57	30 52.6%	34 59.6%	12 21.1%	19 33.3%	43 75.4%	17 29.8%	21 36.8%	36 63.2%	16 28.1%	2 3.5%	3 5.3%
	50代	62	36 58.1%	30 48.4%	5 8.1%	18 29.0%	46 74.2%	16 25.8%	21 33.9%	35 56.5%	12 19.4%	3 4.8%	1 1.6%
	60代	91	51 56.0%	51 56.0%	15 16.5%	29 31.9%	53 58.2%	21 23.1%	17 18.7%	45 49.5%	25 27.5%	1 1.1%	3 3.3%
	70歳以上	108	56 51.9%	48 44.4%	20 18.5%	38 35.2%	58 53.7%	18 16.7%	39 36.1%	34 31.5%	38 35.2%	1 0.9%	3 2.8%

％：各属性内での回答割合が最も高い

(11) メディアにおける性・暴力表現についての考え

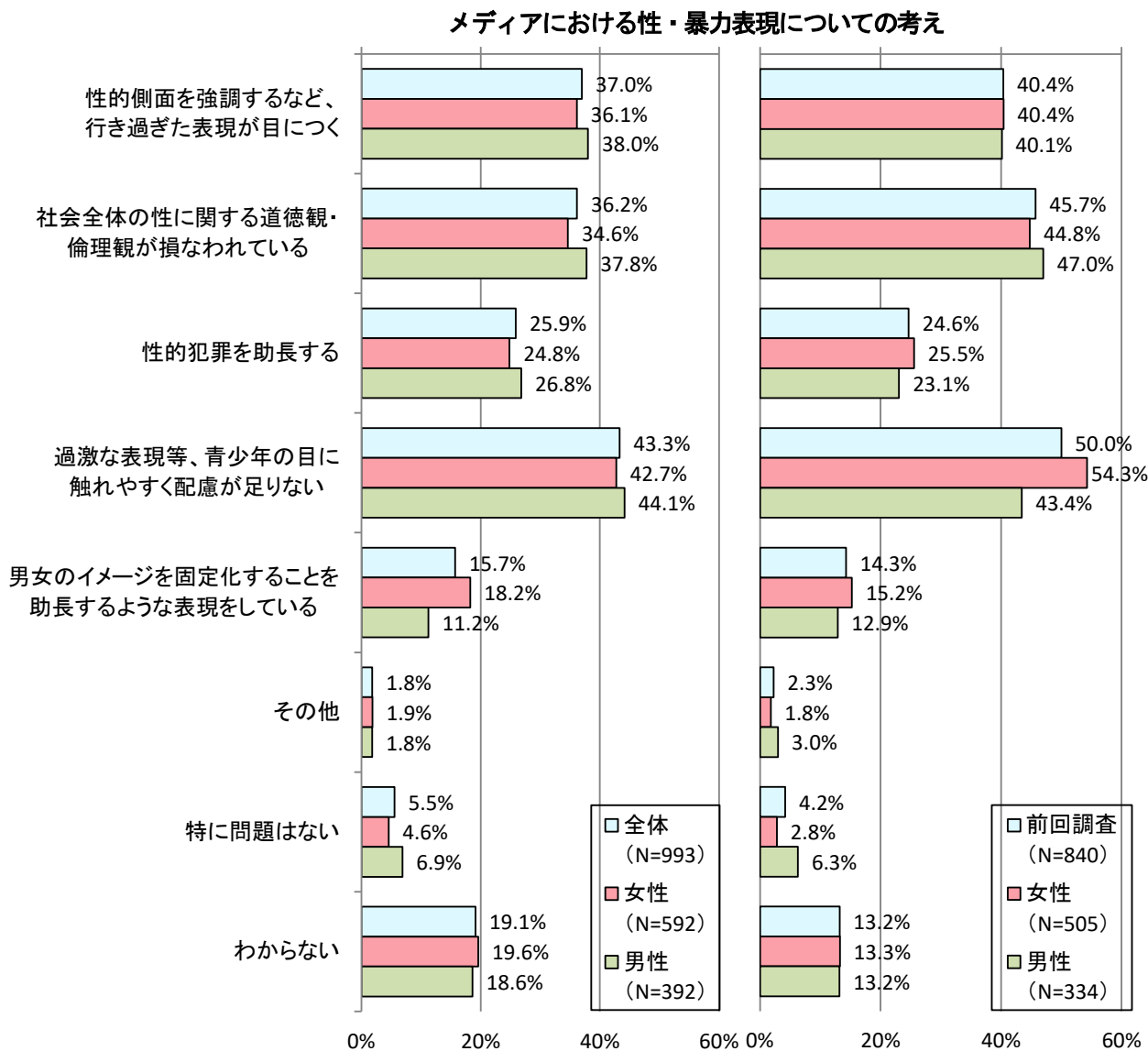
【問 40】 テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピューターゲーム等のメディアにおける性暴力表現について、あなたはどのように思いますか。(複数回答)

～過激な表現等があり、配慮が足りないと感じる人が多い～

メディアにおける性・暴力表現についての考えについてみると、全体では「過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない」(43.3%)の割合が最も高く、次いで「性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく」(37.0%)、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」(36.2%)となっている。

性別にみると「男女のイメージを固定化することを助長するような表現をしている」(女性：18.2%、男性：11.2%)は男性の割合が女性より高くなっている。

前回調査と比較すると、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」(今回調査：36.2%、前回調査：45.7%)、「過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない」(今回調査：43.3%、前回調査：50.0%)が減少傾向になっている。一方、女性の「男女のイメージを固定化することを助長するような表現をしている」(今回調査：18.2%、前回調査：15.2%)の割合が増加傾向になっている。



メディアにおける性・暴力表現についての考え（性・年代別）（複数回答）

	サンプル数	メディアにおける性・暴力表現についての考え								
		性的側面が強調されるなど、行き過ぎ	社会全体の性に関する道徳観・倫理	性的犯罪を助長する	過度な表現等、青少年の目に触れや	男女のイメージを固定化している	その他	特に問題はない	わからない	
全体	993	367 37.0%	359 36.2%	257 25.9%	430 43.3%	156 15.7%	18 1.8%	55 5.5%	190 19.1%	
性・年代別	女性 計	592	214 36.1%	205 34.6%	147 24.8%	253 42.7%	108 18.2%	11 1.9%	27 4.6%	116 19.6%
	10代・20代	57	10 17.5%	7 12.3%	8 14.0%	20 35.1%	11 19.3%	0 0.0%	7 12.3%	15 26.3%
	30代	72	20 27.8%	13 18.1%	15 20.8%	28 38.9%	15 20.8%	0 0.0%	3 4.2%	25 34.7%
	40代	110	50 45.5%	39 35.5%	40 36.4%	48 43.6%	22 20.0%	2 1.8%	4 3.6%	18 16.4%
	50代	91	41 45.1%	37 40.7%	30 33.0%	48 52.7%	15 16.5%	4 4.4%	3 3.3%	12 13.2%
	60代	120	44 36.7%	53 44.2%	31 25.8%	55 45.8%	23 19.2%	3 2.5%	3 2.5%	18 15.0%
	70歳以上	142	49 34.5%	56 39.4%	23 16.2%	54 38.0%	22 15.5%	2 1.4%	7 4.9%	28 19.7%
	男性 計	391	149 38.1%	148 37.9%	104 26.6%	173 44.2%	44 11.3%	7 1.8%	27 6.9%	73 18.7%
	10代・20代	33	8 24.2%	9 27.3%	4 12.1%	7 21.2%	4 12.1%	0 0.0%	6 18.2%	12 36.4%
	30代	40	10 25.0%	13 32.5%	12 30.0%	19 47.5%	8 20.0%	3 7.5%	8 20.0%	3 7.5%
	40代	57	16 28.1%	16 28.1%	16 28.1%	20 35.1%	7 12.3%	1 1.8%	3 5.3%	12 21.1%
	50代	62	22 35.5%	19 30.6%	19 30.6%	29 46.8%	7 11.3%	1 1.6%	5 8.1%	13 21.0%
	60代	91	44 48.4%	42 46.2%	26 28.6%	47 51.6%	6 6.6%	1 1.1%	2 2.2%	17 18.7%
	70歳以上	108	49 45.4%	49 45.4%	27 25.0%	51 47.2%	12 11.1%	1 0.9%	3 2.8%	16 14.8%

_____%：各属性内での回答割合が最も高

い

9. 男女共同参画に関する用語について

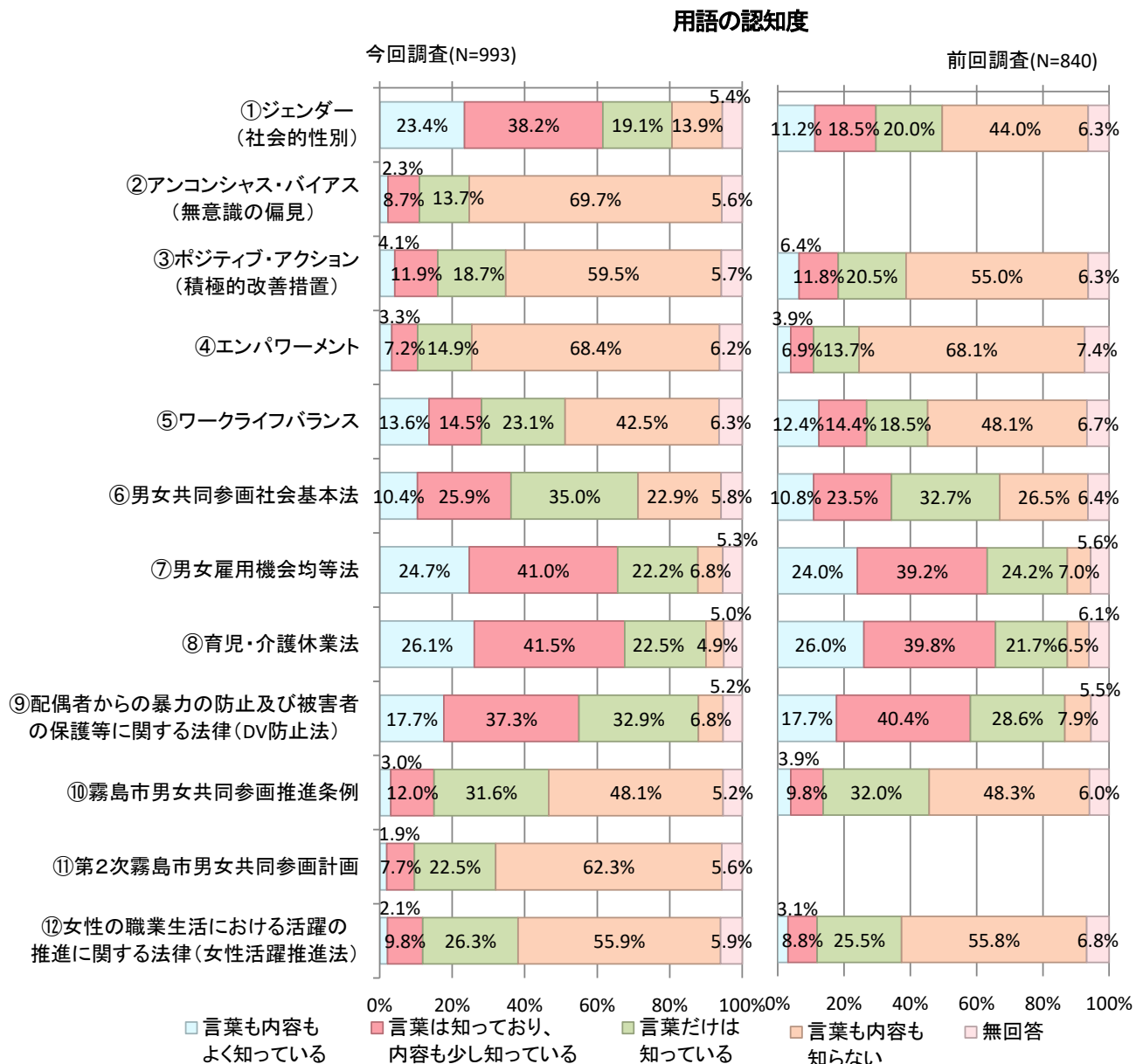
(1) 用語の認知度

【問 41】 男女共同参画に関連の深い次の言葉をこれまで知っていましたか。①～⑫それぞれについてお答えください。

～「ジェンダー（社会的性別）」の認知度が上がった～

男女共同参画に関する用語についてみると、『認知している』（「言葉も内容もよく知っている」＋「言葉は知っており、内容も少し知っている」）と回答したのは「⑧育児・介護休業法」（67.6%）が最も高く、次いで「⑦男女雇用機会均等法」（65.7%）、「①ジェンダー（社会的性別）」（61.6%）となっている。一方、「言葉も内容も知らない」の割合が最も高かったのは、「②アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」（69.7%）となっている。

前回調査と比較すると、「①ジェンダー（社会的性別）」（今回調査：61.6%、前回調査：29.7%）の割合が大幅に増加しており、用語の認知度が上がっていることがわかった。



用語の認知度（性別）1/6

	サンプル数	①ジェンダー(社会的性別)					サンプル数	②アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)				
		言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答		言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答
全体	993	232	379	190	138	54	993	23	86	136	692	56
	100.0%	23.4%	38.2%	19.1%	13.9%	5.4%	100.0%	2.3%	8.7%	13.7%	69.7%	5.6%
性別	女性	592	133	235	111	78	592	15	40	78	423	36
		100.0%	22.5%	39.7%	18.8%	13.2%	5.9%	100.0%	2.5%	6.8%	13.2%	71.5%
性別	男性	392	97	140	78	59	392	8	46	56	263	19
		100.0%	24.7%	35.7%	19.9%	15.1%	4.6%	100.0%	2.0%	11.7%	14.3%	67.1%

_____ % : 各属性内での回答割合が最も高い

用語の認知度（性別）2/6

	サンプル数	③ポジティブ・アクション(積極的改善措置)					サンプル数	④エンパワーメント					
		言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答		言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答	
全体	993	41	118	186	591	57	993	33	71	148	679	62	
	100.0%	4.1%	11.9%	18.7%	59.5%	5.7%	100.0%	3.3%	7.2%	14.9%	68.4%	6.2%	
性別	女性	592	22	68	111	355	36	592	18	44	79	411	40
		100.0%	3.7%	11.5%	18.8%	60.0%	6.1%	100.0%	3.0%	7.4%	13.3%	69.4%	6.8%
性別	男性	392	19	50	73	230	20	392	13	27	68	263	21
		100.0%	4.8%	12.8%	18.6%	58.7%	5.1%	100.0%	3.3%	6.9%	17.3%	67.1%	5.4%

_____ % : 各属性内での回答割合が最も高い

用語の認知度（性別）3/6

	サンプル数	⑤ワークライフバランス					サンプル数	⑥男女共同参画社会基本法					
		言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答		言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答	
全体	993	135	144	229	422	63	993	103	257	348	227	58	
	100.0%	13.6%	14.5%	23.1%	42.5%	6.3%	100.0%	10.4%	25.9%	35.0%	22.9%	5.8%	
性別	女性	592	66	86	130	268	42	592	57	137	211	150	37
		100.0%	11.1%	14.5%	22.0%	45.3%	7.1%	100.0%	9.6%	23.1%	35.6%	25.3%	6.3%
性別	男性	392	68	57	96	151	20	392	45	118	135	74	20
		100.0%	17.3%	14.5%	24.5%	38.5%	5.1%	100.0%	11.5%	30.1%	34.4%	18.9%	5.1%

_____ % : 各属性内での回答割合が最も高い

用語の認知度（性別）4/6

	サンプル数	⑦男女雇用機会均等法					サンプル数	⑧育児・介護休業法					
		言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答		言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答	
全体	993	245	407	220	68	53	993	259	412	223	49	50	
	100.0%	24.7%	41.0%	22.2%	6.8%	5.3%	100.0%	26.1%	41.5%	22.5%	4.9%	5.0%	
性別	女性	592	132	237	143	47	33	592	156	253	128	25	30
		100.0%	22.3%	40.0%	24.2%	7.9%	5.6%	100.0%	26.4%	42.7%	21.6%	4.2%	5.1%
性別	男性	392	111	167	76	19	19	392	100	157	94	22	19
		100.0%	28.3%	42.6%	19.4%	4.8%	4.8%	100.0%	25.5%	40.1%	24.0%	5.6%	4.8%

_____ % : 各属性内での回答割合が最も高い

用語の認知度（性別）5/6

	サンプル数	⑨配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)					サンプル数	⑩霧島市男女共同参画推進条例					
		言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答		言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答	
全体	993	176	370	327	68	52	993	30	119	314	478	52	
	100.0%	17.7%	37.3%	32.9%	6.8%	5.2%	100.0%	3.0%	12.0%	31.6%	48.1%	5.2%	
性別	女性	592	102	226	199	35	30	592	13	67	201	279	32
		100.0%	17.2%	38.2%	33.6%	5.9%	5.1%	100.0%	2.2%	11.3%	34.0%	47.1%	5.4%
性別	男性	392	72	141	127	31	21	392	16	51	112	194	19
		100.0%	18.4%	36.0%	32.4%	7.9%	5.4%	100.0%	4.1%	13.0%	28.6%	49.5%	4.8%

_____ % : 各属性内での回答割合が最も高い

用語の認知度（性別）6/6

	サンプル数	⑪第2次霧島市男女共同参画計画					サンプル数	⑫女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)					
		言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答		言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答	
全体	993	19	76	223	619	56	993	21	97	261	555	59	
	100.0%	1.9%	7.7%	22.5%	62.3%	5.6%	100.0%	2.1%	9.8%	26.3%	55.9%	5.9%	
性別	女性	592	6	41	141	369	35	592	9	50	155	342	36
		100.0%	1.0%	6.9%	23.8%	62.3%	5.9%	100.0%	1.5%	8.4%	26.2%	57.8%	6.1%
性別	男性	392	13	34	81	244	20	392	12	45	104	209	22
		100.0%	3.3%	8.7%	20.7%	62.2%	5.1%	100.0%	3.1%	11.5%	26.5%	53.3%	5.6%

_____ % : 各属性内での回答割合が最も高い

10. 行政について

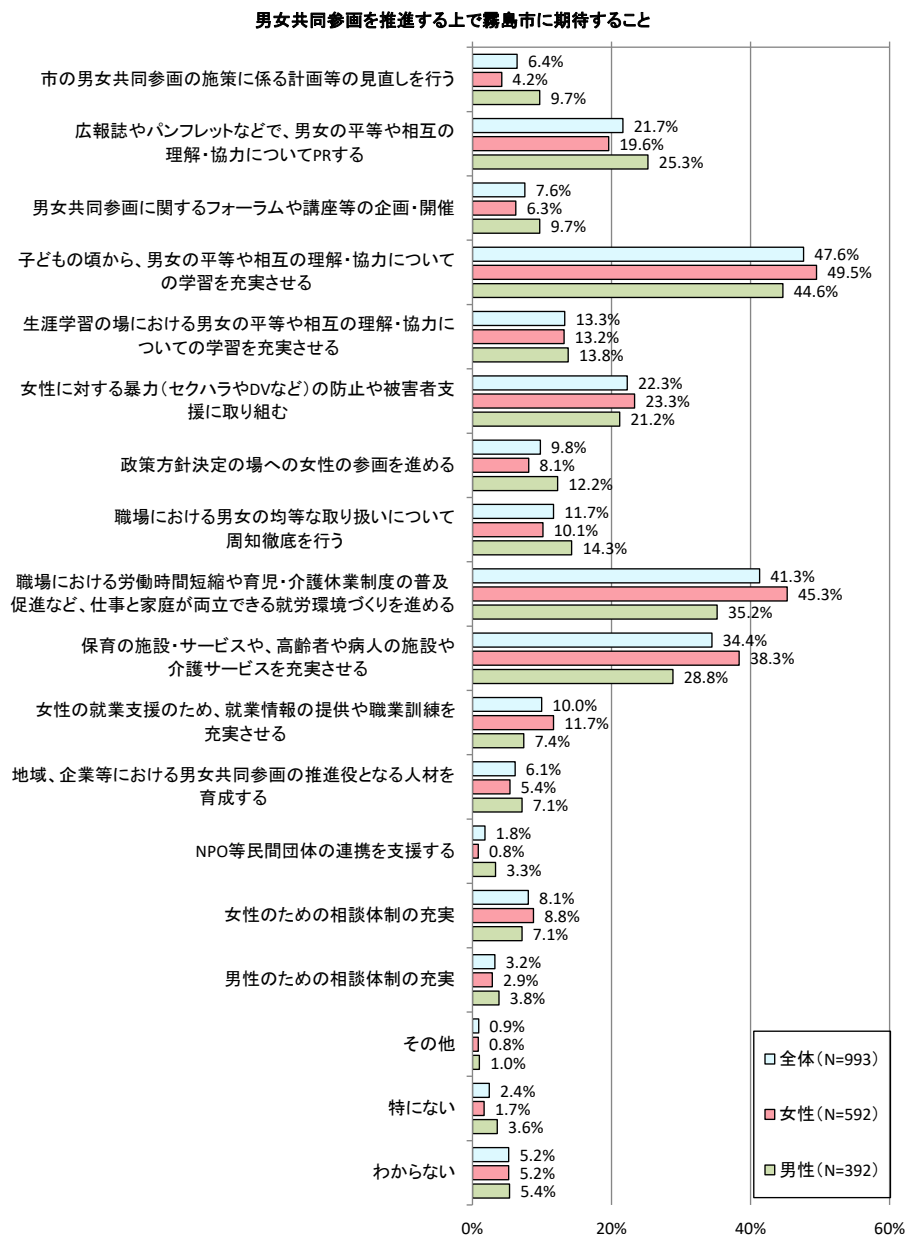
(1) 男女共同参画を推進する上で霧島市に期待すること

【問 42】 男女共同参画を推進する上で、霧島市にどのようなことを期待しますか。(複数回答)

～子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させることを期待している～

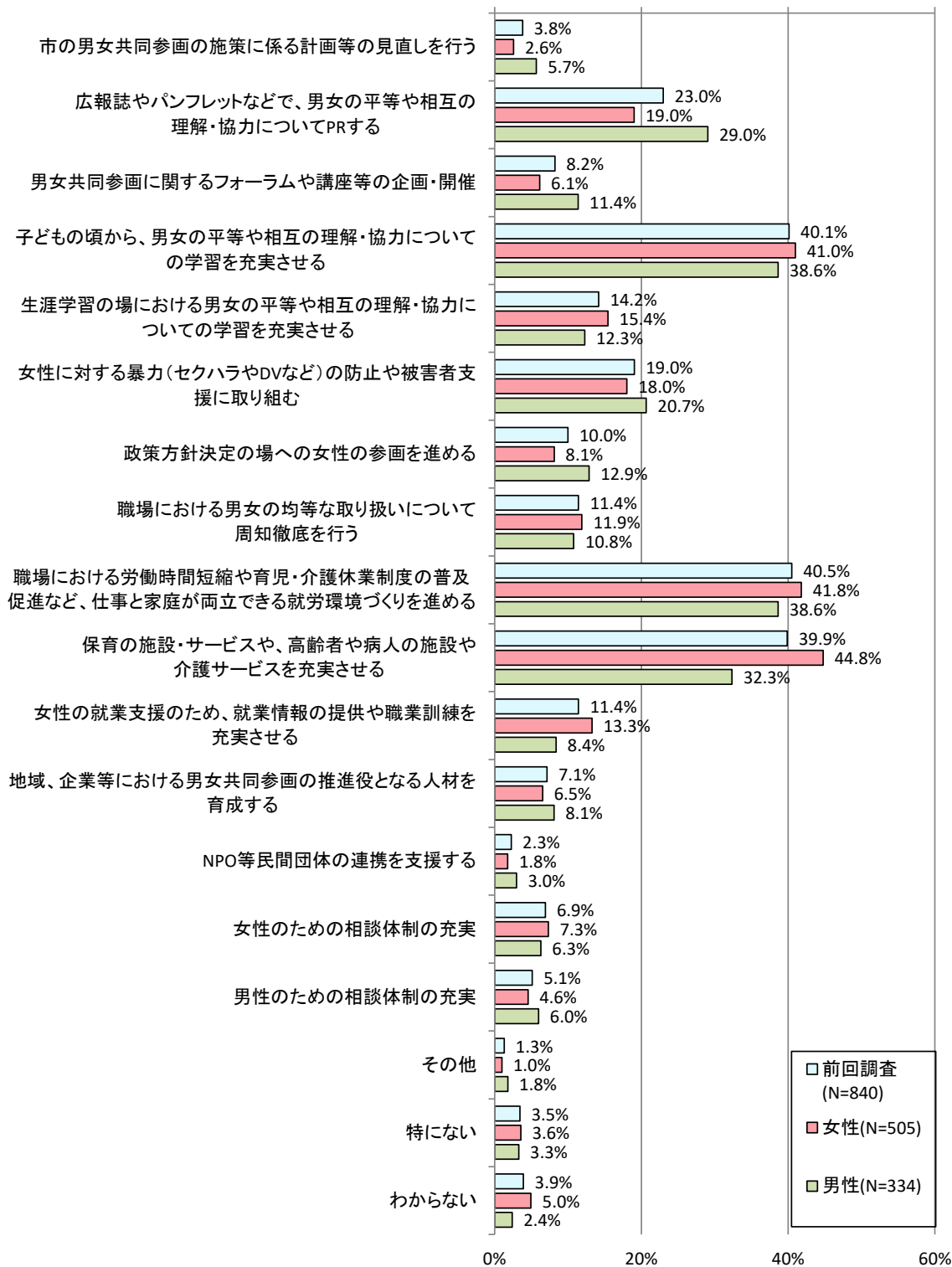
男女共同参画を推進するうえで霧島市に期待することについてみると、全体では「子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる」(47.6%)の割合が最も高く、次いで、「職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める」(41.3%)となっている。

性別にみると、「職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める」(女性：45.3%、男性：35.2%)、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」(女性：38.3%、男性：28.8%)で女性の割合が男性より高く、「広報誌やパンフレットなどで、男女の平等や相互の理解・協力についてPRする」(女性：19.6%、男性：25.3%)で男性の割合が女性より高くなっている。



前回調査と比較すると、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」（今回調査：34.4%、前回調査：39.9%）の割合が減少傾向になっており、「子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる」（今回調査：47.6%、前回調査：40.1%）の割合が増加傾向になっている。

男女共同参画を推進する上で霧島市に期待すること(前回調査分)



男女共同参画を推進する上で霧島市に期待すること
(性・年代別) (複数回答) 1/2

		サンプル数	男女共同参画を推進する上で期待すること								
			市の男女共同参画の施策に係る計画等の見直しを行う	広報誌やパンフレットなどで、男女の平等や相互の理解・協力についてPRする	男女共同参画に関するフォーラムや講座等の企画・開催	子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる	生涯学習の場における男女の平等や相互の理解・協力の場における男女の平等や相互の	女性の防止や被害者支援(セクハラやDVなど)に取り組み	政策方針決定の場への女性の参画を進める	職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う	職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める
全体		993	64 6.4%	215 21.7%	75 7.6%	473 47.6%	132 13.3%	221 22.3%	97 9.8%	116 11.7%	410 41.3%
性・年代別	女性計	592	25 4.2%	116 19.6%	37 6.3%	293 49.5%	78 13.2%	138 23.3%	48 8.1%	60 10.1%	268 45.3%
	10代・20代	57	2 3.5%	2 3.5%	3 5.3%	21 36.8%	10 17.5%	21 36.8%	4 7.0%	6 10.5%	37 64.9%
	30代	72	2 2.8%	2 2.8%	2 2.8%	35 48.6%	11 15.3%	21 29.2%	3 4.2%	7 9.7%	35 48.6%
	40代	110	2 1.8%	13 11.8%	2 1.8%	63 57.3%	13 11.8%	25 22.7%	12 10.9%	10 9.1%	57 51.8%
	50代	91	4 4.4%	21 23.1%	8 8.8%	50 54.9%	8 8.8%	19 20.9%	6 6.6%	16 17.6%	44 48.4%
	60代	120	7 5.8%	33 27.5%	11 9.2%	60 50.0%	13 10.8%	26 21.7%	14 11.7%	13 10.8%	44 36.7%
	70歳以上	142	8 5.6%	45 31.7%	11 7.7%	64 45.1%	23 16.2%	26 18.3%	9 6.3%	8 5.6%	51 35.9%
	男性計	391	38 9.7%	99 25.3%	37 9.5%	174 44.5%	54 13.8%	83 21.2%	48 12.3%	56 14.3%	138 35.3%
	10代・20代	33	3 9.1%	3 9.1%	0 0.0%	8 24.2%	6 18.2%	8 24.2%	1 3.0%	6 18.2%	13 39.4%
	30代	40	7 17.5%	7 17.5%	2 5.0%	20 50.0%	7 17.5%	6 15.0%	4 10.0%	8 20.0%	22 55.0%
	40代	57	3 5.3%	11 19.3%	3 5.3%	25 43.9%	5 8.8%	13 22.8%	8 14.0%	10 17.5%	22 38.6%
	50代	62	3 4.8%	14 22.6%	5 8.1%	38 61.3%	8 12.9%	12 19.4%	10 16.1%	10 16.1%	23 37.1%
	60代	91	13 14.3%	32 35.2%	16 17.6%	37 40.7%	13 14.3%	27 29.7%	7 7.7%	11 12.1%	29 31.9%
	70歳以上	108	9 8.3%	32 29.6%	11 10.2%	46 42.6%	15 13.9%	17 15.7%	18 16.7%	11 10.2%	29 26.9%

% : 各属性内での回答割合が最も高い

男女共同参画を推進する上で霧島市に期待すること
(性・年代別) (複数回答) 2/2

		サンプル数	男女共同参画を推進する上で期待すること								
			施設や介護サービスや、高齢者や病人の 保育の施設・サービスや、高年齢者や病人の	女性の就業支援のため、 職業訓練を充実させる	地域、企業等における男女共同参画の推進 役となる人材を育成する	NPO等民間団体の連携を支援する	女性のための相談体制の充実	男性のための相談体制の充実	その他	特にない	わからない
全体		993	342 34.4%	99 10.0%	61 6.1%	18 1.8%	80 8.1%	32 3.2%	9 0.9%	24 2.4%	52 5.2%
性・年代別	女性計	592	227 38.3%	69 11.7%	32 5.4%	5 0.8%	52 8.8%	17 2.9%	5 0.8%	10 1.7%	31 5.2%
	10代・20代	57	20 35.1%	10 17.5%	4 7.0%	0 0.0%	7 12.3%	4 7.0%	0 0.0%	2 3.5%	1 1.8%
	30代	72	32 44.4%	15 20.8%	1 1.4%	0 0.0%	8 11.1%	3 4.2%	1 1.4%	1 1.4%	3 4.2%
	40代	110	48 43.6%	15 13.6%	7 6.4%	1 0.9%	12 10.9%	5 4.5%	3 2.7%	1 0.9%	2 1.8%
	50代	91	30 33.0%	12 13.2%	5 5.5%	0 0.0%	6 6.6%	1 1.1%	0 0.0%	0 0.0%	5 5.5%
	60代	120	52 43.3%	5 4.2%	3 2.5%	0 0.0%	11 9.2%	1 0.8%	0 0.0%	1 0.8%	8 6.7%
	70歳以上	142	45 31.7%	12 8.5%	12 8.5%	4 2.8%	8 5.6%	3 2.1%	1 0.7%	5 3.5%	12 8.5%
	男性計	391	112 28.6%	29 7.4%	28 7.2%	13 3.3%	28 7.2%	15 3.8%	4 1.0%	14 3.6%	21 5.4%
	10代・20代	33	12 36.4%	3 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	4 12.1%	2 6.1%	1 3.0%	3 9.1%	3 9.1%
	30代	40	8 20.0%	4 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 12.5%	3 7.5%	0 0.0%	4 10.0%	2 5.0%
	40代	57	21 36.8%	6 10.5%	2 3.5%	0 0.0%	5 8.8%	2 3.5%	1 1.8%	1 1.8%	3 5.3%
	50代	62	21 33.9%	5 8.1%	4 6.5%	1 1.6%	5 8.1%	1 1.6%	1 1.6%	2 3.2%	4 6.5%
	60代	91	23 25.3%	8 8.8%	10 11.0%	3 3.3%	4 4.4%	2 2.2%	0 0.0%	2 2.2%	3 3.3%
	70歳以上	108	27 25.0%	3 2.8%	12 11.1%	9 8.3%	5 4.6%	5 4.6%	1 0.9%	2 1.9%	6 5.6%

11. 自由意見

【問 43】 男女共同参画社会の実現に向けて、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

【10代・20代女性】

- 市や国が対策をとっても1人1人が変わらないと意味がない事が多い為、小さい頃からの子供の教育、子供だけでなく親や大人の方も男女の平等やジェンダーレスに対して理解すべきであると思うので頑張って下さい。

【10代・20代男性】

- 若年層に向けて発信して欲しい（自分自身知らなかったのだから）
- 男女共同参画＝男女平等という考えかたなのであれば、無理だと思う。現実には男女で身体的な能力差がある為（力仕事は女性には難しいと思う。）それなのに給料が同期・同年代で同じというのは逆に男性側が不満に感じると思う。

【30代女性】

- 九州はいまだに別の地域から男女差別がひどいと思われている。住んでみても男女差別する人が多いと思う。特に医師の態度や言葉が思った以上にひどい。
- 今年から霧島市に移住しましたが、住む場所働く場所もあまりよくないと思ってしまいます。女性が住みたい場所を目指せば地域は活性化すると思います。性別分業の発想は男性の方が強いと感じます。男性の意識と生活スタイルを変えられる霧島市であってほしいです。
- 子供を産んだ後の職場復帰、子育てで中心で働ける環境作り、男性の育児休暇の理解がもっと進むような社会になって欲しい。
- 男女共同参画に向けて仕事での負担や責任感が減るなど、男性へメソッドを広めていくことも重要だと思います。仕事も家庭もその人に合わせて変化できる社会が理想です。
- 相談出来る日を増やしてほしい。土曜日に利用できる様になるともっと利用しやすいです。
- どこまで平等であれば人間は満足するのでしょうか？幼い子に全ての人を思いやれる心を持たせることができる社会を大人がつくっていきけるといいですね。
- 女性が働きやすいように保育園、学童を増やして欲しい。また、預かり時間もフルで働く親のことも考えて延長料金も考えて欲しい。
- DVについてどこからがDVでどこまでがDVじゃないのか分からない。暴力をしなかったらDVじゃないのか。自分がどこまでがまんしたら良いのか自分が甘えているのか分からない。昔の人は男性はみんなそうと言います。これが正しいのでしょうか？どこに相談したら良いのか分かりません。

【30代男性】

- 男女ともに思いやりをもって生活ができ、柔軟な生活を送れるような社会が実現してほしいです。
- 男女平等のとれた法や市などの計画を立ててほしい。男性、女性の新しい考え方で作ることが大切だと思う。
- 個々がどれだけリスペクトでき、できることをするか思いやるかで男女関係なく協力し合える世ができるのではないかな。
- そもそもアンケートの内容として、考え方が甘い所が多い。DVは、確かに男性が多いですが、本当にそれだけですか？家庭において子育ては、教育の場としての役割だけですか？何が本当に重要なのでしょう？男女の性差はないものとして考えて本当に良いのですか？色々な考えがあってどっちが悪いと決めるものですか？考えて頂きたい。
- 働きやすい環境だとは思っているが、子供の体調不良時などは、あまり良い顔をされないのが現実だと思う。
- 世代による意識差が大きいように感じています。働いている世代以上（40才以上）へのPRや周知はもっと必要だと思います。

【40代女性】

- 女性に対する暴力について、被害者支援だけでなく加害者に対する支援にも力を入れて頂きたいと思います。
- 育児介護のため仕事が決まらない人がいます。短時間でも気分転換として働ける会社があればと思います。一時預かりもいいですが、託児所がある会社が増えてほしいです。
- 経営者の考え方が、男女共働というところに至っていないのでは？働いている者は上司に言われるがまま逆らえないのでは？
- まず、独身・子なしの女性に対する配慮のないアンケート内容にげんなりしました。そういう人間こそ既婚女性よりも生きにくさを感じていると思います。育児や介護の制度（特に育児について）があるがために、家庭のない人間に職場でしわ寄せがくるんです。平等をうたうのなら、それらの不平等も解消してください。社会生活を送る上で結婚していてもしていなくても、子どもがいてもいなくても、自分らしく生きられるような社会になりますように…。
- 育児と仕事との両立はかなり難しいです。多くの女性は、仕事よりも育児に専念したいと思っているはずです。もちろん社会で上を目指す女性に対しては男女平等にすべきだと思し、共働きの場合、男性も家事をすべきです。保育料等の補助をするよりせめて3歳位までは親が育児できる補助があったらと思います。
- セクハラ、DV等は女性＝被害者が一般的な構図になっていますが、男性＝被害者という構図もあります。質問の時点で女性＝被害者とすることが、そもそも推進させようとする意識が足りないと思いました。
- 男女共同参画という社会の考え方が早急に求められていると考える。子供を育てながら社会に出て行く母親の負担を軽くしてほしいです。
- 仕事をすることで自信もつき社会への参加も積極的になるとは思います。子供がいる場合育児や家事を負担しているのは女性が多いため、仕事を継続するのが難しいと感じます。子供が病気になった際の病児保育を充実させないと働きたくても働けません。病児保育の拡充を希望します。
- 男性の意識が変わらなければ社会は変わらない。
- 田舎ほど昔ながらの男尊女卑のような風習があたりまえのようにあります。根深いと思いますので変えることは難しいと思います。女性が活躍できても家庭が壊れてしまったり、子どもが寂しい思いをしてもいけないので、多方面からの工夫が必要だと思います。

【40代男性】

- 女性が出産育児を終えた後も安心して職場復帰できるような制度が確立されることを要望します。賃金、労働時間に関しても相談できるような優しく明るい社会になってほしい。
- 育児、介護の充実なくして男性、女性に関わらず社会に進出できる現実はない。行政が育児介護を支え充実を図る必要がある。
- 誰もが住みやすい霧島市にして下さい。
- 年代による”男女の役割にたいする考え方”が根本にはあると思います。育児をしている30～40代の親世代の考え方と学校教育（特に小学校）による影響が大きいと思います。
- 人権配慮の面から考えると調査票を無作為に送付するのであれば、ふりがなをふる、文字の大きさ、量などの配慮も必要であると感じた。
- 男女共同参画と言う表現がまず男女を分けてしまっている感があります。霧島市が全国のモデルになる様なネーミングと取り組みを行って頂けたら地域全体に活気が出てくるとは思います。
- 男性の育児休暇、介護休暇取得に対する偏見や差別をなくするのが先。同じ基準で給与をもらうのだから女性もあれはできないこれではできないと言うのはおかしい。
- 理解していない事も多く、知っている事も少ないため自身にも意識が低くまだまだ意見できる立場ではないので社会の一員として学ばなければならないと感じました。こういった活躍するための一歩としての活動は積み重ねなので共に歩んでいければよりよい社会へとなるのではないかと思います。そのためには知る事、理解する事、実践する事をして社会の一員として自身の成長も必要であると再認識できました。

【50代女性】

- 男性女性どちらにも偏った法社会の考え方ではいけないと思う。
- 男女共同参画社会について改めて考える良い機会になりました。
- 男女は平等ではあるが、役割が違う。女性が入ってはいけないところには意味がある。その教育がなされていない。外国に比べて女性が政治の世界に少なくとも、日本独自の考え方でいいと思う。だからといって、男性が偉いわけではない。正しい知識、知的レベルを上げて、物事の本質を見極められる人が多くなることを望みます。
- 男女共同参画への実現は素晴らしいと思いますが、育児や介護が他人の手にゆだねる部分が大きくなりすぎるのはまた別の問題を生み出すのではと思います。サポート体制や社会的理解、それぞれの理解を深めるための大きな努力が必要だと思います。
- 管理職にまだまだ女性が少ない。女性上司の下で働く事が嫌な男性が多い気がする。市長が女性でも良いと思う。
- 令和の時代になっても家庭において男というだけでふんぞりかえっている人がいる。家庭や子供に関する事では日々の会話や世話をやいたり心を向ける事で自然とお互い信頼関係が育っていくものなのに何もなくてもある物だと勘違いしていて相手が悪いと信じて疑わない人がいる。
- 市に相談しても何もしてくれない。男女のことより市役所と市民の関係をよくして欲しい。
- よりよい社会になることを望みます。このような機会ありがとうございました。
- 女性を優遇する必要はないと思います。男性と女性一緒に前へ進めれば素晴らしい社会になるのだと思います。
- 男女共同参画社会の実現を阻む原因の一つとなっているのは、男女両者の意識。もちろん、昔からの植え付けられたものだと思う。まず取り組むべきは、自治会における「婦人部」なるものの存在。行事にはすべて参加。役員会においても、お茶出し、片づけ等が主な仕事。また、市と関連のある行事にも引っ張り出されているのでは？結局市のあり方と同じなのではと考えてしまう。

【50代男性】

- 県外出身者ですが、鹿児島では飲み会のときに男女が分かれて座ることにびっくりした。
- 男女差別の大きな点で女性はどうしても妊娠出産が避けられない問題です。妻は育休をとりましたが、復帰するときに産休代替の人も継続して雇用しないといけなくて勤務時間を以前の半分以下にされ保育園にも預けられない時間にされました。不当な扱いに労基に相談しましたが、結局退職するように言われました。出産した女性がしっかり元の職場に戻るよう法の強化をお願いします。
- 女性が恵まれていない風潮があるので男性中心に考えるのはよくないと思う。
- 早計に、無理やり女性を登用することが必要なのではなく、男女関係なく結果として必要とされる人材が登用される世の中にしていくことが理想と考える。
- 社会的弱者に対しての活動を期待しております。
- 森喜朗の様な国会議員経験者が多い世の中であと10年はかかると思います。女性に対する偏見をなくし男女共同参画と言えると思う。女性の国会議員は素晴らしい人もいるが相応しくない人もいる。優れた人材、不正のない人材を起用してもらいたい。男女には身体的な差はある。人体労働も含めて。

【60代女性】

- 女性自身もしっかりと自立し甘えた考えを修正しないとイケない時代になったと思います。一番大事なことは男女を問わず家庭を大事にして子供の教育に力を入れることだと思います。
- 結婚した女性が働くためには子供の面倒、家庭の安定を考えなくてはいけないと思う。安定するためには協力してもらう機関が必要になる。企業も行政も今のままでは無理なので、保育の施設の事や働く場所が自宅の近くとか環境を変えないと男女共同参画社会はなかなか難しいと思う。
- 60代の私には時代が変わってしまってきているように思えます。いろいろ理解しながら、新しい男女共同参画進められたら良いと思います。子供の頃の教育は大切で、学校もそうですが、親としてしっかり子供の手本となるように行動していくのが大切だと感じます。
- 似たような質問が多く回答が面倒になってきた。定年前後、高齢者にはあまり現実味がない若い人の話を

たくさん聞いて下さい。

- 男性の特性（家族を養う、仕事第一）はそのままが本来の男性の考えかたなのでしょうからとても責任のある事と思い女性が潰さないで欲しいと思います。男性は強くて優しい。その優しさが出せるように女性への思いやりがプラスされたらいいのではないかと70代を前にした私は思います。
- 霧島に住んで5年になります。皆さんとても優しく親切で住みやすい所です。
- 仕事の得意な人は仕事を、家事料理など得意な人はそういう事をとるように自分が出来る事を生かして社会に役立っていけば良いのではないのでしょうか。
- 教育や収入面で女性が平等になれば（男性と）おのずと男女共同になっていくと思います。ただ男らしさ、女らしさを悪い事？とは思いません。
- 女性でも社会の中で昇進したり変化はあると思います。それでも家庭の理解が必要で家庭を守りつつ、と思うと女性はやはり不利かな？家庭に合わす！
- 長い年月男女平等は続いていると感じます。DVにしても力のあるもの（暴力）が強い。すぐに法則で解決できるように動けるなどの組織が必要。・財産名義とか結婚にしても男性の方の名前ばかり優先されていると感じます。
- 現在も仕事をしていますが職場で特に男女の差を感じた事はありません。今は小学校でも女子の方がはきはきして強いなど思う時もあります。
- 鹿児島県はまだまだ男尊女卑的な考えがあると思います。女性がもっと積極的に活動・就業でき、いろいろな仕事をしていける社会であってほしいと思います。思いやりのある人生を送りたいものです。

【60代男性】

- 学校や職場等で学習や研修の機会を充実させ、個々の男女平等や互いを思いやる意識の啓発を高めていくことが何よりも大切であると考えます。
- 市長と話す機会がありますが、それと同様に女性の副市長をつくってその方を中心に小さな輪をたくさん作れば良いと思います。
- 男女ともに良き家庭、健康な家庭づくりに、力を合わせて協力すること。
- このアンケートを実施するのみでなく、しっかりとこの調査結果データをホームページで公表するとよい。更には、次回のあらゆるアンケートも回答率が上がると思われる。
- アンケートは記入しましたが、今の自分には直接関係がないように思える。
- これも税金ですので、データを有効に利用（使用）して下さい。
- 最近の女性の活躍は素晴らしい成長を感じております。やはり女性の進出なくしては地域の発展はないと思います。今後の日本の発展は女性の皆様にかかっています。
- 男女均等に意見を聞き市政に反映する。
- 昔からすると男女共同参画の考え方は向上していると思います。もっと男女が互いに尊重し合う事が必要です。

【70歳以上女性】

- 男女共同参画社会がお互いを尊重して理解を得られるような社会になればいいと思います。
- どうして私を選んで下さったか分かりませんが、霧島市も含めて鹿児島県は根強いジェンダーに縛られていると思います。若いうちは社会人として積極的に活動したり、意見を言う方だったと思います。それに対する男性の一応に冷たい目（女のくせに・・・）を感じておりました。だから家庭で平穏に暮らすことを選んだりしました。若い市長は、どんな意見ですか？
- 子育てサロンを長い間開催していますが、行政よりの研修、情報提供など全くないのは不思議なくらいです。私達民間のボランティアですがイベントの計画、人材集め、おやつ提供、自治会や所属する団体よりの助成金で成り立っていますが行政から認められているのもわずかな部分しか感じられません。そこでの男女共同の導入は大切で女性の進出に対する導きも大きなものがあると思います。このような社会をもっと活用して女性の社会進出、男女共同意識の浸透を図る事が良い方法だと思います。少なくとも私達のグループはその考えはありますが全ての人がきちんと理解しているとは思えません。そのような活動をしている人への教育はとても大切です。そのことは行政にしかできない事なのでよろしくお願ひします。

- 家庭生活でも言葉がとても大切だと思っています。子供達が幼い頃からお互いに良い言葉を発していたら男女の関係なくお互いを尊重しあえる様な関係になっていくと思っています。地域や家庭から悪い風習の言葉を発しない様に日々気をつけて、それが自然に身につく様になっていくことが社会生活の基本の様だと考えています。
- 格差社会と言ってよいか分かりませんが社会一般ルールに乗りそこなってしまう人達も多いと思います。多面的に考える教育、社会の充実が望まれます。
- ZOOM 会議も考えて頂ければと思う。
- 女性が弱者とみなす事が前提となっている事に強く疑問を感じる。精神的には男性の方が、圧迫されている状況が男女共同参画を進める上で、大きくなっている気がする。権利の前に義務がある（男女共に）。
- もう少し若い頃にこのような事たのまれたかった。75才になると考えが衰える。
- この調査票は主に若い人(仕事をしている)に対しての質問が多くて70才以上には答えに戸惑うのが多い。
- 若い時は一生懸命働き子育て家庭と守りました。女性が働きやすい職場であれば長続き出来ます。サポートをしっかり守って下さい。
- 仕事人生が終わっていて高齢だし難しい事がらあまりわからない。若い人にアンケートをお願いします。
- 男女共同参画を推進していることをアンケートを通じて知りました。自分でもこれを通じて改めてこのことについて考えさせられました。

【70歳以上男性】

- 現在夫婦も年をとり思いもそれぞれ変わってきたが、話し合いできる限りよくなるよう努力すべきである。
- 目に見えない行政と一般市民との結びつきを一部の人だけのものにならないように取り組んでほしいです。
- 人が行動するすべての場（家庭、学校、職場、会社や事業所等の職場、地域社会）での、日頃からの他を尊重し、差別のない自然な雰囲気作りに全ての方々の努力、配慮が欲しい。
- 男女共に自発的な行動が自然にできるような環境作りが大切だと思う。男女共に偏った施策はすべきではない。
- 他国の具体的な日常をテレビなどの媒体を通して知らしめることが大切だと思います。
- 西洋基準の数や統計のみで過剰反応せずに日本人の価値観を大切にして納得できる自然に互いを尊重し、特性を活かしあつた活気ある社会を目指すべき。
- 市議会議員の女性30%へ（現10%）
- いつでもどんな場でも意識の中に入りこみやすい平易な用語を使ったアナウンスが必要。アンコンシャス、バイアスって何？で意識の中にスルーされ問題意識化されない。
- 質問項目が多く回答に大変苦労しました。自分の勉強不足が十分理解出来た事が良かった。
- 男性の理解と女性の積極性の充実。
- 「男女共同参画社会の実現＝女性に対する不平等の是正」という傾向は何事も極端に振り子が動く世情にいささかの危惧を感じる。ニュースで女性管理職の割合が8.9%と報じ先進国の中でも低レベルの状況であると述べていた。
- 男女共同参画社会への意識は低いですが日々努力していき高めていきたいと思っています。
- 霧島市ではあらゆる活動計画等を広報（毎月）実に分かりやすく勉強になり毎日を有意義に過ごしています。第二次男女共同参画平等など研修の場としてシビックセンターで理解と意義を求めて設定してほしい。

第 3 章 資料

霧島市男女共同参画に関する市民意識調査

— 調査にご協力をお願いします —

市民の皆様には、日頃から市政に対し、ご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

霧島市では、男女が対等なパートナーとして、お互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現をめざして、「第2次男女共同参画計画」を策定し、男女共同参画の推進に向けた様々な施策を実施しております。

この調査は、市民の皆様の「性別による役割分担に対する意識」等の変化を的確に把握し、本市の男女共同参画施策をさらに推進するために、18歳以上の市民2,100人(無作為抽出)を対象に実施させていただいております。

市民の皆様におかれましては、ご多忙のところ誠にお手数ではありますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ぜひご協力くださいますようお願いいたします。

令和3年8月

霧島市長 中重 真一

— ご記入にあたって —

- 1 この調査は、封筒のあて名の方ご本人にご記入をお願いします。
- 2 回答は、この調査票のあてはまる項目の番号に直接○(まる)印をつけてください。
「その他」にあてはまる場合は()内にその内容を具体的にご記入ください。
- 3 調査は無記名であり、調査結果は数字で統計的に処理いたしますので、個人が特定されることは一切ございません。ご自身のお考えや実情を、ありのままにご記入ください。
- 4 すべての記入が終わりましたら、お手数ですが、記入もれがないかお確かめのうえ、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、**8月31日(火)まで**にご投函ください。

<お問い合わせ先>

霧島市役所 市民課 人権・男女共同参画グループ

TEL:64-0901(直通) FAX:64-0960

メール:simin@city-kirishima.jp

用語の解説

■ ジェンダー(社会的性別)

社会通念や慣習の中で社会によって作られた「男性像」「女性像」のこと。「社会的性別」は、それ自体に「良い」、「悪い」の価値を含むものではなく、国際的にも使われています。

■ アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)

これまでの経験や見聞きしたことと照らし合わせて、あらゆるものを自分なりに解釈するという脳の機能によって引き起こされる「無意識の偏ったものの見方」のこと。

■ ポジティブ・アクション(積極的改善措置)

さまざまな分野への活動に参画する機会の男女間における格差を改善するために、個々の状況に応じて行う措置。

■ エンパワーメント

政治、経済、社会、家庭などのあらゆる分野で、自分たちのことは自分たちで決め行動できるような能力を身につけること。または、その能力を引き出すこと。

■ ワーク・ライフ・バランス

老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、さまざまな活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態であること。

■ 霧島市男女共同参画推進条例

男女共同参画に関する基本理念を定め、市、市民及び事業者の責務を明らかにするとともに、男女共同参画に関する取組を総合的かつ計画的に推進することを目的に、平成24年4月1日に施行されました。

■ 第2次霧島市男女共同参画計画

平成28年に実施した「霧島市男女共同参画市民意識調査」や本市における現状等を踏まえ、国や県の計画との整合を図りながら、平成30年3月に、本市における男女共同参画社会の実現を目指し策定されました。

■ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)

女性が、職業生活において、その希望に応じて十分に能力を発揮し、活躍できる環境を整備することを目的に制定され、平成27年9月に施行されました。これにより平成28年4月1日から、労働者301人以上の企業は、女性の活躍推進に向けた行動計画の策定などが新たに義務づけられました。

霧島市男女共同参画に関する市民意識調査票(回答用)

あなた自身のことについて

問1 あなたの性別を教えてください。(○印は1つ)

- | | | |
|-------|-------|-----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 答えたくない |
|-------|-------|-----------|

問2 あなたの年代は次のどれですか。(○印は1つ)

- | | | |
|----------|---------|---------|
| 1. 10歳代 | 2. 20歳代 | 3. 30歳代 |
| 4. 40歳代 | 5. 50歳代 | 6. 60歳代 |
| 7. 70歳以上 | | |

問3 あなたの職業は次のどれになりますか。(○印は1つ)

- | | | |
|---------------|-------------------|----------|
| 1. 勤め人(役員を含む) | 2. 自営業主(家庭内職者を含む) | 3. 家族従業者 |
| 4. 主婦・主夫 | 5. その他の無職(学生を含む) | |

問4 問3で「1.勤め人(役員を含む)」と答えた方へお尋ねします。その仕事は常勤(フルタイム)ですか、非常勤ですか。(○印は1つ)

- | | |
|--------------|-------------------------|
| 1. 常勤(フルタイム) | 2. 非常勤(パート、アルバイト、嘱託その他) |
| 3. その他 | |

問5 あなたは結婚されていますか。(○印は1つ)

- | | | |
|--------------------------------------|-------|------------|
| 1. 結婚している(結婚していないがパートナーと暮らしている場合も含む) | | |
| 2. 離別 | 3. 死別 | 4. 結婚していない |

問6 問5で「1. 結婚している(結婚していないがパートナーと暮らしている場合も含む)」を選択した方にお尋ねします。あなたとパートナーのお仕事の状況について教えてください。(○印は1つ)

- | |
|--------------------------------|
| 1. どちらも仕事をしている(パートタイム・家庭内職を含む) |
| 2. 自分だけが仕事をしている |
| 3. パートナーだけが仕事をしている |
| 4. どちらも仕事をしていない |

問7 あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

男女平等に関する意識について

問8 男性と女性は憲法上では平等となっていますが、次にあげる①～⑦の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

回答の選択 質問項目	い る 平 等 に な っ て	が あ る 不 平 等 な 点	い え な い ど ち ら と も	わ か ら な い
① 家庭で	1	2	3	4
② 職場で	1	2	3	4
③ 学校(学校教育の中で)	1	2	3	4
④ 政治の場で	1	2	3	4
⑤ 法律や制度の上で	1	2	3	4
⑥ 社会通念・慣習・しきたりの中で	1	2	3	4
⑦ 地域社会の中で	1	2	3	4

問9 社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。(○印は1つ)

1. 男性の方が非常に優遇されている
2. どちらかといえば男性の方が優遇されている
3. 平等
4. どちらかといえば女性の方が優遇されている
5. 女性の方が非常に優遇されている
6. わからない

問 10 問8で「不平等な点がある」、問9で「1. 2. 4. 5.」のいずれかを選んだ方におたずねします。その主な原因はどこにあると思いますか。(○印は3つまで)

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. 男女の役割に対する考え方 | 2. 身体的・生理的な差 |
| 3. 男性・女性の性別にまつわる偏見 | 4. 社会的な慣行・しきたり |
| 5. 女性の理解不足 | 6. 男性の理解不足 |
| 7. 法律や制度 | |
| 8. その他(具体的に: _____) | |
| 9. わからない | |

問 11 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、どのようなことが重要であると思いますか(○印は3つまで)

1. 法律や制度面の見直し
2. 女性／男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し
3. 女性の経済力の向上
4. 女性自身の自覚と知識・能力の向上
5. 女性の政治・職場・社会活動への積極的な参画
6. 企業や政府などの重要な役職への女性の登用
7. 家庭・学校での男女平等教育の充実
8. 職場内での男女平等処遇の徹底
9. 男性の理解や協力
10. 女性の就業、社会参画を支援する施設やサービスの充実
11. その他(具体的に:)
12. わからない
13. 特にない

家庭生活について

問 12 「男性は仕事、女性は家庭」というような、性別によって固定的に役割などを分けてしまう考えがありますが、あなたはどのように思いますか。(○印は1つ)

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 反対
5. 分からない

問 13 問 12 で「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか。(○印はいくつでも)

1. 男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから
2. 家族を養うのは男性の責任で、子育てや家族の世話は女性の責任だから
3. 子どもの頃からそうした教育をされているから
4. 女性は仕事を持っても不利な条件に置かれるから
5. 男女の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから
6. 社会全体にそうした風潮があるから
7. その他(具体的に:)

問 14 日常生活における役割分担についておたずねします。

(1)①～⑧について、あなたの理想とする分担をお答えください。

質問項目	回答の選択	女性が主	男性が主	男女同程度	その他の人	わからない
① 生活費を得ること		1	2	3	4	5
② 炊事、掃除、洗濯などの家事		1	2	3	4	5
③ 育児や子どものしつけ		1	2	3	4	5
④ 子どもの教育方針や進学目標の決定		1	2	3	4	5
⑤ PTAへの参加		1	2	3	4	5
⑥ 家族の介護		1	2	3	4	5
⑦ 近所づきあい		1	2	3	4	5
⑧ 自治会活動への参加		1	2	3	4	5

(2)結婚している方、結婚してはいるがパートナーと暮らしている方におたずねします。

①～⑧について、実際にあなたの家庭では主にだれが分担していますか。

質問項目	回答の選択	女性が主	男性が主	男女同程度	その他の人	誰もしていない	わからない
① 生活費を得ること		1	2	3	4	5	6
② 炊事、掃除、洗濯などの家事		1	2	3	4	5	6
③ 育児や子どものしつけ		1	2	3	4	5	6
④ 子どもの教育方針や進学目標の決定		1	2	3	4	5	6
⑤ PTAへの参加		1	2	3	4	5	6
⑥ 家族の介護		1	2	3	4	5	6
⑦ 近所づきあい		1	2	3	4	5	6
⑧ 自治会活動への参加		1	2	3	4	5	6

問 15 男性が家事、育児などをするについてどう思いますか。(○印は1つ)

1. 男性も積極的にする方がよい
2. 男性もできるだけする方がよい
3. 男性はあまりしない方がよい
4. 男性はやるべきでない
5. その他(具体的に:)

問 16 問 15 で選択した回答の理由は何ですか。(○印はいくつでも)

1. 男性も家事・育児を行うことは、当然である
2. 家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる
3. 男性自身も充実感が得られる
4. 子どもにいい影響を与える
5. 仕事と両立させることは、現実として難しい
6. 家事・育児は女性の方が向いている
7. 妻が家事・育児をしていないと誤解される
8. 周囲から冷たい目で見られる
9. 男性は、家事・育児を行うべきではない
10. その他(具体的に:)

問 17 現在、家庭での高齢者介護は、多くの場合女性が担っていますが、これについてどう思いますか。(○印は1つ)

1. 当然だと思う
2. 現状ではやむをえない
3. 夫や息子など男性も分担すべきである
4. その他(具体的に:)
5. わからない

問 18 生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度についておたずねします。

(1)あなたの希望に最も近いものはどれですか。(○印は1つ)

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
8. わからない

(2) それでは、あなたの現実(現状)に最も近いものはどれですか。(○印は1つ)

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
8. わからない

問 19 今後、男女がともに家事や子育て、介護、地域活動に積極的に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印はいくつでも)

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
4. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についての評価を高めること
5. 仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を充実すること
6. 労働時間短縮や休暇制度を普及させること
7. 夫婦や家族でのコミュニケーションをはかること
8. 子どもに対して、性別に関わらず家事などを積極的に行うようなしつけや育て方をすること
9. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行なうこと
10. 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
11. 特に必要ない
12. その他(具体的に:)
13. わからない

地域活動について

問 20 あなたは現在、次のような活動に参加していますか。(○印はいくつでも)

1. 自治会、婦人(女性)会、老人会等の地域団体活動
2. 女性団体や老人クラブなどの団体活動
3. PTA や子ども会などの青少年育成活動
4. レクリエーションや趣味、スポーツなどのサークル活動
5. 市民講座、教養講座などの講座受講
6. ボランティア活動
7. 消費者運動、環境保護運動などの住民活動
8. 政治活動、労働運動
9. 職場や学校のグループ活動
10. その他(具体的に:)
11. 特に何もしていない

問 21 特に、女性が社会活動・地域活動に参画していく上ではどのようなことが必要だと思いますか。(○印は3つまで)

※ 参画とは、単なる参加ではなく、より積極的に意思決定の過程に加わるという意味です。

- | |
|-----------------------------|
| 1. 女性も積極的に役職に登用する |
| 2. 女性が発言しやすい雰囲気づくりをする |
| 3. 男女が共に参画し、協力し合える活動内容にする |
| 4. 女性の地域活動に対する家族や周囲の理解を促進する |
| 5. 接待や後片付け等を女性の役割としない |
| 6. 女性リーダーを育成する |
| 7. 活動する上で必要な情報を提供する |
| 8. その他(具体的に: _____) |
| 9. 特に必要ない |
| 10. わからない |

就労について

問 22 女性の仕事についてのあなたの考えをおたずねします。「①自分の理想」と「②現実」において、あなたの考えに一番近いものは1～7のうちどれですか。なお、男性の場合はあなたのパートナー(いない場合はいと仮定して)についてお答えください。

① 自分の 理想	② 現実	※ 各項目毎に縦に見てお答え下さい (○印はそれぞれ1つずつ)
1	1	結婚や出産後も、ずっと仕事は続ける
2	2	子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける
3	3	子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける
4	4	子どもができたら仕事はやめる
5	5	結婚したら仕事はやめる
6	6	仕事はもたない
7	7	わからない

問 23 問 22 の「②現実」で、2～6を選んだ方におたずねします。その理由は何ですか。(○印は1つ)

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 家事・育児に専念したい(したかった)から |
| 2. 保育施設等が充実していない(いなかった)から |
| 3. 夫や家族の理解が得られない(得られなかった)から |
| 4. 職場の慣行や雰囲気です仕事を続けることはできない(できなかった)から |
| 5. 仕事と家事・育児の両立は大変だ(だった)から |
| 6. その他(具体的に: _____) |

問 24 働いている方(パートタイマー、派遣、アルバイトをしている学生も含む)におたずねします。あなたの職場で現在次のような男女格差がありますか。該当するものに○をつけてください。(○印はいくつでも)

1. 同期に同年齢で入社した男女で賃金昇給の差がある
2. 社内研修や教育訓練・出張や視察などの機会に差がある
3. 定年の年齢に男女差がある(慣行を含む)
4. 女性は昇進・昇給が遅い、または望めない
5. 女性が結婚や出産を機に退職する慣行がある
6. 女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある
7. 女性は補助的な仕事に従事する傾向がある
8. お茶くみなどの雑用は職種にかかわらず女性がすることが多い
9. その他(具体的に: _____)
10. 特に男女格差はない

問 25 社会全体として女性が働きやすい状況にあると思いますか。(○印は1つ)

- | | | |
|--------------|-------------------|----------|
| 1. 働きやすい | 3. あまり働きやすいとはいえない | 5. わからない |
| 2. ある程度働きやすい | 4. 働きにくい | |



問 26 問 25 で「3. あまり働きやすいとはいえない」「4. 働きにくい」と答えた方におたずねします。そう思う理由は何ですか。(○印は3つまで)

1. 女性が働きやすい労働条件・環境が整っていない
2. 能力発揮の場が少ない
3. 働く場が限られている
4. 育児施設・サービスが十分でない
5. 昇進・教育訓練などで男女に差がある
6. 結婚・出産退職の慣行がある
7. 男性は仕事、女性は家庭という社会通念がある
8. 家族の理解、協力が得にくい
9. 職場や職場の周りの人々の協力が得られにくい
10. セクシュアル・ハラスメントの被害にあうことがある
11. その他(具体的に: _____)

問 27 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるるとどのような影響があると思いますか。(○印はいくつでも)

1. 多様な視点が加わるにより、新たな価値や商品・サービスが創造される
2. 人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる
3. 女性の声が反映されやすくなる
4. 国際社会から好印象を得ることができる
5. 男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる
6. 男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる
7. 労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
8. 男性の家事・育児などへの参加が増える
9. 今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる
10. 男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる
11. 保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し家計負担及び公的負担が増大する
12. その他(具体的に:)
13. 特にない
14. わからない

教育について

問 28 子どもの育て方についてのあなたの考えをおたずねします。(○印は1つ)

1. 男の子だから、女の子だからということを重視して育てる方がよい
2. 性別にかかわらず子どもの個性を重視して育てる方がよい
3. どちらともいえない
4. その他(具体的に:)

問 29 男女共同参画社会を実現するために、学校教育の場でどのようなことが大切だと思いますか。(○印は3つまで)

1. 心身の発育について正しく理解し、生命や性を尊重する教育を充実する
2. 互いのよさを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する
3. 性別にかかわらず生徒個人の希望や能力にもとづいて、進路指導や職業教育を行う
4. 学校生活で性別により固定化された役割分担をなくす
5. 教職員の男女共同参画意識を高める研修を充実する
6. PTA などを通じて、男女共同参画意識を高めるための啓発活動を充実する
7. 学校のクラス名簿に男女別名簿でなく男女混合名簿の導入を推進する
8. 女性の校長や教頭を増やす
9. 今のままでよい
10. その他(具体的に:)

女性の政策参画について

問 30 次の①～④の各分野でその方針や政策を決めるとき、女性の意見はどの程度反映されていると思いますか。

質問項目 \ 回答の選択	十分に反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	どちらともいえない	わからない
① 職場で	1	2	3	4	5	6
② 地域社会で	1	2	3	4	5	6
③ 市政・県政の場で	1	2	3	4	5	6
④ 国政の場で	1	2	3	4	5	6

問 31 現在、わが国の政策や方針決定過程への女性の参画状況は先進国の中で特に低くなっています。政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由はなんでしょうか。(○印はいくつでも)

1. 家庭・地域・職場における固定的な性別役割分担、性差別意識
2. 男性中心の組織運営
3. 女性の能力開発の機会が不十分
4. 女性の活動を支援するネットワークの不足
5. 女性が積極的でない
6. 家族の理解や協力がでない
7. その他(具体的に:)
8. わからない

問 32 女性の意見を政治や行政に十分反映させるためには、どのようなことが最も効果があると思いますか。(○印は2つまで)

1. 女性議員が多くなること
2. 官公庁での管理職や審議会等の委員など公職に就く女性が増えること
3. 一般の女性の自主的な活動が盛んになること
4. 女性の意見や考え方を聞く機会を増やし、行政もその意見を取り上げるよう努力すること
5. 女性の能力開発の機会を設けること
6. 女性自身の政治への関心を高めること
7. その他(具体的に:)
8. わからない

人権・暴力について

次のドメスティック・バイオレンス(DV)についての説明を読んだうえで、お答えください。

ドメスティック・バイオレンスとは、一般的には、配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者からふるわれる暴力をいい、身体的(なぐる、物を投げつける等)、精神的(暴言をはく等)、経済的(生活費を渡さない等)、性的(性的行為を強要する等)行為など様々な形態があります。

問 33 配偶者等からの暴力は、多くの場合、女性が被害者となっています。このような配偶者等からの暴力(ドメスティック・バイオレンス)について、あなたはどのように思いますか。

質問項目	回答の選択	そう思う	ややそう思う	わない あまりそう思	そう思わない
① ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為である		1	2	3	4
② どんな理由があっても暴力はふるうべきではない		1	2	3	4
③ 暴力をふるわれる方にも問題がある		1	2	3	4
④ 暴力をふるう相手と別れたいのであれば、いつでも別れられると思う		1	2	3	4
⑤ 暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だ		1	2	3	4
⑥ 夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の相談機関が積極的に関わるべきである		1	2	3	4

問 34 現在または過去に配偶者(結婚していないが一緒に暮らしている場合も含む)がいる(いた)方におたずねします。

(1) これまでに、あなたの配偶者(結婚していないが一緒に暮らしている場合も含む)から次の①～③のようなことをされたことがありますか。

質問項目	回答の選択	まったく ない	1・2度 あった	何度 もあった
① なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなどの身体に対する暴行を受けた		1	2	3
② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害がないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた		1	2	3
③ 避妊に協力してくれなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要されたりした		1	2	3

(2)問 34(1)で「1・2度あった」「何度もあった」と答えた方におたずねします。

① その相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。(○印は1つ)

1. ある	2. ない
-------	-------

② 問 34(1)のような暴力を、現在(この1年間を含む)も受けていますか。(○印は1つ)

1. 現在(この1年間を含む)も受けている	2. 受けていない
-----------------------	-----------

問 35 あなたの10歳代から20歳代の経験についてお聞きします。結婚している方、結婚したことのある方については、結婚前についてお答えください。あなたは、その当時、交際相手がい了吗か。あてはまる番号に○をつけてください。(○印は1つ)

1. 交際相手がい(いた)る	2. 交際相手はい(い)なかつた(いた)ない
----------------	------------------------

問 36 問 35 で「交際相手がい(いた)る」と答えた方におたずねします。

(1)あなたは、10歳代または20歳代に、あなたの恋人や元恋人などの交際相手から、次の①～③のようなことをされたことがありますか。

質問項目	回答の選択		
	まったく ない	1・2 度あつた	何 度もあつた
① なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなどの身体に対する暴力を受けた	1	2	3
② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害がないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3
③ 避妊に協力してくれなかったり、いやがっているのに性的な行為を強要されたりした	1	2	3

(2)問 36(1)で「1・2度あつた」「何どもあつた」と答えた方におたずねします。

その相手から受けた暴力によって、命の危険を感じたことがありますか。(○印は1つ)

1. ある	2. ない
-------	-------

問 37 問 34(1)または問 36(1)で「1・2度あった」「何度もあった」と答えた方におたずねします。あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○印はいくつでも)

1. 家族に相談した
2. 友人・知人に相談した
3. 行政機関(子ども・くらし相談センター「にじいろ」、霧島市女性のための無料相談、鹿児島県男女共同参画センター、鹿児島県女性相談センター、福祉事務所、保健所、法務局など)に相談した
4. 警察に連絡・相談した
5. 学校(教師、養護教諭、スクールカウンセラーなど)に相談した
6. 弁護士に相談した
7. 医師に相談した
8. 民間のカウンセリングルームに相談した
9. その他(具体的に: _____)
10. どこ(だれ)にも相談しなかった

問 38 問 37 で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(○印はいくつでも)

1. どこ(だれ)に相談してよいのか分からなかったから
2. 相談する人が近くにいなかったから
3. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
4. 相談しても無駄だと思ったから
5. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから
6. 相手に「誰にも言うな」と脅されたから
7. 子どもに危害が及ぶと思ったから
8. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
9. 自分にも悪いところがあると思ったから
10. 個人的なことなので、人に相談せずに自分で解決しようと思ったから
11. 担当者の言動により不快な思いをすと思ったから
12. 世間体が悪いから
13. 他人を巻き込みたくなかったから
14. 他人に知られると、これまでの付き合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから
15. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
16. そのことについて思い出したくなかったから
17. 相談するほどのことではないと思ったから
18. 家族なのだから我慢するよう言われるのではないかと思ったから
19. 相談することによって、自分の望まない結果(離婚・別居など)になるのではと思ったから
20. その他(具体的に: _____)

問 39 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(○印はいくつでも)

1. 家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う
2. 学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う
3. 地域で、暴力を防止するための研修会・イベントなどを行う
4. メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
5. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
6. 警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
7. 暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
8. 加害者への罰則を強化する
9. 暴力を助長する恐れのある情報(雑誌、コンピューターゲームなど)を規制する
10. その他(具体的に:)
11. 特にない

問 40 テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピューターゲーム等のメディアにおける性暴力表現について、あなたはどのように思いますか。(○印はいくつでも)

1. 性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく
2. 社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている
3. 性的犯罪を助長する
4. 過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない
5. 男女のイメージを固定化することを助長するような表現をしている
6. その他(具体的に:)
7. 特に問題はない
8. わからない

霧島市の男女共同参画施策について

問 41 男女共同参画に関連の深い次の言葉をこれまで知っていましたか。①～⑫それぞれについてお答えください。

用 語 回答の選択	言葉も内容もよく知っている	言葉は知っており、内容も少し知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない
① ジェンダー(社会的性別)	1	2	3	4
② アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)	1	2	3	4
③ ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	1	2	3	4
④ エンパワーメント	1	2	3	4
⑤ ワーク・ライフ・バランス	1	2	3	4
⑥ 男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
⑦ 男女雇用機会均等法	1	2	3	4
⑧ 育児・介護休業法	1	2	3	4
⑨ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)	1	2	3	4
⑩ 霧島市男女共同参画推進条例	1	2	3	4
⑪ 第2次霧島市男女共同参画計画	1	2	3	4
⑫ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)	1	2	3	4

※ 用語解説(一部)を調査依頼文の裏面に掲載しています。

問 42 男女共同参画を推進する上で、霧島市にどのようなことを期待しますか。

(○印は3つまで)

1. 市の男女共同参画の施策に係る計画等の見直しを行う
2. 広報誌やパンフレットなどで、男女の平等や相互の理解・協力についてPRする
3. 男女共同参画に関するフォーラムや講座等の企画・開催
4. 子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる
5. 生涯学習の場における男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる
6. 女性に対する暴力(セクハラやDVなど)の防止や被害者支援に取り組む
7. 政策方針決定の場への女性の参画を進める
8. 職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う
9. 職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める
10. 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる
11. 女性の就業支援のため、就業情報の提供や職業訓練を充実させる
12. 地域、企業等における男女共同参画の推進役となる人材を育成する
13. NPO等民間団体の連携を支援する
14. 女性のための相談体制の充実
15. 男性のための相談体制の充実
16. その他(具体的に:)
17. 特にない
18. わからない

問 43 男女共同参画社会の実現に向けて、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

～ ご協力ありがとうございました ～

担当課:霧島市市民課 人権・男女共同参画グループ

TEL:64-0901

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れて、8月31日(火)までに投函してください。